

Nikon

デジタルカメラ

D810

使用説明書



「Nikon Manual Viewer 2」アプリ

いつでもどこでもスマートフォンやタブレットで
説明書を見ることができます。

Jp

お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

本文中のマークについて

この使用説明書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探るときにご活用ください。



カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。



カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。



使用説明書上で関連情報が記載されているページです。

表記について

- SDメモリーカードおよびコンパクトフラッシュカード（CFカード）を「メモリーカード」と表記しています。ただし、SDメモリーカードとコンパクトフラッシュカードを区別して説明している場合は、それぞれ「SDカード」と「CFカード」と表記しています。
- バッテリーチャージャーを「チャージャー」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。
- この使用説明書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行っています。



「Nikon Manual Viewer 2」アプリ

ニコンデジタルカメラの説明書をスマートフォンやタブレットで見ることができるアプリです。App StoreまたはGoogle Playから無料でダウンロードできます。

* アプリおよび使用説明書をダウンロードするには、インターネットに接続できる環境が必要です（通信料が発生します）。

⚠️ 安全上のご注意

安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは□□xiii～xixをご覧ください。

カメラと付属品を確認する

お使いになる前に、カメラと付属品が全てそろっていることを確認してください。万が一、付属品がそろっていない場合は、販売店にご相談ください。



- D810カメラ本体
(□1)



- 液晶モニターカバー BM-12
(□10)



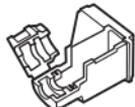
- ボディーキャップ
BF-1B (□15、436)



- Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15
(端子カバー付) (□12、14)



- バッテリーチャージャー MH-25a
(電源プラグ (直付け型) 付) (□12)



- USBケーブルクリップ (□250)



- HDMIケーブルクリップ (□259)

- ストラップAN-DC12 (□12)
- 使用説明書 (本書)
- USBケーブルUC-E2
(□248、252)
- ViewNX 2 CD-ROM (□244)
- 保証書

- SDメモリーカードやコンパクトフラッシュカード (CFカード) は別売です。
- 日本国内でご購入いただいたカメラは、画面の表示言語を日本語または英語に設定できます。

目次

カメラと付属品を確認する.....	i
安全上のご注意.....	xiii
ご確認ください.....	xx
お使いになる前に	1
各部の名称と機能.....	1
マルチセレクターの使い方.....	11
撮影前の準備	12
メニューの操作方法	23
メニュー項目の設定.....	24
撮影と再生の基本操作	27
かんたんに静止画を撮影する.....	27
撮影した画像を確認する.....	29
画像を削除する.....	31
静止画ライブビュー撮影	33
AF モードを変更する.....	37
AF エリアモードを変更する.....	38
マニュアルフォーカスで撮影する.....	40
<i>i</i> ボタンを使う.....	41
静止画ライブビュー中の情報表示について.....	44
静止画ライブビュー時の表示を切り換える.....	45

動画ライブビュー撮影と再生

48

動画ライブビューで撮影する	48
インデックスマーキングについて	51
<i>i</i> ボタンを使う	52
動画ライブビュー中の情報表示について	54
動画ライブビュー時の表示を切り換える	55
動画ライブビュー時の撮像範囲	56
動画ライブビュー時の静止画撮影	57
動画の設定	61
動画の再生	65
動画の編集	68
動画の必要な部分を残す	68
動画の 1 フレームを JPEG 画像として保存する	72

画像の記録

74

撮像範囲を変更する	74
画質モードを変更する	79
画像サイズを変更する	82
2 枚のメモリーカードに記録する（主スロットの選択、 副スロットの機能）	85

フォーカス

86

オートフォーカスで撮影する	86
AF モードを変更する	86
AF エリアモードを変更する	89
フォーカスポイントを自分で選ぶ	93
フォーカスロックしてピントを固定する	95
マニュアルフォーカスで撮影する	98

レリーズモード

100

1 コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、レリーズモードを 変更する.....	100
連続撮影速度について.....	102
セルフタイマーを使って撮影する (☺).....	104
ミラーアップ撮影する (MUp).....	106

ISO 感度

107

ISO 感度を変更する.....	107
感度自動制御機能を使う.....	109

測光・露出

112

測光モードを設定する.....	112
シャッタースピードや絞り値で露出を設定する (露出モード).....	115
P (プログラムオート).....	116
S (シャッター優先オート).....	117
A (絞り優先オート).....	117
M (マニュアル).....	119
長時間露出で撮影する (露出モード M のみ).....	121
シャッタースピードと絞り値をロックする.....	124
AE ロックして露出を固定する.....	126
露出補正して画像の明るさを調整する.....	128
オートブラケティングで露出や調光、ホワイトバランス、 アクティブ D- ライティングを変えながら撮影する.....	130

ホワイトバランス

144

ホワイトバランスを変更する	144
ホワイトバランスを微調整する	147
色温度設定で色温度を指定する	150
プリセットマニュアルで基準となる白を設定する	153
ファインダー撮影時にプリセットマニュアル データを新規取得する	154
ライブビュー撮影時にスポットホワイトバランスで プリセットマニュアルデータを取得する	158
プリセットマニュアルデータを管理する	162

画像処理

165

ピクチャーコントロールを使って画像の仕上がりを簡単に 設定したり、思い通りに調整する	165
ピクチャーコントロールを選ぶ	165
ピクチャーコントロールを調整する	168
カスタムピクチャーコントロールを登録する	171
メモリーカードを使ってピクチャーコントロールを 対応ソフトウェアと共用する	176
白とびや黒つぶれを抑えて撮影する	178
アクティブ D- ライティングで撮影する	178
HDR (ハイダイナミックレンジ) 合成を行う	180

フラッシュ撮影

185

内蔵フラッシュを使って撮影する	185
設定できるフラッシュモード	187
調光補正してフラッシュの発光量を変更する	192
FV ロックして調光量を固定する	194

ファインダー撮影時に  ボタンを使う	197
ファインダー撮影時に  ボタンを使う	201
ツーボタンリセットで基本的な機能を初期設定に戻す	202
多重露出撮影で1つの画像に重ねて写し込む	205
設定した間隔で撮影する（インターバルタイマー撮影）	211
微速度撮影する	217
非 CPU レンズを使う（レンズ情報手動設定）	222
位置情報を画像に記録する	225

画像の再生

画像を再生する	227
1 コマ表示モード	227
サムネイル表示モード	227
画像情報を表示する	230
画像を拡大表示する	239
プロテクトで画像を削除できないように保護をする	241
画像を削除する	242

パソコン、プリンター、テレビとの接続

ViewNX 2 をインストールする	244
ViewNX 2 を使う	248
パソコンに画像を取り込む	248
有線 LAN/ 無線 LAN を使ってパソコンに 画像を転送する	251
画像をプリンターで印刷する	252
カメラとプリンターを接続する	252
1 コマだけプリントする	253
複数の画像をプリントする	255
プリントしたい画像を指定する（プリント指定）	257

画像をテレビで見る	259
HDMI ケーブルを使ってハイビジョンテレビと 接続する	259
HDMI 対応機器との接続時の設定を変更する	260

メニューガイド

262

初期設定一覧	262
▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能	270
再生メニュー項目一覧	270
再生フォルダー設定	271
非表示設定	271
再生画面設定	272
画像コピー	273
撮影直後の画像確認	277
削除後の次再生画像	277
縦位置自動回転	278
スライドショー	278
📷 撮影メニュー：撮影で使える便利な機能	280
撮影メニュー項目一覧	280
撮影メニューの管理	281
撮影メニューの拡張	282
記録フォルダー設定	283
ファイル名設定	286
JPEG/TIFF 記録	286
RAW 記録	286
色空間	287
ヴィネットコントロール	288
自動ゆがみ補正	289
長秒時ノイズ低減	290
高感度ノイズ低減	291

 カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定	292
カスタムメニュー項目一覧	293
カスタムメニューの管理	295
a：オートフォーカス	297
a1：AF-C モード時の優先	297
a2：AF-S モード時の優先	297
a3：AF ロックオン	298
a4：半押し AF レンズ駆動	298
a5：フォーカスポイント表示	299
a7：フォーカスポイント循環選択	300
a6：フォーカスポイント照明	300
a8：AF 点数切り換え	301
a9：縦 / 横位置フォーカス切換	302
a10：内蔵 AF 補助光の照射設定	303
a11：AF エリアモードの限定	304
a12：AF モードの制限	304
b：露出・測光	305
b1：ISO 感度設定ステップ幅	305
b2：露出設定ステップ幅	305
b3：露出・調光補正ステップ幅	305
b4：露出補正簡易設定	306
b5：マルチパターン測光	307
b6：中央部重点測光範囲	307
b7：基準露出レベルの調節	307
c：AE ロック・タイマー	308
c1：半押し AE ロック	308
c2：半押しタイマー	308
c3：セルフタイマー	308
c4：モニターのパワーオフ時間	309

d : 撮影・記録・表示	310
d1 : 電子音設定.....	310
d2 : 低速連続撮影速度.....	311
d3 : 連続撮影コマ数.....	311
d4 : 露出ディレーモード.....	311
d5 : 電子先幕シャッター.....	312
d6 : 連番モード.....	313
d7 : ファインダー内格子線表示.....	314
d8 : ISO 感度表示と簡易設定.....	314
d9 : インフォ画面のガイド表示.....	314
d10 : インフォ画面の表示設定.....	315
d11 : イルミネーター点灯.....	316
d12 : MB-D12 電池設定.....	316
d13 : 電池の使用順序.....	318
e : フラッシュ・BKT 撮影	319
e1 : フラッシュ撮影同調速度.....	319
e2 : フラッシュ時シャッタースピード制限.....	321
e3 : 内蔵フラッシュ発光.....	322
e4 : フラッシュ使用時の露出補正.....	329
e5 : モデリング発光.....	330
e6 : オートブラケティングのセット.....	330
e7 : BKT 変化要素 (M モード).....	331
e8 : BKT の順序.....	332
f : 操作	333
f1 :  スイッチの機能.....	333
f2 : 中央ボタンの機能.....	333
f3 : マルチセレクターの半押し起動.....	335
f4 : Fn ボタンの機能.....	336
f5 : プレビューボタンの機能.....	341
f6 : AE/AF ロックボタンの機能.....	342
f7 : シャッタースピードと絞り値のロック.....	342
f8 : BKT ボタンの機能.....	343
f9 : コマンドダイヤルの設定.....	344

f10: ボタンのホールド設定.....	347
f11: カードなし時リリース.....	348
f12: インジケーターの+ / -方向.....	348
f13: 動画撮影ボタンの機能.....	349
f14: ライブビューボタンの設定.....	350
f15: MB-D12 の AF-ON ボタン機能.....	351
f16: リモコン (WR) の Fn ボタンの機能.....	352
f17: レンズのフォーカス作動ボタン機能.....	353
g: 動画.....	355
g1: Fn ボタンの機能.....	355
g2: プレビューボタンの機能.....	356
g3: AE/AF ロックボタンの機能.....	357
g4: シャッターボタンの機能.....	358
Y セットアップメニュー: カメラを使いやすくする	
基本設定.....	359
セットアップメニュー項目一覧.....	359
カードの初期化 (フォーマット).....	360
モニターの明るさ.....	362
モニターのカラーカスタマイズ.....	363
イメージダストオフデータ取得.....	364
フリッカー低減.....	366
地域と日時.....	367
言語 (Language).....	368
縦横位置情報の記録.....	368
電池チェック.....	369
画像コメント.....	371
著作権情報.....	372
カメラ設定の保存と読み込み.....	373
水準器表示.....	375
AF 微調節.....	376
Eye-Fi 送信機能.....	378
ファームウェアバージョン.....	379

 画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能.....	380
画像編集メニュー項目一覧	380
D-ライティング	384
赤目補正.....	385
トリミング.....	386
モノトーン.....	387
フィルター効果.....	388
カラーカスタマイズ.....	390
画像合成.....	391
RAW 現像（パソコンを使わずに RAW 画像を JPEG 画像に変換する）.....	394
リサイズ.....	396
簡単レタッチ	399
傾き補正.....	399
ゆがみ補正.....	400
魚眼効果.....	401
塗り絵.....	401
カラースケッチ	402
アオリ効果.....	403
ミニチュア効果	404
セレクトカラー	405
編集前後の画像表示.....	408
 マイメニュー /  最近設定した項目	410
 マイメニュー：よく使うメニューを登録する.....	410
 最近設定した項目：最近設定したメニューを たどる	415

使用できるレンズ.....	416
使用できるスピードライト.....	425
ニコンクリエイティブライティングシステム対応 スピードライトとの組み合わせで使用できる 機能.....	427
使用できるアクセサリ.....	434
カメラとパワーコネクター、ACアダプターの 接続方法.....	440
カメラのお手入れについて.....	442
保管について.....	442
クリーニングについて.....	442
撮像素子のお手入れについて.....	443
カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意.....	449
チャージャーの使用上のご注意.....	453
露出モードP（プログラムオート）のプログラム線図.....	454
故障かな？と思ったら.....	455
警告メッセージ.....	463
主な仕様.....	472
使用できるSDカードとCFカード.....	483
記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数.....	485
撮影可能コマ数（電池寿命）について.....	488
AF補助光撮影、内蔵フラッシュ撮影に制限のある レンズについて.....	490
索引.....	493
ニコンプラザのご案内.....	501
修理サービスのご案内.....	502

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。表示と意味は、次のようになっています。



危険

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例



△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

警告 (カメラとレンズについて)



分解禁止

分解したり修理や改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。



接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。



すぐに修理依頼を

電池、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



電池を取る

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。



すぐに修理依頼を

電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。
電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらさない

感電や発火などの事故や故障の原因になります。



使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使わない

プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因になります。



使用禁止

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。



発光禁止

車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと

事故の原因となります。



発光禁止

フラッシュを人の目に近づけて発光しない

視力障害の原因になります。

撮影時には、1m以上離れてください。

特に乳幼児の撮影には注意してください。



保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届くところに置かない

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだときは直ちに医師にご相談ください。



警告

ストラップが首に巻き付かないようにする

特に幼児・児童の首にストラップをかけない

首に巻き付くと窒息の原因になります。

警告 (カメラとレンズについて)



ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。

雷が鳴り止むまで機器から離れてください。



指定の電源 (電池、ACアダプター) を使う

指定以外のものを使用すると、事故や故障の原因になります。

注意 (カメラとレンズについて)



ぬれた手でさわらない

感電の原因になることがあります。



カメラの電源がONの状態、長時間直接触れないこと

使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



製品は幼児の手の届くところに置かない

ケガの原因になることがあります。



逆光撮影では、太陽を画角から十分にずらすこと

太陽光がカメラ内部で焦点を結び、火災の原因になることがあります。画角から太陽をわずかに外しても火災の原因になることがあります。



使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。



三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつかったりして、ケガの原因となることがあります。



航空機内では、離着陸時に電源をOFFにする

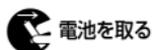
飛行中は無線通信機能を使わない

病院では、病院の指示に従う

本機器が出す電磁波などが、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。

無線通信機器は、あらかじめカメラから取り外してください。

注意 (カメラとレンズについて)



電池を取る



プラグを抜く



発光禁止

長期間使用しないときは電源(電池やACアダプター)を外すこと
電池の液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。

ACアダプターをご使用の際には、ACアダプターを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



禁止

内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと

やけどや発火の原因になることがあります。



放置禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない

故障や火災の原因になることがあります。



禁止

付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと

機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

危険 (専用リチウムイオン充電機について)



禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



分解禁止

電池を分解しない

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



危険

電池、または電池を入れたカメラに強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



危険

専用の充電器を使用すること

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



危険

ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管したりしない

ショートして液もれ、発熱、破裂、発火の原因になりますので、端子カバーをつけて絶縁してください。

危険 (専用リチウムイオン充電電池について)



Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15に対応していない機器には使用しないこと

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15は、D810に対応しています。



電池からもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

警告 (専用リチウムイオン充電電池について)



電池は、幼児の手の届くところに置かない

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。



水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱の原因となります。



変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときには、充電をやめること

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはビニールテープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関やリサイクル協力店にご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。



電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

注意 (専用リチウムイオン充電電池について)



充電中の電池に長時間直接触れないこと

充電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。

警告 (チャージャーについて)

- | | | |
|---|-----------------|--|
|  | 分解禁止 | 分解したり修理や改造をしないこと
感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。 |
|  | 接触禁止 | 落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと
感電したり、破損部でケガをする原因となります。 |
|  | すぐに修理依頼を | 電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。 |
|  | プラグを抜く | 熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと
そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 |
|  | すぐに修理依頼を | 電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。ニコンサービス機関に修理を依頼してください。 |
|  | 水かけ禁止 | 水につけたり、水をかけたり、雨にぬらさない
感電や発火などの事故や故障の原因になります。 |
|  | 使用禁止 | 引火・爆発のおそれのある場所では使わない
プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因になります。 |
|  | 警告 | 電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること
そのまま使用すると火災の原因になります。 |
|  | 使用禁止 | 雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと
感電の原因となります。
雷が鳴り止むまで機器から離れてください。 |
|  | 感電注意 | ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと
感電の原因になることがあります。 |
|  | 禁止 | チャージャーを海外旅行者用電子式変圧器(トラベルコンバーター)やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わないこと
発熱、故障、火災の原因となります。 |

注意 (チャージャーについて)



感電注意

ぬれた手でさわらない
感電の原因になることがあります。



使用注意

通電中のチャージャーに長時間直接触れないこと
通電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



放置注意

製品は幼児の手の届くところに置かない
ケガの原因になることがあります。



禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと
熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

ご確認ください

● 保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないこととなります。お受け取りにならなかった場合は、直ちに購入店にご請求ください。

● カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録ができます。

<https://reg.nikon-image.com/>

● カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

<http://www.nikon-image.com/support/>

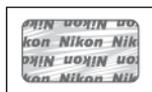
● 大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

● 本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリ（レンズ、スピードライト、バッテリー、チャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの十分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。



● 使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 製品の外觀・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。

<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

二コネサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

● 著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

● カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

カメラを譲渡/廃棄する際は、使用者によってカメラに登録または設定された、無線LAN接続設定などの個人情報を含む内容を、カメラのセットアップメニュー[ネットワーク]の[接続設定]で削除してください。設定内容の削除については、別売の通信ユニットの使用説明書をご覧ください。メモリーカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

メモリーカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーカードが真っ白になるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。なお、プリセットマニュアルの画像（□153）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。メモリーカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

● 電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

● AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

(i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）

(ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。

詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。

<http://www.mpegla.com>をご参照ください。

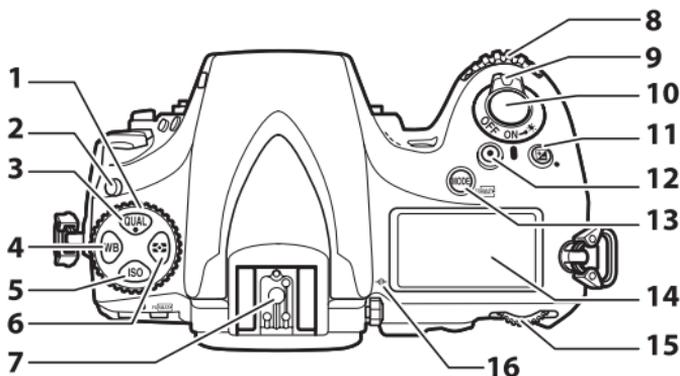
☑ アクセサリーについてのご注意

このカメラには、当社製のアクセサリをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリ使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、このカメラに使用できる別売アクセサリについての最新情報は、最新のカatalogや当社のホームページなどでご確認ください (□xx)。

お使いになる前に

各部の名称と機能

カメラ本体



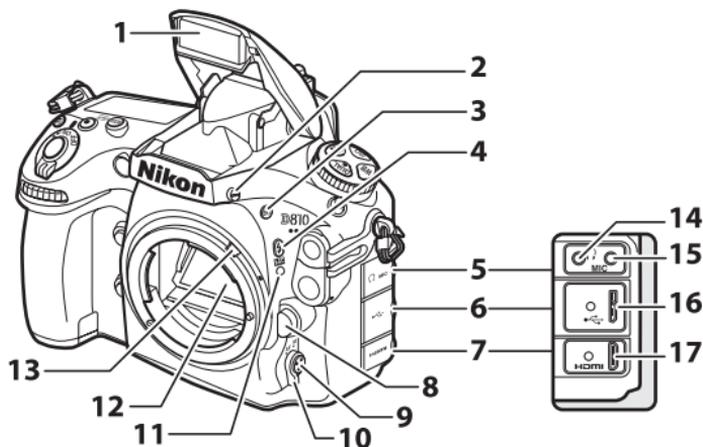
1	リリースモードダイヤル100	8	サブコマンドダイヤル344
2	リリースモードダイヤル ロックボタン100	9	電源スイッチ16
3	QUALボタン80、83、202	10	シャッターボタン28
4	WBボタン145、149、152	11	☑ボタン128、202
5	ISOボタン107、111	12	動画撮影ボタン49
6	☑ボタン112	13	MODE (PRIMARY) ボタン115、360
7	フラッシュ取り付け部 (アクセサリシュー)433、437、478	14	表示パネル5
		15	メインコマンドダイヤル344
		16	☉ 距離基準マーク99

☑ 表示パネルのイルミネーター（照明）について

電源スイッチを☉マークの方向に回すと、表示パネルのイルミネーター（照明）を点灯します。電源スイッチを放すと、イルミネーターは6秒間点灯し続けます。ただし、シャッターをきるか、もう一度☉マークの方向に回すと消灯します。



カメラ本体 (つづき)



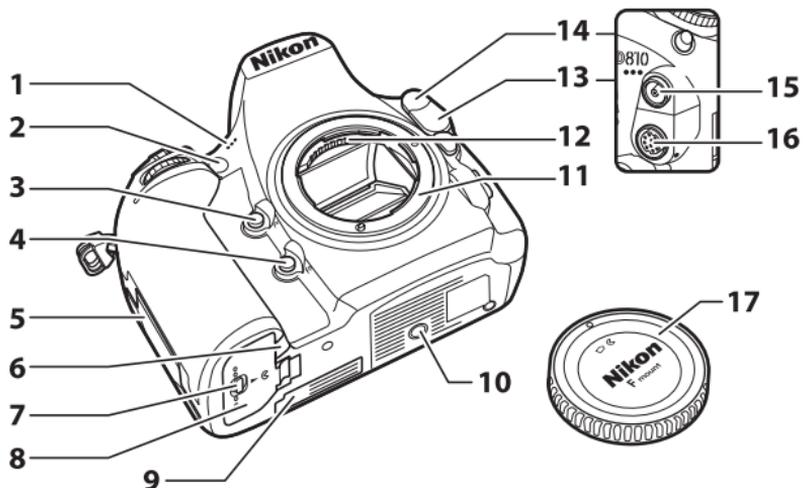
1	内蔵フラッシュ185	9	AFモードボタン37、39、87、91
2	フラッシュロック解除ボタン185	10	フォーカスモードセクター37、86、98
3	BKTボタン131、136、140、343	11	レンズ着脱指標15
4	AF-ON ボタン186、192	12	ミラー106、445
5	ヘッドホン出力端子/外部マイク 入力端子カバー53、62	13	露出計連動レバー476
6	USB端子カバー248、252	14	ヘッドホン出力端子53
7	HDMI端子カバー259	15	外部マイク入力端子62
8	レンズ取り外しボタン22	16	USB端子248、252
		17	HDMI端子259

✓ スピーカーについての注意

スピーカーに磁気カードなどの磁気製品を近づけると、記録内容が壊れることがあります。スピーカーに磁気製品を近づけないでください。

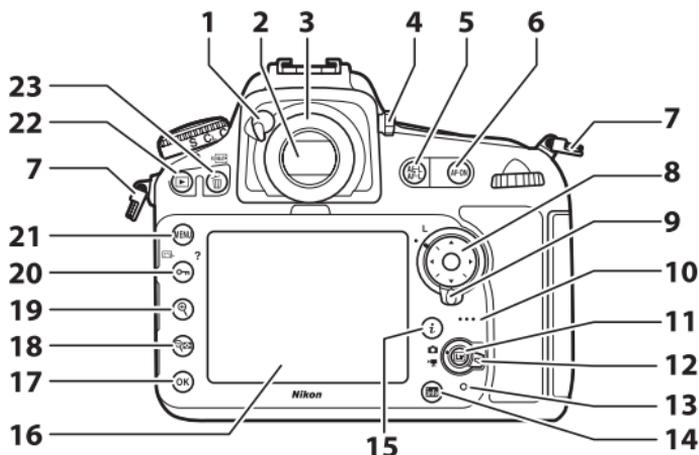
✎ 端子カバーについて

使用しない場合は、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミなどが入ると、誤作動の原因となることがあります。



1	マイク (ステレオ)49、62	10	三脚ネジ穴
2	AF補助光ランプ303	11	レンズマウント15、99
	セルフタイマーランプ104	12	レンズ信号接点
	赤目軽減ランプ187	13	10ピンターミナルカバー225、438
3	Pv ボタン51、118、341、356	14	シンクローターミナルカバー432
4	Fn ボタン77、195、336、355	15	シンクローターミナル432
5	メモリーカードカバー14、20	16	10ピンターミナル225、438
6	パワーコネクターカバー440	17	ボディーキャップ15、436
7	バッテリー室開閉ノブ14		
8	バッテリー室カバー14		
9	MB-D12用接点カバー434		

カメラ本体 (つづき)

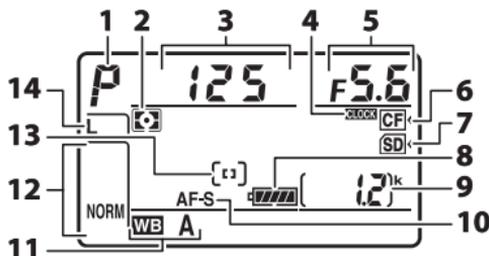


<p>1 アイピースシャッターレバー 22、105</p> <p>2 ファインダー接眼窓16</p> <p>3 アイピース 22、105</p> <p>4 視度調節ノブ16</p> <p>5 絞ボタン34、95、126、342、357</p> <p>6 AF-ONボタン49、87</p> <p>7 ストラップ取り付け部 (吊り金具)12</p> <p>8 マルチセレクター 11、24</p> <p>9 フォーカスポイントロック レバー93</p> <p>10 スピーカー65</p> <p>11 ℳボタン 33、48</p> <p>12 ライブビューセレクター 33、48</p>	<p>13 メモリーカードアクセス ランプ20、28</p> <p>14 Info ボタン8、197</p> <p>15 i ボタン9、41、52、201、382</p> <p>16 液晶モニター29、33、41、48、 53、227、362</p> <p>17 OK ボタン 24</p> <p>18 ⊞ ボタン36、43、227、239</p> <p>19 ⊞ ボタン36、43、227、239</p> <p>20 ℳ (ℳ/?) ボタン24、166、241</p> <p>21 MENU ボタン23、262</p> <p>22 ⏪ ボタン29、227</p> <p>23 ⏩ (FORMAT) ボタン31、242、360</p>
--	--

表示パネル

カメラの電源をONにすると、表示パネルが点灯します。表示パネルにはカメラの設定に関するさまざまな情報が表示されます。

初めて電源をONにしたときは、次の情報が表示されます。その他の情報については、本文中の各機能で説明しています。

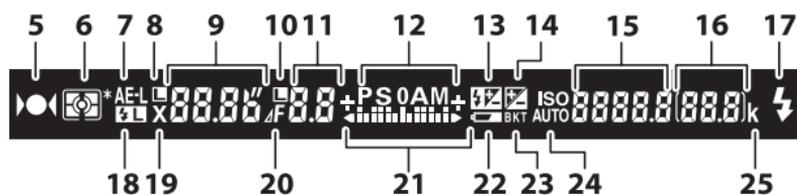
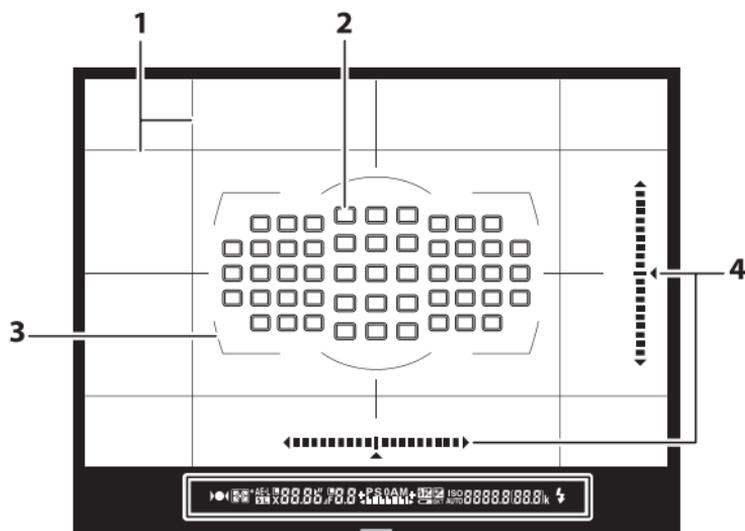


1	露出モード	115	8	バッテリー残量表示	18
2	測光モード	112	9	記録可能コマ数	19、485
3	シャッタースピード	117、119	10	AFモードマーク	86
4	CLOCK マーク	367	11	ホワイトバランスモード	144
5	絞り値	117、119	12	画質モード	79
6	CFカードマーク	14	13	AFエリアモードマーク	89
7	SDカードマーク	14	14	画像サイズ (JPEG/TIFF)	82

CLOCK マークについて

表示パネルで **CLOCK** が点滅している場合、カメラの内蔵時計が初期化されています。その場合は撮影日時が正しく記録されないため、セットアップメニュー **[地域と日時]** (□367) の **[日時の設定]** で日時設定をしてください。カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のパワーコネクタとACアダプターを接続すると (□440)、時計用電池が充電されます。フル充電するには約2日間かかります。充電すると、約3カ月の間時計を動かすことができます。

ファインダー (説明のため、全ての表示を点灯させています)



1	構図用格子線 314 (カスタムメニュー d7 [ファイ ンダー内格子線表示] を [する] に設定している場合のみ表示さ れます)	15	ISO感度 107 ホワイトバランス プリセットマニュアルデータ 取得モード表示 155 アクティブD-ライティング度合い 表示 341 AFエリアモード 91
2	フォーカスポイント表示 16、27、93、300、301 AFエリアモード表示 91	16	記録可能コマ数 19、485 連続撮影可能コマ数 103、485 露出補正值 129 調光補正量 192
3	AFエリアフレーム 16、231	17	レディーライト 185
4	水準器 339	18	FVロックマーク 195
5	ピント表示 28、99	19	フラッシュシンクロマーク 319
6	測光モード 112	20	絞り込み段数マーク 118、421
7	AEロックマーク 126	21	インジケーター 露出 120 露出補正 129
8	シャッタースピードロック マーク 124	22	バッテリー警告表示 18
9	シャッタースピード 117、119 AFモード 87	23	ブラケティングマーク オートブラケティング 131 WBブラケティング 136 ADLブラケティング 140
10	絞り値ロックマーク 125	24	感度自動制御設定マーク 110
11	絞り値 117、119 絞り込み段数 118、421	25	1000コマ以上補助表示 19
12	露出モード 115		
13	調光補正マーク 192		
14	露出補正マーク 129		

✓ ファインダーについてのご注意

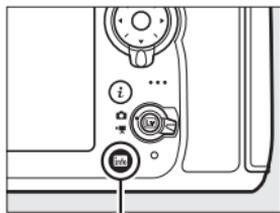
カメラにバッテリーが入っていない、またはバッテリー残量がない状態では、ファインダー内が暗くなります。充電したバッテリーを入れると明るくなります。

✓ 高温、低温下での液晶表示について

表示パネルやファインダーの液晶表示は、高温・低温下で色の濃さが変わったり、低温下で応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

info ボタン

ファインダー撮影時に、撮影に関する情報や設定の確認ができます (P197)。

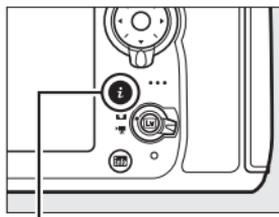


info ボタン



iボタン

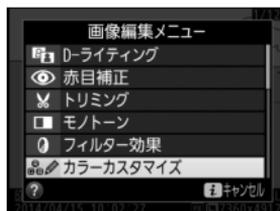
ファインダー撮影時 (□201)、静止画ライブビュー時 (□41)、動画ライブビュー時 (□52)、または再生時 (□382) に、それぞれのシーンで便利な機能に簡単にアクセスできます。



iボタン



ファインダー撮影時



再生時



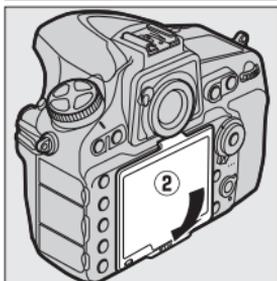
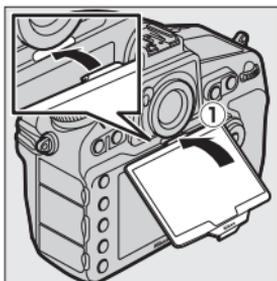
静止画ライブビュー撮影時



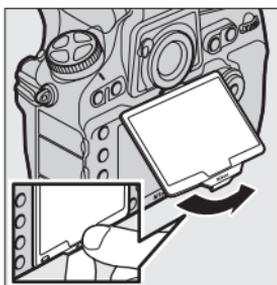
動画ライブビュー撮影時

液晶モニターカバー BM-12の取り付け、 取り外し方

液晶モニターカバーを取り付けるには、液晶モニターの上にある溝にカバーの上部をはめ込み (①)、カバーの透明な部分が液晶モニターと重なるように置き、カチッと音がするまで上から軽く押ししてください (②)。

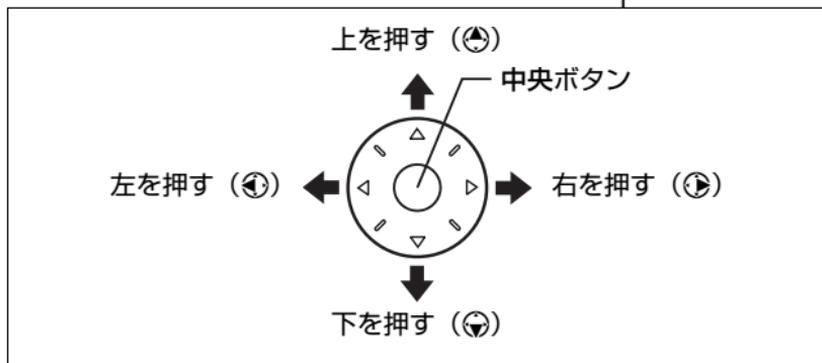
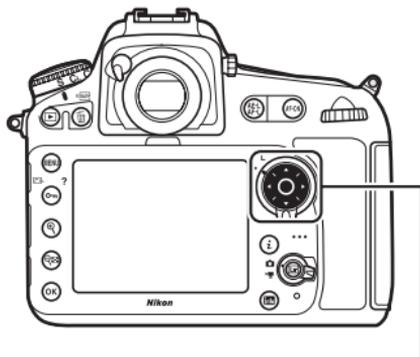


カバーを取り外すときは、カメラをしっかりと支え、右図のようにカバーの下からゆっくりと外してください。



マルチセレクターの使い方

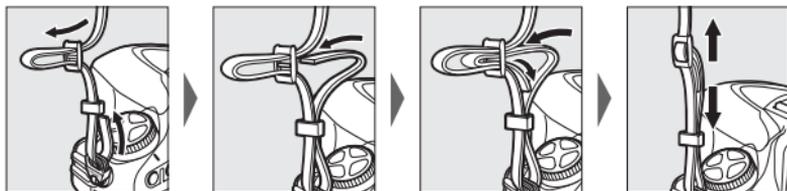
マルチセレクターは、上下左右を押したり、**中央ボタン**を押して操作します。この説明書では、マルチセレクターを上下左右に押す動作を     で表しています。



撮影前の準備

次の1～7の手順で撮影前の準備を行ってください。

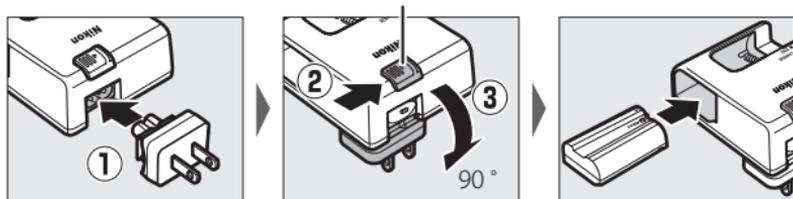
1 カメラにストラップを取り付ける (2カ所)



2 バッテリーをバッテリーチャージャーで充電する

- 電源プラグ (直付け型) を取り付けた後 (①)、電源プラグ (直付け型) 回転ロックを矢印の方向にスライドさせながら (②)、電源プラグ (直付け型) を90° 回転させ、しっかりと固定させます (③)。

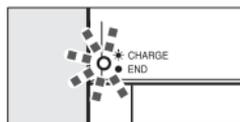
電源プラグ (直付け型)
回転ロック



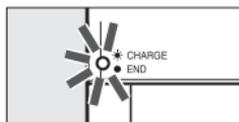
☑ バッテリーとチャージャーの使用上のご注意

お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」(□xiii～xix)、「カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意」(□449～453)をお読みになり、記載事項をお守りください。

- フル充電するには約2時間35分かかります（残量の少ないバッテリーの場合）。



充電中
(点滅)



充電完了
(点灯)

✓ チャージャーの「CHARGE」ランプが速く（1秒間に8回）点滅する場合

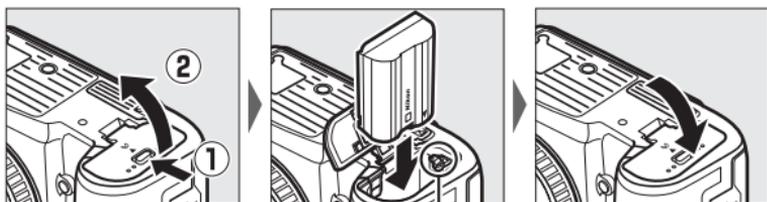
- バッテリーのセットミス：電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外し、チャージャーにセットし直してください。
- 指定温度外での使用：チャージャーを指定温度範囲内（0℃～40℃）でお使いください。
- 上記の処置をしても不具合が続く場合は、直ちに電源プラグをコンセントから抜いて、充電を中止してください。販売店またはニコンサービス機関にチャージャーおよびバッテリーをお持ちください。

✓ 付属の電源プラグ（直付け型）についてのご注意

付属の電源プラグ（直付け型）は、バッテリーチャージャー MH-25a以外の機器に接続しないでください。この電源プラグ（直付け型）は、日本国内専用（AC 100V対応）です。海外でお使いになる場合は、別売の専用コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）<http://shop.nikon-image.com/>でもお求めいただけます。

3 カメラにバッテリーとメモリーカードを入れる

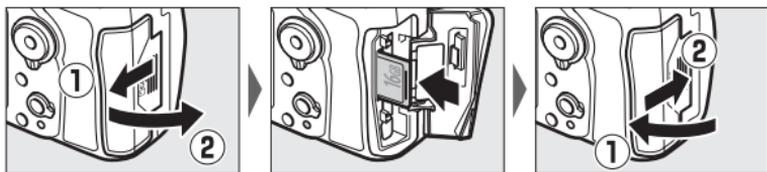
- バッテリーやメモリーカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源スイッチがOFFの位置にあることを確認してください。
- バッテリーとメモリーカードは、図のように正しい向きで入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをバッテリー側面で押しながら、バッテリーを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがバッテリーに掛かって固定されます。



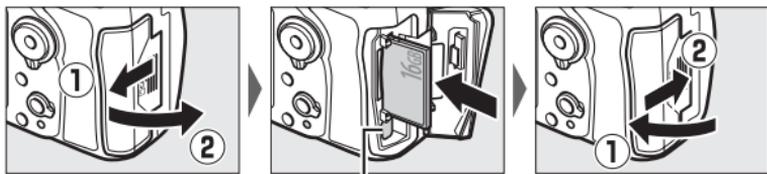
バッテリーロックレバー

- SDカードは、カチッと音がするまで挿入してください。CFカードは、CFカードイジェクトレバーが出てくるまで押し込んでください。

-SDカードの場合：



-CFカードの場合：



CFカードイジェクトレバー

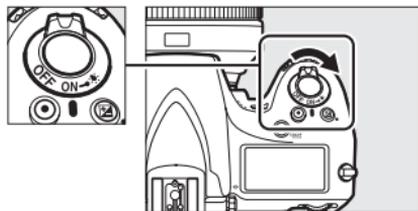
4 レンズを取り付ける

- この使用説明書では、主にAF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VRのレンズを使用して説明しています。
- ほこりなどがカメラ内部に入らないように注意してください。

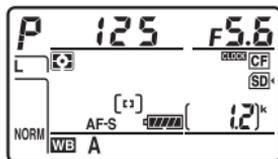


- 撮影する前に、レンズキャップを取り外してください。

5 カメラの電源をONにする 電源スイッチ



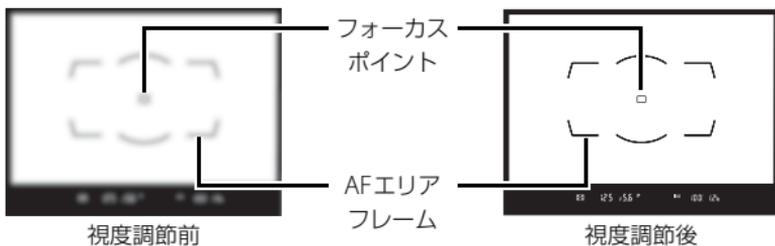
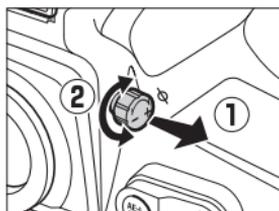
- 表示パネルが点灯します。



表示パネル

6 ファインダーを見やすくする

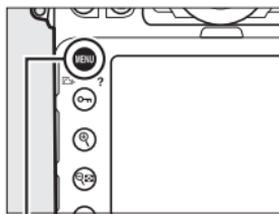
- ファインダーで構図を決めながら撮影する場合は、あらかじめ、ファインダー内がはっきり見えるように視度調節をしてください。
- ノブを引き出し、ファインダーをのぞきながら視度調節ノブを回して、フォーカスポイントまたはAFエリアフレームの枠が最もはっきり見えるように調節してください。



- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。
- 調節が終わった後は、視度調節ノブを押し込んで戻してください。

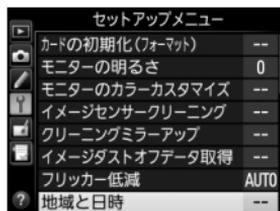
7 日付と時刻を設定する

- MENUボタンを押して、セットアップメニューを表示します。
- メニューの操作方法について詳しくは、「メニューの操作方法」をご覧ください(□23)。



MENUボタン

- [地域と日時] を選んで、マルチセレクターの \blacktriangle を押します(ご購入後、初めて電源をONにしてMENUボタンを押したときは、セットアップメニュー画面で[地域と日時] が選ばれています)。
- 表示される画面で [日時の設定] を選びます。



- マルチセレクターの \blacktriangle または \blacktriangledown を押して、選択中の項目の数値を合わせ、 \blacktriangle または \blacktriangledown で項目を移動します。
- 日付と時刻の設定を完了したら、OKボタンを押します。



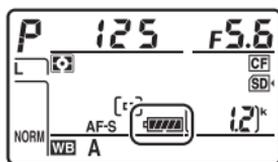
撮影前の準備が完了しました。すぐに撮影する場合は、□27へ進みます。

セットアップメニュー [地域と日時] について

[地域と日時] では現在地、日付の表示順、夏時間も設定できます(□367)。

■ バッテリーの残量について

表示パネルまたはファインダー内表示で、バッテリーの残量を確認できます。



表示パネル



ファインダー内表示

表示パネル	ファインダー	意味
	—	残量は充分に残っています。
	—	残量が減り始めました。
	—	
	—	
		残量は残りわずかです。予備のバッテリーを準備するか、バッテリーを充電してください。
 (点滅)	 (点滅)	撮影できません。バッテリーを交換するか、バッテリーを充電してください。

■ バッテリーとメモリーカードの取り出し方

バッテリーを取り出すには

電源をOFFにしてからバッテリー室カバーを開けてください。バッテリーロックレバーを矢印の方向に押し、バッテリーが少し飛び出します。引き抜いて取り出してください。

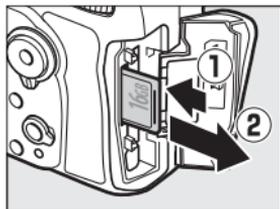


メモリーカードを取り出すには

メモリーカードカバーを開ける前に、メモリーカードアクセスランプの消灯を確認して、電源をOFFにしてください。メモリーカードカバーを開けて、次の手順でメモリーカードを取り出します。

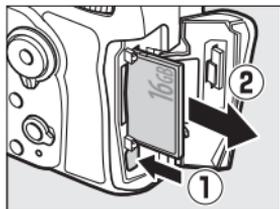
• SDカードの場合：

SDカードを奥に押し込んで放すと (①)、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください (②)。



• CFカードの場合：

CFカードイジェクトレバーを奥に押し込むと (①)、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください (②)。CFカードとCFカードイジェクトレバーを同時に押さないでください。カメラとメモリーカードを破損するおそれがあります。

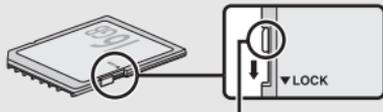


✓ メモリーカード取り扱い上のご注意

- カメラの使用後はメモリーカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- メモリーカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やメモリーカードの故障の原因となります。
 - メモリーカードの着脱をしないでください
 - カメラの電源をOFFにしないでください
 - バッテリーを取り出さないでください
 - ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属を触れないでください。
- メモリーカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。
- パソコンで初期化しないでください。

🔪 SDカードの書き込み禁止スイッチについて

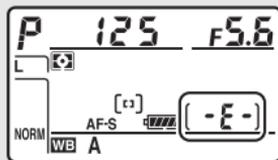
- SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「LOCK」の位置にすると、データの書き込みや削除が禁止され、カード内の画像を保護できます。
- 「LOCK」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとすると、警告メッセージが表示され、撮影できません。撮影時や、画像を削除するときは「LOCK」を解除してください。



書き込み禁止スイッチ

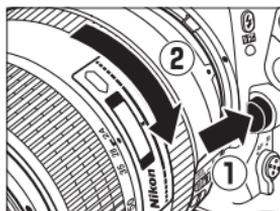
🔪 メモリーカードが入っていないときの表示について

メモリーカードが入っていないときは、表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部に「-E-」マークが表示されます。電源をOFFにしても、バッテリー残量があるときは、表示パネルの「-E-」マークは点灯します。



■■ レンズを取り外すには

カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら ①、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し ②、引き抜いてください。



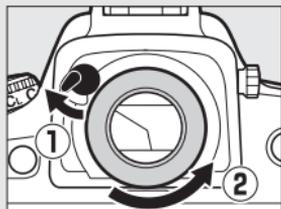
- レンズを取り外した後は、カメラのボディキャップとレンズの裏ぶたをそれぞれ取り付けてください。

✓ 絞りリングのあるCPUレンズについてのご注意

絞りリングのあるCPUレンズ (□419) を取り付ける場合は、最小絞り (最大値) にして、ロックしてください。

✍ アイピースを取り外すには

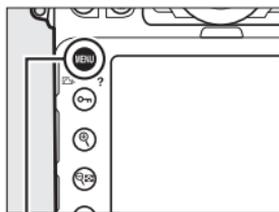
別売の接眼補助レンズを取り付けるには、アイピース (DK-17) を取り外す必要があります。アイピースシャッターを閉じてロックを解除し ①、アイピースを図の方向に回して取り外します ②。



メニューの操作方法

撮影や再生、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニューを使います。

MENU ボタンを押すと、液晶モニターに次のようなメニュー画面（例：再生メニュー）を表示します。



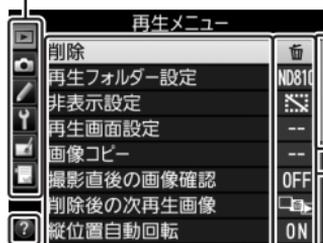
MENU ボタン

メニュー切り換えタブ

次の各メニューのアイコンのタブを選ぶと、選んだメニュー画面が表示されます

 再生メニュー (□270)	 画像編集メニュー (□380)
 撮影メニュー (□280)	 マイメニュー /
 カスタムメニュー (□292)	 最近設定した項目 (□410) *
 セットアップメニュー (□359)	

* どちらかに設定できます。初期設定は [マイメニュー] です。



ヘルプあり表示 (□24)

項目がそのメニュー全体のどの位置にあるかを示しています

各項目の設定をアイコンで表示します

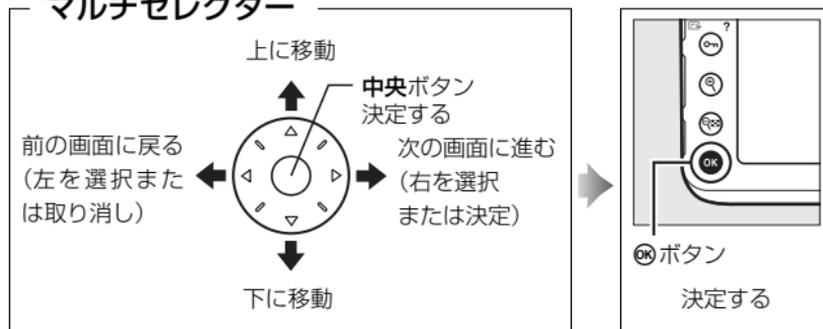
メニュー項目

タブで選んだメニュー内にある設定項目を一覧表示します

メニュー項目の設定

メニューの操作には、マルチセレクターとOKボタンを使います。

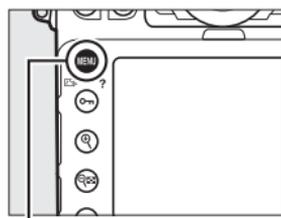
マルチセレクター



■ メニュー項目の設定方法

1 メニュー画面を表示する

- MENU ボタンを押します。

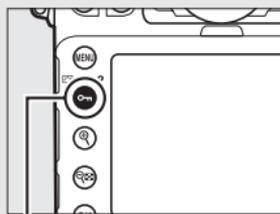


MENU ボタン

② (ヘルプあり表示)

ヘルプがある場合に  (ヘルプあり表示) ボタンを押すと、その項目のヘルプ (説明) を表示します。

- 説明が 2 ページ以上ある場合は、 ボタンを押しながらマルチセレクターの  を押して、次のページを表示してください。
-  ボタンを放すと、メニュー画面に戻ります。

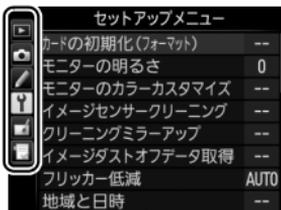


 (ヘルプあり表示) ボタン

多重露出
[コマ数] で設定した回数、撮影した画像を合成して 1 枚の画像として記録できます。
半押しタイマーの作動時間は自動的に 30 秒延長されます。
撮影途中で半押しタイマーがオフになると、多重露出は解除され、それまでに撮影した画像で合成して記録

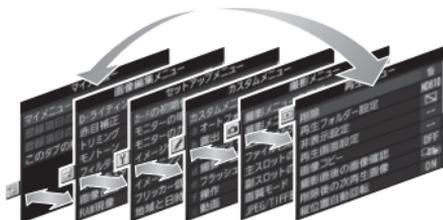
2 メニューのタブを選ぶ

- を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。



3 メニューを切り換える

- または●を押して、メニューのタブを切り換えます。



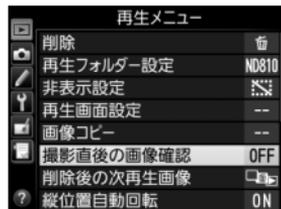
4 選んだメニューに入る

- を押して、選んだメニューに入ります。



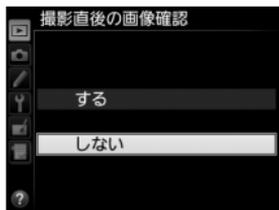
5 メニュー項目を選ぶ

- または●で項目を選びます。



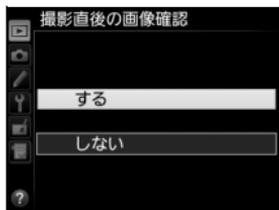
6 設定内容を表示する

- ▶を押して設定内容を表示します。



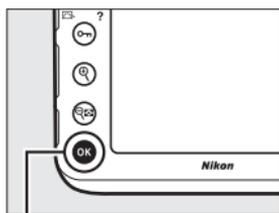
7 設定内容を選ぶ

- ▲または●▼で設定内容を選びます。



8 決定する

- OKボタンを押して決定します。
- メニュー操作をキャンセル（中止）するには、**MENU**ボタンを押してください。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。



●OKボタン

☑ メニュー項目の設定について

- カメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
- OKボタンの代わりにマルチセレクターの●▶や中央ボタンを押しても決定できませんが、画像の削除やメモリーカードの初期化などの重要な設定項目については、●OKボタンしか使えないことがあります。

撮影と再生の基本操作

かんたんに静止画を撮影する

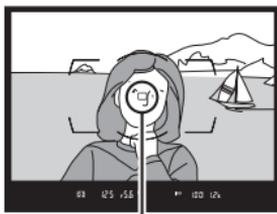
1 カメラを構える

- 脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。
- 人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。



2 構図を決める

- ファインダーをのぞいて、構図を決めてください。
- 被写体を中央のフォーカスポイントに合わせます。



フォーカスポイント

3 シャッターボタンを軽く 押して（半押しして）、 ピントを合わせる

- ご購入時の設定では、中央のフォーカスポイントに重なっている被写体に自動的にピントが合います。



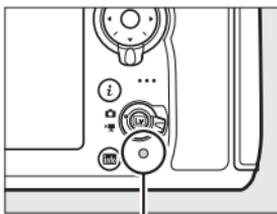
ピント表示

- 暗い場所などでは、AF補助光が光ることがあります。
- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

ファインダー内 ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
▶（点灯）	目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
◀（点灯）	目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
▶ ◀（点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません（「オートフォーカスの苦手な被写体について」(P97)をご覧ください）。

4 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）撮影する

- メモリーカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。メモリーカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプター（別売）を取り外さないでください。

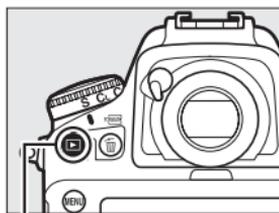


メモリーカード
アクセスランプ

撮影した画像を確認する

1 再生ボタンを押す

- 撮影した画像をカメラ背面の液晶モニターに表示します。



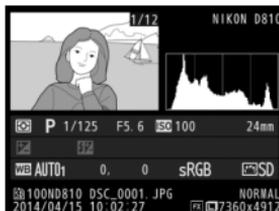
▶再生ボタン

- 表示中の画像がどちらのスロットのメモリーカードに入っているかは、画像の左下のメモリーカードマークで確認できます。



2 マルチセレクターの◀または▶を押して他の画像を確認する

- ◀または▶を押すたびに、撮影情報の表示が切り替わります (□230)。



- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

撮影直後の画像確認について

再生メニューの「撮影直後の画像確認」(□277)を「する」に設定すると、▶ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に液晶モニターに表示します。

関連ページ

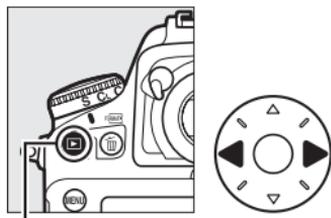
画像を表示するスロットを切り換える→「メモリーカードスロットの切り換えについて」(□228)

画像を削除する

表示中の画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。

1 削除したい画像を表示する

- ▶ボタンを押して液晶モニターに画像を表示してから、マルチセレクターの◀または▶で削除したい画像を選びます。



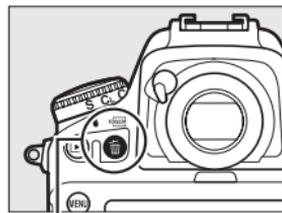
▶ボタン

- 削除する画像がどちらのスロットのメモリーカードに入っているかは、画像の左下のメモリーカードマークで確認できます。



2 画像を削除する

- 🗑️ (FORMAT) ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。もう一度🗑️ (FORMAT) ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。
- 削除確認画面で▶ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルします。



🗑️ (FORMAT) ボタン

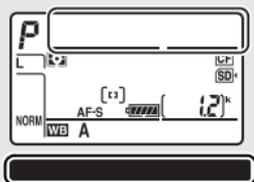


再生メニュー [削除]

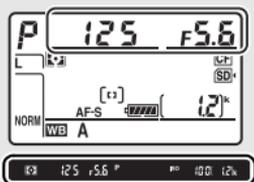
再生メニューの [削除] (□243) では、複数の画像を選んで削除したり、再生フォルダー内の全画像を一括して削除したりできます。また、メモリーカードを2枚使っているときは、全画像を削除するメモリーカードスロットを指定できます。

ファインダー撮影時の半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを軽く押す（半押しする）とオンになり、何も操作が行われないまま約6秒経過すると、オフになります。半押しタイマーがオフになると、表示パネルのシャッタースピード、絞り値表示とファインダー内の全ての表示が消灯します。もう一度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニューc2 [半押しタイマー] (□308) で変更できます。



半押しタイマーオフ

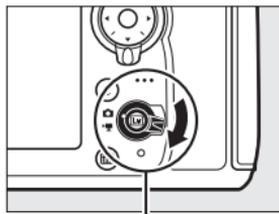


半押しタイマーオン

静止画ライブビュー撮影

液晶モニターで被写体を見ながら静止画を撮影できます。

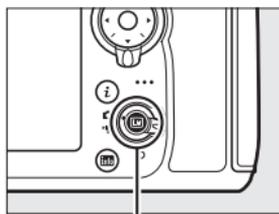
- 1 ライブビューセレクターを
📷（静止画ライブビュー）に合わせる



ライブビューセレクター

- 2 **Lv** ボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、液晶モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

- 3 フォーカスポイントを被写体に重ねる

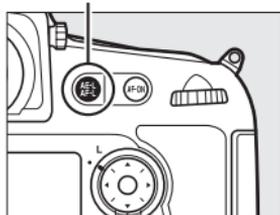
- フォーカスポイントの形状はAFエリアモードによって異なります（□38）。

4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
- フォーカスポイントは、オートフォーカス作動中は緑色で点滅し、ピントが合うと緑色で点灯します。ピントが合わないと赤色で点滅します。
- 露出を固定（AEロック）するには、 AE/AFロックボタンを押し続けます（[□126](#)）。



 AE/AFロックボタン



- 静止画ライブビュー中に  ボタンを押すと、右のような露出プレビュー画面に切り替わります。露出プレビューに設定すると、表示されたシャッタースピード、絞り値、ISO感度での撮影で、どのような露出（明るさ）になるのかを液晶モニターで確認しながら静止画撮影できます。露出補正（[□128](#)）は、通常と同じ±5段まで設定できますが、液晶モニターで確認できるのは±3段までになります。

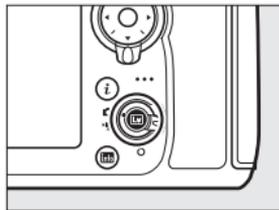


5 シャッターボタンを全押しして撮影する

- 撮影時は液晶モニターが消灯します。



6 [Lv] ボタンを押して静止画ライブビューを終了する



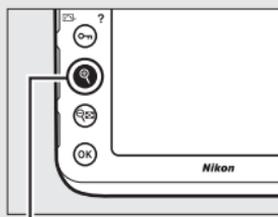
✓ 露出プレビューについて

- シャッタースピードが **bulb** (バルブ) または **- -** (タイム) の場合、露出プレビューには切り替わりません。また、次の場合は、露出プレビューの表示が実際に撮影される画像と異なります。
 - 内蔵フラッシュまたは別売スピードライト使用時
 - [アクティブD-ライティング] (□178) または [HDR (ハイダイナミックレンジ)] (□180) を設定した場合
 - ピクチャーコントロールの [明瞭度] が [0] 以外の場合 (□169)
 - ピクチャーコントロールの [コントラスト] が [A] (オート) の場合 (□169)
 - シャッタースピードを **x 250** に設定した場合
 - オートブラケティング撮影時
- 被写体が極端に明るい場合や暗い場合には、画像の明るさを正しく表示できないことがあります (露出インジケーターが点滅します)。

🔪 ライブビュー時の拡大表示

ライブビュー中に🔍ボタンを押すと、拡大表示できます（最大約23倍）。

- 🔍ボタンを押すごとに拡大率が上がり、🔍🔍ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- 拡大表示中は、画面の右下に構図のどの部分を拡大しているかを表すナビゲーションウィンドウ（グレーの枠）が表示されます。
- 拡大表示中は、マルチセレクターの🔍🔍🔍🔍で画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。



🔍ボタン



ナビゲーション
ウィンドウ

🔪 静止画ライブビュー時のプレビュー機能

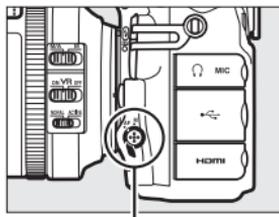
静止画ライブビュー中にPvボタンを押すと開放絞りにになり、ピントが確認しやすくなります。再度Pvボタンを押すか、オートフォーカスでピントを合わせると、設定した絞り値に絞り込まれます。開放絞りにしたままでシャッターボタンを全押しすると、設定した絞り値に絞り込まれてから撮影します。

🔪 HDMI接続時の撮影について

HDMI対応機器との接続時には、接続した機器とカメラのモニターに被写体が表示されます。

AFモードを変更する

フォーカスモードセレクターがAFの場合、静止画ライブビューまたは動画ライブビュー時のAFモードを選べます。



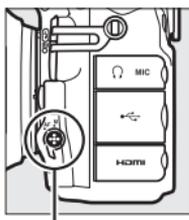
フォーカスモード
セレクター

AF-S シングルAFサーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-F 常時AFサーボ	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするまで、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。

■ 静止画ライブビューまたは動画ライブビュー撮影時のAFモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- AFモードは液晶モニターに表示されます。



AFモードボタン



メインコマンド
ダイヤル



液晶モニター

AFエリアモードを変更する

静止画ライブビューまたは動画ライブビュー時のAFエリアモードを選べます。AFエリアモードは、フォーカスモードセレクター（□37）がAFの場合のみ設定できます。

 顔認識AF	記念写真など、人物の顔にピントを合わせたい場合に適しています。カメラが人物の顔を自動的に認識し、フォーカスポイントが黄色の二重枠に変わります。複数の顔を認識した場合（最大35人まで）は、カメラが最も近いと判断した人物の顔を二重枠で表示します。このとき、マルチセレクターで二重枠を移動して他の顔を選ぶこともできます。途中で顔が後ろを向くなどしてカメラが顔を認識できなくなると、枠が消えます。
 ワイドエリアAF	風景などを手持ちで撮影する場合に適しています。フォーカスポイントは、マルチセレクターで任意の位置に移動できます。 中央ボタン を押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。
 ノーマルエリアAF	画面の任意の位置にピンポイントでピントを合わせたい場合に適しています。フォーカスポイントは、マルチセレクターで任意の位置に移動できます。 中央ボタン を押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。三脚の使用をおすすめします。
 ターゲット追尾AF	指定した被写体に追尾させてフォーカスポイントを動かしたい場合に適しています。マルチセレクターでフォーカスポイントを被写体に重ねて 中央ボタン を押すと、被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。もう一度 中央ボタン を押すと、追尾を終了します。

▼ ターゲット追尾AFについてのご注意

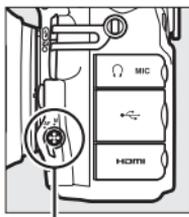
次のような場合は、追尾動作が正常に行われなことがあるため、ご注意ください。

- 被写体の色、明るさが背景と似ている場合
- 被写体の大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
- 被写体が大きすぎる/小さすぎる場合
- 被写体が明るすぎる/暗すぎる場合
- 被写体の動きが速すぎる場合
- 被写体が隠れたり、画面から外れた場合

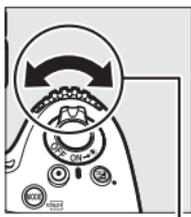
■ 静止画ライブビューまたは動画ライブビュー撮影時のAFエリアモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- AFエリアモードは液晶モニターに表示されます。



AFモードボタン



サブコマンド
ダイヤル



液晶モニター

✓ 静止画ライブビューまたは動画ライブビュー撮影時のオートフォーカスについてのご注意

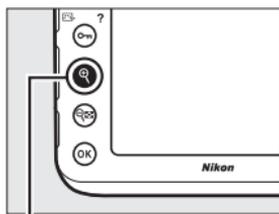
- 静止画ライブビューまたは動画ライブビュー撮影時のオートフォーカスは、通常のオートフォーカスより、ピント合わせに時間がかかります。また、次の被写体はピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
 - 画面の長辺側と平行な線の被写体
 - 明暗差の少ない被写体
 - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
 - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
 - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
 - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
 - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
 - 動く被写体
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- フォーカスポイントが緑色に点滅しているとき（オートフォーカス作動中）は、シャッターはきれません。ただし、赤色に点滅しているとき（ピントがあっていないとカメラが判断したとき）でもシャッターはきれます。
- ピントが合わなくてもピント表示（緑枠）が点灯する場合があります。
- AF-S 以外のレンズやテレコンバーターを使用した撮影では、十分なピント精度が出ない場合があります。

マニュアルフォーカスで撮影する

マニュアルフォーカス (□98) で撮影するときは、レンズのフォーカスリングを回して被写体にピントを合わせます。



- ピントの状態を細部まで確認したい場合は、 ボタンを押して被写体を拡大表示してください (□36)。

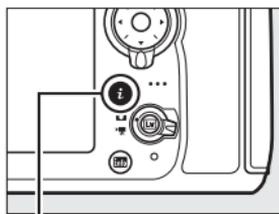


 ボタン

iボタンを使う

静止画ライブビュー時に*i*ボタンを押すと、次の機能の設定を変更できます。項目を選んでマルチセレクターの \odot を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

- 設定終了後、 \odot ボタンを押して決定します。
- 撮影に戻るには、再度*i*ボタンを押してください。



iボタン



撮像範囲	静止画ライブビュー時の撮像範囲を選べます ([OK]74)。
アクティブD-ライティング	アクティブD-ライティングの設定を変えられます ([OK]178)。
電子先幕シャッター	電子先幕シャッターを有効にするかどうかを設定できます ([OK]312)。
モニターの明るさ	<ul style="list-style-type: none">• 静止画ライブビュー時の液晶モニターの明るさを、\odotまたは\ominusを押して調整できます。• 液晶モニターの明るさを調整すると、静止画ライブビューまたは動画ライブビュー中の表示に反映されますが、撮影した画像や画像再生時の表示、メニュー表示などには反映されません。

画像再生時やメニュー表示時の明るさについて

画像再生時やメニュー表示時などの液晶モニターの明るさは、セットアップメニューの [モニターの明るさ] ([OK]362) で設定してください。セットアップメニューで設定した液晶モニターの明るさは、静止画ライブビューまたは動画ライブビュー中の明るさには反映されません。

静止画Lv画面の ホワイトバランス

静止画ライブビュー時には、撮影用のホワイトバランス (□144) とは別に、液晶モニター用のホワイトバランス (液晶モニターの色み) を設定できます。撮影用のホワイトバランスを [フラッシュ] や [プリセット



マニュアル] などに設定していると、実際に撮影される画像の色みと液晶モニターで表示されている色みが異なることがあります。あらかじめ液晶モニターの色みを撮影する画像の色みに合わせておくことで、撮影画像の仕上がりをイメージしやすくなります。

- [撮影時と同じ] を選ぶと、液晶モニター用ホワイトバランスは撮影用ホワイトバランスと同じになります。

2点拡大

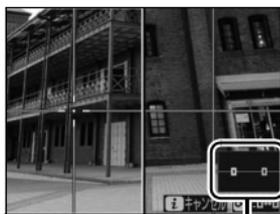
同じ水平面上の異なる2カ所を同時に拡大表示します。建築物などの水平合わせの確認に便利です (□43)。



■■ 2点拡大

静止画ライブビュー時に **i** ボタンを押して [2点拡大] を選ぶと、左右に並んだ拡大表示画面が表示されます (2点拡大表示)。それぞれの画面には、ナビゲーションウィンドウの2カ所の□部分が拡大されて表示されます。

- **Q** ボタンを押すごとに拡大率が上がり、**Q** ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- マルチセクターの **◀** または **▶** を押すと、左右それぞれの拡大表示画面を横方向にスクロールできます。左右の画面を切り換える場合は **◀▶** (**⏪**/**⏩**/?) ボタンを押します。
- マルチセクターの **⬆** または **⬇** を押すと、左右の拡大表示画面が縦方向に同時にスクロールします。
- シャッターボタンを半押しすると、選択されている画面の中心点にピントが合います。



ナビゲーション
ウィンドウ



ピントが合う部分

- **i** ボタンを押すと、2点拡大表示を終了します。

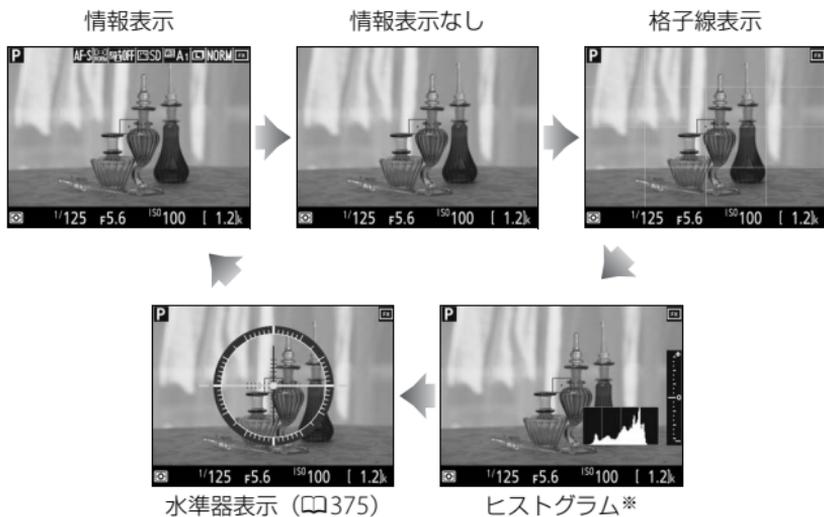
静止画ライブビュー中の情報表示について



①	ライブビュー 残り時間	ライブビューが自動的に終了する30秒前から、ライブビュー残り時間のカウントダウンを表示します。	☞46
②	静止画Lv画面の ホワイトバランス	液晶モニターの色み（液晶モニター用ホワイトバランス）を表示します。	—
③	AFモード	ライブビュー撮影時のAFモードを表示します。	☞37
④	AFエリアモード	ライブビュー撮影時のAFエリアモードを表示します。	☞38
⑤	フォーカス ポイント	枠内の被写体にピントが合います。フォーカスポイントの形状は、選んだAFエリアモードにより異なります。	☞38

静止画ライブビュー時の表示を切り換える

静止画ライブビュー中は、**info** ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。



※ 露出プレビュー時 (□34) のみ表示されます。

▼ 静止画ライブビュー撮影時のご注意

- 静止画ライブビュー中は、液晶モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪んで表示される
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪んで見える
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、ライブビュー表示中に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」は、セットアップメニューの[フリッカー低減] (□366) で低減できますが、設定しているシャッタースピードによっては、撮影した静止画に記録されることがあります。
- 適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターを閉じてください (□105)。
- ライブビュー表示中は、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- 静止画ライブビュー時に動画撮影ボタンを押しても動画撮影はできません。動画ライブビューに切り換えてください (□48)。
- 静止画ライブビュー中は、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□308) の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。

▼ 静止画ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

カメラが自動的にライブビューを終了する30秒前から、液晶モニターの左上にカウントダウンを表示します (□44)。

- カスタムメニュー c4 [モニターのパワーオフ時間] (□309) の設定により終了する場合は、終了30秒前から黒字で表示し、終了5秒前から赤字で表示します。[モニターのパワーオフ時間] の [ライブビュー表示] を [制限なし] に設定している場合も、カメラ内部の温度上昇などによりライブビューが終了する場合があります。
- カメラ内部の温度上昇により終了する場合は、終了30秒前から赤字で表示します。撮影条件によっては、ライブビュー開始後すぐにカウントダウンが始まる場合があります。

関連ページ

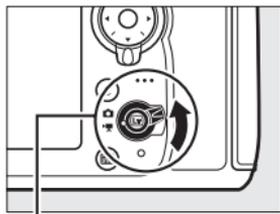
- マルチセレクターの**中央**ボタンを押して、画面中央にフォーカスポイントを移動したり、拡大表示に切り換えられるようにする→  f2 [中央ボタンの機能] (□333)
- 静止画ライブビュー中の動画撮影ボタンとコマンドダイヤルの機能を設定する→  f13 [動画撮影ボタンの機能] (□349)
-  ボタンの動作を制限する→  f14 [ライブビューボタンの設定] (□350)

動画ライブビュー撮影と再生

動画ライブビューで撮影する

液晶モニターを見ながら音声付きの動画を撮影できます。

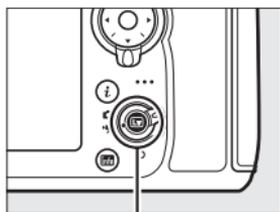
1 ライブビューセレクターを ● (動画ライブビュー) に合わせる



ライブビューセレクター

2 **[Lv]** ボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、液晶モニターに被写体が表示されます。
- 動画ライブビュー中は、実際に撮影される動画や静止画の露出（明るさ）を液晶モニターで確認できます。



[Lv] ボタン

3 動画ライブビュー撮影時のAFモードを設定する

- ライブビュー撮影時のAFモードの設定方法については、「AFモードを変更する」(□37) をご覧ください。



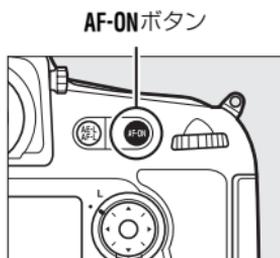
4 動画ライブビュー撮影時のAFエリアモードを設定する

- 動画ライブビュー撮影時のAFエリアモードの設定方法については、「AFエリアモードを変更する」(□38)をご覧ください。



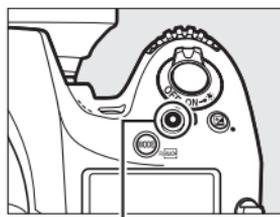
5 AF-ONボタンを押して、ピントを合わせる

- 動画撮影を開始する前に、被写体にピントを合わせます。



6 動画撮影ボタンを押して、撮影を始める

- 動画撮影中は録画中マークが液晶モニターに表示されます。メモリーカードに記録できる残り時間の目安も液晶モニターで確認できます。
- 動画撮影中も、**AF-ON**ボタンを押すと被写体にピントを合わせられます。
- 内蔵マイク (□3) で音声を記録します。録画中は、マイクを指でふさがないようにしてください。
- 露出を固定 (AEロック) するには、AE/AFロックボタンを押し続けます (□126)。
- 動画撮影中は±3段の範囲で露出補正ができます (□128)。



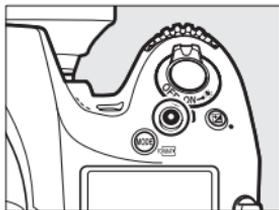
動画撮影ボタン

録画中マーク

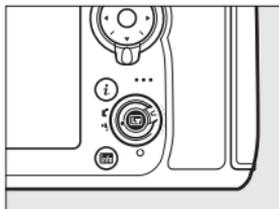


残り時間

- 7** もう一度動画撮影ボタンを押して、
撮影を終了する



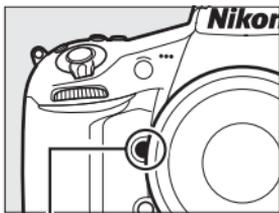
- 8** **[Lv]** ボタンを押して動画ライブ
ビューを終了する



✎ 動画ライブビュー時のピント合わせについて
シャッターボタンを半押ししてピントを合わせることもできます。

インデックスマーキングについて

カスタムメニュー-g2 [プレビューボタンの機能] (□356) の [押し時の動作] が [インデックスマーキング] の場合、動画撮影中に **Pv** ボタンを押すと、撮影中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます (□67)。インデックスマークは1つの動画に最大20個まで付けられます。



Pvボタン



インデックスマーク

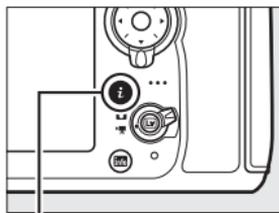
関連ページ

- **Fn** ボタンを押してインデックスマークを付ける → g1 [Fn ボタンの機能] (□355)
- AE/AFロックボタンを押してインデックスマークを付ける → g3 [AE/AFロックボタンの機能] (□357)

i ボタンを使う

動画ライブビュー時に **i** ボタンを押すと、次の機能の設定を変更できます。項目を選んでマルチセクターの **▶** を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

- 設定終了後、**OK** ボタンを押して決定します。
- 撮影に戻るには、再度 **i** ボタンを押してください。



i ボタン



撮像範囲	動画ライブビュー時の撮像範囲を選べます (□56)。
画像サイズ/ フレームレート	動画を記録するときの画像サイズ (ピクセル) / フレームレートを設定します (□61)。
動画の画質	動画の画質を選べます (□61)。
マイク感度	内蔵マイクまたは別売のステレオマイクロホンの感度を、 ▶ または ◀ を押して調整できます (□62)。
録音帯域	内蔵マイクまたは別売ステレオマイクロホンの周波数特性を設定します (□63)。
風切り音低減	内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えるローカットフィルター機能を有効にするかどうかを設定できます (□63)。
動画記録先	メモリーカードを2枚使用している場合に動画を記録するスロットを設定できます (□63)。

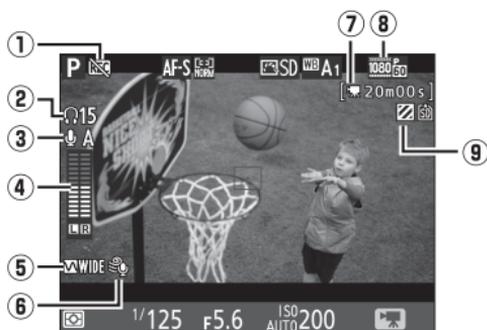


<p>モニターの明るさ</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 動画ライブビュー時の液晶モニターの明るさを、またはを押して調整できます。 • 液晶モニターの明るさを調整すると、静止画ライブビューまたは動画ライブビュー中の表示に反映されますが、撮影した画像や画像再生時の表示、メニュー表示などには反映されません。 	
<p>ハイライト表示</p>	<p>動画ライブビュー時、ハイライト部分（非常に明るい部分）を斜線で表示するかどうかを設定できます。</p>	<p>ハイライト部分</p> 
<p>ヘッドホン音量</p>	<p>ヘッドホン音量を、またはを押して調整できます。</p>	

ヘッドホンについて

- 市販のヘッドホンをヘッドホン端子に接続すると、音声はヘッドホンから出力されます。
- マイク感度を最大に設定すると、大音量で出力される場合がありますので、ヘッドホン使用時は特にご注意ください。

動画ライブビュー中の情報表示について



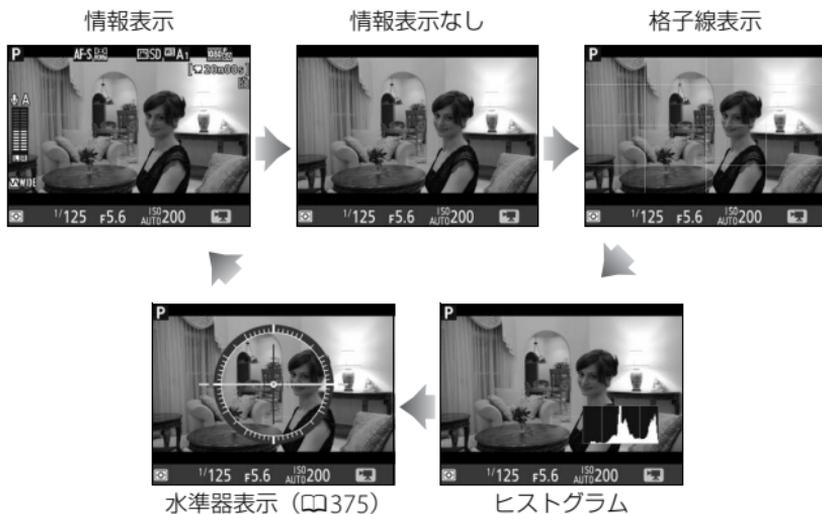
① 動画記録禁止マーク	動画が撮影できない状態のとき表示します。	☐ 58
② ヘッドホン音量	市販のヘッドホン接続時に表示されます。ヘッドホン出力の音量レベルを表示します。	☐ 53
③ マイク感度	マイク感度のレベルを表示します。	☐ 62
④ 音声レベルインジケーター	音声を記録するときの音量レベルを表示します。インジケーターの色が赤で表示される場合、音量が大きすぎることを示しています。マイク感度を調節してください。	☐ 62
⑤ 録音帯域マーク	録音帯域の設定を表示します。	☐ 63
⑥ 風切り音低減マーク	風切り音低減が有効の場合に表示します。	☐ 63
⑦ 動画記録残り時間	動画撮影時に、メモリーカードに記録できる残り時間を表示します。	☐ 49
⑧ 動画の画像サイズ	動画の画像サイズを表示します。	☐ 61
⑨ ハイライト表示マーク	ハイライト表示が有効の場合に表示します。	☐ 53

☑ 動画ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

- カメラが自動的に動画撮影を終了する(☐458) 30秒前から、液晶モニターの左上にカウントダウンを表示します。
- 撮影条件によっては、動画撮影を開始後すぐにカウントダウンが始まる場合があります。
- 動画記録中にカウントダウンが始まった場合は、液晶モニターの右上に表示されている動画残り記録時間にかかわらず、ライブビュー残り時間のカウントダウン時間で動画撮影を自動的に終了します。

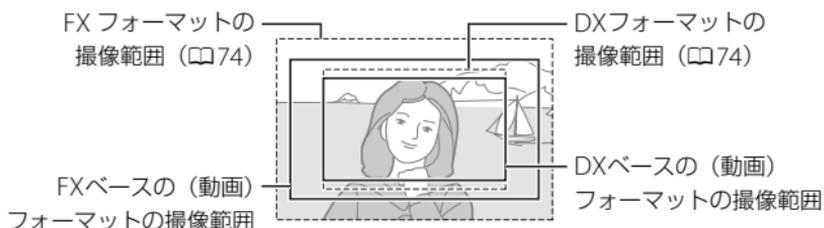
動画ライブビュー時の表示を切り換える

動画ライブビュー中は、**Info** ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。



動画ライブビュー時の撮像範囲

ファインダー撮影時や静止画ライブビュー時の撮像範囲と比べ、動画ライブビュー時の撮像範囲は次の図のようになります。動画ライブビューで撮影する動画や静止画のアスペクト比（縦横比）は、16：9です。



- [撮像範囲設定] で [DX (24 × 16) 1.5×] に設定するか、DXレンズを装着して撮影メニュー [撮像範囲] の [DX自動切り換え] (□75) を [する] に設定した場合は、DXベースの（動画）フォーマットになります。その場合、液晶モニターには  が表示されます。
- その他の撮像範囲に設定して撮影する場合は、動画ライブビューでの撮像範囲はFXベースの（動画）フォーマットになります。
- 動画ライブビュー時の撮像範囲のサイズは、FXベースの（動画）フォーマットとDXベースの（動画）フォーマットでは異なります。それぞれの撮像範囲のサイズは次の通りです。

フォーマット	サイズ
FXベースの（動画）フォーマット	約32.8×18.4 mm
DXベースの（動画）フォーマット	約23.4×13.2 mm

動画ライブビュー時の静止画撮影

カスタムメニューg4 [シャッターボタンの機能] (□358) が [静止画撮影] の場合、動画ライブビュー中にシャッターがきれるまでシャッターボタンを全押しし続けると、動画と同じ撮像範囲の静止画 (□56) を撮影します。



- 動画撮影中の場合、動画撮影は終了し、そこまでの動画を記録します。
- 画質モードは、撮影メニュー [画質モード] (□79) で設定した内容になります。
- 動画ライブビュー中の静止画撮影の露出は液晶モニターでは確認できません。露出モード **P**、**S**、**A** での撮影をおすすめします。露出モード **M** で撮影する場合は、静止画ライブビュー (□33) で適正露出に合わせたあと静止画ライブビューを終了し、動画ライブビューを開始して撮像範囲を確認してから撮影してください。

■ 動画ライブビュー時に撮影できる静止画の画像サイズ

動画ライブビュー時に撮影できる静止画の画像サイズは、次の通りです。

撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ (出力解像度300dpiの場合) *
FXベースの(動画)フォーマット	L (6720×3776ピクセル)	約56.9×32.0 cm
	M (5040×2832ピクセル)	約42.7×24.0 cm
	S (3360×1888ピクセル)	約28.4×16.0 cm
DXベースの(動画)フォーマット	L (4800×2704ピクセル)	約40.6×22.9 cm
	M (3600×2024ピクセル)	約30.5×17.1 cm
	S (2400×1352ピクセル)	約20.3×11.4 cm

* ピクセル数÷出力解像度 (dpi) × 2.54 cmで計算しています。

📷 動画撮影について

- 使用しているメモリーカードの書き込み速度によっては、最長記録時間（□61）に満たないで撮影が自動的に終了する場合があります。
- 動画撮影時は、AFエリアモードが顔認識AFの場合に認識できる人数が少なくなります。
- 🚫（動画記録禁止）マーク（□54）が表示されているときは、動画撮影できません。
- 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。
- 動画ライブビュー時は、内蔵フラッシュと別売のスピードライト（□425）は発光しません。
- 露出モードP、Sで画像が明るくなりすぎたり、暗くなりすぎたりする場合は、ライブビューを終了してからもう一度動画ライブビューを開始するか、露出モードをMにして、絞りの調整を行ってください。
- 各露出モードで動画ライブビュー時に設定できる機能は、次の通りです。

	絞り値	シャッター スピード	ISO感度 (□64)	露出補正	測光※1
P、S	—	—	—	○	○
A	○	—	—	○	○
M	○	○※2	○	—	○

※1 スポット測光は設定できません。

※2 露出モードMで動画撮影する場合、シャッタースピードは1/25～1/8000秒の範囲で設定できます（動画のフレームレート（□61）によって、低速側の制限が異なります）。

- 動画撮影中にWBボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランスを変更できます（□145）。

📷 ワイヤレスリモートコントローラーとリモートコードについて

カスタムメニューg4 [シャッターボタンの機能] を [動画撮影]（□358）に設定すると、ワイヤレスリモートコントローラー（□439）やリモートコード（□438）のシャッターボタンを半押しして動画ライブビューを開始したり、全押しして動画撮影の開始と終了を行えます。

✔ 動画撮影時のご注意

- 動画撮影中の液晶モニターの表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する (□366)
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
 - パワー絞りを作動中 (□355)、画面にちらつきが発生する
- 動画ライブビュー時に、 ボタンで画面を拡大した場合 (□36)、ノイズ (ざらつき、むら、すじ)、色の変化が発生しやすくなります。
- 次のような場合は、動画撮影は自動的に終了します。
 - 最長記録時間に達したとき
 - メモリーカードの残量がなくなったとき
- 動画撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- 次のような場合は、動作音が録音されることがあります。
 - オートフォーカス作動中
 - パワー絞りを作動中
 - 絞り値を変更した場合
 - VRレンズ使用時にVR (手ブレ補正) をONにした場合

🔗 HDMI接続時の撮影について

HDMI対応機器との接続時には、接続した機器とカメラのモニターに被写体が表示されます。

📄 関連ページ

- 動画撮影時のオートフォーカスについてのご注意→「静止画ライブビューまたは動画ライブビュー撮影時のオートフォーカスについてのご注意」(□39)
- レンズのフォーカスリングを使って(マニュアルフォーカスで)ピントを合わせる→「マニュアルフォーカスで撮影する」(□40)
- 動画を記録するときの画像サイズとフレームレート、画質、音声、記録先などを設定する→📷 [動画の設定] (□61)
- マルチセクターの中央ボタンを押して、画面中央にフォーカスポイントを移動したり、拡大表示に切り換えられるようにする → 📷 f2 [中央ボタンの機能] (□333)
- [📷] ボタンの動作を制限する → 📷 f14 [ライブビューボタンの設定] (□350)
- 動画ライブビュー時のFnボタン、Pvボタン、📷 AE/AFロックボタン、シャッターボタンの機能を設定する → 📷 g1 [Fnボタンの機能] (□355)、📷 g2 [プレビューボタンの機能] (□356)、📷 g3 [AE/AFロックボタンの機能] (□357)、📷 g4 [シャッターボタンの機能] (□358)
- 📷 AE/AFロックボタンを押し続けなくてもAEロック状態を維持できるようにする→📷 g3 [AE/AFロックボタンの機能] (□357)
- シャッターボタンを半押しして動画ライブビューを開始したり、全押しして動画撮影を開始、終了できるようにする → 📷 g4 [シャッターボタンの機能] (□358)
- ライブビュー表示中や動画撮影時のフリッカー現象を低減する→📷 [フリッカー低減] (□366)

動画の設定

撮影メニューの [動画の設定] では、動画を記録するときの画像サイズとフレームレート、画質、音声、記録先などを設定できます。

■ 画像サイズ/フレームレート、動画の画質

[画像サイズ/フレームレート] では、動画を記録するときの画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定します。[動画の画質] では、動画の画質を高画質と標準から選べます。それぞれの設定時の最大ビットレートと最長記録時間は次の通りです。

	画像サイズ (ピクセル) / フレームレート※1	最大ビットレート ([動画の画質] ※2 : ★高画質/標準)	最長記録時間 ([動画の画質] ※2 : ★高画質/標準)
	1920×1080 60p	42Mbps/24Mbps	10分/20分
	1920×1080 50p		
	1920×1080 30p	24Mbps/12Mbps	20分/29分59秒
	1920×1080 25p		
	1920×1080 24p		
	1280×720 60p		
	1280×720 50p		

※1 60p : 59.94コマ/秒、50p : 50コマ/秒、30p : 29.97コマ/秒、
25p : 25コマ/秒、24p : 23.976コマ/秒

※2 [動画の画質] が高画質の場合は、アイコンに★が表示されます。

[画像サイズ/フレームレート] について

[画像サイズ/フレームレート] の設定によっては、撮影した動画のノイズ（ざらつき、むら、輝点）の見え方が異なります。

■ マイク感度

内蔵マイクまたは別売のステレオマイクロホン (□438) の感度の程度を設定します。

マイク感度 オート (A)	カメラが自動的にマイク感度を調整します。
マイク感度 マニュアル	マイク感度を手動調整します。 [1] ~ [20] の調整ができます。数字が大きいくほど感度が高く、小さいほど低くなります。
録音しない	音声は記録しません。



🔪 別売のステレオマイクロホンについて

別売のステレオマイクロホンを外部マイク入力端子に接続すると、動画撮影中にオートフォーカスでピント合わせをしたときに生じるレンズの動作音などが録音されるのを低減できます (□438)。

🔪 音声記録されていない動画の表示について

撮影メニュー [動画の設定] の [マイク感度] を [録音しない] にして撮影した動画の場合、1コマ表示モード時と再生中に🔪 (音声なしマーク) が表示されます。



■■ 録音帯域

内蔵マイクまたは別売のステレオマイクロホン（□438）の周波数特性を設定します。

WIDE 広帯域	低音域から高音域まで録音します。楽器演奏や街のざわめきの録音など、幅広いシーンに適しています。
VOICE 音声帯域	主に人の声を録音したいときに適しています。

■■ 風切り音低減

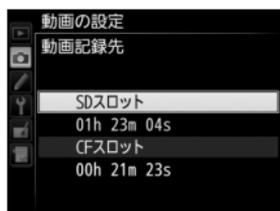
[する] を選ぶと、ローカットフィルター機能により、内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えて記録できます。ただし、風切り音以外の音も聞こえにくくなる場合があります。

- 別売のステレオマイクロホンをお使いの場合は、カメラ側で [風切り音低減] を [する] に設定しても風切り音は低減されません。ステレオマイクロホン側で設定してください。

■■ 動画記録先

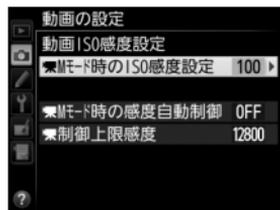
メモリーカードを2枚使用している場合に動画を記録するスロットを設定します。

- それぞれのカードで動画を記録できる残り時間が表示されます。
- 選んだ動画記録先のメモリーカードの残量がなくなると、撮影は自動的に終了します。
- 動画ライブビュー時に撮影した静止画（□57）は、撮影メニューの [主スロットの選択]（□85）で選んだスロットに記録されます。



■ 動画ISO感度設定

動画撮影時のISO感度に関する設定をします。



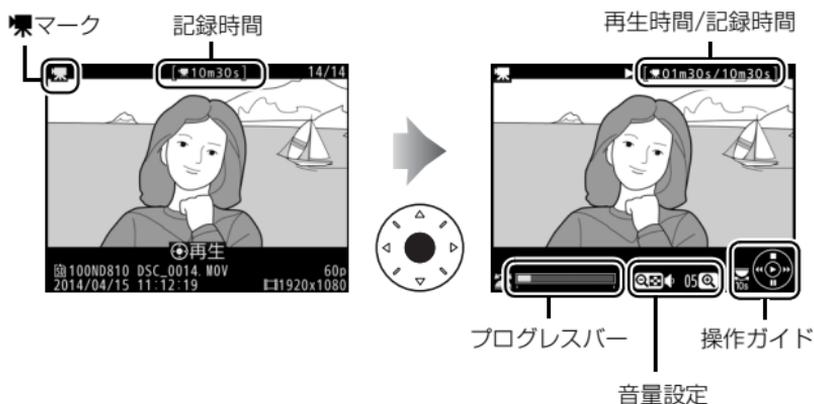
Mモード時のISO感度設定	露出モードMでの動画撮影時のISO感度 (64~Hi 2) を設定できます。
Mモード時の感度自動制御	[する] を選ぶと、露出モードがMのときもカメラが自動的に動画撮影時のISO感度を変更します。[しない] を選ぶと、露出モードがMのときに、[Mモード時のISO感度設定] で設定したISO感度に固定されます。 <ul style="list-style-type: none">露出モードがM以外の場合は常に感度自動制御が動作します。
制御上限感度	<ul style="list-style-type: none">感度自動制御するときに ISO 感度が高くなりすぎないように、上限感度 (200~Hi 2) を設定できます。露出モードがP、S、またはAの場合と、露出モードMで [Mモード時の感度自動制御] が [する] の場合は、ここで設定した感度が自動制御の上限になります。

📝 感度自動制御についてのご注意

- ISO感度が上がると、被写体によっては、ノイズ (ざらつき、むら、すじ) が発生することがあります。
- ISO感度が上がると、ピントが合いにくくなることがあります。
- 上記の現象が発生する場合は、[動画ISO感度設定] の [制御上限感度] を下げて撮影してください。

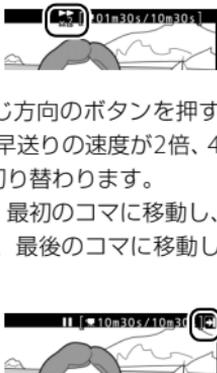
動画の再生

1コマ表示モード（□227）で●マークが表示されている画像が動画です。マルチセレクターの**中央ボタン**を押して動画を再生します（プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます）。



■ 動画再生中の操作方法

一時停止する		マルチセレクターの□を押すと、一時停止します。
再生を再開する		一時停止中または早送り/巻き戻し中に 中央ボタン を押すと、動画再生を再開します。

巻き戻しする/ 早送りする		<ul style="list-style-type: none"> • 動画の再生中に  を押すと巻き戻し、 を押すと早送りします。同じ方向のボタンを押すごとに、巻き戻し/早送りの速度が2倍、4倍、8倍、16倍に切り替わります。 •  を押し続けると、最初のコマに移動し、 を押し続けると、最後のコマに移動します。 • 先頭フレームには  アイコンが、最終フレームには  アイコンが、画面右上に表示されます。 
コマ戻しする/ コマ送りする		<ul style="list-style-type: none"> • 一時停止中に  または  を押すと、コマ戻し/コマ送りします。 •  または  を押し続けると連続でコマ戻し/コマ送りします。
10秒進める/ 10秒戻す		<p>メインコマンドダイヤルを1クリック回すと、10秒前または後に移動します。</p>
インデックス マークに移動する		<p>動画撮影時に設定したインデックスマークに移動するには、サブコマンドダイヤルを回します。サブコマンドダイヤルを回すと、前後のインデックスマークに移動します。</p>
先頭フレームに 移動する/最終 フレームに移動する		<p>動画にインデックスマークがない場合にサブコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。</p>
音量を調節する		<p> ボタンを押すと音量が大きくなり、 ボタンを押すと小さくなります。</p>
動画を編集する		<p>一時停止中に i ボタンを押すと、[動画編集] 画面を表示します (□68)。</p>
再生を終了する		<p> または  ボタンを押すと1コマ表示モードに戻ります。</p>
撮影に戻る		<p>液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。</p>

インデックスマーク

インデックスマークが設定された動画 (□51) の場合、1コマ表示画面に  マークが表示されます。



動画の編集

撮影した動画を編集できます。

 始点/終点の設定	動画の前半、後半、または前後両端を切り取って、選択した範囲だけを残します。
 選択フレームの保存	選択した1フレームを切り出して、JPEG画像として保存します。

動画の必要な部分を残す

1 1コマ表示モード (227) で編集したい動画を表示する

2 切り取りたい位置で動画を一時停止する

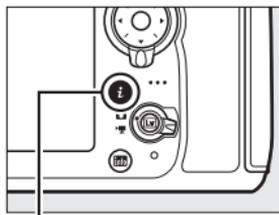
- マルチセクターの中央ボタンを押すと、動画が再生されます。再生中にマルチセクターの  を押すと、一時停止します。
- プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます。
-  または 、メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルで再生中の位置を調整できます。



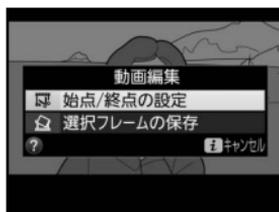
プログレスバー

3 [始点/終点の設定] を選ぶ

- **i** ボタンを押して、[始点/終点の設定] を選んで **OK** を押します。

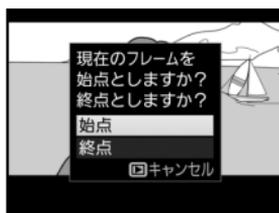


i ボタン



4 始点または終点を選ぶ

- [始点] を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだ始点より後ろの部分が残ります。



- [終点] を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだ終点より前の部分が残ります。



5 手順4で選んだ始点、または手順4で選んだ終点の位置を調整する

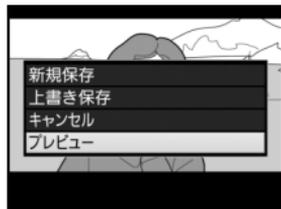
- ◀または▶を押して、切り取りたい位置を調整します。
- メインコマンドダイヤルを1クリック回すと、10秒前または後に移動します。
- サブコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。
- 動画撮影時にインデックスマークを設定した場合 (□51) は、サブコマンドダイヤルを回すと、前後のインデックスマークに移動します。



6 ◀を押して決定する

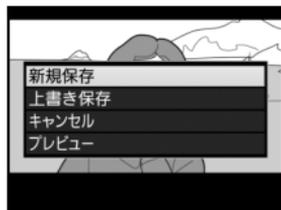
7 保存する動画を確認する

- [プレビュー] を選んでⓧボタンを押すと、編集後の動画のプレビューが再生されます (プレビューを終了するには▶を押します)。
- [キャンセル] を選んでⓧボタンを押すと、手順5の画面に戻ります。



8 動画ファイルの保存方法を選ぶ

- [新規保存] を選ぶと、編集前の動画とは別に、新しい動画として保存します。 [上書き保存] を選ぶと、編集前の画像が上書きされます。



9 動画ファイルを保存する

- ⓧボタンを押して決定します。

✔ 動画編集時のご注意

- メモリーカードに十分な空き容量がない場合、動画編集できません。
- [始点/終点の設定] では、2秒未満の動画は編集できません。
- 動画編集で作成した動画の日時情報は、撮影時の日時になります。

✍ 動画の前後を切り取るには

手順5の画面で、**Om** (⏮/?) ボタンを押すと、**⏮** (始点) または **⏭** (終点) を切り換えられ、一度の操作で動画の前後を切り取ることができます。



Om (⏮/?) ボタン

✍ 画像編集メニュー [動画編集]

動画編集は、メニュー操作でも行えます (□380)。

動画の1フレームをJPEG画像として保存する

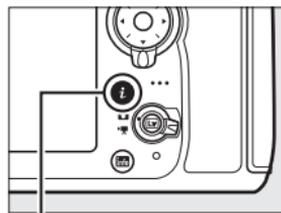
1 編集したい部分で動画を一時停止する

- 動画の再生中にマルチセレクターの  を押すと、一時停止します。

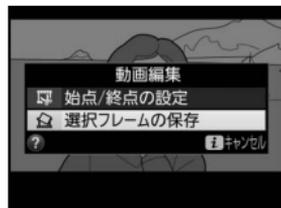


2 [選択フレームの保存] を選ぶ

- **i** ボタンを押して、[選択フレームの保存] を選んで  を押します。



i ボタン



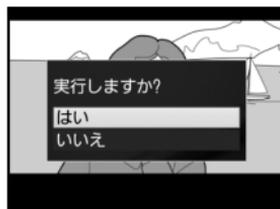
3 JPEG画像として保存したいフレームを決める

- 保存したいフレームを選んで  を押します。



4 JPEG画像を作成する

- [はい] を選んで **OK** ボタンを押すと、JPEGの画像として保存します。



【選択フレームの保存】で作成した画像について

- 画質モード [FINE] (□79) のJPEG画像を作成します。
- 画像編集はできません。
- 再生時の画像情報 (□230) で表示されない項目があります。

画像の記録

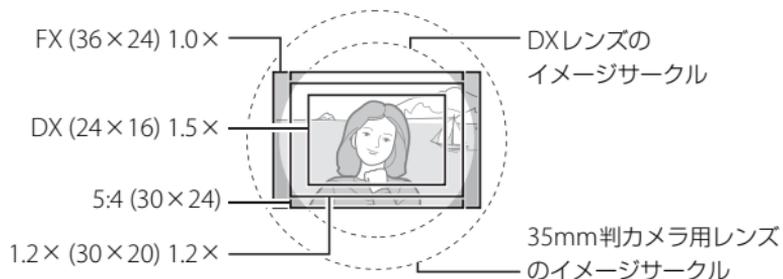
撮像範囲を変更する

撮像範囲を切り換えて撮影できます。

■ 撮像範囲設定

このカメラで設定できる撮像範囲は次の通りです。撮像範囲は、撮影メニューの「撮像範囲」の「撮像範囲設定」で設定するか（□76）、Fnボタンとコマンドダイヤルで設定します（□77）。

 FX (36 × 24) 1.0× (FXフォーマット)	35mm判カメラに準じた画角のFXフォーマット (35.9 × 24.0 mm) で画像を記録します。35mm判カメラ用のニッコールレンズを装着して撮影するときに設定します。
 1.2 × (30 × 20) 1.2×	30.0 × 19.9 mmで画像を記録します。レンズに表記されている焦点距離の約1.2倍のレンズに相当する画角になります。
 DX (24 × 16) 1.5× (DXフォーマット)	DXフォーマット (23.4 × 15.6 mm) で画像を記録します。レンズに表記されている焦点距離の約1.5倍のレンズに相当する画角になります。
 5:4 (30 × 24)	アスペクト比 (縦横比) が5 : 4 (30.0 × 24.0 mm) の画像を記録します。



■■ DX自動切り換え

撮影メニュー [撮像範囲] の [DX自動切り換え] では、DXレンズを装着したときに自動的に撮像範囲を [DX (24×16) 1.5×] (DXフォーマット) に切り換えるかどうかを設定できます。

する	DXレンズを装着すると、自動的に撮像範囲を [DX (24×16) 1.5×] に切り換えます。
しない	自動的に切り換えません。

☑ 「ケラレ」について

DXレンズは通常の35mm判カメラ用レンズに比べ、イメージサークルが小さくなっています。このため、DXレンズを装着して [DX自動切り換え] を [しない] に設定して [撮像範囲設定] を [FX (36×24) 1.0×] や [1.2× (30×20) 1.2×]、[5:4 (30×24)] にして撮影すると、画面周辺部が黒くなる場合があります。これを「ケラレ」といいます。ファインダー上ではケラレがないように見えても、撮影した画像を再生すると周辺部が暗くなっていることや、十分な解像度が得られないことがあります。

📷 ファインダーの表示について

撮像範囲が [1.2× (30×20) 1.2×]、[DX (24×16) 1.5×]、[5:4 (30×24)] のときは、下図のように表示します。カスタムメニュー a6 [フォーカスポイント照明] (☐300) を [しない] に設定すると、記録されない部分がうす暗く表示されます。



1.2× (30×20) 1.2×



DX (24×16) 1.5×



5:4 (30×24)

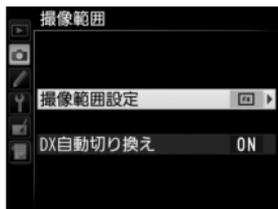
■ 撮影メニューの [撮像範囲] で設定する場合

- 1 撮影メニューの [撮像範囲] を選んでマルチセレクターの  を押す



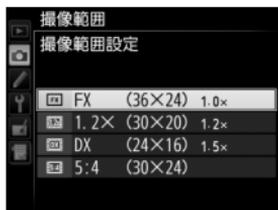
- 2 [撮像範囲設定] を選ぶ

- [撮像範囲設定] を選んで  を押すと、[撮像範囲設定] 画面が表示されます。



- 3 設定したい撮像範囲を選ぶ

- 設定したい撮像範囲を選んで、 ボタンを押します。
- 設定に応じた撮像範囲がファインダー内で確認できます (p.75)。

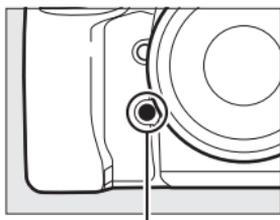


■ Fnボタンとコマンドダイヤルで設定する場合

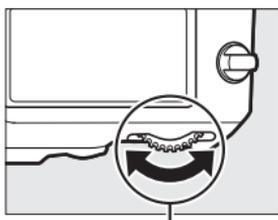
1 カスタムメニュー f4 [Fnボタンの機能] の [コマンドダイヤル併用時の動作] (☐340) を [撮像範囲選択] に設定する

- Fnボタンとコマンドダイヤルの組み合わせに対して、撮像範囲の選択機能が割り当てられます。

2 Fnボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回す

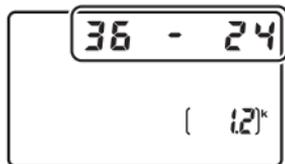


Fnボタン



メインコマンドダイヤル

- 設定に応じた撮影範囲がファインダー内で確認できます (☐75)。
- Fnボタンを押すと、表示パネルやファインダー内表示、インフォ画面で撮像範囲の設定を確認できます。



撮像範囲	表示
FX (36 × 24) 1.0× (FXフォーマット)	36 - 24
1.2× (30 × 20) 1.2×	30 - 20
DX (24 × 16) 1.5× (DXフォーマット)	24 - 16
5:4 (30 × 24)	30 - 24

✔ 撮像範囲の切り換えについて

撮像範囲の [DX自動切り換え] を [する] (□75) に設定してDXレンズを装着している場合、Fnボタンでは撮像範囲は切り換えられません。

✎ 撮像範囲の表示について

撮像範囲は、インフォ画面に表示されます。



✎ 撮像範囲を変更したときの画像サイズについて

同じ画像サイズに設定した場合でも、[撮像範囲] の設定によって、撮影画像のピクセル数が変化します。

✎ 関連ページ

- 「動画ライブビュー時の撮像範囲」 (□56)
- P_vボタンで撮像範囲を切り換える → ✎ f5 [プレビューボタンの機能] (□341)
- AE/AFロックボタンで撮像範囲を切り換える → ✎ f6 [AE/AFロックボタンの機能] (□342)
- 動画撮影ボタンで撮像範囲を切り換える → ✎ f13 [動画撮影ボタンの機能] (□349)
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」 (□485)

画質モードを変更する

画質モードについて

画像を記録する際の画質モードを選びます。

画質モード	ファイル形式	内容
RAW	NEF	撮像素子の生データを未現像の状態で記録します。撮影時に設定したホワイトバランスやコントラストなどを、撮影後に変更できます。
TIFF (RGB)	TIFF (RGB)	画像を8ビット非圧縮のTIFF-RGB形式で記録します。多くの画像アプリケーションで使用できます。
FINE	JPEG	画像データを約1/4に圧縮して記録します(サイズ優先時)。
NORMAL		画像データを約1/8に圧縮して記録します(サイズ優先時)。
BASIC		画像データを約1/16に圧縮して記録します(サイズ優先時)。
RAW + FINE	NEF + JPEG	RAWとJPEG (FINE) の2種類の画像を同時に記録します。
RAW + NORMAL		RAWとJPEG (NORMAL) の2種類の画像を同時に記録します。
RAW + BASIC		RAWとJPEG (BASIC) の2種類の画像を同時に記録します。

RAW画像について

- 現像には画像編集メニューの**[RAW現像]**(□394)、または付属のソフトウェアViewNX 2やCapture NX-Dを使います。
- ViewNX 2は付属のViewNX 2 CD-ROMを使ってインストールできます。
- Capture NX-Dは、ViewNX 2インストーラー(□244)に表示されているリンクからダウンロードしてインストールできます。

関連ページ

「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」(□485)

画質モードの設定方法

QUAL ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- 画質モードは、表示パネルに表示されます。



【画質モード】について

画質モードは撮影メニュー（□280）でも設定できます。

RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- 画質モード **[RAW + FINE]**、**[RAW + NORMAL]**、**[RAW + BASIC]** で撮影したとき、カメラではJPEG画像のみを再生します。メモリーカードを1枚使用している場合、JPEG画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでのみ再生できます。
- メモリーカードを1枚使用している場合や、メモリーカードを2枚使用していても**[副スロットの機能]**（□85）が**[順次記録]**または**[バックアップ記録]**の場合、RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。
- [副スロットの機能]**を**[RAW+JPEG 分割記録]**に設定してメモリーカードを2枚使用している場合、**[主スロットの選択]**（□85）で選んだ主スロットにRAW画像が、もう一方のスロット（副スロット）にJPEG画像が記録されます。RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除しても、RAW画像は削除されません。

JPEG画像の圧縮率について

画像データの圧縮率は目安です。撮影するシーンやISO感度によっては圧縮率が大きく変わる場合があります。

■■ JPEG画像の圧縮方式を選ぶ

撮影メニュー [JPEG/TIFF記録] で [JPEG圧縮] を選んで、画質モードがJPEG (FINE)、JPEG (NORMAL)、JPEG (BASIC) の画像を記録するときの圧縮方式を設定します。

 サイズ優先	ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。
 画質優先	画質の劣化を抑えて圧縮します。画像によってファイルサイズは異なります。

■■ RAW画像の圧縮方式を選ぶ

撮影メニュー [RAW記録] で [RAW圧縮] を選んで、RAW画像の記録時の圧縮方式を設定します。

ON  ロスレス圧縮RAW	可逆圧縮します (データを完全に復元できます)。[非圧縮RAW] に対してファイルサイズが約60~80%になります。記録した画像は [非圧縮RAW] と同等の画質になります。
ON  圧縮RAW	非可逆圧縮します (データは完全には復元できません)。[非圧縮RAW] に対してファイルサイズが約45~65%になります。非可逆圧縮ですが、記録した画像は [非圧縮RAW] とほぼ同等の画質になります。
非圧縮RAW	圧縮しないため、[ロスレス圧縮RAW] や [圧縮RAW] に比べ、ファイルサイズが大きくなります。

■■ RAW画像の記録ビット数を選ぶ

撮影メニュー [RAW記録] で [記録ビットモード] を選んで、RAW画像の記録ビット数を設定します。

12-bit 12ビット記録	RAW画像を12ビットで記録します。
14-bit 14ビット記録	RAW画像を14ビットで記録します。[12ビット記録] の場合よりもさらに豊かな階調表現になります。画像のファイルサイズは [12ビット記録] よりも大きくなります。

関連ページ

撮影メニュー [JPEG/TIFF記録] の [画像サイズ] と [RAW記録] の [画像サイズ] については□82、84をご覧ください。

画像サイズを変更する

JPEG画像とTIFF画像の場合、画像のサイズ（大きさ）を [サイズL]、[サイズM]、[サイズS] のいずれかに設定できます。RAW画像の場合は [サイズL] または [サイズS] に設定できます。画像サイズは撮像範囲との組み合わせで変わります (□74)。

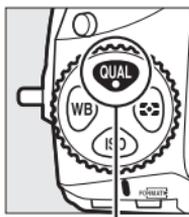
撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ (出力解像度300dpiの場合) ※
FX (36 × 24) 1.0 ×	L (7360 × 4912ピクセル)	約62.3 × 41.6 cm
	M (5520 × 3680ピクセル)	約46.7 × 31.2 cm
	S (3680 × 2456ピクセル)	約31.2 × 20.8 cm
1.2 × (30 × 20) 1.2 ×	L (6144 × 4080ピクセル)	約52.0 × 34.5 cm
	M (4608 × 3056ピクセル)	約39.0 × 25.9 cm
	S (3072 × 2040ピクセル)	約26.0 × 17.3 cm
DX (24 × 16) 1.5 ×	L (4800 × 3200ピクセル)	約40.6 × 27.1 cm
	M (3600 × 2400ピクセル)	約30.5 × 20.3 cm
	S (2400 × 1600ピクセル)	約20.3 × 13.5 cm
5:4 (30 × 24)	L (6144 × 4912ピクセル)	約52.0 × 41.6 cm
	M (4608 × 3680ピクセル)	約39.0 × 31.2 cm
	S (3072 × 2456ピクセル)	約26.0 × 20.8 cm

※ ピクセル数 ÷ 出力解像度 (dpi) × 2.54 cm で計算しています。

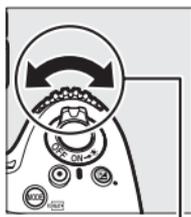
■■ JPEG画像とTIFF画像の画像サイズの設定方法

QUALボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

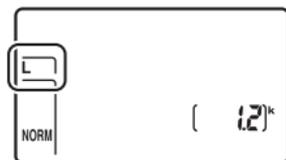
- JPEG画像とTIFF画像の画像サイズは、表示パネルに表示されます。



QUALボタン



サブコマンド
ダイヤル



表示パネル

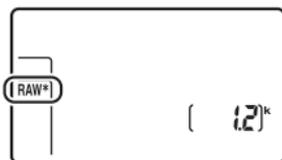
[JPEG/TIFF記録] の [画像サイズ] について

JPEG画像とTIFF画像の画像サイズは、撮影メニュー（280）[JPEG/TIFF記録] の [画像サイズ] でも設定できます。

RAW画像の画像サイズの設定方法

撮影メニュー [RAW記録] で [画像サイズ] を選ぶと、RAW画像を記録するときの画像サイズを [サイズL] または [サイズS] に設定できます。

- [サイズS] で撮影した画像のファイルサイズは、[サイズL] のときの約1/2になります。
- [サイズS] を選ぶと、表示パネルにアスタリスク（*）が表示されます。



表示パネル

RAW画像の画像サイズについて

- **QUAL** ボタンとコマンドダイヤルの組み合わせでは、RAW画像の画像サイズは選べません。
- 画像サイズが [サイズS] の場合、[RAW記録] の [RAW圧縮] (□81) は [非圧縮RAW] に、[記録ビットモード] (□81) は [12ビット記録] に固定されます。
- [サイズS] で撮影したRAW画像は、画像編集メニュー (□380) で編集できません。

2枚のメモリーカードに記録する (主スロットの選択、副スロットの機能)

このカメラは、SDカードとCFカードを同時に使うことができます。このとき、優先的に使うスロット（主スロット）を選んだり、もう一方のスロット（副スロット）の機能を設定できます。

■ 優先的に使うスロットを決める

撮影メニュー [主スロットの選択] を選んで、撮影時や再生時に優先的に使うスロットを設定します。

SDスロット	SDカードを優先的に使うときに選びます。
CFスロット	CFカードを優先的に使うときに選びます。

■ 副スロットの機能

撮影メニュー [副スロットの機能] を選んで、副スロットへの記録方法を設定します。

 順次記録	主スロットから優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先を副スロットに変更します。
 バックアップ記録	バックアップ用として同じ画像を主スロット、副スロットに記録します。
 RAW+JPEG分割記録	<ul style="list-style-type: none">• [画質モード] が [RAW + FINE]、[RAW + NORMAL]、または [RAW + BASIC] の場合、主スロットにRAW画像、副スロットにJPEG画像を記録します。• その他の画質モードの場合は、同じ画像を主スロットと副スロットの両方に記録します。

[バックアップ記録] と [RAW+JPEG分割記録] について

- 表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数には、記録可能コマ数が少ないスロットのコマ数を表示します。
- どちらか一方のスロットの空き容量がなくなると、シャッターがきれなくなります。

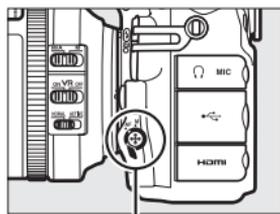
動画を記録するスロットについて

撮影メニュー [動画の設定] の [動画記録先] で、記録するスロットを設定できます (□63)。

フォーカス

オートフォーカスで撮影する

フォーカスモードセレクターを**AF**に合わせると、オートフォーカスになります。ここでは、ファインダーを見ながら撮影するときの、オートフォーカスでのピントの合わせ方について説明しています。



フォーカスモード
セレクター

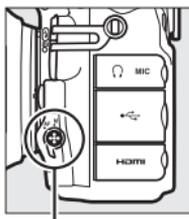
AFモードを変更する

AF-S シングル AFサーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。 <ul style="list-style-type: none">初期設定はピントが合うとシャッターがきれるフォーカス優先モードです (□297)。
AF-C コンティニュアス AFサーボ	ファインダー内のピント表示 (●) がいったん点灯してもフォーカスロックはされず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けるモードです。スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカス (□87) に切り替わり、被写体の動きに合わせてピントを追いつけます。 <ul style="list-style-type: none">初期設定ではピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれるリリース優先モードです (□297)。

■■ AFモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

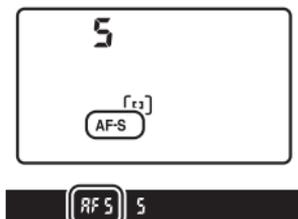
- AFモードは、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。



AFモードボタン



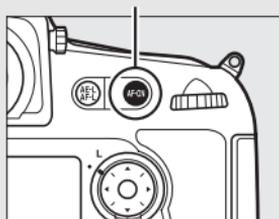
メインコマンド
ダイヤル



🔍 AF-ONボタンについて

AF-ONボタンを押すと、カメラが自動的に被写体にピントを合わせます。

AF-ONボタン



🔍 予測駆動フォーカスについて

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のときに、シャッターボタンを半押しするか、**AF-ON**ボタンを押してピントを合わせる場合、被写体が近づいてきたり遠ざかっていくのをカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカスが作動すると、シャッターがきれる時点での到達位置を予測しながらピントを合わせ続けます。

関連ページ

- AF-Cをフォーカス優先モードにする →  a1 [AF-Cモード時の優先] (□297)
- AF-Sをリリース優先モードにする →  a2 [AF-Sモード時の優先] (□297)
- シャッターボタン半押しでオートフォーカスが作動しないようにする →  a4 [半押しAFレンズ駆動] (□298)
- AFモードを [AF-S] または [AF-C] に固定する →  a12 [AFモードの制限] (□304)
- サブコマンドダイヤルでAFモードを切り換えられるようにする →  f9 [コマンドダイヤルの設定] の [メインとサブの入れ換え] (□344)
- ライブビュー / 動画撮影時の AF モードを設定する → 「AF モードを変更する」 (□37)

AFエリアモードを変更する

AFエリアモード	内容
シングル ポイントAF	フォーカスポイントを自分で選べます (□93)。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。静止している被写体の撮影に適しています。
ダイナミックAF・ 9点	AFモードの AF-C (□86) との組み合わせで、撮影者が選んだ1つのフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。
ダイナミックAF・ 21点	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイナミックAF・9点：構図を決めて撮影するときや、被写体の動く方向が予測でき、フォーカスポイントで被写体を捉えやすい撮影に適しています (例：陸上競技やモータースポーツ)。 ● ダイナミックAF・21点：動きがランダムで予測しにくい被写体の撮影に適しています (例：フィールドスポーツ)。
ダイナミックAF・ 51点	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイナミックAF・51点：被写体の動きが速く、選んだフォーカスポイントで被写体を捉えにくい場合の撮影に適しています (例：野鳥撮影)。
3D- トラッキング	<p>AFモードのAF-C (□86) との組み合わせで、51点全てのフォーカスポイントを使って被写体を追尾する3D-トラッキングになります。選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間は被写体の動きに合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えて被写体にピントを合わせ続けます。左右に動く被写体を自由な構図で撮影するのに適しています (例：テニス)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カメラが途中で被写体を見失ってしまった場合は、いったんシャッターボタンを放して、もう一度フォーカスポイントで被写体にピントを合わせてください。



AFエリアモード	内容
グループエリア AF	<p>撮影者が選んだフォーカスポイント（グループ）を使ってピント合わせをします。広い範囲で被写体を捉えるため、誤って背景にピントが合ってしまうことが起こりにくくなります。1つのフォーカスポイントでは捉えにくい被写体を撮影する場合に適しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> AFモードがAF-Sのときは、人物の顔を認識します。その場合は、認識した顔を優先してピントを合わせます。
オートエリアAF	<p>カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。また、人物の顔を認識した場合は優先してピントを合わせます。</p> <ul style="list-style-type: none"> AFモードがAF-Sのときは、ピントが合ったフォーカスポイント全てを約1秒間表示します。AF-Cのときは、ピントが合ったフォーカスポイント全てを一瞬表示してから、主に使用するフォーカスポイント1点を表示します。 

3D-トラッキングについて

3D-トラッキングでは、半押ししていったんピントが合った時点で、選んだフォーカスポイント周辺の色を記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていたり、半押し開始時の被写体が小さいと、うまく動作しない場合があります。

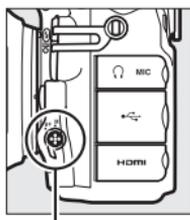
マニュアルフォーカス時のAFエリアモードについて

AFエリアモードは自動的にシングルポイントAFになります。

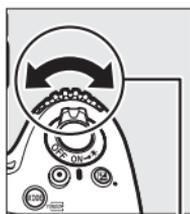
■■ AFエリアモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

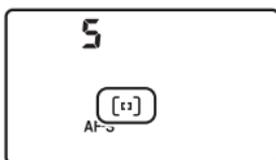
- AFエリアモードは、表示パネルとファインダー内に表示されます。



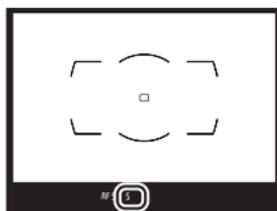
AFモードボタン



サブコマンド
ダイヤル



表示パネル



ファインダー内表示

🔍 AFエリアモードの表示について

表示パネルおよびファインダー内表示の各AFエリアモードの表示は次のようになります。

AFエリアモード	表示パネル	ファインダー内表示
シングルポイントAF	S	S
ダイナミックAF・9点*	d 9	d 9
ダイナミックAF・21点*	d21	d21
ダイナミックAF・51点*	d51	d51
3D-トラッキング	3d	3d
グループエリアAF	G r P	G r P
オートエリアAF	Auto	Auto

※ 実際にファインダーに表示されるフォーカスポイントは1点のみです。
ピント情報として利用する周辺のフォーカスポイントの数を選択できます。

関連ページ

- AFロックオンを解除する →  a3 [AFロックオン] (□298)
- ダイナミックAF時やグループエリアAF時のフォーカスポイントの見え方を変える →  a5 [フォーカスポイント表示] (□299)
- 使用する AF エリアモードを限定する →  a11 [AF エリアモードの限定] (□304)
- メインコマンドダイヤルで AF エリアモードを切り換えられるようにする →  f9 [コマンドダイヤルの設定] の [メインとサブの入れ換え] (□344)
- ライブビュー/動画撮影時のAFエリアモードを設定する → 「AFエリアモードを変更する」 (□38)

フォーカスポイントを自分で選ぶ

このカメラには、51カ所のフォーカスポイント（自動でピント合わせを行う領域）があります。フォーカスポイントを自分で選ぶことで、構図を自由に変えられます。

1 フォーカスポイントロックレバーのロックを解除する

- フォーカスポイントロックレバーを回して●に合わせ、ロックを解除すると、マルチセレクターでフォーカスポイントを選べるようになります。



フォーカスポイント
ロックレバー

2 半押しタイマーがオンのときに、ファインダーをのぞきながらマルチセレクターでフォーカスポイントを選ぶ

- ファインダー内で、フォーカスポイントが移動します。
- マルチセレクターの**中央ボタン**を押すと、中央部のフォーカスポイントが選ばれます。
- フォーカスポイントロックレバーを**L**の位置に回すと、フォーカスポイントをロック（固定）します。



▼ オートエリアAFモードについて

AFエリアモードがオートエリアAFの場合、フォーカスポイントをカメラが自動的に決めるため、自分ではフォーカスポイントを選べません。

📎 関連ページ

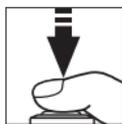
- フォーカスポイントの点灯に関する設定を変更する → 📎 a5 [フォーカスポイント表示] (□299)
- フォーカスポイントの照明方法を変更する → 📎 a6 [フォーカスポイント照明] (□300)
- フォーカスポイントの選択を循環方式にする → 📎 a7 [フォーカスポイント循環選択] (□300)
- マルチセレクターで選べるフォーカスポイントの数を変更する → 📎 a8 [AF点数切り換え] (□301)
- カメラの縦位置と横位置で個別にフォーカスポイントやAFエリアモードを設定する → 📎 a9 [縦/横位置フォーカス切換] (□302)
- マルチセレクターの中央ボタンを押したときの機能を変更する → 📎 f2[中央ボタンの機能] (□333)

フォーカスロックしてピントを固定する

ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らないときや、オートフォーカスが苦手な被写体 (□97) を撮影するときには、次の手順でピントを固定 (フォーカスロック) して撮影してください。フォーカスロックを行う前に、AFエリアモード (□89) をオートエリアAF以外に設定することをおすすめします。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする

- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示 (●) が点灯します。

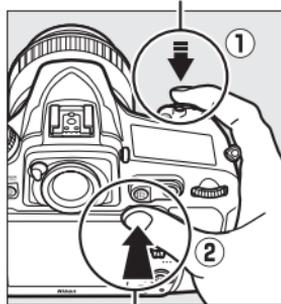


2 ピントを固定する

AFモード (□86) がAF-Cのときシャッターボタンを半押ししたまま (①)、AE/AFロックボタンを押すと (②)、ピントが固定されます。AE/AFロックボタンを押している間は、シャッターボタンから指を放しても、ピントと露出が固定されます。

- AE/AFロックボタンを押している間、ファインダー内にはAE-Lマークが点灯します。

シャッターボタン



AE/AFロックボタン



AFモードがAF-Sのとき

シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。AE/AFロックボタンを押してピントを固定することもできます。

3 フォーカスロックを行ったままで構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影する



- 被写体との距離は変えないでください。フォーカス

ロック後に被写体との距離が変化した場合は、いったんフォーカスロックを解除し、ピントを合わせ直してください。

🔪 シャッターボタンの半押しで露出を固定するには

カスタムメニュー c1 [半押しAEロック] を [する] に設定すると、シャッターボタンの半押しで露出を固定できます (□308)。

🔪 ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきいた後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
- AE/AF ロックボタンを押してフォーカスロックを行った場合は、AE/AF ロックボタンを押したままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

🔪 AF-ONボタンを使ったフォーカスロックについて

- シャッターボタンの代わりにAF-ONボタンを押してピントを合わせることができます (□87)。
- ファインダー撮影時にカスタムメニュー a4 [半押しAFレンズ駆動] (□298) が [しない] に設定されている場合は、AF-ONボタンを押したときだけピント合わせを行い、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。このとき、AF-ONボタンでピントを合わせた後でAF-ONボタンから指を放してもフォーカスロックの状態を維持し、常にシャッターをきることができます (ただし、AFモードがAF-SでAFエリアモードがシングルポイントAFのときにカスタムメニュー a2 [AF-Sモード時の優先] (□297) が [フォーカス] の場合は、ピントが合っていない状態ではシャッターがきれません)。なお、AF-ONボタンを押してピントを合わせた場合、ファインダー内にはピント表示 (●) は点灯しません。フォーカスロックを解除してピントを合わせ直すには、もう一度AF-ONボタンを押してください。

🔪 関連ページ

AE/AFロックボタンを押したときの機能を変更する → 🔪 f6 [AE/AFロックボタンの機能] (□342)

❏ オートフォーカスの苦手な被写体について

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができず、シャッターがきれないことや、ピントが合わなくてもピント表示(●)が点灯し、シャッターがきれることがあります。このような場合は、マニュアルフォーカス(□98)でピントを合わせるか、フォーカスロック(□95)を利用してください。



被写体の明暗差がはっきりしない場合

(白壁や背景と同色の服を着ている人物など)



フォーカスポイント内に遠くのと近くのものがある被写体

(オリの中の動物など)



連続した繰り返しパターンの被写体

(ビルの窓やブラインドなど)



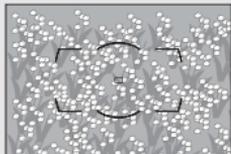
被写体の明暗差が極端に異なる場合

(太陽を背景にした日陰の人物など)



背景に対して被写体が小さい場合

(遠くの建物を背景に近くの人物を撮影する場合など)



絵柄が細かい場合

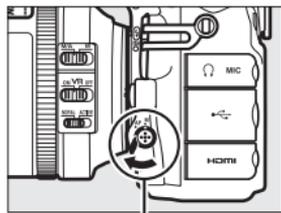
(一面の花畑など)

マニュアルフォーカスで撮影する

使用するレンズの種類によって、ピントを手動（マニュアル）で合わせるときの設定が異なります。各レンズでのマニュアルフォーカスの設定は次の通りです。

- **AFレンズを使用している場合：**

カメラのフォーカスモードセレクターを**M**にしてください。レンズにフォーカスモード切り換えスイッチがある場合は、レンズ側のフォーカスモードも**M**にしてください。AF-Sレンズを使用している場合は、レンズのフォーカスモード切り換えスイッチを**M**にしてください。カメラのフォーカスモードセレクターを切り換える必要はありません。



フォーカスモード
セレクター

- **マニュアルフォーカスレンズを使用する場合：**カメラのフォーカスモードセレクターを**M**にしてください。

ピントは、レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体がはっきり見えるように合わせます。



✓ AF-Sレンズ以外のAFレンズでマニュアルフォーカスをする場合のご注意

AFレンズでマニュアルフォーカスをする場合は、必ずカメラのフォーカスモードセレクターを**M**にしてください。フォーカスモードセレクターが**AF**のままマニュアルフォーカスをすると、カメラやレンズの故障の原因になります。

■ フォーカスエイドによるピント合わせ

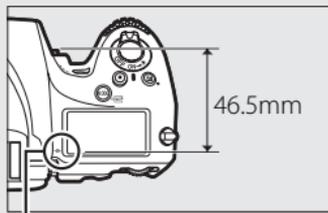
マニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内のピント表示 (●) でピントが合っているかどうかを確認できます。ピントが合っているかどうかの基準となるフォーカスポイントは51カ所から選べます。

- ピントが合うとピント表示 (●) が表示されます (□28)。
- オートフォーカスの苦手な被写体 (□97) では、ピントが合っていないなくてもピント表示 (●) が点灯することがありますので、ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。
- 別売の AF-S/AF-I テレコンバーターを装着した場合のフォーカスエイドが可能なフォーカスポイントについては、「AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のフォーカスポイントについて」(□420) をご覧ください。



④ 距離基準マークについて

距離基準マーク ⊕ は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面 (レンズマウント: □3) から撮像面までの寸法 (フランジバック) は46.5mmです。

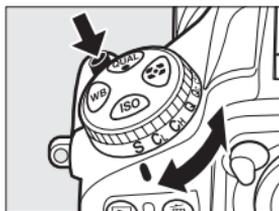


距離基準マーク ⊕

レリーズモード

1コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、レリーズモードを変更する

レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを回すと、シャッターをきる（レリーズする）ときの動作を設定できます。



レリーズモード	内容
S 1コマ撮影	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。
CL 低速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、カスタムメニュー d2 [低速連続撮影速度] (□311) で設定した速度で連続撮影します (□102)。
CH 高速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、□102に記載されている速度で連続撮影します。動きのある被写体などに使用すると便利です。
Q 静音撮影	1コマ撮影時より静かに撮影したい場合に適しています。静音撮影では、シャッターボタンを全押ししている間はミラーダウンしません。シャッターボタンを半押し状態に戻すとミラーダウンするため、ミラーダウン音のタイミングを遅らせることができます。また、ミラーダウンする音も1コマ撮影に比べ静かです。 <ul style="list-style-type: none">• 静音撮影時には、カスタムメニュー d1 [電子音設定] (□310) の設定にかかわらず、電子音も鳴りません。

レリーズモード	内容
Qc 静音連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、連続静音撮影します (□□102)。
 セルフタイマー 撮影	セルフタイマー撮影ができます (□□104)。
Mup ミラーアップ 撮影	カメラ本体のミラーアップを行い、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます (□□106)。超望遠撮影時や接写撮影時に効果的です。

連続撮影速度について

このカメラは、撮像範囲（□74）の設定や電源の種類で連続撮影速度が変わります。次の表は、AFモードが**AF-C**、露出モード**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピードで、その他が初期設定のときの値です。

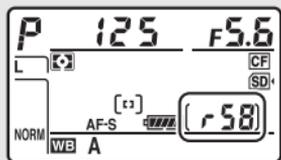
電源	撮像サイズ	C _H	C _L *
本体のみ (EN-EL15)	FX, 5:4	最大約5コマ/秒	約1~6コマ/秒
	1.2×, DX	最大約6コマ/秒	
本体のみ (パワーコネクター EP-5Bと ACアダプター EH-5b)	FX, 5:4	最大約5コマ/秒	
	1.2×	最大約6コマ/秒	
	DX	最大約7コマ/秒	
MB-D12装着時 (EN-EL15)	FX, 5:4	最大約5コマ/秒	
	1.2×, DX	最大約6コマ/秒	
MB-D12装着時 (EN-EL18)	FX, 5:4	最大約5コマ/秒	
	1.2×	最大約6コマ/秒	
	DX	最大約7コマ/秒	
MB-D12装着時 (単3形電池)	FX, 5:4	最大約5コマ/秒	
	1.2×	最大約6コマ/秒	
	DX	最大約7コマ/秒	

※ 撮像範囲が [FX (36×24)1.0×] または [5:4 (30×24)] の場合は、カスタムメニュー d2 [低速連続撮影速度] (□311) で [6コマ/秒] に設定しても、実際の連続撮影速度は約5コマ/秒になります。

- 次の場合など、条件によって連続撮影速度が遅くなることがあります。
 - シャッタースピードが低速の場合
 - 感度自動制御を [する] にして感度が自動制御されているとき (□109)
 - レンズの絞りを著しく絞り込んだ場合
 - VRレンズ使用時にレンズの手ブレ補正スイッチをONにしたとき
 - バッテリーの残量が少なくなるとき
 - マルチパワーバッテリーパックMB-D12で単3形電池を使用している場合に、電池が消耗しているとき、または低温になっているとき
- レリーズモードが**Qc**のときの連続撮影速度は、約3コマ/秒に固定されます。

📌 連続撮影可能コマ数について

- シャッターボタンを半押しすると、連続撮影可能コマ数が表示パネルとファインダー内に表示されます。右図の場合、最低58コマ続けて撮影できることを示しています。
- 連続撮影は最大100コマまでできます。ただし、「r00」と表示されたとき、連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。撮影条件によって増減することがあります。



✔ 連続撮影についてのご注意

- 内蔵フラッシュが上がっているとき (□185) は、連続撮影できません。
- メモリーカードの性能や撮影条件によっては、数十秒から1分間程度メモリーカードアクセスランプが点灯します。メモリーカードアクセスランプの点灯中にカメラからメモリーカードを取り出さないでください。データが消失するだけでなく、カメラとメモリーカードに不具合が生じるおそれがあります。
- メモリーカードアクセスランプ点灯中に電源をOFFにすると、撮影された全ての画像がメモリーカードに記録されてから電源が切れます。
- 連続撮影時にバッテリーの残量がなくなった場合は、撮影は行わず、撮影済みの画像データがメモリーカードに記録されて終了します。

📌 関連ページ

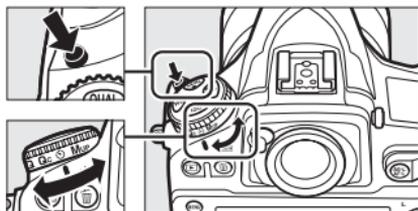
- 連続撮影時に撮影コマ数を制限する → 📌 d3 [連続撮影コマ数] (□311)
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」 (□485)

セルフタイマーを使って撮影する (☺)

セルフタイマーによる撮影は記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたいときなどに便利です。セルフタイマー撮影時は、三脚などを使ってカメラを固定してください。

1 レリーズモードダイヤルを☺（セルフタイマー撮影）に合わせる

- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、☺に合わせます。



レリーズモードダイヤル

2 構図を決め、ピントを合わせる

- AFモードがAF-Sでピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。



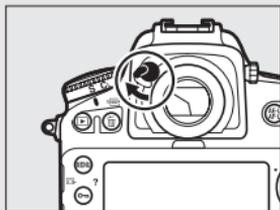
3 セルフタイマー撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが約8秒間点滅後、約2秒間点灯して合計で約10秒後にシャッターがきれます。
- レリーズモードダイヤルを他のモードに切り換えると、セルフタイマーは解除されます。



ファインダーから顔を離して撮影するとき

ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします。



セルフタイマー撮影時のフラッシュについて

- フラッシュを使って撮影したいときは、撮影を開始する前にフラッシュロック解除ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、ファインダー内表示の  (レディーライト) が点灯するまでお待ちください (□185)。セルフタイマーの作動中にフラッシュを上げると、撮影は中止されます。
- 内蔵フラッシュが発光するときは、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] の [撮影コマ数] (□308) を2コマ以上に設定していても、連続撮影はできません。

関連ページ

- セルフタイマーの作動時間、撮影コマ数、撮影間隔を設定する →  c3 [セルフタイマー] (□308)
- セルフタイマー撮影時の電子音を設定する →  d1 [電子音設定] (□310)

ミラーアップ撮影する (MUP)

ミラーアップ撮影すると、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。

- リリースモードダイヤルロックボタンを押しながら、リリースモードダイヤルを**MUP** (ミラーアップ撮影) に合わせます。
- シャッターボタンを半押ししてピントと露出を合わせた後、全押しするとミラーアップします。もう一度シャッターボタンを全押しすると撮影できます。



リリースモード
ダイヤル

✓ ミラーアップ中のご注意

- ファインダーで構図を確認できません。
- オートフォーカスと測光は使えません。

✍ ミラーアップ撮影について

- ブレを防ぐため、シャッターボタンは静かに押ししてください。
- 撮影が終了すると、ミラーダウンします。
- 三脚の使用をおすすめします。
- ミラーアップしたまま約30秒経過すると、自動的にシャッターがきれます。

✍ ミラーアップ撮影時の電子音について

カスタムメニュー d1 [電子音設定] (□310) の [音量] を [電子音なし] 以外に設定しているときは、ミラーアップ後のシャッターボタン全押しの際に電子音が鳴ります。

✍ 関連ページ

電子先幕シャッターを使ってさらにカメラブレを低減する → ✍ d5 [電子先幕シャッター] (□312)

ISO感度

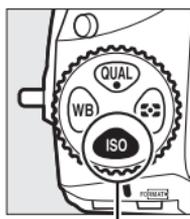
ISO感度を変更する

撮影時の周辺の明るさに応じて、光に対する感度（ISO感度）を変更できます。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。ISO感度はISO 64～12800の間で1/3段ステップで設定できます。また、ISO 64から約0.3段～約1段の範囲での減感と、ISO 12800から約0.3段～約2段の範囲での増感ができます。

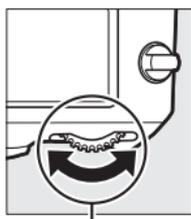
■ ISO感度の設定方法

ISOボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

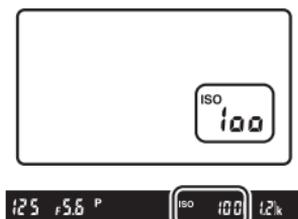
- ISO感度は、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。



ISOボタン



メインコマンド
ダイヤル



【ISO感度】について

ISO感度は撮影メニュー (□280) の **【ISO感度設定】** でも設定できます。また、動画ライブビュー時のISO感度は撮影メニュー **【動画の設定】** の **【動画ISO感度設定】** で設定できます (□64)。

ISO感度を高く設定した場合

ISO感度を高くするほど暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的です。ただし、撮影した画像に多少ノイズ (ざらつき、むら、すじ) が発生する場合があります。

高感度 (Hi 0.3~Hi 2) に設定した場合

ISO感度を **【Hi 0.3】** に設定すると、ISO 12800に対して約0.3段分増感します (ISO 16000相当)。**【Hi 2】** では約2段分の増感になります (ISO 51200相当)。これらのISO感度に設定したときは、ノイズ (ざらつき、むら、すじ) が発生しやすくなります。

低感度 (Lo 0.3~Lo 1) に設定した場合

ISO感度を **【Lo 0.3】** に設定すると、ISO 64に対して約0.3段分減感します (ISO 50相当)。**【Lo 1】** では約1段分の減感になります (ISO 32相当)。明るい場所で絞りを開きたい場合などに使用してください。これらのISO感度で撮影した画像は、やや硬調な仕上がりになりますので、通常の撮影では **【64】** 以上をお使いください。

関連ページ

- ISO感度の設定ステップ幅を変更する →  b1 **【ISO感度設定ステップ幅】** (□305)
- 表示パネルにISO感度を表示したり、コマンドダイヤルを回すだけでISO感度を変更できるようにする →  d8 **【ISO感度表示と簡易設定】** (□314)
- 高感度撮影時のノイズを低減する →  **【高感度ノイズ低減】** (□291)

感度自動制御機能を使う

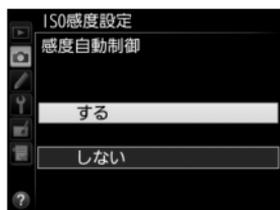
感度自動制御機能は、設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

- 1 撮影メニューの [ISO感度設定] で [感度自動制御] を選んでマルチセクターの  を押す



2 [する] を選ぶ

- [する] を選んで  ボタンを押すと、カメラが自動的にISO感度を変更するようになります。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。
- [しない] を選ぶと、[ISO感度] で設定したISO感度に固定されます。



3 感度の制御方法を設定する

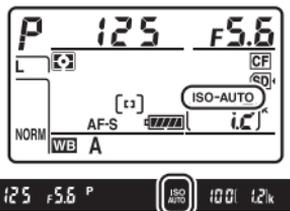
- カメラが感度を自動的に制御する方法を選びます。



制御上限感度	感度自動制御するときISO感度が高くなりすぎないように、上限感度（80～Hi 2）を設定できます。
低速限界設定	露出モード P または A で感度自動制御が働き始めるシャッタースピードを1/4000～30秒から設定できます。また、[オート] に設定すると、レンズの焦点距離に応じてシャッタースピードの低速限界をカメラが自動で設定します（CPUレンズ装着時のみ）。たとえば、望遠レンズ使用時は手ブレが発生しやすくなるため、低速限界が自動的に高速側に設定され、ブレを軽減できます。 <ul style="list-style-type: none">• [オート] を選んで  を押すと、補正値の設定画面が表示されます。低速限界をカメラが自動で設定するとき、より高速側または低速側になるように調整できます。• ISO感度を上欄の [制御上限感度] まで上げてても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

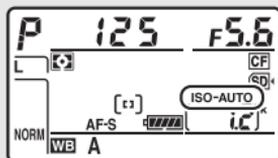
-  ボタンを押して設定します。

[感度自動制御] を [する] にすると、表示パネルとファインダー内表示に、右のように表示されます。ISO-AUTO表示が点灯している場合は、[ISO感度] で設定した感度で撮影されます。感度が自動制御されるとISO-AUTO表示が点滅し、制御されたISO感度がファインダー内表示に表示されます。



☑ 感度自動制御の設定について

ISO ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、[感度自動制御] を**ISO-AUTO** [する] または**ISO** [しない] に設定できます (□109)。



☑ 感度自動制御についてのご注意

- ISO感度が高くなると、撮影した画像に多少ノイズ (ざらつき、むら、すじ) が発生する場合があります。
- [制御上限感度] で設定したISO感度よりも [ISO感度] (□107) で設定したISO感度が高い場合、[ISO感度] で設定したISO感度を制御上限感度として撮影します。
- フラッシュ撮影時のシャッタースピードはカスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] (□319) と e2 [フラッシュ時シャッタースピード制限] (□321) で設定した範囲内に制限されます。[低速限界設定] のシャッタースピードをこの範囲外に設定した場合は、シャッタースピードの下限はe2 [フラッシュ時シャッタースピード制限] で設定したシャッタースピードに制限されます。
- レンズ情報を登録していない非 CPU レンズ使用時は、低速限界設定を [オート] に設定できますが、低速限界が1/30秒に固定されます。
- 内蔵フラッシュ撮影時または別売スピードライト (□425) の装着時にフラッシュモードをスローシンクロに設定していても、背景の明るさがより適正となるように感度自動制御が機能して感度が自動的に上がり、シャッタースピードが低速にならないことがあります。

測光・露出

測光モードを設定する

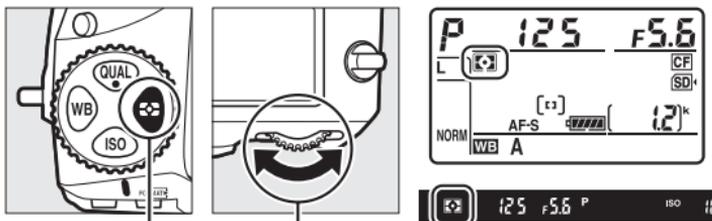
適正な露出を得るためにカメラが被写体の明るさを測る方法（測光モード）を設定します。

 マルチパターン 測光	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
 中央部重点 測光	画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。 <ul style="list-style-type: none">露出倍数のかかるフィルターをお使いになるときは、中央部重点測光をおすすめします。測光範囲はカスタムメニュー b6 [中央部重点測光範囲] (□307) で変更できますが、非CPUレンズ使用時はφ12mm相当になります。
 スポット 測光	フォーカスポイントに重なるφ4mm相当（全画面の約1.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 <ul style="list-style-type: none">測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、AFエリアモード (□89) がオートエリアAFのときや、非CPUレンズ使用時は、中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。
 ハイライト重点 測光	画面のハイライト部分を重点的に測光します。舞台撮影など、ハイライト部分の白とびを軽減して撮影したい場合に適しています。

■■ 測光モードの設定方法

📷 ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回す

- 測光モードは、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。



📷 ボタン
メインコマンド
ダイヤル

🔍 マルチパターン測光とレンズの組み合わせについて

測光モードがマルチパターン測光のときの測光方式は、レンズの種類によって変わります。

• CPUレンズ

- 「3D-RGB マルチパターン測光Ⅲ」：G、EまたはDタイプのCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報を利用して測光します。
- 「RGB マルチパターン測光Ⅲ」：G、EまたはDタイプ以外のCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報は利用しません。

• 非CPUレンズ

- セットアップメニューの [レンズ情報手動設定] (📷222) でレンズ情報を設定すると、「RGB マルチパターン測光」という測光方式になります。レンズ情報を設定しない場合は、中央部重点測光になります。

🔍 ハイライト重点測光とレンズの組み合わせについて

測光モードがハイライト重点測光のときは、一部のCPUレンズ（G、E、Dタイプ以外のAFレンズ、AI-Pニッコールレンズ）または非CPUレンズを使用すると、自動的に中央部重点測光に変更されます。

非CPUレンズ使用時の測光モードについて

[中央部重点測光] または [スポット測光] に設定した場合、セットアップメニューの [レンズ情報手動設定] (□222) で焦点距離と開放絞り値を設定すると、測光の精度が向上します。

関連ページ

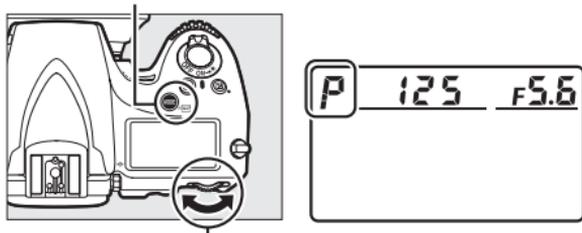
- マルチパターン測光時に顔検出をするかどうかを設定する →  b5 [マルチパターン測光] (□307)
- 中央部重点測光の測光範囲を変更する →  b6 [中央部重点測光範囲] (□307)
- 測光モードごとに適正露出の基準を決める →  b7 [基準露出レベルの調節] (□307)

シャッタースピードや絞り値で露出を設定する（露出モード）

MODE (FORMAT) ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、露出モードを設定できます。

- 表示パネルの露出モードのアイコンが切り替わります。

MODE (FORMAT) ボタン



メインコマンドダイヤル

P プログラムオート (□116)	シャッターチャンスを見逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S シャッター優先オート (□117)	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A 絞り優先オート (□117)	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M マニュアル (□119)	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出（バルブ、タイム）撮影も、このモードで行います。

☑ 使用レンズについてのご注意

- CPUレンズ（G タイプ、Eタイプレンズを除く）の絞りリング（□419）は、必ず最小絞り（一番大きい数値）にセットしてください。
- 露出モードが**P**または**S**のときに非CPUレンズ（□421）を装着すると、露出モードを自動的に**A**に切り換えて制御します。このとき、表示パネルの**P**または**S**が点滅して警告し、ファインダー内表示に**A**が点灯します。

P (プログラムオート)

被写体の明るさに応じて露出が適正になるように、カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変える「プログラムシフト」も行えます。

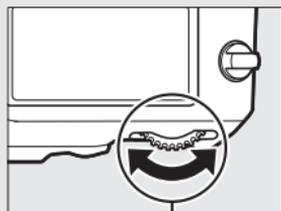
🔪 プログラムシフトについて

露出モードPでは、カメラがシャッタースピードと絞り値を決めますが、半押しタイマーがオンのときに次の方法で「プログラムシフト」を行うと、適正露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。プログラムシフト中は表示パネルにプログラムシフトマーク*が点灯します。

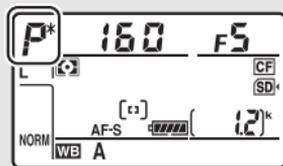
- 背景をぼかしたい（絞り値を小さくする）場合や動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードにする）場合には、メインコマンドダイヤルを右に回してください。
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したい（絞り値を大きくする）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードにする）場合には、メインコマンドダイヤルを左に回してください。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク*が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたり、他の露出モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。

🔪 関連ページ

- 「露出モードP（プログラムオート）のプログラム線図」（□454）
- 「ファインダー撮影時の半押しタイマーについて」（□32）



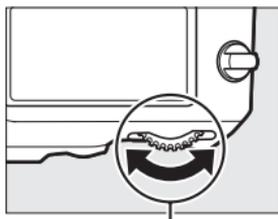
メインコマンド
ダイヤル



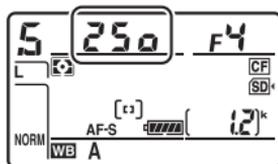
5 (シャッター優先オート)

シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。シャッタースピードは、半押しタイマーがオンのときにメインコマンドダイヤルを回して設定します。

- シャッタースピードは1/8000 (8000) ~ 30秒 (30''), x 250に設定できます。
- 設定したシャッタースピードはロックできません (□124)。



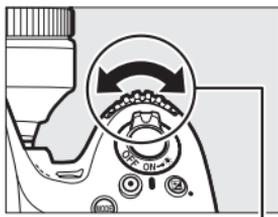
メインコマンドダイヤル



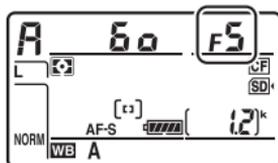
A (絞り優先オート)

絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞り値を設定するには、半押しタイマーがオンのときにサブコマンドダイヤルを回します。

- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。
- 設定した絞り値はロックできます (□125)。



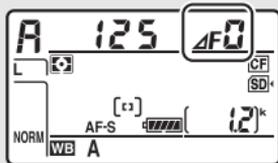
サブコマンドダイヤル



非CPUレンズを取り付けた場合

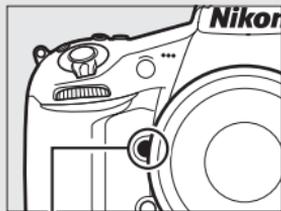
非CPUレンズを装着してセットアップメニューの[レンズ情報手動設定] (□222) でレンズの開放絞り値 (開放F値) を設定した場合は、表示パネルとファインダー内表示に絞り値が表示されます。絞り値の設定は、レンズの絞りリングで行ってください。この場合、絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、表示は1段単位になります。

- 開放絞り値を設定しない場合は、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が開放からの絞り段数表示 (ΔF、開放絞りはΔF0) となりますので、絞り値の設定と確認は、レンズの絞りリングで行ってください。



被写界深度のプレビュー

Pvボタンを押している間、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞り値のおおよその被写界深度(ピントの合う前後の範囲)が確認できます。内蔵フラッシュや別売のニコンクリエイティブライティングシステム (□425) 対応スピードライト使用時は、モデリング発光をします。モデリング発光をしないようにするには、カスタムメニュー e5 [モデリング発光] を [しない] に設定してください (□330)。



Pvボタン

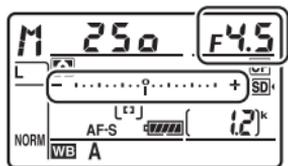
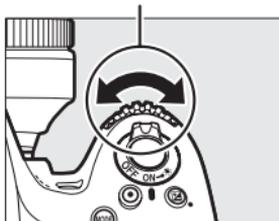
M (マニュアル)

シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ撮影、タイム撮影、□121）で撮影する場合には、この露出モードを使います。半押しタイマーがオンのときに、露出インジケータを確認しながら、コマンドダイヤルを回してシャッタースピードと絞り値を設定します。

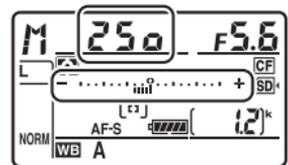
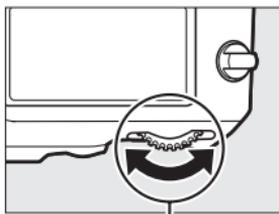
- メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピード表示が変化します。シャッタースピードは、1/8000 (8000) ~ 30秒 (30'') および bulb (バルブ)、- - (タイム)、x 250に設定できます。
- サブコマンドダイヤルを回すと絞り値が変化します。
- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。
- 設定したシャッタースピードと絞り値はロックできます (□124)。

サブコマンドダイヤル

絞り値の設定



シャッタースピードの設定



メインコマンドダイヤル

AFマイクロレンズ装着時の露出倍数について

AFマイクロレンズをカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞り値をサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合だけ、露出倍数を考慮した補正が必要になります。

露出インジケータについて

自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差が、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。この「露出インジケータ」の見方は次の通りです（表示内容はカスタムメニュー b2 [露出設定ステップ幅] (□305) の設定によって変化します）。

	[露出設定ステップ幅] が [1/3段] のとき		
	適正露出の場合	1/3段 アンダーの場合	3 1/3段以上 オーバーの場合
表示パネル			
ファインダー内 表示			

- 長時間露出（バルブ、タイム）撮影時（□121）は、露出インジケータは表示されません。

露出の制御ができないときの警告について

光量がカメラの測光範囲を超えて露出の制御ができない場合や、ライブビューでの露出制御範囲を超えた場合には、露出インジケータが点滅して警告します。

関連ページ

インジケータ表示の+/-方向を変更する →  f12 [インジケータの+/-方向] (□348)

長時間露出で撮影する (露出モードMのみ)

長時間露出撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の2種類があります。花火や夜景、星空の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。



シャッタースピードを35秒、
絞り値をF25にして撮影した場合の画像

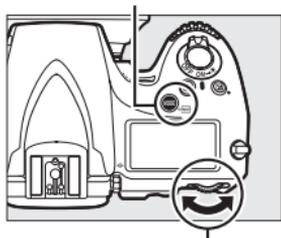
バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。
タイム撮影	シャッターボタンを全押しするとシャッターが開いたままになり、もう一度押しとシャッターが閉じます。

- 長時間露出撮影には、手ブレを抑えるために三脚、別売のワイヤレスリモートコントロール（□439）、リモートコード（□438）などが必要です。

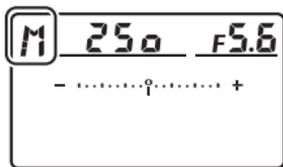
1 三脚などを使ってカメラを固定する

2 MODE (FORMAT) ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルにMを表示させる

MODE (FORMAT) ボタン

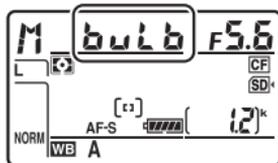


メインコマンドダイヤル

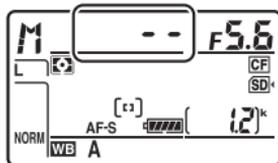


3 半押しタイマーがオンのときにメインコマンドダイヤルを回し、シャッタースピードをbulb (バルブ) または-- (タイム) にする

- シャッタースピードをbulbまたは--に設定すると、露出インジケータは表示されません。



バルブ撮影



タイム撮影

4 ピントを合わせて、長時間露出撮影を開始する

バルブ撮影：

- シャッターボタンを全押しして、長時間露出撮影を開始します。シャッターボタンは押し続けてください。

タイム撮影：

- シャッターボタンを全押しすると、シャッターが開き、長時間露出撮影を開始します。

5 長時間露出撮影を終了する

バルブ撮影：

- シャッターボタンを放すと、長時間露出撮影は終了します。

タイム撮影：

- もう一度シャッターボタンを全押しします。

長時間露出について

- ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします (□105)。
- 露光時間が長くなると、画像にノイズ (ざらつき、むら、輝点) が発生することがあります。このノイズは、あらかじめ撮影メニューの [長秒時ノイズ低減] (□290) を [する] にしておくことで低減できます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、電源としてフル充電したLi-ionリチャージャブルバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いいただくことをおすすめします。

シャッタースピードと絞り値をロックする

露出モード**S**ではシャッタースピードを、**A**では絞り値を、**M**ではシャッタースピードと絞り値のロックを設定できます。

- **P**では設定できません。

■ シャッタースピードと絞り値のロック方法 (コマンドロック)

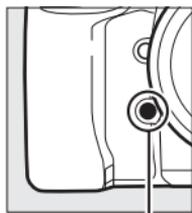
- 1 カスタムメニュー f4 [Fnボタンの機能] (☞336) の [コマンドダイヤル併用時の動作] を [シャッタースピードと絞り値のロック] に設定する (☞340)

- Fnボタンとコマンドダイヤルの組み合わせに対して、シャッタースピードと絞り値のロック機能が割り当てられます。

2 シャッタースピードまたは絞り値をロックする

シャッタースピードのロック：

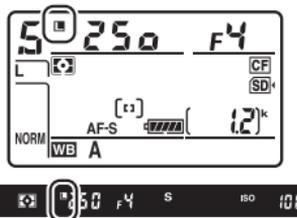
- 露出モード**S**または**M**で、Fnボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルとファインダー内表示に **L** (シャッタースピードロック) マークを表示させます。



Fnボタン



メインコマンド
ダイヤル



- シャッタースピードのロックを解除する場合は、Fnボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、**L**マークを消します。

AEロックして露出を固定する

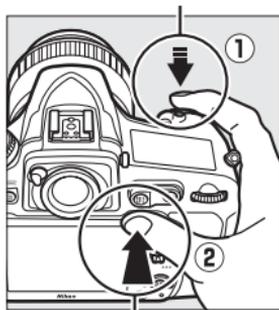
AEロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。

1 測光モードで中央部重点測光またはスポット測光を選ぶ (☐112)

2 露出を合わせたい部分にフォーカスポイントを重ねてシャッターボタンを半押ししたまま、AE/AFロックボタンを押して、露出を固定する

- AE/AFロックボタンを押している間は、測光モードに応じた部分の露出で固定（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません。
- ファインダー内表示に**AE-L**マークが点灯します。
- オートフォーカス撮影時はフォーカスロックも同時に行われますので、ピント表示（●）の点灯も確認してください。

シャッターボタン



AE/AFロックボタン



3 AE/AFロックボタンを 押したまま、構図を決めて 撮影する



測光エリアについて

- スポット測光で、測光エリアとフォーカスポイントが連動する場合 (□112) は、選択中のフォーカスポイントの露出が記憶されます。
- 中央部重点測光に設定した場合は、ファインダー中央部 (φ12mmの円内) を重点的に測光した露出が記憶されます。

AEロック中のカメラ操作について

AE/AFロックボタンを押している間も次の操作ができます。

露出モード	操作
P	プログラムシフト (□116)
S	シャッタースピードの変更
A	絞り値の変更

- 表示パネルやファインダー内表示には、変更後のシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は、測光モードは変更できません。

関連ページ

- シャッターボタンの半押しでAEロックできるようにする → c1 [半押しAEロック] (□308)
- AE/AFロックボタンに別の機能を割り当てる → f6 [AE/AFロックボタンの機能] (□342)

露出補正して画像の明るさを調整する

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることです。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。露出補正を行うときは、測光モードを中央部重点測光またはスポット測光に設定すると効果的です（□112）。



-1段補正



露出補正なし



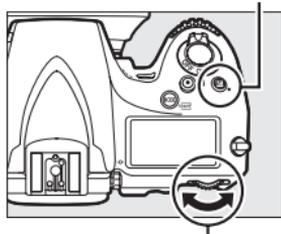
+1段補正

■ 露出補正の設定方法

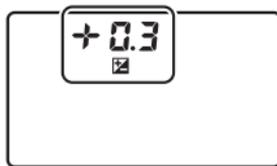
☒ ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- 露出補正值は、表示パネルに表示されます。
- 露出補正は、1/3段ステップで±5段の範囲で設定できます。

☒ ボタン

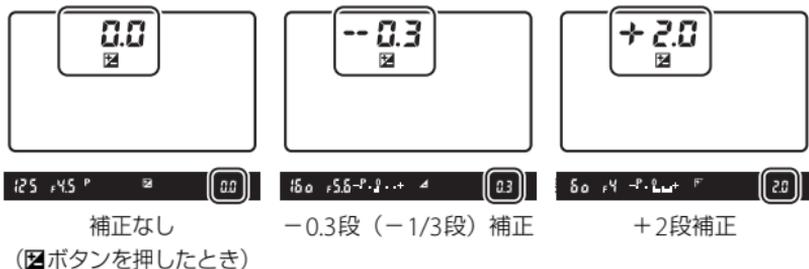


メインコマンド
ダイヤル

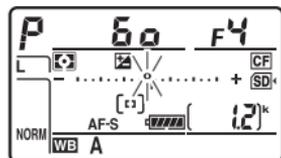


表示パネル

- **☑** ボタンを押すと、表示パネルとファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。



- 補正量を設定すると、表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク **☑** と露出補正インジケーターが表示され、露出モードが **P**、**S**、または **M** の場合は [0] が点滅します。



- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正するのが基本です。
- 露出補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。



🔍 露出モードMでの露出補正について

露出モードがMのときは、インジケーター表示が変わるだけで、設定したシャッタースピードと絞り値は変わりません。

🔍 関連ページ

- 露出補正のステップ幅を変更する → 🔍 b3 [露出・調光補正ステップ幅] (□305)
- **☑** ボタンを使わずに露出補正する → 🔍 b4 [露出補正簡易設定] (□306)
- 露出補正值を変えながら撮影する → 「AE ブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法」 (□130)
- フラッシュ使用時に背景の明るさだけを補正する → 🔍 e4 [フラッシュ使用時の露出補正] (□329)

オートブラケティングで露出や調光、ホワイトバランス、アクティブD-ライティングを変えながら撮影する

明るさ（露出）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさやフラッシュの発光量の調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

■ AEブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法

露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。



補正なし



-1段補正



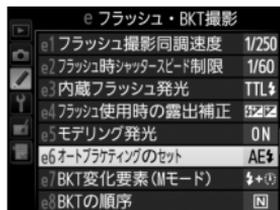
+1段補正

📌 AEブラケティング、フラッシュブラケティングについて

【AE・フラッシュブラケティング】では、AEブラケティングとフラッシュブラケティングを同時に行います。AEブラケティングだけを行いたいときは【AEブラケティング】を、フラッシュブラケティングだけを行いたいときは【フラッシュブラケティング】を選びます。フラッシュブラケティングは、i-TTL調光時および絞り連動外部自動調光時（別売の絞り連動外部自動調光対応スピードライト使用時のみ）に使用できます（□188、427）。

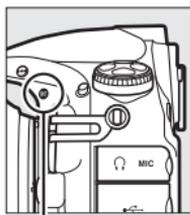
1 カスタムメニュー e6 [オートブラケティングのセット] で [AE・フラッシュブラケティング] を選んで **OK** ボタンを押す

- [AEブラケティング]、[フラッシュブラケティング] を選んだ場合も操作は同じです。



2 撮影コマ数を設定する

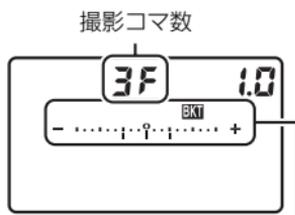
- **BKT** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。



BKT ボタン



メインコマンド
ダイヤル



表示パネル

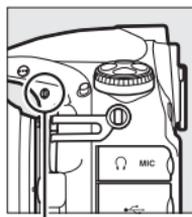
オートブラケティング
インジケーター

- **3F** 以外に設定すると、表示パネルに **BKT** マークとオートブラケティングインジケーターが、ファインダー内表示には **BKT** マークが表示されます。

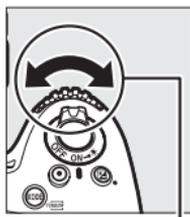


3 補正ステップを設定する

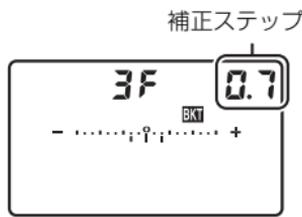
- **BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、補正ステップを設定できます。



BKT ボタン



サブコマンド
ダイヤル



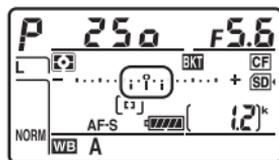
表示パネル

- 補正ステップは、露出設定ステップ幅が「1/3段」の場合、0.3 (1/3段)、0.7 (2/3段)、1.0 (1段)、2.0 (2段)、3.0 (3段) から選ぶことができます。補正ステップを2.0または3.0に設定した場合、撮影コマ数は最大5枚です。手順2で撮影コマ数を7枚または9枚に設定していても、自動的に5枚に変更されます。
- 補正ステップが0.3のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

表示パネル	オートブラケティング インジケーター	撮影 コマ数	撮影順序
0F 0.3	-°..... +	0	0
+3F 0.3	-⦿..... +	3	0/+0.3/+0.7
--3F 0.3	-⦿..... +	3	0/-0.7/-0.3
+2F 0.3	-⦿..... +	2	0/+0.3
--2F 0.3	-⦿..... +	2	0/-0.3
3F 0.3	-⦿..... +	3	0/-0.3/+0.3
5F 0.3	-⦿..... +	5	0/-0.7/-0.3/ +0.3/+0.7
7F 0.3	-⦿..... +	7	0/-1.0/-0.7/-0.3/ +0.3/+0.7/+1.0
9F 0.3	-⦿..... +	9	0/-1.3/-1.0/-0.7/ -0.3/+0.3/+0.7/ +1.0/+1.3

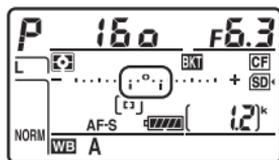
4 撮影する

- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- シャッタースピードと絞り値は補正された値が表示されます。
- 撮影するたびに、コマ数を示す表示がオートブラケティングインジケータ上から消えます。



撮影コマ数：3

補正ステップ：0.7



1コマ撮影した状態

- AEブラケティングと露出補正 (□128) を同時に設定すると、両方の補正値が加算されたAEブラケティング撮影が行えます。

📄 関連ページ

- オートブラケティングの補正ステップ幅を変更する → 📄 b2 [露出設定ステップ幅] (□305)
- オートブラケティングの撮影順を変更する → 📄 e8 [BKTの順序] (□332)
- BKTボタンの機能を変える → 📄 f8 [BKTボタンの機能] (□343)

■ AEブラケットング、フラッシュブラケットング撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、表示パネルの撮影コマ数を **∞F** にしてください (BKT マークが消灯します)。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット (□202) でもブラケットングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

■ AE・フラッシュブラケットング、AEブラケットング、フラッシュブラケットング撮影について

- レリーズモード (□100) を **CL**、**CH** または **Qc** にセットして連続撮影する場合、シャッターボタンを押し続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止し、シャッターボタンを押し直すと次の連続撮影が可能になります。
- セルフタイマー撮影時 (□104) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] (□308) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3 の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、□131 の手順2で設定した撮影コマ数が1コマずつ撮影されます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にメモリーカードの残量がなくなっても、残量のある他のメモリーカードに交換すれば残りを撮影できます。

AEブラケットイング

AEブラケットイングでは、露出モードによって補正される内容(シャッタースピード、絞り値)が異なります。

露出モード	変化する内容
P	シャッタースピードと絞り値※ ¹
S	絞り値※ ¹
A	シャッタースピード※ ¹
M	シャッタースピード※ ²

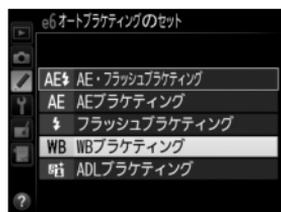
※¹ 撮影メニュー [ISO感度設定] の [感度自動制御] (□□109) が [する] の場合、まずISO感度を変化させ、ISO感度が制御範囲を超えた場合は、シャッタースピードや絞り値を変化させます。

※² カスタムメニュー e7 [BKT変化要素 (Mモード)] により変化する内容をシャッタースピードと絞り値の両方、絞り値のみ、あるいはフラッシュの調光量のみに変更できます (□□331)。

■ WBブラケティングの撮影方法

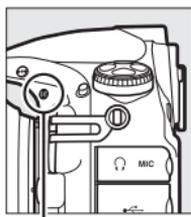
ホワイトバランスの色温度を変えながら撮影します。ホワイトバランスについての説明は、□144をご覧ください。

1 カスタムメニュー e6 [オートブラケティングのセット] で [WBブラケティング] を選ぶ



2 撮影コマ数を設定する

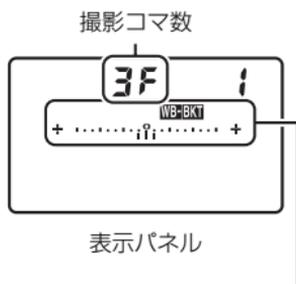
- **BKT** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。



BKT ボタン



メインコマンド
ダイヤル



表示パネル

WBブラケティング
インジケータ

- **0F**以外に設定すると、表示パネルに **WB-BKT** マークとWBブラケティングインジケータが、ファインダー内表示には**BKT**マークが表示されます。

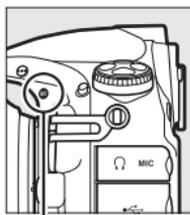


☑ WBブラケティングの制限について

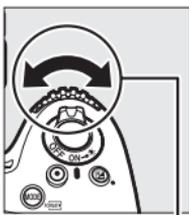
WBブラケティングは、RAWを含む画質モードでは使用できません。

3 補正ステップを設定する

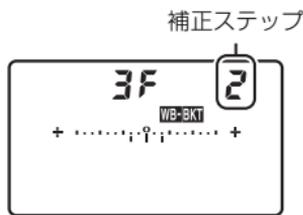
- **BKT** ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと補正ステップを設定できます。



BKT ボタン



サブコマンド
ダイヤル



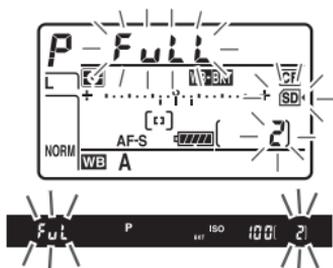
表示パネル

- 補正ステップは、1 (1段)、2 (2段)、3 (3段) から選ぶことができます。
- ホワイトバランス補正ステップの1段は、約5ミレッドに相当します。A方向に数が大きくなるごとにアンバーが強くなります。B方向に数が大きくなるごとにブルーが強くなります (□147)。
- 補正ステップが1のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

表示パネル	WB ブラケットイング インジケータ	撮影 コマ数	補正 ステップ	撮影順序
0F	1 +°..... +	0	1段	0
b3F	1 +:i:..... +	3	B方向1段	0/B1/B2
A3F	1 +:i:..... +	3	A方向1段	0/A2/A1
b2F	1 +:i:..... +	2	B方向1段	0/B1
A2F	1 +:i:..... +	2	A方向1段	0/A1
3F	1 +:i:..... +	3	各方向1段	0/A1/B1
5F	1 +:i:..... +	5	各方向1段	0/A2/A1/B1/ B2
7F	1 +:i:..... +	7	各方向1段	0/A3/A2/A1/ B1/B2/B3
9F	1 +:i:..... +	9	各方向1段	0/A4/A3/A2/ A1/B1/B2/ B3/B4

4 撮影する

- シャッターボタンを1回全押しすると、設定した全てのコマ数の画像が記録されます。
- ホワイトバランスを微調整している場合は、微調整値にWBブラケットिंगの補正ステップが加算されます。
- WBブラケットिंगの撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、表示パネルに**FULL**が、ファインダー内表示に**Ful**が右図のように点滅し、シャッターがきれません（表示パネルの残量の少ないメモリーカードのアイコンも点滅します）。新しいメモリーカードに交換すると撮影できます。



■■ WBブラケティング撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して表示パネルの撮影コマ数を **0F** にしてください (**WB-BKT** マークが消灯します)。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツールボタンリセット (□202) でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

WBブラケティング撮影について

- WB ブラケティングでは、色温度 (A (アンバー) から B (ブルー) への横方向) の補正のみを行います (□147)。G (グリーン) から M (マゼンタ) への縦方向の補正は行いません。
- 撮影中に電源をOFFにした場合、全てのコマの記録が終了してから電源が切れます。
- セルフタイマー撮影時 (□104) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] の [撮影コマ数] (□308) で設定した撮影コマ数にかかわらず、□136の手順2で設定した撮影コマ数が全て記録されます。

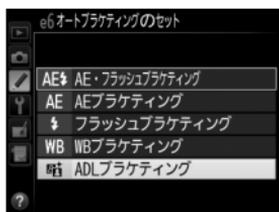
関連ページ

「ミレッド (MIRE) について」 (□148)

■ ADLブラケティングの撮影方法

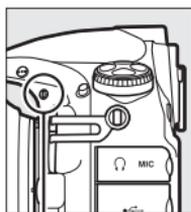
アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影します。アクティブD-ライティングについての説明は、□178をご覧ください。

1 カスタムメニュー e6 [オートブラケティングのセット] で [ADLブラケティング] を選ぶ



2 撮影コマ数を設定する

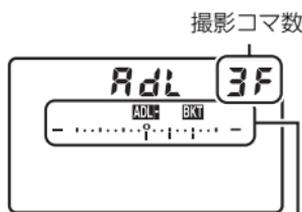
- **BKT** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。



BKT ボタン



メインコマンド
ダイヤル



表示パネル

ADLブラケティング
インジケータ

- **3F**以外に設定すると、表示パネルに**ADL・BKT**マークとADLブラケティングインジケータが、ファインダー内表示には**BKT**マークが表示されます。

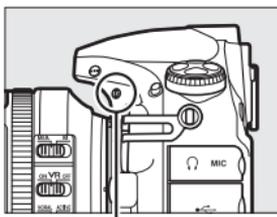
- 設定した撮影コマ数により、ブラケットिंगの内容が次のように異なります。

撮影コマ数	ブラケットिंगの内容
2コマ	[しない] → (手順3で設定するアクティブD-ライティングの度合い) の順に撮影
3コマ	[しない] → [弱め] → [標準] の順に撮影
4コマ	[しない] → [弱め] → [標準] → [強め] の順に撮影
5コマ	[しない] → [弱め] → [標準] → [強め] → [より強め] の順に撮影

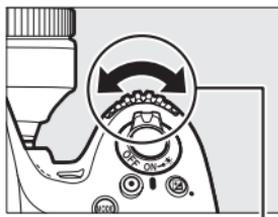
- 撮影コマ数を3コマ以上に設定した場合は、手順4に進んでください。

3 アクティブD-ライティングの度合いを設定する

- **BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いを設定できます。

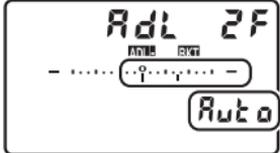
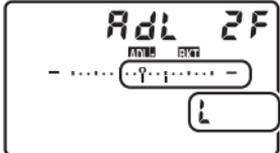
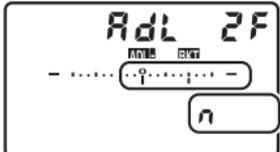
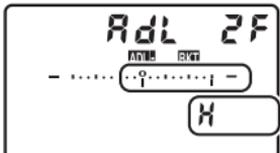
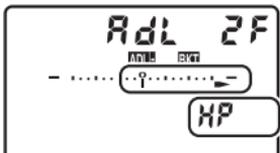


BKTボタン



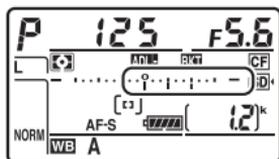
サブコマンドダイヤル

- アクティブD-ライティングの度合いは、表示パネルのADLブラケットインジケータで確認できます。

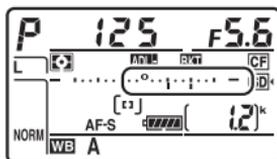
アクティブD-ライティングの度合い	表示パネル
暗A オート	 <p>The display panel shows 'AdL 2F' at the top. Below it is a horizontal bar with a central indicator. At the bottom right, a box contains the text 'Auto'.</p>
暗L 弱め	 <p>The display panel shows 'AdL 2F' at the top. Below it is a horizontal bar with a central indicator. At the bottom right, a box contains the text 'L'.</p>
暗N 標準	 <p>The display panel shows 'AdL 2F' at the top. Below it is a horizontal bar with a central indicator. At the bottom right, a box contains the text 'n'.</p>
暗H 強め	 <p>The display panel shows 'AdL 2F' at the top. Below it is a horizontal bar with a central indicator. At the bottom right, a box contains the text 'H'.</p>
暗H+ より強め	 <p>The display panel shows 'AdL 2F' at the top. Below it is a horizontal bar with a central indicator. At the bottom right, a box contains the text 'HP'.</p>

4 撮影する

- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- 撮影するたびに、コマ数を示す表示がADLブラケットイングインジケータ上から消えます。



撮影コマ数：3



1コマ撮影した状態

■ ADLブラケットング撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、表示パネルの撮影コマ数を **0F** にしてください (ADL・BKT マークが消灯します)。ただし、設定したアクティブD-ライティングの度合いは記憶されます。また、ツーボタンリセット (□202) でもブラケットングを解除できますが、この場合は設定したアクティブD-ライティングの度合いもリセットされます。

📄 ADLブラケットング撮影について

- レリーズモード (□100) を **CL**、**Ch** または **Qc** にセットして連続撮影する場合、シャッターボタンを押し続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと次の連続撮影が可能になります。
- セルフタイマー撮影時 (□104) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] (□308) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3 の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、□140の手順2で設定した撮影コマ数が全て記録されます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にメモリーカードの残量がなくなっても、残量のある他のメモリーカードに交換すれば残りを撮影できます。

ホワイトバランス

ホワイトバランスを変更する

光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。初期設定の**AUTO**（オート）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

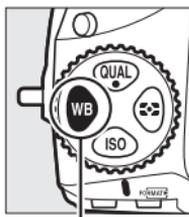
ホワイトバランス	設定される色温度	ホワイトバランス	設定される色温度
AUTO オート		 晴天	約5200K*
AUTO1 標準	約3500～8000K*	 フラッシュ	約5400K*
AUTO2 電球色を残す		 曇天	約6000K*
 電球	約3000K*	 晴天日陰	約8000K*
 蛍光灯	—	 色温度設定 ( 150)	約2500～10000K
ナトリウム灯	約2700K*	PRE プリセット マニュアル ( 153)	—
混合光	約2700K*		
電球色蛍光灯	約3000K*		
温白色蛍光灯	約3700K*		
白色蛍光灯	約4200K*		
昼白色蛍光灯	約5000K*		
昼光色蛍光灯	約6500K*		
高色温度の 水銀灯	約7200K*		

* 微調整が0の場合の値です。

■ ホワイトバランスの設定方法

WBボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

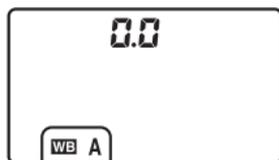
- ホワイトバランスは、表示パネルに表示されます。



WBボタン



メインコマンド
ダイヤル



表示パネル

🔍 [ホワイトバランス] について

ホワイトバランスは撮影メニュー（□280）でも設定できます。

🔍 AUTO（オート）について

AUTO（オート）の場合は、撮影メニューで「AUTO1標準」と「AUTO2電球色を残す」から選べます。「AUTO2電球色を残す」を選ぶと、電球色の光源下で撮影した際に暖かみのある画像の仕上がりになります。

🔍 蛍（蛍光灯）について

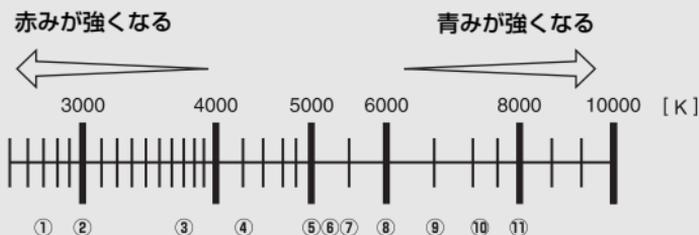
蛍（蛍光灯）の場合は、撮影メニュー（□280）で選んだ種類の蛍光灯になります。

✓ スタジオ用大型ストロボを使用する場合

スタジオ用大型ストロボを使用する場合は、AUTO（オート）に設定していても適正なホワイトバランスが得られない場合があります。その場合は、⚡（フラッシュ）モードにして微調整を行うか、プリセットマニュアルをお使いください。

色温度について

光の色には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤みを帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青みを帯びた光色になります。



① ㊦ ナトリウム灯混合光 (約2700K)	⑥ ㊧ 晴天 (約5200K)
② ㊦ 電球 (約3000K) ㊦ 電球色蛍光灯 (約3000K)	⑦ ㊦ フラッシュ (約5400K)
③ ㊦ 温白色蛍光灯 (約3700K)	⑧ ㊦ 曇天 (約6000K)
④ ㊦ 白色蛍光灯 (約4200K)	⑨ ㊦ 昼光色蛍光灯 (約6500K)
⑤ ㊦ 昼白色蛍光灯 (約5000K)	⑩ ㊦ 高色温度の水銀灯 (約7200K)
	⑪ ㊦ 晴天日陰 (約8000K)

関連ページ

- ホワイトバランスを変えながら撮影する
- ㊦ e6 [オートブラケティングのセット] (□330)
- 「WBブラケティングの撮影方法」 (□136)

ホワイトバランスを微調整する

ホワイトバランスは、さらに微調整できます（〔色温度設定〕以外）。

■ 撮影メニューの〔ホワイトバランス〕で設定する場合

- 1 設定したいホワイトバランスを選んでマルチセレクターの \odot を押す

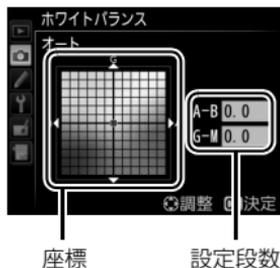


- 2 調整したい項目を選び、微調整画面が表示されるまで \odot を押す

- [プリセットマニュアル] での微調整画面の表示方法については、「プリセットマニュアルデータの微調整について」(□164) をご覧ください。

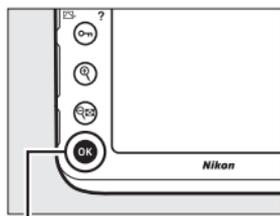
- 3 微調整値を設定する

- マルチセレクターを操作すると、座標上のA（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向で、設定段数を各方向6段まで微調整できます。
- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを0.5段単位で微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整を0.25段単位で行えます。1段は濃度約0.05に相当します。



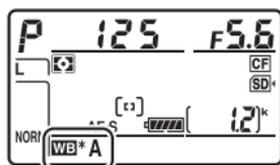
4 微調整値を決定する

- **OK** ボタンを押して微調整値を決定すると、撮影メニューに戻ります。



OK ボタン

- ホワイトバランスを微調整すると、表示パネルにアスタリスク (*) が表示されます。



📌 ホワイトバランスの微調整画面について

ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを☀（電球）に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

📌 ミレッド (MIREDD) について

色温度の逆数を百万 (10⁶) 倍したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも6000ケルビン付近での変化は比較的小さく、3000ケルビン付近では1000ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度変換フィルター単位としても利用されます。

例) 色温度の差 (K:ケルビン) : ミレッドの差 (M:ミレッド)
4000K - 3000K = 1000 K : 83 M
7000K - 6000K = 1000 K : 24 M

■ ホワイトバランスボタンとサブコマンドダイヤル で設定する場合（アンバーおよびブルー方向のみ）

WBボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- ホワイトバランスの微調整値は、表示パネルに表示されます。



- **WB** ボタンとサブコマンドダイヤルで微調整する場合は、A（アンバー）からB（ブルー）への横軸の方向のみ設定できます（□147）。
- サブコマンドダイヤルを左に回すとA（アンバー）方向に、右に回すとB（ブルー）方向に色温度の高さを0.5段単位で微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- 微調整値を0以外に設定すると、表示パネルにアスタリスク（*）が表示されます。
- **WB** ボタンの操作では、**PRE**（プリセットマニュアル）のホワイトバランスは微調整できません。撮影メニューで微調整してください（□147）。

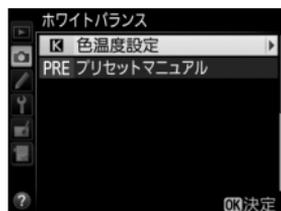
色温度設定で色温度を指定する

ホワイトバランスを**K**（色温度設定）にしたときは、ホワイトバランスの色温度を直接数値で指定できます。

■ 撮影メニューの【ホワイトバランス】で設定する場合

A（アンバー）、B（ブルー）方向とG（グリーン）、M（マゼンタ）方向の両方の色温度（□147）を設定できます。

- 1 撮影メニューの【ホワイトバランス】で【色温度設定】を選んでマルチセレクターの \odot を押す



- 2 A（アンバー）、B（ブルー）方向の色温度を設定する

- \odot または \odot を押して色温度を1桁ずつ選び、 \odot または \odot を押して数値を設定します。



A（アンバー）、B（ブルー）方向の色温度

- 3 G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度を設定する

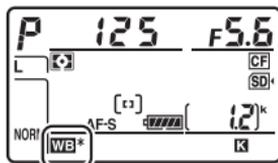
- \odot または \odot を押して、G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度にカーソルを移動し、 \odot または \odot を押して数値を設定します。



G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度

4 色温度を決定する

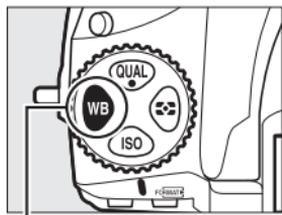
- OK ボタンを押して色温度を決定すると、撮影メニューに戻ります。
- G (グリーン)、M (マゼンタ) 方向の色温度を0以外に設定すると、表示パネルにアスタリスク (*) が表示されます。



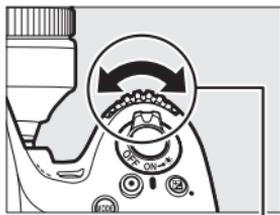
■ ボタン操作で色温度を設定する場合（アンバー およびブルー方向のみ）

ホワイトバランスが **K**（色温度設定）のときに **WB** ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す、またはマルチセレクターの  を押す

- **WB** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、色温度が切り替わります（ミレッド単位、148）。
- **WB** ボタンを押しながらマルチセレクターの  または  を押すと、色温度を1桁ずつ選べます。 または  を押すと選んだ桁の数値を設定できます。



WBボタン



サブコマンドダイヤル



- A（アンバー）、B（ブルー）方向の色温度のみ設定できます。
- 色温度は表示パネルに表示されます。



表示パネル

✓ 色温度設定についてのご注意

- 光源が蛍光灯やフラッシュのときは、色温度設定を使わず、それぞれ （蛍光灯）、（フラッシュ）に設定してください。
- ホワイトバランスの色温度を指定したときは、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。

プリセットマニュアルで基準となる白を設定する

プリセットマニュアルでは、撮影する照明下で取得したホワイトバランスデータまたは撮影済みの画像のプリセットマニュアルデータをカメラに保存し、ホワイトバランスを設定します。カクテル照明や特殊照明下で、前記の**AUTO**（オート）や**☀**（電球）などの各設定や、色温度設定では望ましいホワイトバランスが得られない場合に便利です。

最大6種類のプリセットマニュアルデータ（d-1～d-6）をカメラに保存できます。プリセットマニュアルデータを保存するには、次の方法があります。

プリセットマニュアルデータをカメラで新規取得して保存する	撮影する照明下で白またはグレーの被写体を基準にして撮影を行い、撮影データから取得して保存します（□154）。静止画ライブビュー（□33）または動画ライブビュー（□48）撮影時には、液晶モニターに表示中の被写体の一部分を選んでプリセットマニュアルデータを取得できます（スポットホワイトバランス、□158）。
撮影済みの画像のホワイトバランスデータをコピーして保存する	メモリーカードにある画像のホワイトバランスデータをコピーして保存します（□162）。

すでに設定されているプリセットマニュアルデータの変更について

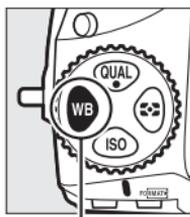
使用するプリセットマニュアルデータの保存場所は、撮影メニュー（「A」～「D」）（□281）ごとに設定できます。ただし、各保存場所にあるプリセットマニュアルデータ（d-1～d-6）の内容は、全ての撮影メニューで共用しています。したがって他の撮影メニューで使用されているプリセットマニュアルデータの内容を変更すると、その撮影メニューのホワイトバランスも変更されることになります。

ファインダー撮影時にプリセットマニュアルデータを新規取得する

プリセットマニュアルデータを取得する前に：

- プリセットマニュアルデータを取得する場合は、あらかじめホワイトバランスをセットする照明下で、無彩色（白またはグレー）の被写体を用意しておいてください。スタジオ用大型ストロボにてホワイトバランスをセットする場合は、被写体をグレー（ホワイトバランス取得用の18%標準反射板）にすることをおすすめします。
- 無彩色（白またはグレー）の被写体を基準にプリセットマニュアルデータを取得するときは、カメラが露出を通常よりも1段オーバーになるように自動的に調整します。露出モードがMの場合は、露出インジケータを確認して、適正露出になるように設定してください（□120）。

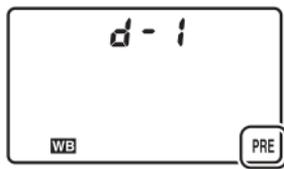
1 WBボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、表示パネルのホワイトバランス表示をPREに合わせる



WBボタン



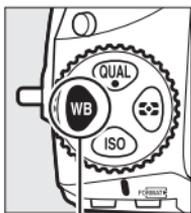
メインコマンド
ダイヤル



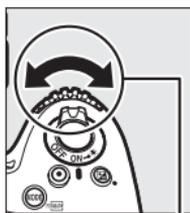
表示パネル

2 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

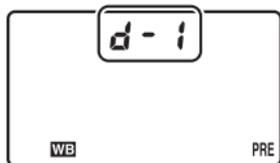
- **WB** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-6の中から選びます。



WBボタン



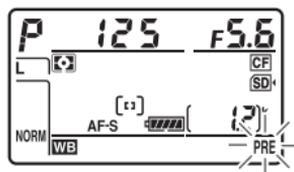
サブコマンド
ダイヤル



表示パネル

3 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん**WB**ボタンから指を放し、再度**WB**ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、表示パネルに**PRE**が、ファインダー内表示に**PcE**が、それぞれ約6秒間点滅します。



表示パネル



ファインダー内表示

4 PRE (PRE) の点滅中に白またはグレーの被写体を撮影する

- 撮影時に使う照明の下で、用意した無彩色（白またはグレー）の被写体をファインダーいっぱいにとらえてシャッターボタンを全押しすると、プリセットマニュアルデータが取得され、手順2で選んだ保存場所に保存されます。
- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットマニュアルデータが正常に取得されます。
- シャッターボタンを押しても、メモリーカードに画像は記録されません。



5 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

- プリセットマニュアルデータが取得されると、表示パネルに Good が、ファインダー内表示に Gd が、それぞれ約6秒間点滅し、プリセットマニュアル取得モードを終了します。

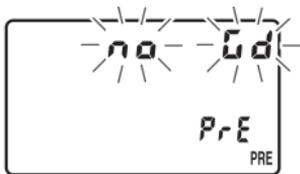


表示パネル



ファインダー内表示

- 被写体が極端に低輝度または高輝度の場合、カメラがプリセットマニュアルデータを取得できないことがあります。この場合、表示パネルとファインダー内表示に no Gd が、それぞれ約6秒間点滅します。このとき、シャッターボタンを半押しするとプリセットマニュアル取得モード（手順4）に戻ります。



表示パネル



ファインダー内表示

✔ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について（ファインダー撮影時）

プリセットマニュアル取得モードは、何も操作しないままカスタムメニュー c2 [半押しタイマー]（□308）で設定した時間が過ぎると解除されます。

✔ プリセットマニュアルデータ取得時の制限について（ファインダー撮影時）

次の場合は、プリセットマニュアルデータを取得できません：

- HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影時（□180）
- 多重露出撮影時（□205）
- ライブビューセクターが \blacktriangle の場合にカスタムメニュー g4 [シャッターボタンの機能] が [動画撮影] のとき（□358）

✍ ホワイトバランスのプロテクト設定について

プロテクト設定（□164）されたプリセットマニュアルデータが選ばれている場合、プリセットマニュアルデータは新規取得できません（表示パネルとファインダー内表示で P と t が点滅します）。

✍ プリセットマニュアルデータについて

- ご購入時のプリセットマニュアルデータ d-1～d-6は、晴天モードと同じ色温度5200Kに設定されています。
- 撮影メニューから [ホワイトバランス] の [プリセットマニュアル] を選ぶと、取得したプリセットマニュアルデータが右のように表示されます。マルチセクターでプリセットマニュアルデータを選んで \odot ボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルを使って撮影できます。

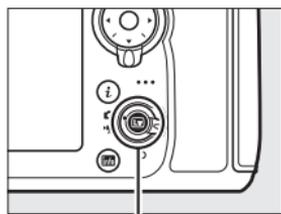


ライブビュー撮影時にスポットホワイトバランスでプリセットマニュアルデータを取得する

静止画ライブビュー (□33) または動画ライブビュー撮影時 (□48) には、液晶モニターに表示されている被写体の一部分を選んでプリセットマニュアルデータを取得できます (スポットホワイトバランス)。被写体の一部に白、またはグレーの部分がなければ、あらかじめプリセットマニュアル取得用の被写体を用意する必要はなく、望遠レンズ装着時にも、レンズを交換せずにそのままプリセットマニュアルデータを取得できます。

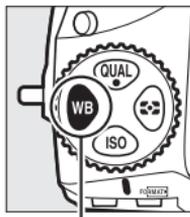
1 **Lv** ボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、液晶モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

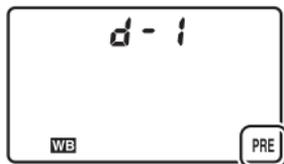
2 **WB** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、表示パネルのホワイトバランス表示をPREに合わせる



WB ボタン



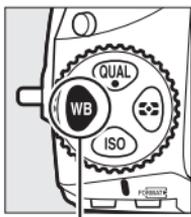
メインコマンド
ダイヤル



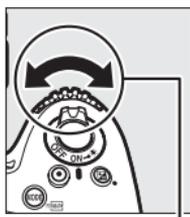
表示パネル

3 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

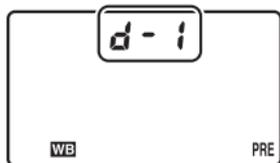
- **WB** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-6の中から選びます。



WB ボタン



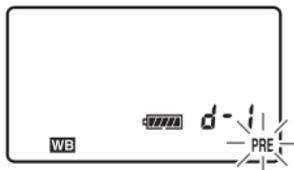
サブコマンド
ダイヤル



表示パネル

4 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん**WB** ボタンから指を放し、再度**WB** ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、表示パネルに**PRE**が点滅します。



表示パネル

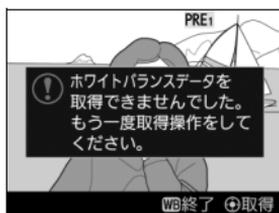
5 PREの点滅中にマルチセクターを操作して、□を被写体の白またはグレーの部分に重ねる

- **Q** ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、□で選んだ部分を細部まで確認できます。



6 マルチセレクターの中央ボタンを押すか、シャッターボタンを全押しして、プリセットマニュアルデータを取得する

- プリセットマニュアルデータが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、手順5の状態に戻ります。□の位置を変えるなどして、再度プリセットマニュアルデータを取得してください。



7 WBボタンを押してプリセットマニュアル取得モードを終了する

- 撮影メニューから「ホワイトバランス」の「プリセットマニュアル」を選ぶと、ライブビュー撮影時に取得したプリセットマニュアルデータには、ホワイトバランスを取得した範囲に枠が表示されます。



☑ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について（ライブビュー撮影時）

ライブビュー撮影時のプリセットマニュアル取得モードの時間制限は、カスタムメニューc4【モニターのパワーオフ時間】の【ライブビュー表示】で設定した時間になります（□309）。

✔ プリセットマニュアルデータ取得時の制限について（ライブビュー撮影時）

次の場合は、プリセットマニュアルデータを取得できません：

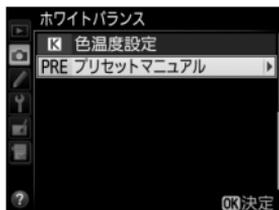
- HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影時（□180）
- 【静止画Lv画面のホワイトバランス】（□42）が【撮影時と同じ】以外に設定されている場合
- ライブビューセクターが●**果**の場合にカスタムメニューg4【シャッターボタンの機能】が【動画撮影】のとき（□358）

プリセットマニュアルデータを管理する

■ 撮影済み画像のホワイトバランスデータをコピーする

選んだプリセットマニュアルデータの保存場所に、メモリーカード内の画像で使用されたホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとしてコピーできます。

- 1 撮影メニューの [ホワイトバランス] で [プリセットマニュアル] を選んでマルチセレクターの  を押す



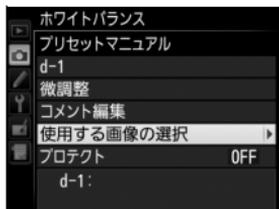
- 2 コピー先を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して d-1～d-6の中からコピー先を選びます。
- マルチセレクターの中央ボタンを押すと設定画面が表示されます。



- 3 [使用する画像の選択] を選ぶ

- [使用する画像の選択] を選んで  を押すと、メモリーカード内の画像が一覧表示されます。



- 4 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。

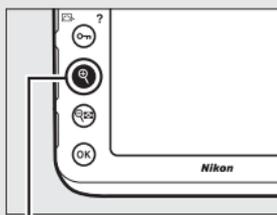


5 ホワイトバランスデータをコピーする

- **Q** ボタンを押すとメモリーカード内の画像のホワイトバランスデータがコピーされます。
- 選んだ画像に画像コメント (□371) がある場合、画像コメントもコピーされます。

ホワイトバランスデータをコピーしたい画像について

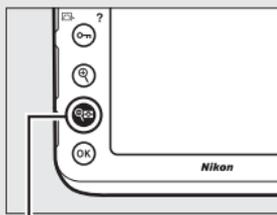
- 選んだ画像は、**Q** ボタンを押している間、拡大して確認できます。



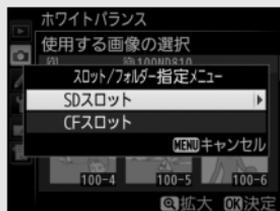
Q ボタン



- **Q**  ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定メニュー] 画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます (□228)。

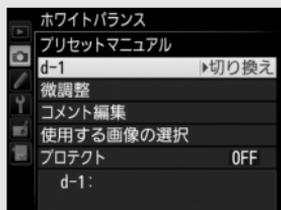


Q  ボタン



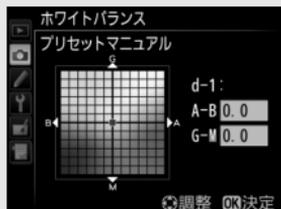
設定画面でのプリセットマニュアルデータの切り換えについて

設定画面で、マルチセクターの  を押してプリセットマニュアルデータ (d-1~d-6) を選び、 を押すと、プリセットマニュアルデータが切り替わります。



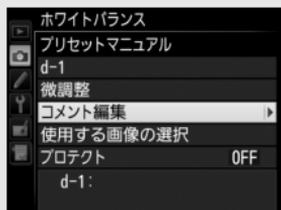
プリセットマニュアルデータの微調整について

設定画面で **【微調整】** を選ぶと、微調整画面が表示され、選択中のプリセットマニュアルデータを微調整できます (□147)。



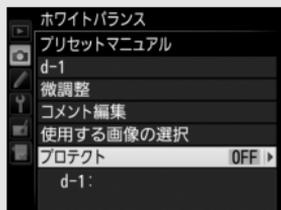
プリセットマニュアルデータにコメントを入力する

設定画面で **【コメント編集】** を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにコメント (最大36文字) を入力できます。コメントの入力方法は、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください (□173)。



プリセットマニュアルデータを保護する (プロテクト)

設定画面で **【プロテクト】** を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにプロテクト (保護) を設定できます。プロテクトの設定画面で **【する】** を選んで  ボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルデータがプロテクト設定されます。プロテクト設定されたプリセットマニュアルデータは微調整やコメント編集ができなくなります。



画像処理

ピクチャーコントロールを使って画像の仕上がりを簡単に設定したり、思い通りに調整する

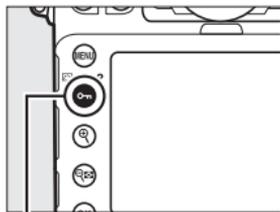
ピクチャーコントロールを選ぶ

被写体や撮影シーンに合わせて、次のピクチャーコントロールから選びます。

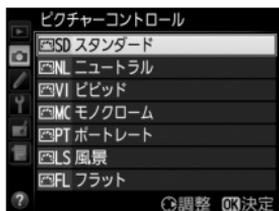
 SD スタンダード	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• ほとんどの撮影状況に適しています。
 NL ニュートラル	被写体の豊かな階調や色合いを自然に再現した画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• 撮影した画像を調整、加工する場合に適しています。
 VI ビビッド	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• 青、赤、緑など、原色を強調したいときに適しています。
 MC モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
 PT ポートレート	人物の肌が滑らかで自然な画像になります。
 LS 風景	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。
 FL フラット	シャドウ部からハイライト部まで幅広く情報を保持した画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• 撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。

1 (?) ボタンを押す

- ピクチャーコントロールの一覧画面が表示されます。

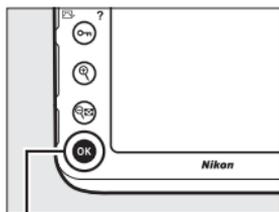


 (?) ボタン



2 設定したいピクチャーコントロールを選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



 ボタン



[カスタムピクチャーコントロール] について

撮影メニューで [カスタムピクチャーコントロール] を選ぶと、調整したピクチャーコントロールに名前を付けて登録したり (□171)、メモリーカードを使って、同じ機種のカメラやピクチャーコントロールに対応するソフトウェアと共用する (□176) ことができます。

📌 【ピクチャーコントロール】 について

ピクチャーコントロールは撮影メニュー（☐280）でも設定できます。

📌 撮影中のピクチャーコントロールの確認 について

使用しているピクチャーコントロールは、**info** ボタンを押すと表示されるインフォ画面で確認できます。



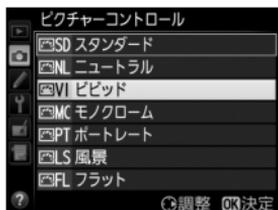
ピクチャーコントロール
マーク

ピクチャーコントロールを調整する

ピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロール (□171) の設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。自動的にバランスよく調整できる「クイック調整」と各項目を手動で細かく調整する「手動調整」があります。

1 調整したいピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールの一覧画面 (□166) で、マルチセクターの (◀▶) を押します。



2 ピクチャーコントロールを調整する

- (◀▶) または (↺↻) で調整する項目 (□169) を選びます。(◀▶) または (↺↻) を押すと1ステップ刻みで、サブコマンドダイヤルを回すと0.25ステップ刻みで値を設定します。
- [クイック調整] を選んで (◀▶) または (↺↻) を押すと、各項目のレベルを自動的に調整します。
- (FORMAT) ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

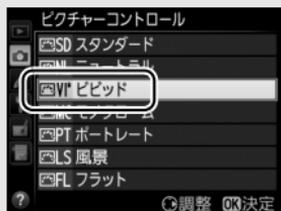


3 設定する

- (OK) ボタンを押して設定します。

ピクチャーコントロールを調整した場合の表示について

ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンの横にアスタリスク (*) が表示されます。



■ レベル調整の設定項目

クイック調整※1		輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。
手動調整	輪郭強調	輪郭の強弱を調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	明瞭度	画像の明瞭度を調整します。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します※2。明瞭度の設定は、動画には反映されません。
	コントラスト	画像のコントラストを調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	明るさ	白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。
	色の濃さ（彩度）※3	画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	色合い（色相）※3	画像の色合いを調整できます。
	フィルター効果※4	白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます（□170）。
調色※4	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます（□170）。	

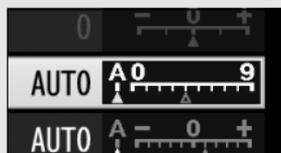
- ※1 [ニュートラル]、[モノクローム] または [フラット] はクイック調整できません。カスタムピクチャーコントロール（□171）の場合も、クイック調整できません。手動調整した後にクイック調整を行うと、手動調整で設定した値は無効になります。
- ※2 設定する強度や撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影が出たり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。
- ※3 [モノクローム] を元にしたカスタムピクチャーコントロールや [モノクローム] のときは、表示されません。
- ※4 [モノクローム] を元にしたカスタムピクチャーコントロールや [モノクローム] のときのみ表示されます。

[輪郭強調]、[明瞭度]、[コントラスト]、[色の濃さ（彩度）] の [A]（オート）についてのご注意

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がりが異なります。
- 十分な効果を得るには、Gタイプ、EタイプまたはDタイプのレンズをお使いになることをおすすめします。

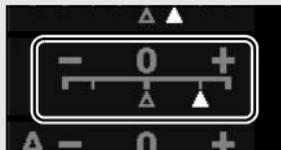
ピクチャーコントロールのレベル調整について

[輪郭強調]、[明瞭度]、[コントラスト]、[色の濃さ(彩度)]の場合、 ボタンを押すと、手動調整と[A] (オート) を切り換えられます。



ピクチャーコントロール調整時の△マークについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示される△マークは、調整する前の値を示しています。前回調整した値を参考にして調整するとき便利です。



【モノクローム】の【フィルター効果】について

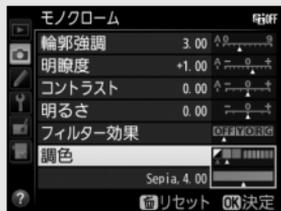
【フィルター効果】には、次のような効果があります。

Y (黄*)	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。[Y] → [O] → [R] の順にコントラストが強くなります。
O (オレンジ*)	
R (赤*)	
G (緑*)	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※ 市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。【フィルター効果】で得られる効果は、市販の白黒写真用カラーフィルターよりも強くなります。

【モノクローム】の【調色】について

【調色】の項目 ([B&W] 以外) を選んでマルチセレクターの を押すと、さらに色の濃淡を7ステップから選べます。 または を押すか (1ステップ刻み)、サブコマンドダイヤルを回して (0.25ステップ刻み) 選んでください。

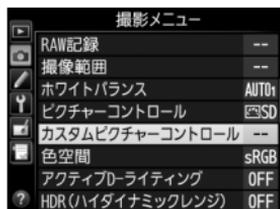


カスタムピクチャーコントロールを登録する

カメラに搭載された「ピクチャーコントロール」は、好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

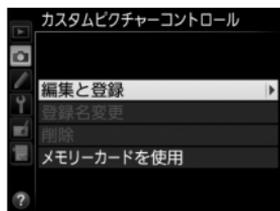
■ カスタムピクチャーコントロールの登録方法

- 1 撮影メニューの【カスタムピクチャーコントロール】を選んでマルチセクターの  を押す



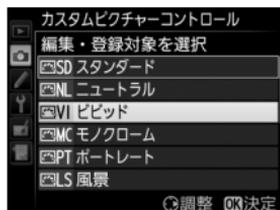
- 2 【編集と登録】を選ぶ

- 【編集と登録】を選んで  を押すと、【編集・登録対象を選択】画面が表示されます。



- 3 元にするピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールを選んで  を押すと、編集画面が表示されます。
- 編集を行わない場合は  ボタンを押します。【登録先の選択】画面が表示されます (手順5へ)。



4 ピクチャーコントロールを調整する

- 項目の内容や調整方法は [ピクチャーコントロール] と同じです。
- **OK** ボタンを押すと [登録先の選択] 画面が表示されます。
- **FORMAT** ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。



5 登録先を選ぶ

- C-1~9 (カスタム1~9) の中から登録先を選びます。



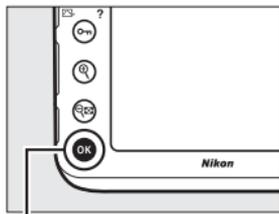
6 登録名を編集する

- 登録先を選んで \odot を押すと、[登録名変更]画面が表示されます。
- 初期状態では、「(元になったピクチャーコントロール名) -XX」が名前エリアに入力されています。XXには自動的に数値が設定されます。
- 登録名は19文字まで入力できます。文字はカーソル位置に挿入されます。
- 登録名を変更しない場合は、手順7へ進みます。
- 名前エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、**中央**ボタンを押します。
- 名前エリアのカーソルを左右に移動する場合は、 \leftarrow ボタンを押しながら \odot または \odot を押します。
- 名前エリアからあふれた文字は削除されます。
- 登録名を1文字削除するには、 \leftarrow ボタンを押しながら \odot または \odot を押して削除する文字の上にカーソルを移動させ、 FORMAT ボタンを押します。



7 登録名の編集を終了する

- **OK** ボタンを押します。



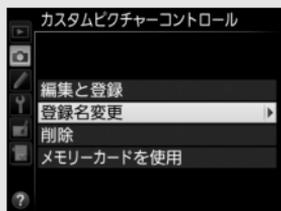
OK ボタン

- 登録したカスタムピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面に表示されます。



登録名変更について

[カスタムピクチャーコントロール] で [登録名変更] を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールの名前を変更できます。



登録したカスタムピクチャーコントロールを削除するには

[カスタムピクチャーコントロール] で [削除] を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールを削除できます。

元になったピクチャーコントロールの表示について

カスタムピクチャーコントロールの調整画面では、元になったピクチャーコントロールがアイコンで表示されます。

元になった
ピクチャーコントロール



カスタム1～9で調整できる項目について

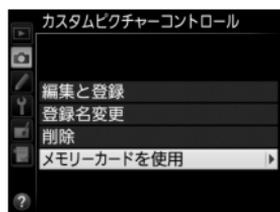
カスタム1～9を選んだ場合は、元になったピクチャーコントロールと同じ項目が調整できます。

メモリーカードを使ってピクチャーコントロールを対応ソフトウェアと共有する

Picture Control Utility 2を使用すると、作成したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードからカメラに読み込んで登録したり、カメラで作成したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピーすることができます。また、メモリーカード上の不要なカスタムピクチャーコントロールを削除することもできます。Picture Control Utility 2は、Capture NX-D (□250) や付属のViewNX 2から起動できます。

1 [カスタムピクチャーコントロール] 画面で [メモリーカードを使用] を選ぶ

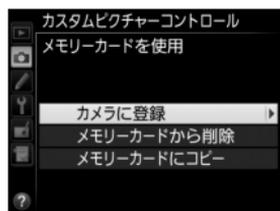
- [メモリーカードを使用] を選んでマルチセクターの  を押し、[メモリーカードを使用] 画面が表示されます。



2 [カメラに登録]、[メモリーカードから削除] または [メモリーカードにコピー] を選ぶ

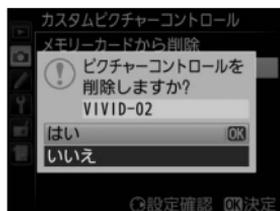
[カメラに登録] :

- メモリーカードにあるカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録できます。カメラに登録したいカスタムピクチャーコントロールと登録先 (C-1~9 (カスタム1~9)) を選んで名前を付けると、選んだカスタムピクチャーコントロールがカメラに登録されます。



[メモリーカードから削除]：

- メモリーカードにあるカスタムピクチャーコントロールを選んで削除できます。右のような確認画面が表示されるので、[はい] を選んで \odot ボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールを削除できます。



[メモリーカードにコピー]：

- カメラにあるカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピーできます。メモリーカードにコピーしたいカスタムピクチャーコントロールとコピー先 (1 ~ 99) を選んで \odot ボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールがメモリーカードにコピーされます。

メモリーカードへのコピー /メモリーカードからの削除について

- カメラに搭載されているピクチャーコントロールは、コピーや削除ができません。
- メモリーカードを 2 枚使用している場合、撮影メニューの [主スロットの選択] (□85) で選んだ主スロットのカードが対象になります。
- メモリーカードに保存できるカスタムピクチャーコントロールは、99個までです。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する

アクティブD-ライティングで撮影する

撮影の前にあらかじめ [アクティブD-ライティング] を設定しておく
と、ハイライト部の白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があり
ます。見た目のコントラストに近い画像に仕上がります。暗い室内か
ら外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を
撮影するのに効果的です。アクティブD-ライティングを設定したとき
は、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおす
めします (□112)。



アクティブD-ライティング
[しない]



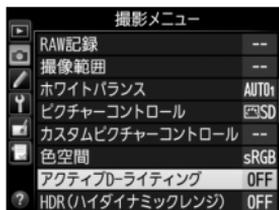
アクティブD-ライティング
[☑ A オート]

🔍 撮影メニュー [アクティブD-ライティング] と画像編集メニュー [D-ライティング] の違い

[アクティブD-ライティング] を設定してから撮影すると、撮影シーンに応じて
露出や階調を制御し、ハイライト部やシャドー部および中間調を適切に調整し
て画像を記録します。一方、[D-ライティング] は、撮影済みの画像に対して階
調を再調整してシャドー部を明るく補正します。

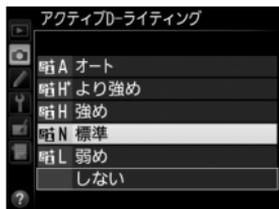
■ アクティブD-ライティングの設定方法

- 1 撮影メニューの [アクティブD-ライティング] を選んでマルチセクターの  を押す



- 2 効果の度合いを選び、 ボタンを押す

- [暗A オート]、[暗H より強め]、[暗H 強め]、[暗N 標準]、[暗L 弱め]、[しない] に設定できます。
- [暗A オート] に設定すると、撮影シーンに応じて自動的に効果の度合いを設定します。



✓ アクティブD-ライティングについてのご注意

- アクティブD-ライティングを設定して撮影をするとき、撮影シーンによっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が強調されたり、明るい被写体の周辺に暗い影が出たり、暗い被写体の周辺が明るくなったりする場合があります。
- アクティブD-ライティングを設定していても、ISO感度がHi 0.3以上の場合、アクティブD-ライティングは機能しません。
- 動画撮影時は、アクティブD-ライティングは機能しません。
- 露出モードが  のときは、[暗A オート] に設定していても [暗N 標準] 相当の度合いに固定されます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。

関連ページ

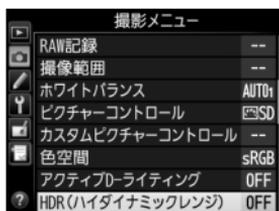
アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影する → 「ADLブラケットの撮影方法」(P140)

HDR (ハイダイナミックレンジ) 合成を行う

1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成することにより、輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します。明暗差が著しい撮影シーンなどで、シャドー部からハイライト部まで幅広く再現された画像になります。HDRモードを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします(□112)。



1 撮影メニューの【HDR (ハイダイナミックレンジ)】を選んでマルチセクターの \odot を押す

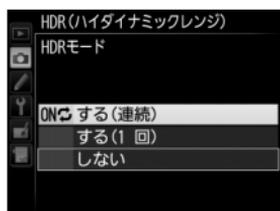


RAWを含む画質モードについて

RAWを含む画質モードの場合、HDR撮影はできません。

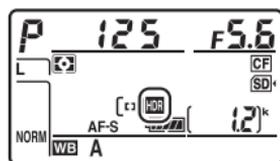
2 [HDRモード] を設定する

- [HDRモード] を選んで  を押します。
-  または  を押してHDRモードを設定し、 ボタンを押します。



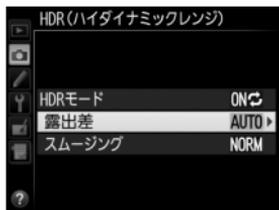
ON/ON する (連続)	HDRモードで続けて撮影します。HDRモードを解除するには、もう一度 [HDRモード] を選んで [しない] を選択してください。
する (1回)	撮影を終了すると、HDRモードが解除されます。
しない	HDRモードを解除します。

- [する (連続)] または [する (1回)] を選ぶと、HDRモードの撮影待機状態になり、表示パネルにHDRマークが点灯します。



3 [露出差] を設定する

- [露出差] を選んで \odot を押します。



- \odot または \ominus を押して露出差を設定し、 \otimes ボタンを押します。
- 露出差を大きく設定するほど、輝度範囲のより広い被写体に対応できます。
- 被写体の輝度範囲に適した露出差以上に設定すると、不自然な画像になる場合があります。被写体の輝度範囲に合わせて選んでください。
- [オート] に設定すると、シーンに適した露出差が選ばれます。

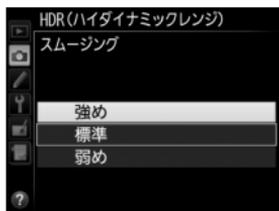


4 [スムージング] を設定する

- [スムージング] を選んで \odot を押します。

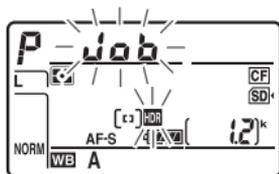


- \odot または \ominus を押してスムージング（2枚の画像の境界の滑らかさ）の強さを設定し、 \otimes ボタンを押します。
- スムージングを強めに設定するほど、画像がより滑らかに合成されます。



5 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、2回連続してシャッターがきれます。
- 合成処理中は、表示パネルに **Job HDR** が、ファインダー内表示に **Job Hdr** が点滅します。この表示が消えるまで撮影できません。
- [**する (連続)**] の場合、[**HDRモード**] で [**しない**] を選んでHDRモードを解除するまで、HDRモードで撮影できます。
- HDRモードが [**する (1回)**] の場合、1回撮影すると、HDRモードが解除され、**HDR** マークが消灯します。



BKTボタンとコマンドダイヤルでHDRモードと露出差を設定する

カスタムメニュー f8 [**BKTボタンの機能**] (□343) を [**HDR (ハイダイナミックレンジ)**] に設定すると、**BKT** ボタンとコマンドダイヤルの操作で手順2の [**HDRモード**] と手順3の [**露出差**] を設定できます。

- BKT** ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのHDRアイコンが [**しない**] (アイコンなし)、**HDR** [**する (1回)**]、**HDR**  [**する (連続)**] に切り替わります。



- BKT** ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの露出差の表示が切り替わります。



▼ HDR撮影時のご注意

- 撮影した画像の画像周辺部は切り取られます。
- 動いている被写体を撮影する場合や撮影時の手ブレの量が多い場合は、正しく合成されないことがあります。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
- 撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影が出たり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。[スムーズング] の設定で調整できます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- 測光モードが中央部重点測光またはスポット測光のときや、非CPUレンズ装着時に、[露出差] を [オート] に設定すると、露出差は [2 EV] 相当の度合いに固定されます。
- 内蔵フラッシュと別売のスピードライトは発光しません。
- レリーズモード (□100) が **CL**、**CH** または **QC** の場合にシャッターボタンを全押しし続けても連続撮影しません。
- シャッタースピードは、**b_ul_b** (バルブ) または **- -** (タイム) に設定できません。

▼ HDRモードの制限について

HDRモードは、次の機能とは同時に使用できません。

- 動画撮影 (□48)
- オートブラケティング撮影 (□130)
- 多重露出撮影 (□205)
- 微速度撮影 (□217)

🔪 HDRモードとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- HDRモードを [する(連続)] に設定してからインターバルタイマー撮影 (□211) を設定すると、[インターバルタイマー撮影] で設定されたインターバルでHDR撮影ができます。
- HDRモードが [する(1回)] の場合は、1回だけHDRモードで撮影した後、インターバルタイマーとHDRモードが解除されます。

🔪 撮影メニューの管理

HDRモードは、撮影メニュー (「A」～「D」) (□281) ごとに設定できますが、多重露出撮影中 (□205) またはインターバルタイマー撮影中 (□211) にHDRモードを [する(連続)] または [する(1回)] に設定した撮影メニューに切り換えた場合、HDRモードが解除されます。また、HDRモードが [する(連続)] または [する(1回)] のときに、RAWを含む画質モードが選ばれている撮影メニューに切り換えた場合も、HDRモードが解除されます。

フラッシュ撮影

内蔵フラッシュを使って撮影する

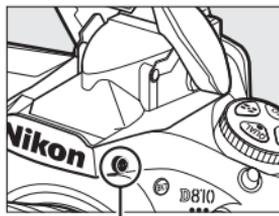
内蔵フラッシュを使うと、暗い場所や逆光下など、さまざまな場所での撮影を楽しむことができます。

1 測光モードを設定する (☐112)

- マルチパターン測光、中央部重点測光またはハイライト重点測光に設定すると、i-TTL-BL調光になり、スポット測光に設定すると、スタンダードi-TTL調光になります (☐188)。

2 フラッシュロック解除ボタンを押して内蔵フラッシュを上げる

- フラッシュの充電を開始します。
- 充電が完了して撮影ができる状態になると、ファインダー内表示に⚡ (レディーライト) が点灯します。

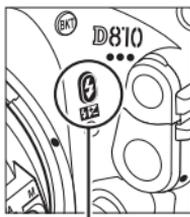


フラッシュロック
解除ボタン



3 フラッシュモードを設定する

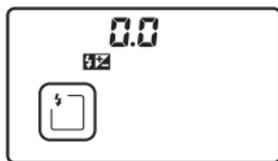
- ⚡ (Fn) ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのフラッシュモード表示が変わります。



⚡ (Fn) ボタン



メインコマンド
ダイヤル



表示パネル

4 シャッタースピード、絞り値を設定する

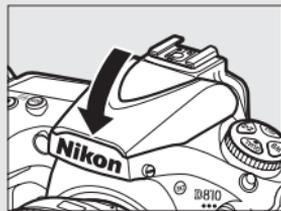
- 内蔵フラッシュ使用時に設定できるシャッタースピードと絞り値については、「内蔵フラッシュ使用時のシャッタースピードと絞り値」(□189)をご覧ください。

5 撮影する

- 撮影前にPvボタンを押すと、モデリング発光してライティング状態を確認できます (□330)。

内蔵フラッシュを収納する

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。バッテリーの消耗を防ぐため、使用しないときは常に収納してください。



設定できるフラッシュモード

モード	内容
 先幕シンクロ モード	<p>通常のフラッシュ撮影時にはこのモードを設定します。露出モードをPまたはAにセットしてフラッシュ撮影すると、カメラが適正露出となるようにシャッタースピードを1/250~1/60秒（別売のスピードライトを装着して、オートFPハイスピードシンクロ（□320）を行う場合は、1/8000~1/60秒）に自動的にセットします。</p>
 赤目軽減 モード	<p>フラッシュが発光する前に約1秒間赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。</p> <ul style="list-style-type: none"> シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめてできません）。
 赤目軽減 スローシンクロ モード	<p>赤目軽減モードとスローシンクロモードが同時にセットされます。露出モードはPまたはAに設定してください。夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
 スローシンクロ モード	<p>露出モードをPまたはAに設定してフラッシュ撮影すると、背景の露出を考慮してシャッタースピードが最長30秒まで延長されます。これにより、背景を描写しながらフラッシュを発光させ、夕景や夜景の雰囲気を活かした撮影ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
 後幕シンクロ モード	<p>シャッター後幕の走行開始（シャッターが閉じる）直前にフラッシュが発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌道などを表現したい場合などに適しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 露出モードをPまたはAに設定すると、スローシンクロモードも自動的にセットされ、右のように表示されます。シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
 発光禁止	<p>発光しません。</p>

▼ フラッシュ撮影時のご注意

- 内蔵フラッシュを使って撮影するときは、被写体から0.6m以上離れてください。
- 内蔵フラッシュ撮影が可能なレンズについては □422 をご覧ください。フラッシュの光がさえぎられることがあるので、レンズフードは外してください。また、マクロ付きズームレンズのマクロ領域ではお使いになれません。
- 内蔵フラッシュ撮影時は、レリーズモードを**CL**、**Ch**または**Qc**に設定しても、連続撮影にはなりません。
- 内蔵フラッシュを連続して使うと、発光部を保護するため、一時的に発光が制限され、シャッターがきれなくなる場合があります。少し時間をおくと再び使えるようになります。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲は、64～12800です。ISO感度を64よりも低感度に設定したり、12800よりも高感度に設定した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならないことがあります。

🔪 測光モードと内蔵フラッシュの調光について

カメラの内蔵フラッシュを使って、次のようなフラッシュ撮影を行えます（カスタムメニュー e3 [内蔵フラッシュ発光] が初期設定の [TTLモード] のとき □322）。

- 測光モードをマルチパターン測光、中央部重点測光またはハイライト重点測光に設定すると、i-TTL-BL調光になり、スポット測光に設定すると、スタンダードi-TTL調光になります。

i-TTL-BL 調光	91Kピクセル（約91,000ピクセル）RGBセンサーによる測光情報をもとに被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、内蔵フラッシュがモニター発光を行い、被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。 <ul style="list-style-type: none">• G、EまたはDタイプレンズ装着時は、レンズから得られた被写体までの距離情報も利用して最適な発光量を決定します。• 非CPUレンズ装着時は、レンズ情報（開放絞り値、焦点距離）を設定することにより、より精度が向上します（□222）。
スタンダード i-TTL調光	背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光します。主要被写体のみを強調する場合や、フラッシュ撮影で露出補正する場合に適しています。

内蔵フラッシュ使用時のシャッタースピードと絞り値

内蔵フラッシュ使用時に設定できるシャッタースピードと絞り値は次の通りです。

露出モード	設定可能なシャッタースピード※1	設定可能な絞り値	□
P	カメラが自動的に 1/250～1/60秒にセット※2	カメラが 自動的に設定	116
S	1/250～30秒		117
A	カメラが自動的に 1/250～1/60秒にセット※2	任意の絞り値※3	117
M	1/250～30秒、 bulb (バルブ)、 -- (タイム)		119

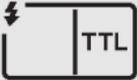
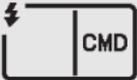
※1 カスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] (□319) を [1/320 秒 (オートFP)] に設定すると、内蔵フラッシュ使用時でも高速側のシャッタースピードが1/320秒までフラッシュ同調します (□320)。また、カスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] を [1/320 秒 (オートFP)] または [1/250 秒 (オートFP)] に設定して別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライト (□427) を装着した場合は、高速側のシャッタースピードが1/8000秒まで制御されます。

※2 スローシンクロモード、後幕スローシンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード選択時は、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。

※3 調光範囲は設定しているISO感度と絞り値によって決まります。**A**または**M**時の絞り値の設定は内蔵フラッシュの調光範囲 (□191) を考慮して行ってください。

📌 インフォ画面のフラッシュモード表示について

インフォ画面のフラッシュモードでは、内蔵フラッシュ使用時の発光方式が、次のように表示されます。内蔵フラッシュの発光方式は、カスタムメニュー e3 [内蔵フラッシュ発光] で設定できます (☐322)。

	通常発光	FP発光 (☐321)
i-TTL-BL調光 スタンダードi-TTL調光		—
マニュアル発光		—
リピーティング発光		—
コマンダーモード		

内蔵フラッシュの調光範囲（光の届く範囲）と限界絞り値

内蔵フラッシュはISO感度と絞り値によって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。下表を参考にしてください。

ISO感度および絞り値									調光範囲 (m)
64	100	200	400	800	1600	3200	6400	12800	
—	1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16	約0.7~8.5
1.6	2	2.8	4	5.6	8	11	16	22	約0.6~6
2.2	2.8	4	5.6	8	11	16	22	32	約0.6~4.2
3.2	4	5.6	8	11	16	22	32	—	約0.6~3
4.5	5.6	8	11	16	22	32	—	—	約0.6~2.1
6.3	8	11	16	22	32	—	—	—	約0.6~1.5
9	11	16	22	32	—	—	—	—	約0.6~1.1
13	16	22	32	—	—	—	—	—	約0.6~0.8

※ 内蔵フラッシュで調光できる最短撮影距離は0.6mです。

- 露出モードがPの場合、内蔵フラッシュ使用時に下表の絞り値よりも絞りを開くことはできません。

ISO感度と開放側の限界絞り (F)									
64	100	200	400	800	1600	3200	6400	12800	
2.5	2.8	3.5	4	5	5.6	7.1	8	10	

※ 制御される絞り値よりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

関連ページ

- 「オートFPハイスピードシンクロについて」 (□320)
- フラッシュの調光量を固定して撮影する → 「FVロックして調光量を固定する」 (□194)
- 内蔵フラッシュの同調速度を変更する →  e1 [フラッシュ撮影同調速度] (□319)
- フラッシュ時のシャッタースピードを制限する →  e2 [フラッシュ時シャッタースピード制限] (□321)
- 内蔵フラッシュの発光方式を変更する →  e3 [内蔵フラッシュ発光] (□322)
- 内蔵フラッシュをコマンダーモードで使用する →  e3 [内蔵フラッシュ発光] (□322)
- 別売スピードライト（フラッシュ）を使って撮影する → 「使用できるスピードライト」 (□425)

調光補正してフラッシュの発光量を変更する

調光補正とは、フラッシュの発光量を意図的に変えることで、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。発光量を多くして被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくして被写体に光が強く当たりすぎないようにするなど、発光量の微妙な調整ができます。

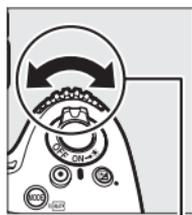
調光補正の設定方法

⚡ (0.3) ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- 調光補正値は、表示パネルに表示されます。
- 調光補正は、1/3段ステップで -3段～+1段の範囲で設定できます。

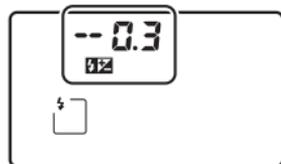


⚡ (0.3) ボタン



サブコマンド
ダイヤル

- 補正量を設定すると、表示パネルとファインダー内表示に **0.3** (調光補正) マークが表示されます。
- **⚡ (0.3)** ボタンを押すと、表示パネルとファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。
- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正するのが基本です。
- 調光補正を解除するには、補正量を 0.0 にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。



補正なし (⚡ (0.3) ボタンを押したとき)



-0.3段 (-1/3段) 補正



+1段補正

別売スピードライトの調光補正について

カメラ側とスピードライト側で同時に調光補正を行う場合、両方の補正値を加算します。

関連ページ

- 調光補正のステップ幅を変更する →  b3 [露出・調光補正ステップ幅] (□305)
- フラッシュ撮影時に露出補正した場合に調光量も補正するかどうかを設定する →  e4 [フラッシュ使用時の露出補正] (□329)
- 調光補正値を変えながら撮影する → 「AEブラケットング、フラッシュブラケットングの撮影方法」 (□130)

FVロックして調光量を固定する

調光量をロック（固定）することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影できます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

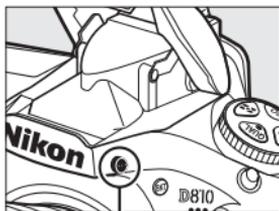
- FVロック中にカメラのISO感度や絞り値を変更しても、フラッシュの発光量が補正されることによりFVロックは維持されます。

1 カスタムメニュー f4 [Fnボタンの機能] (☐336) の [押し時の動作] を [FV-L] に設定する



2 フラッシュロック解除ボタンを押して内蔵フラッシュを上げる

- フラッシュの充電を開始します。



フラッシュロック
解除ボタン

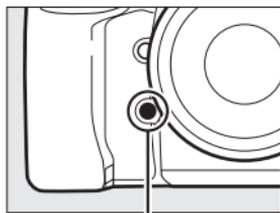
3 被写体にピントを合わせる

- 発光量を合わせたい被写体を画面の中央でとらえ、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。



4 モニター発光を行う

- ファインダー内表示に⚡が点灯していることを確認し、Fnボタンを押すと、フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FVロックが行われ、ファインダー内表示に \square (FVロック) マークが表示されます。



Fnボタン



5 構図を変更する



6 シャッターボタンを全押しして撮影する

- FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影できます。必要に応じて手順5~6を繰り返してください。

7 FVロックを解除する

- もう一度Fnボタンを押すと、FVロックが解除され、ファインダー内表示の \square が消灯します。

☑ 内蔵フラッシュのFVロックについて

内蔵フラッシュだけを発光させてフラッシュ撮影を行う場合、FVロックを使用するときはカスタムメニュー e3 [内蔵フラッシュ発光] (□322) を [TTLモード] に設定してください。

別売スピードライトのFVロックについて

別売のスピードライト (□425) の発光モードがTTL、「モニター発光あり」のAAまたはAのいずれかに設定されている場合も、FVロックを行うことができません (別売スピードライトの発光モードについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください)。カスタムメニュー e3 [内蔵フラッシュ発光] (□322) を [コマンドモード] にして撮影する場合は、主灯 (マスターフラッシュ) または補助灯 (リモート) グループのうち、少なくとも1グループの発光モードを [TTL] または [AA] に設定してください。

別売スピードライトのFVロック時の測光エリアについて

別売スピードライトを使用したFVロック時の測光エリアは次のようになります。

撮影状態	発光モード	測光エリア
1灯撮影時	i-TTLモード	画面中央φ6mm相当
	絞り連動外部自動調光	スピードライトの外部測光エリア
アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時	i-TTLモード	全画面
	絞り連動外部自動調光	スピードライトの外部測光エリア
	外部自動調光 (マスタースピードライト)	

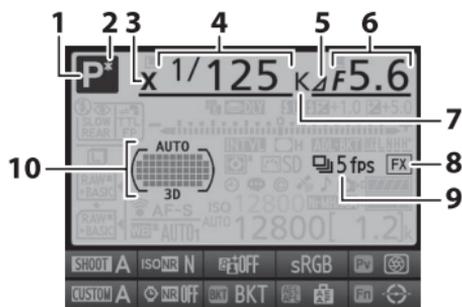
関連ページ

- P_vボタンを押してFVロックをする →  f5 [プレビューボタンの機能] (□341)
- AE/AFロックボタンを押してFVロックをする →  f6 [AE/AFロックボタンの機能] (□342)

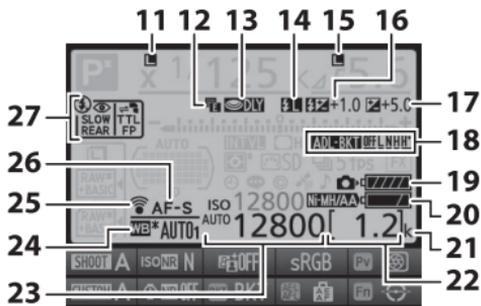
撮影の便利な機能

ファインダー撮影時に **Info** ボタンを使う

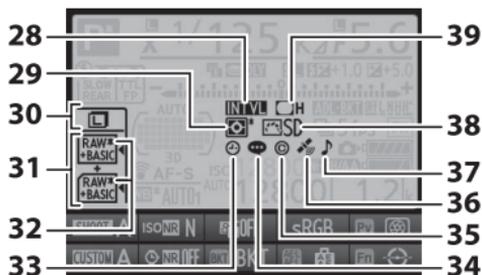
ファインダー撮影時に **Info** ボタンを押すと、液晶モニターに「インフォ画面」が表示されます。シャッタースピードや絞り値、記録可能コマ数、AF エリアモードなど、撮影に関する情報や設定の確認ができます（**Info** は、説明のため全ての表示を点灯させています）。



1	露出モード	115	6	絞り値	117、119
2	プログラムシフトマーク	116		絞り込み段数	118、421
3	フラッシュシンクロマーク	319		オートブラケティング補正	
4	シャッタースピード	117、119		ステップ	132
	ホワイトバランス微調整値	147		WBブラケティング補正	
	ホワイトバランス色温度	144、150		ステップ	137
	オートブラケティング撮影			ADLブラケティング	
	コマ数	131		撮影コマ数	140
	WBブラケティング撮影			非CPUレンズ開放絞り値	224
	コマ数	136	7	ホワイトバランス	
	多重露出撮影コマ数	208		色温度表示	144、150、152
	非CPUレンズ焦点距離	224	8	撮像範囲表示	74
5	絞り込み段数マーク	118、421	9	レリーズモード	100
				連続撮影速度	102
			10	フォーカスポイント表示	93
				AFエリアモード表示	89



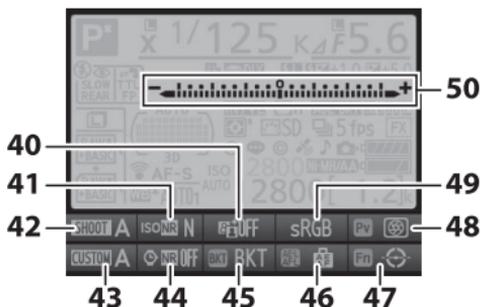
11	シャッタースピードロック マーク 124	19	カメラのバッテリー残量表示 18
12	電子先幕シャッターマーク 312	20	MB-D12のバッテリー種別表示 316
13	露出ディレーモード 311		MB-D12のバッテリー残量表示 317
14	FVロックマーク 195	21	1000コマ以上補助表示 19
15	絞り値ロックマーク 125	22	記録可能コマ数 19、485
	HDR（連続マーク） 183		手動設定レンズNo 224
	多重露出（連続マーク） 208		微速度撮影中マーク 220
16	調光補正マーク 192	23	ISO感度マーク 107
	調光補正量 192		感度自動制御設定マーク 110
17	露出補正マーク 128	24	ホワイトバランスモード 144
	露出補正值 128		ホワイトバランス微調整設定 マーク 148
18	オートブラケティングマーク 130	25	Eye-Fi通信マーク 378
	WBブラケティングマーク 136	26	AFモードマーク 86
	ADLブラケティングマーク 140	27	フラッシュモード 187
	ADLブラケティング度合い表示 141		
	HDRマーク 180		
	HDR露出差 183		
	多重露出マーク 206		



28	インターバルタイマー設定 マーク213	34	画像コメント入力設定マーク371
29	測光モード112	35	著作権情報設定マーク372
30	画像サイズ (JPEG/TIFF)82	36	衛星受信状態マーク225
31	画質モード79	37	電子音マーク310
	副スロットの機能85	38	ピクチャーコントロール マーク167
32	RAW画像の [サイズS] 設定 マーク84	39	Wi-Fiコントロールマーク288
33	⊕マーク464		

⊕マークについて

インフォ画面で⊕が点滅している場合、カメラの内蔵時計が初期化されています。その場合は撮影日時が正しく記録されないため、セットアップメニュー [地域と日時] (□367) の [日時の設定] で日時設定をしてください。カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のパワーコネクタとACアダプターを接続すると (□440)、時計用電池が充電されます。フル充電するには約2日間かかります。充電すると、約3カ月の間時計を動かすことができます。



<table border="0"> <tr><td>40</td><td>アクティブD-ライティング</td></tr> <tr><td>41</td><td>高感度ノイズ低減マーク</td></tr> <tr><td>42</td><td>撮影メニュー設定表示</td></tr> <tr><td>43</td><td>カスタムメニュー設定表示</td></tr> <tr><td>44</td><td>長秒時ノイズ低減マーク</td></tr> <tr><td>45</td><td>BKTボタンの機能表示</td></tr> <tr><td>46</td><td>AE/AFロックボタンの機能表示</td></tr> <tr><td>47</td><td>Fnボタンの機能表示</td></tr> </table>	40	アクティブD-ライティング	41	高感度ノイズ低減マーク	42	撮影メニュー設定表示	43	カスタムメニュー設定表示	44	長秒時ノイズ低減マーク	45	BKTボタンの機能表示	46	AE/AFロックボタンの機能表示	47	Fnボタンの機能表示	<table border="0"> <tr><td>48</td><td>プレビューボタンの機能表示</td></tr> <tr><td>49</td><td>色空間マーク</td></tr> <tr><td>50</td><td>インジケータ</td></tr> <tr><td></td><td>露出</td></tr> <tr><td></td><td>露出補正</td></tr> <tr><td></td><td>オートブラケットング</td></tr> <tr><td></td><td>WBブラケットング</td></tr> <tr><td></td><td>ADLブラケットング</td></tr> </table>	48	プレビューボタンの機能表示	49	色空間マーク	50	インジケータ		露出		露出補正		オートブラケットング		WBブラケットング		ADLブラケットング
40	アクティブD-ライティング																																
41	高感度ノイズ低減マーク																																
42	撮影メニュー設定表示																																
43	カスタムメニュー設定表示																																
44	長秒時ノイズ低減マーク																																
45	BKTボタンの機能表示																																
46	AE/AFロックボタンの機能表示																																
47	Fnボタンの機能表示																																
48	プレビューボタンの機能表示																																
49	色空間マーク																																
50	インジケータ																																
	露出																																
	露出補正																																
	オートブラケットング																																
	WBブラケットング																																
	ADLブラケットング																																

📄 インフォ画面を消灯するには

- シャッターボタンを半押しする
- インフォ画面の表示中に、**Info** ボタンを押す

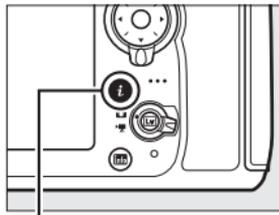
操作を行わないまま約10秒経過したときも、インフォ画面は消灯します。

📄 関連ページ

- 液晶モニターの点灯時間を変更する → **c4** [モニターのパワーオフ時間] (□309)
- インフォ画面の表示を手動で白黒反転する → **d10** [インフォ画面の表示設定] (□315)

ファインダー撮影時に*i*ボタンを使う

ファインダー撮影時に*i*ボタンを押すと、撮影の設定を変更できます。マルチセレクターで項目を選んでⓂボタンを押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。撮影に戻るには、再度*i*ボタンを押してください。



*i*ボタン



- 設定できるメニュー項目は次の通りです。

メニュー項目	□	メニュー項目	□
撮影メニューの管理	281	Fnボタンの機能	336
高感度ノイズ低減	291	AE/AFロックボタンの機能	342
アクティブD-ライティング	179	BKTボタンの機能	343
色空間	287	長秒時ノイズ低減	290
プレビューボタンの機能	341	カスタムメニューの管理	295

ガイド表示について

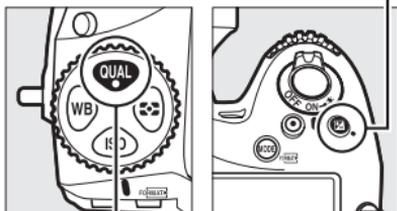
選択中のメニュー項目名を表示します。カスタムメニュー-d9[インフォ画面のガイド表示](□314)では、ガイドを表示させないようにできます。



ツーボタンリセットで基本的な機能を初期設定に戻す

QUAL ボタンと **☒** ボタン（それぞれのボタンに緑色の●が付いています）を2秒以上同時に押すと、一瞬表示パネルの表示が消え、カメラの機能が次のように初期設定に戻ります。

☒ ボタン



QUAL ボタン

■■ 撮影メニュー項目※1

撮影メニュー項目	初期設定
画質モード	NORMAL
JPEG/TIFF記録	
画像サイズ	サイズL
RAW記録	
画像サイズ	サイズL
ホワイトバランス	AUTO1 標準
微調整	A-B: 0、G-M: 0
ピクチャーコントロールの調整値	解除※2
HDR (ハイダイナミックレンジ)	解除※3
ISO感度設定	
ISO感度	100
感度自動制御	しない
多重露出	解除※4
インターバルタイマー撮影	解除※5

※1 現在選択されている撮影メニュー（「A」～「D」のいずれか）の項目のみが解除されます（多重露出、インターバルタイマー撮影、およびピクチャーコントロールの調整値は、全ての撮影メニューで共通です）。

※2 現在選択中のピクチャーコントロールのみ解除されます。

※3 HDRモードが「**する（連続）**」または「**する（1回）**」の場合は「**しない**」に設定されます。露出差とスムージングは初期設定には戻りません。

※4 多重露出撮影が中断され、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます。また、多重露出モードが「**する（連続）**」または「**する（1回）**」の場合は「**しない**」に設定されます。コマ数と自動ゲイン補正は初期設定には戻りません。

※5 インターバルタイマー撮影が中断されます。開始日時、撮影間隔、撮影回数×1回のコマ数、露出平滑化は初期設定には戻りません。

■ その他の撮影関連の機能

機能	初期設定
フォーカスポイント※1	中央
プリセットフォーカスポイント	中央
露出モード	P
プログラムシフト	解除
露出補正	解除 (0.0)
AE-L (ホールド)	解除
コマンドロック (絞り)	解除
コマンドロック (シャッタースピード)	解除
AFモード	AF-S
ファインダー撮影時のAFエリアモード	シングルポイントAF
静止画ライブビュー / 動画ライブビュー時のAFエリアモード	ノーマルエリアAF
静止画Lv画面のホワイトバランス	撮影時と同じ
ハイライト表示	しない
ヘッドホン音量	15
測光モード	マルチパターン測光
オートブラケティング	解除※2
フラッシュモード	先幕シンクロ
調光補正	解除 (0.0)
FVロック	解除
露出ディレーモード※3	しない
プラスRAW記録	解除

※1 AFエリアモードがオートエリアAFのときは、フォーカスポイントは表示されません。

※2 撮影コマ数が0に設定されます。AE、フラッシュ、WBブラケティングの補正ステップは1になります。ADLブラケティングで撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いは、[暗A オート]になります。

※3 現在選択されているカスタムメニュー（「A」～「D」のいずれか）の項目のみが解除されます。

📄 関連ページ

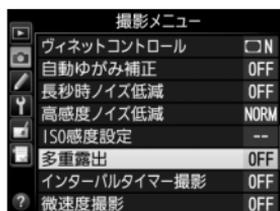
「初期設定一覧」(□262)

多重露出撮影で1つの画像に重ねて写し込む

多重露出撮影は2～10コマまで重ねて写し込み、1つの画像として記録します。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。

■ 多重露出の撮影方法

- 1 撮影メニューの [多重露出] を選んでマルチセクターの  を押す

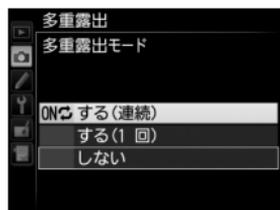


2 [多重露出モード] を設定する

- [多重露出モード] を選んで、を押します。

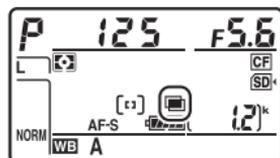


- またはを押して多重露出モードを設定し、ボタンを押します。



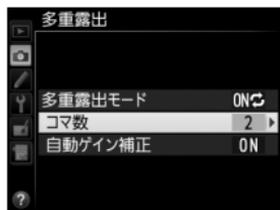
ON  する (連続)	同じ設定で続けて多重露出撮影します。多重露出撮影を解除するには、もう一度 [多重露出モード] を選んで [しない] を選択してください。
する (1回)	多重露出撮影を終了すると、多重露出が解除されます。
しない	多重露出撮影を解除します。

- [する (連続)] または [する (1回)] を選ぶと、多重露出の撮影待機状態になり、表示パネルに  マークが点灯します。



3 [コマ数] (露光回数) を設定する

- [コマ数] を選んで、を押します。

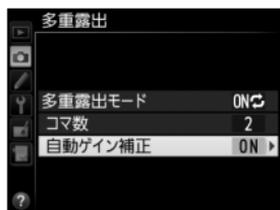


- またはを押して露光回数を設定し、ボタンを押します。



4 [自動ゲイン補正] を設定する

- [自動ゲイン補正] を選んで、を押します。



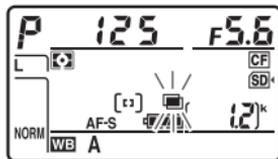
- 自動ゲイン補正の設定後、ボタンを押します。



する	重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。 <ul style="list-style-type: none">• 各コマのゲインは、「$1 \div \text{露光回数}$」となります。たとえば、露光回数が「2コマ」の場合は1/2、「3コマ」の場合は1/3になります。
しない	ゲインを補正せず、全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。

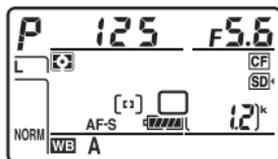
5 1回目の撮影をする

- 撮影を始めると、マークが点滅します。



6 2回目以降の撮影をする

- [する (連続)] の場合、[多重露出モード] で [しない] を選んで多重露出モードを解除するまで、多重露出撮影できます。
- 多重露出モードが [する (1回)] の場合、手順3で設定したコマ数分の撮影をすると、多重露出撮影が解除され、マークが消灯します。



 **BKTボタンとコマンドダイヤルで多重露出モードとコマ数を設定する**
カスタムメニュー f8 [BKTボタンの機能] (□343) を [多重露出] に設定すると、BKTボタンとコマンドダイヤルの操作で手順2の [多重露出モード] と手順3の [コマ数] を設定できます。

- BKT ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの多重露出アイコンが [しない] (アイコンなし)、 [する (1回)]、 [する (連続)] に切り替わります。



- BKT ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのコマ数が切り替わります。

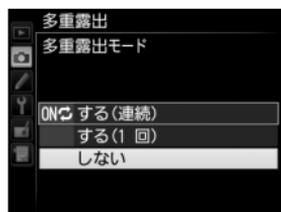


▼ 多重露出撮影時のご注意

- 多重露出の撮影途中、画像の再生やメニュー画面の表示で液晶モニターを点灯した場合、液晶モニターが消灯してから操作のないまま30秒程度経過すると、画像が記録されて多重露出が解除されます。撮影間隔が長くなる場合は、カスタムメニューc2 [半押しタイマー] (□308) を長めに設定すると、多重露出が解除されるまでの時間が延長されます。
- 多重露出撮影中は、ライブビュー撮影ができません。
- 多重露出モードを [する (連続)] または [する (1回)] に設定していても、ライブビュー表示にすると [しない] になります。
- 自動ゲイン補正 (□207) を [しない] に設定した場合、ノイズ (ざらつき、むら、すじ) が発生しやすくなります。
- 多重露出による撮影中は、メモリーカードを交換しないでください。
- レリーズモード (□100) を **CL**、**CH** または **Qc** に設定して撮影する場合、多重露出モードが [する (1回)] のときは、シャッターボタンを押し続けると、多重露出で設定された撮影コマ数の撮影後、多重露出撮影を解除します。[する (連続)] のときは、シャッターボタンを押し続けている間、多重露出で設定された撮影コマ数で多重露出撮影を繰り返します。
- セルフタイマー撮影時 (□104) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニューc3 [セルフタイマー] (□308) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、多重露出で設定した撮影コマ数の撮影が終了した時点で画像が記録されます。
- 多重露出の撮影データ (撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など) は、1コマ目の内容になります。

■ 多重露出撮影を中断するには

設定したコマ数分を撮影する前に多重露出撮影を中断するには、多重露出モードを「しない」に設定します。多重露出撮影を中断すると、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（「自動ゲイン補正」を「する」にしていたときは、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。



このほか、次の場合も、多重露出は中断されます。

- ツーボタンリセット (□202) を行ったとき
- カメラの電源をOFFにしたとき
- バッテリーの残量がなくなったとき
- 多重露出中に撮影した画像を削除したとき

📌 多重露出とインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

多重露出を設定してから1コマ目を撮影する前にインターバルタイマー撮影 (□211) を設定すると、設定されたインターバルで多重露出撮影ができます。この場合、「インターバルタイマー撮影」で設定されたインターバルで1コマずつ撮影され、「多重露出」で設定されたコマ数の撮影が終了すると、インターバルタイマー撮影を解除します。多重露出が「する (1回)」の場合は、多重露出も解除されます。

📌 多重露出撮影時に利用できない機能について

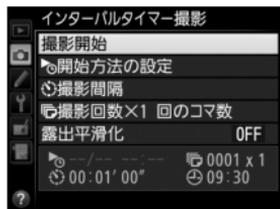
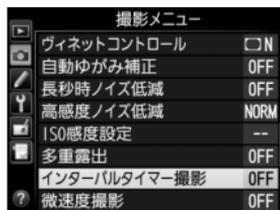
多重露出撮影中はメモリーカードの初期化はできません。また、一部のメニュー項目がグレーで表示されて選択できません。

設定した間隔で撮影する (インターバルタイマー撮影)

設定した開始方法（即時または設定時刻）と撮影間隔で自動的に撮影を行います。インターバルタイマー撮影は、リリースモードを**S**、**CL**、**CH**、**Q**、**Qc**または**MUP**に設定して撮影してください。

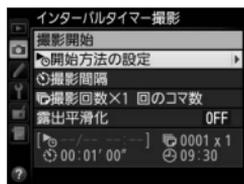
1 撮影メニューの [インターバルタイマー撮影] を選ぶ

- マルチセクターの  を押すと、インターバルタイマー撮影の設定画面が表示されます。



2 インターバルタイマー撮影の設定をする

- 開始方法を選ぶ



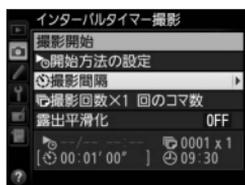
[開始方法の設定] を選んで  を押す



開始方法を選んで  ボタンを押す

- インターバルタイマー撮影をすぐに開始する場合は、[即時スタート] を選びます。
- インターバルタイマー撮影の開始日時を設定する場合は、[開始日時設定] を選びます。表示される画面で開始日時を設定して  ボタンを押します。

● 撮影間隔（インターバル）を設定する



「撮影間隔」を選んで **OK** を押す



撮影間隔（時、分、秒）を設定して **OK** ボタンを押す

● 撮影回数と1回のコマ数を設定する



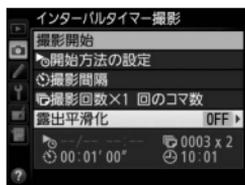
「撮影回数×1回のコマ数」を選んで **OK** を押す



撮影回数と1回で撮影するコマ数を設定して、**OK** ボタンを押す

- リリースモードが**S**の場合、撮影コマ数を2コマ以上に設定すると、カスタムメニュー d2 「低速連続撮影速度」(□311) で設定された速度で撮影します。

● 露出平滑化をするかどうかを選ぶ



「露出平滑化」を選んで **OK** を押す

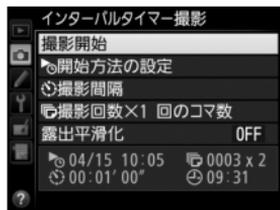


露出平滑化をするかどうかを選んで **OK** ボタンを押す

- 「する」を選ぶと、1コマ前に撮影した静止画と大きく明るさが変化しないようにカメラが自動で露出を調整します。ただし、露出モード **M** で撮影メニュー 「ISO感度設定」の「感度自動制御」が「しない」の場合、露出の平滑化は行いません。

3 [撮影開始] を選んで **OK** ボタンを押す

- 手順2の [開始方法の設定] で [即時スタート] を選んでいる場合は、約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2の [開始方法の設定] で [開始日時設定] を選んでいる場合は、設定した日時に撮影を開始します。
- 設定した撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。



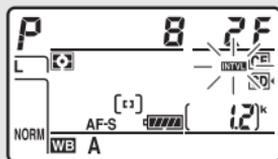
✓ インターバルタイマー撮影を開始する前に

- 試し撮りをするをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニューの [地域と日時] で日時が正確に設定されていることを確認してください (□17)。
- カメラを三脚で固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクタとACアダプターをお使いください。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、アイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします (□105)。

✓ インターバルタイマー撮影の待機状態について

インターバルタイマー撮影の待機状態では、表示パネルに **INTVL** マークが点滅します。撮影直前になるとシャッタースピード表示部に残りの撮影回数を、絞り値表示部にその回の残りの撮影コマ数を、それぞれ表示します。

- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影回数と撮影コマ数を表示します。



■ インターバルタイマー撮影を一時停止するには

インターバルタイマー撮影を一時停止するには、次の操作を行います。

- 撮影待機中に \odot ボタンを押す
- 撮影待機中に撮影メニュー [インターバルタイマー撮影] で [一時停止] を選び、 \odot ボタンを押す

■ インターバルタイマー撮影を再開するには

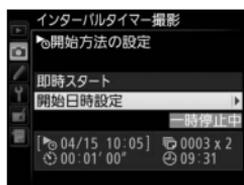
インターバルタイマー撮影を再開する手順は次の通りです。

すぐに再開する場合



[再開] を選んで \odot ボタンを押す

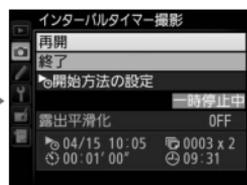
再開する日時を設定する場合



[開始方法の設定] 画面で [開始日時設定] を選び \odot を押す



開始日時を設定して \odot ボタンを押す



[再開] を選んで \odot ボタンを押す

■ インターバルタイマー撮影を終了するには

インターバルタイマー撮影を終了するには、撮影待機中に撮影メニュー [インターバルタイマー撮影] で [終了] を選び、 \odot ボタンを押します。インターバルタイマー撮影終了後は通常の撮影待機状態に戻ります。

✔ インターバルタイマー撮影についてのご注意

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードに1回のコマ数を掛けた値よりも長い時間を設定してください。実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間などが含まれます。撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、設定した撮影間隔で撮影できず、その回の撮影がキャンセルされることがあります（□212）。
- 撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、設定した【撮影回数×1回のコマ数】で撮影できないことがあります。
- 設定した開始日時が現在時刻後1分以内の場合や【撮影間隔】が【00:00'00"】の場合、シャッタースピードが**bulb**（バルブ）または**-**（タイム）の場合など、インターバルタイマー撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- メモリーカードの残量がない場合、撮影時刻ごとにカウントは進みますが、実際の撮影は行われません。残量のあるメモリーカードに交換し、インターバルタイマー撮影を再開してください（□214）。
- 次の場合はインターバルタイマー撮影が一時停止状態になります。
 - 電源をOFFにして、再度ONにしたとき（電源がOFFの間にバッテリーやメモリーカードを交換しても、一時停止状態が持続します）
 - レリーズモードを☺に切り換えたとき
- インターバルタイマー撮影中にカメラの設定を変更すると、インターバルタイマー撮影が終了する場合があります。
- AFモードが**AF-S**の場合、撮影ごとにピント合わせを行います。被写体にピントが合わないときに撮影開始予定時刻を8秒過ぎると、その回の撮影をキャンセルして次の回の撮影時刻から撮影を再開します。

✔ インターバルタイマー撮影の制限について

インターバルタイマー撮影は、次の機能とは同時に使用できません：

- ライブビュー撮影（□33、48）
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影（□121）
- 微速度撮影（□217）
- カスタムメニューg4【シャッターボタンの機能】の【動画撮影】（□358）

🔧 インターバルタイマー撮影の設定について

電源をOFFにしたり、レリーズモードを切り換えたりした場合も、設定した内容は記憶されています。

🔧 撮影コマ数について

レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数が撮影されます。

インターバルタイマー撮影待機中の各種設定について

インターバルタイマー撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作や、画像の再生を行うことができます。ただし、メニュー画面や再生画面を表示している場合、撮影時刻の約4秒前に液晶モニターを消灯して、撮影に入ります。

オートブラケティングとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- インターバルタイマー撮影とオートブラケティングを同時に行う場合は、オートブラケティングを先にセットしてからインターバルタイマーを設定してください。
- インターバルタイマー撮影時にAE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティングまたはADLブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとにオートブラケティングで設定したコマ数が撮影されます。
- インターバルタイマー撮影時にWBブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとに1コマ撮影し、オートブラケティングで設定したコマ数が記録されます。

撮影メニューの切り換えとリセットについて

インターバルタイマー撮影設定画面の内容は、全ての撮影メニュー（「A」～「D」）（□281）で共通です。このため、撮影メニューの【**撮影メニューの管理**】で撮影メニューを切り換えても、インターバルタイマー撮影は続行します。また、【**撮影メニューの管理**】で撮影メニューをリセットすると、全ての撮影メニューでインターバルタイマー撮影設定が初期状態（開始方法の設定：即時スタート、撮影間隔：1分、撮影回数×1回のコマ数：1回/1コマ、露出平滑化：しない）にリセットされ、実行中のインターバルタイマー撮影は終了します。

微速度撮影する

微速度撮影では、設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます。撮影する静止画は、動画と同じ撮像範囲 (□56) で記録されます。また、記録される動画の設定は撮影メニュー [動画の設定] (□61) の [画像サイズ/フレームレート]、[動画の画質] および [動画記録先] で設定できます。

1 撮影メニューの [微速度撮影] を選ぶ

- マルチセレクターの  を押すと、微速度撮影の設定画面が表示されます。



2 微速度撮影の設定をする

- 撮影間隔 (インターバル) を設定する



[撮影間隔] を選んで  を押す



撮影間隔 (分、秒) を設定して  ボタンを押す

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードよりも長い時間を設定してください。

• 撮影時間を設定する



【撮影時間】を選んで \blacktriangleright を押す



撮影時間（時、分）を設定して、 OK ボタンを押す

- 撮影時間は、最長で7時間59分まで設定できます。

• 露出平滑化をするかどうかを選ぶ



【露出平滑化】を選んで \blacktriangleright を押す



露出平滑化をするかどうかを選んで OK ボタンを押す

- 【する】を選ぶと、明るさの変化が滑らかになり、より自然な動画を記録します。ただし、露出モードHで撮影メニュー【ISO感度設定】の【感度自動制御】が【しない】の場合、露出の平滑化は行いません。

3 【撮影開始】を選んで OK ボタンを押す

- 約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2で設定した【撮影時間】内に、設定した【撮影間隔】で撮影を繰り返します。



■■ 微速度撮影を終了するには

- 微速度撮影を終了するには、次の操作を行います。
 - 撮影待機中に撮影メニュー [微速度撮影] で [終了] を選び、**OK** ボタンを押す
 - 微速度撮影の待機状態や撮影直後の画像確認時に **OK** ボタンを押す
- 微速度撮影を終了すると、終了時点までの動画がメモリーカードに記録され、通常の撮影待機状態に戻ります。

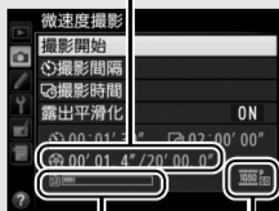
📌 微速度撮影を開始する前に

- ファインダー撮影時の露出で撮影します。試し撮りをして、画像を再生して確認することをおすすめします。
- カメラを三脚で固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、別売のパワーコネクタと AC アダプター、または十分に充電されたバッテリーをお使いください。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、アイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします (□105)。

📌 微速度撮影の記録コマ数（撮影回数）と動画の長さについて

- 手順 2 で設定する撮影時間を、設定する撮影間隔で割った数（小数点以下切り上げ）が、記録コマ数（撮影回数）の目安になります。
- 微速度撮影で記録される動画の長さは、上記の記録コマ数 ÷ [動画の設定] の [画像サイズ/フレームレート] で選んだフレームレートで計算できます（たとえば、[画像サイズ/フレームレート] (□61) が [1920×1080 24p] のときに記録コマ数が48コマの場合、記録される動画の長さは約2秒になります）。
- 最長20分の動画を記録できます。

記録時間/
最長記録時間

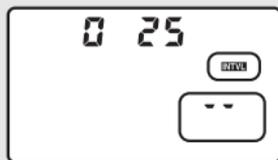


メモリーカード
使用状況

動画の画像サイズ/
フレームレート

🔪 微速度撮影の待機状態について

- 微速度撮影の待機状態では、表示パネルに **INTVL** マークが点滅し、微速度撮影中マークが点灯します。撮影直前になるとシャッタースピード表示部にその回の残りの撮影時間を表示します（時間、分）。
- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影時間を表示します。
- 待機状態で **MENU** ボタンを押すと、液晶モニターに微速度撮影画面に撮影間隔と撮影時間、露出平滑化の設定が表示されます。また、**[終了]** を選んで微速度撮影を終了できます（☞219）。



🔪 撮影直後の画像確認について

微速度撮影中は、**▶** ボタンで画像を表示することはできません。ただし、再生メニューの **[撮影直後の画像確認]**（☞277）を **[する]** にすると、撮影のたびに自動的に画像が数秒間液晶モニターに表示されます（表示だけを行い、通常の再生時の操作は無効になります）。

🔪 微速度撮影動画の記録先について

微速度撮影で撮影した動画は、撮影メニューの **[動画の設定]** の **[動画記録先]**（☞63）で選んだスロットに記録されます。

🔪 レリーズモードについて

- レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに1コマ撮影します。
- ☺ に設定していてもセルフタイマー撮影を行いません。

🔪 関連ページ

微速度撮影終了時に電子音が鳴るようにする → 🔪 d1 **[電子音設定]**（☞310）

✔ 微速度撮影についてのご注意

- 微速度撮影時には、音声は記録されません。
- 実際の微速度撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した撮影間隔で撮影できないことがあります。
- 次のような場合には、微速度撮影を開始できません。
 - 設定した [撮影時間] が [撮影間隔] より短い場合
 - [撮影時間] または [撮影間隔] が [00:00'00"] の場合
 - メモリーカードの残量がない場合
- 微速度撮影中は、**▶** ボタンを押しても画像の再生はできません。MENU ボタンを押すと [微速度撮影] 画面が表示され、その他のメニューは選択できません。
- 微速度撮影をする場合、ホワイトバランスを **AUTO** (オート) 以外に設定すると色みを固定することができます (□144)。
- 微速度撮影中は、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□308) の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになります。
- AFモードが **AF-S** の場合、撮影ごとにピント合わせを行います。被写体にピントが合わないときは、その回の撮影をキャンセルして次の回から撮影を再開します。
- 微速度撮影中にカメラの設定を変更したり、カメラの操作を行ったり、HDMI ケーブルを接続すると、終了時点までの動画を記録して微速度撮影が終了する場合があります。
- 次の場合は動画を記録せずに、微速度撮影が終了します (微速度撮影終了時の電子音は鳴りません)。
 - バッテリーやACアダプターを取り外したとき
 - メモリーカードを取り出したとき

✔ 微速度撮影の制限について

微速度撮影は、次の機能とは同時に使用できません。

- ライブビュー撮影 (□33、48)
- 長時間露出 (バルブまたはタイム) 撮影 (□121)
- オートブラケティング撮影 (□130)
- HDR (ハイダイナミックレンジ) (□180)
- 多重露出撮影 (□205)
- インターバルタイマー撮影 (□211)

非CPUレンズを使う (レンズ情報手動設定)

このカメラでは、非CPUレンズ装着時も露出モードAまたはMで撮影ができます (□417)。非CPUレンズを使用する場合、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。セットアップメニューの[レンズ情報手動設定]でレンズの情報をカメラに登録することにより、非CPUレンズを使って撮影するときに、次の機能が使用できます。

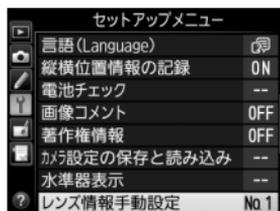
- **焦点距離を設定して使用できる機能：**
 - 別売のスピードライトのオートパワーズーム
 - 再生画面での焦点距離表示 (焦点距離に*印が付きます)
- **開放絞り値 (開放F値) を設定して使用できる機能：**
 - レンズで設定した絞り値表示 (表示パネル、ファインダー内表示)
 - スピードライトの絞り連動外部自動調光
 - 再生画面での絞り値表示 (絞り値に*印が付きます)
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定して使用できる機能：**
 - RGB マルチパターン測光 (レフレックスニッコールなど一部のレンズでは、焦点距離と開放絞り値を設定してもRGBマルチパターン測光では十分な精度が得られない場合があります。中央部重点測光またはスポット測光に設定して撮影してください)
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定すると精度が向上する機能：**
 - 中央部重点測光
 - スポット測光
 - i-TTL調光

ズームレンズまたはテレコンバーター使用時のご注意

- ズームレンズ使用時やテレコンバーター使用時など、一致する焦点距離が選択項目にないときは、装着レンズの焦点距離に最も近く、かつ大きい値を選んでください。
- テレコンバーターを使用した際の開放絞り値は、合成絞り値を設定してください。

■ レンズ情報の登録方法

- 1 セットアップメニューの【レンズ情報手動設定】を選んでマルチセクターの \blacktriangleright を押す



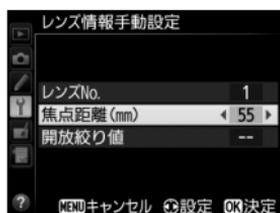
- 2 【レンズNo.】を選ぶ

- \blacktriangleleft または \blacktriangleright を押して、登録したいレンズNo.を選びます。



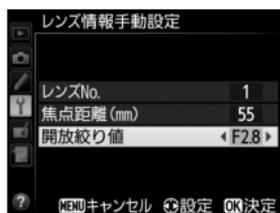
- 3 【焦点距離 (mm)】を選ぶ

- \blacktriangleleft または \blacktriangleright を押して、レンズの焦点距離を選びます。



- 4 【開放絞り値】を選ぶ

- \blacktriangleleft または \blacktriangleright を押して、レンズの開放絞り値を選びます。



- 5 OK ボタンを押して、設定を終了する

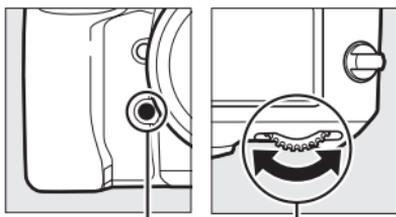
- レンズの設定が保存されて、セットアップメニュー画面に戻ります。

■ 手動設定済みレンズ情報の選択方法

1 カスタムメニュー f4 [Fnボタンの機能] の [コマンドダイヤル併用時の動作] を [手動設定済みレンズの選択] に設定する (□340)

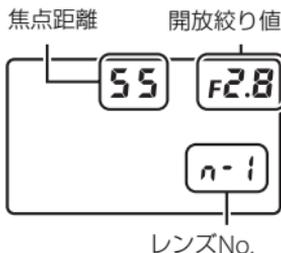
- Fnボタンとコマンドダイヤルの組み合わせに対して、レンズの選択機能が割り当てられます。

2 Fnボタンを押しながら
メインコマンドダイヤルま
たはサブコマンドダイヤル
を回す



Fnボタン メインコマンド
ダイヤル

- レンズNo.は表示パネルに表示されます。使用したいレンズの番号が表示されるまでメインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回します。



🔪 ズームレンズ装着時について

非CPUズームレンズを装着してズーミングをした場合、変化するレンズの焦点距離や開放絞り値とカメラで設定されているレンズ情報は連動しません。ズーミングを行った場合は、もう一度レンズ情報を設定してください。

🔪 関連ページ

- Pvボタンで手動設定済みレンズ情報を切り換える →
🔪 f5 [プレビューボタンの機能] (□341)
- AE/AFロックボタンで手動設定済みレンズ情報を切り換える →
🔪 f6 [AE/AFロックボタンの機能] (□342)

位置情報を画像に記録する

このカメラは、10ピンターミナル (□3) に接続したGPS機器により、位置情報を画像に記録することができます。GPS機器と通信して撮影した画像には、再生時の画像情報に位置情報のページ (□237) が追加されます。位置情報を記録するには、次の2つの方法があります。

● 別売のGPSユニットGP-1またはGP-1Aと接続する

GP-1/GP-1Aを接続すると、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC (協定世界時) を記録できます。

● 他社製のGPS機器と接続する (□439)

別売のGPS変換コードMC-35を介して、市販の対応GPS機器 (□439) と通信し、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC (協定世界時)、撮影方位を記録できます。

■ 別売のGPSユニットGP-1/GP-1Aと接続する

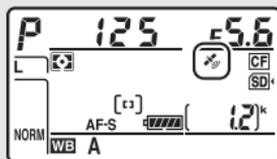
別売のGPSユニットGP-1/GP-1Aは、ニコンデジタルカメラ専用のGPS機器です。カメラとGP-1/GP-1Aの接続方法については、GP-1/GP-1Aの使用説明書をご覧ください。



🔍 GPS機器との通信について

GPS機器との通信状態は、表示パネルの衛星受信状態マーク📶で確認できます。

- 📶 (点灯) : GPS機器との通信中です。
- 📶 (点滅) : GPS機器が取得している情報が確定していないため、位置情報は記録されません。📶が点灯するまでお待ちください。
- 📶 (消灯) : GPS機器との通信が2秒以上途絶えると、📶が消灯します。この状態で撮影した画像データには位置情報は記録されません。



■ GPS機器接続時のカメラの設定について

セットアップメニューの [位置情報] を選んでマルチセレクターの  を押すと、GPS機器と接続時の半押しタイマー、取得した位置情報の表示、衛星による日時合わせを設定できます。

- [半押しタイマー] では、カメラとGPS機器を接続しているときの半押しタイマーを設定できます。

有効	カメラを操作していないときは、カスタムメニューc2 [半押しタイマー] (□308) で設定された時間でオフになります。 <ul style="list-style-type: none">• カメラのバッテリーの消費を少なくすることができます。• GP-1/GP-1Aとの接続時には、電源をONにした直後または半押しタイマーがオンになった直後は、カメラが位置情報を取得できるまで半押しタイマーがさらに最大1分間延長されます。
無効	GPS機器と接続中は、半押しタイマーがオフになりません。

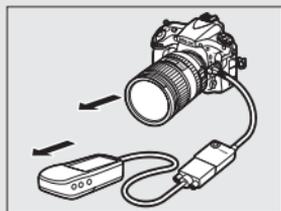
- [情報表示] では、GPS機器接続時に取得した情報を表示します。

緯度	緯度を表示
経度	経度を表示
標高	標高を表示
方位	撮影方位を表示
UTC	UTC (協定世界時) を表示。 UTC (Coordinated Universal Time = 協定世界時) は、GPS機器と接続して取得された世界標準時で、カメラで設定されている時刻とは別に記録されます。

- [衛星による日時合わせ] が [する] の場合、GPS機器接続時に取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。GPS機器を使用して日時を合わせないときは、[しない] を選んでください。

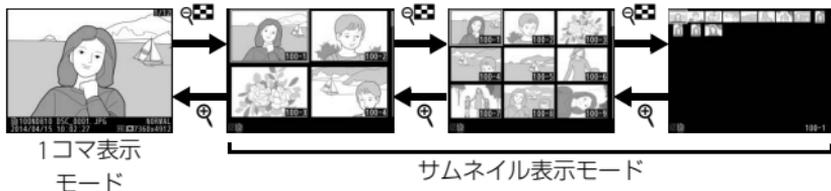
撮影方位について

- 撮影方位は、電子コンパス内蔵のGPS機器と接続して撮影した場合のみ記録されます。
- GP-1/GP-1A を接続した場合、撮影方位は記録されません。
- 撮影方位を正確に記録したい場合は、カメラからGPS機器を20cm以上離し、撮影する方位にGPS機器の向きを合わせてください。



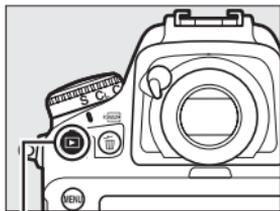
画像の再生

画像を再生する



1コマ表示モード

- ▶ ボタンを押すと、最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。
- マルチセレクターの を押すと前の画像が、 を押すと次の画像が表示されます。
- または を押すと、表示中の画像についての詳しい情報が表示されます (□230)。

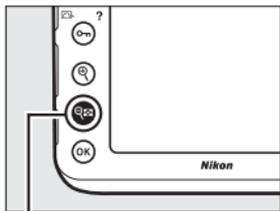


▶ ボタン

サムネイル表示モード

1コマ表示モードのときに ボタンを押すと、複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。

- 表示される画像の数は、 ボタンを押すたびに4コマ、9コマ、72コマの順に増え、 ボタンを押すたびに減ります。
- マルチセレクターの またはななめを押して画像を選びます。
- マルチセレクターの中央ボタンを押すたびに、1コマ表示とサムネイル表示が切り替わります。



ボタン

メモリーカードスロットの切り換えについて

サムネイル表示モードの72コマ表示時に \square ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定メニュー] 画面が表示されます。

- スロットを選んでマルチセレクターの \odot を押すと、選んだスロット内のフォルダーの一覧が表示されます。フォルダーを選んで \odot ボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。

縦位置で撮影した画像の場合

再生メニューの[縦位置自動回転] (\square 278) を[する]に設定すると、縦位置で撮影された画像を、右のように縦位置で再生します。



撮影直後の画像確認について

- 再生メニューの[撮影直後の画像確認] (\square 277) で[する]が設定されているときは、 \square ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に液晶モニターに表示します。
- リリースモードが**CH**、**CL**または**QC**のときは、撮影終了後に、最初のコマから順次画像を表示します。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、再生メニューの[縦位置自動回転] (\square 278) を[する]に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

\mathcal{I} ボタンを押して画像編集メニューまたは動画編集メニューを表示する
1コマ表示モードで静止画または動画を選んでから \mathcal{I} ボタンを押すと、画像編集メニューまたは動画編集メニューが表示され、選んだ画像を編集できます (\square 380)。

撮影に戻るには

シャッターボタンを半押しするか \square ボタンを押すと、液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

関連ページ

- 液晶モニターの表示時間を変更する →  c4 [モニターのパワーオフ時間] (□309)
- マルチセレクターの中央ボタンの機能を変更する →  f2 [中央ボタンの機能] (□333)
- 画像のコマ送りやメニュー操作をコマンドダイヤルで行えるようにする →  f9 [コマンドダイヤルの設定] の [再生/メニュー画面で使用] (□346)

画像情報を表示する

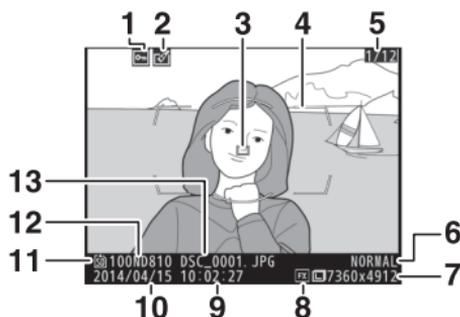
1コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を見ることができます。マルチセレクターの  または  を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。



※1 再生メニューの[再生画面設定] (□272) で設定している場合のみ表示します。

※2 GPS機器 (□225) を使用して撮影した画像の場合のみ表示します。

標準表示



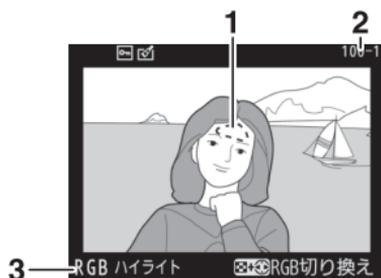
1	プロテクト設定の有無	241	8	撮像範囲	74
2	画像編集の有無	380	9	撮影時刻	17
3	フォーカスポイント※1、2	93	10	撮影日付	17
4	AFエリアフレーム※1	16	11	スロット	19
5	コマ番号/フォルダー内全画像数		12	フォルダー名	283
6	画質モード	79	13	ファイル名	286
7	画像サイズ	82			

※1 再生メニューの [再生画面設定] (□272) で [フォーカスポイント] を設定している場合のみ表示します。

※2 表示されるフォーカスポイントは、撮影時の設定により、次のように異なります。

- ファインダー撮影時のAFモードがAF-Sの場合、最初にロックしたフォーカスポイントを赤く表示します。
- ファインダー撮影時のAFモードがAF-Cで、AFエリアモード (□89) がシングルポイントAF、ダイナミックAF、3D-トラッキングまたはグループエリアAFの場合、ピントが合ったときはフォーカスポイントを赤く表示し、ピントが合っていないときは表示しません。
- ファインダー撮影時のAFモードがAF-CでAFエリアモードがオートエリアAFの場合、フォーカスポイントを表示しません。

■ ハイライト表示

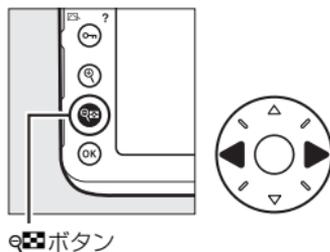


1 画像のハイライト部分（画像の中の非常に明るい部分）を各色ごとに点滅表示します*

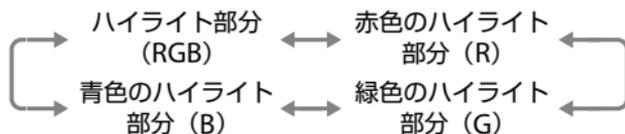
2 フォルダー番号-コマ番号283

3 ハイライト部分が点滅表示している色*

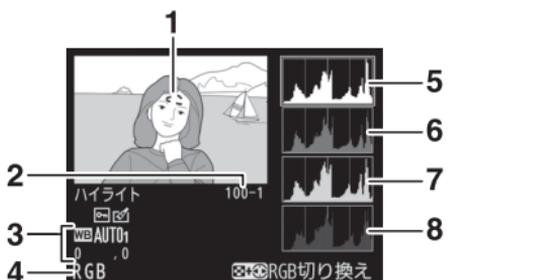
※  ボタンを押しながらマルチセレクターの  または  を押すと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。



 ボタン

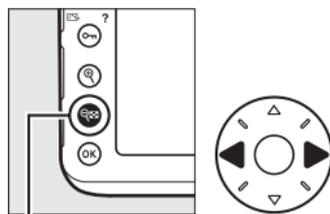


RGBヒストグラム

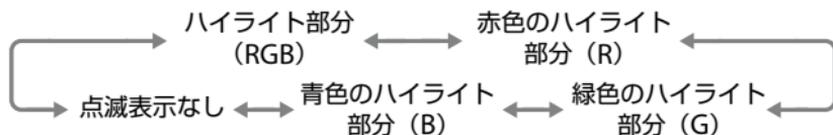


- | | |
|---|--|
| <p>1 画像のハイライト部分を各色ごとに点滅表示します※
.....232</p> <p>2 フォルダー番号-コマ番号283</p> <p>3 ホワイトバランス144
ホワイトバランス色温度150
ホワイトバランス微調整147
プリセットマニュアル153</p> | <p>4 ハイライト部分が点滅表示している色※</p> <p>5 RGBのヒストグラム</p> <p>6 赤色 (R) のヒストグラム</p> <p>7 緑色 (G) のヒストグラム</p> <p>8 青色 (B) のヒストグラム</p> |
|---|--|

※ ボタンを押しながらマルチセレクターの または を押しと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。



ボタン



拡大ヒストグラム表示について

RGBヒストグラム表示で \mathcal{Q} ボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、拡大表示中にマルチセクターを操作すると画面をスクロールして見たい部分に移動できます。 \mathcal{Q} ボタンを押すと画像を縮小表示します。



ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。
- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。



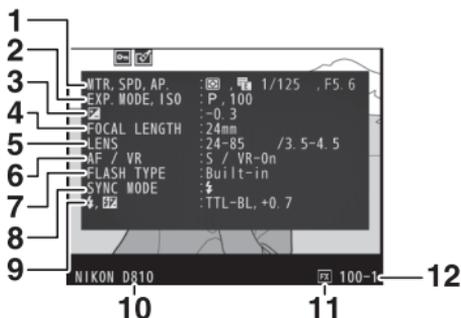
露出補正を+側にすれば山が右側に寄り、-側にすれば山が左側に寄ります。屋外などで周りが明るすぎて液晶モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

ヒストグラム表示について

- RGBヒストグラムは明るさ（輝度）を表示しています。
- ヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。

■ 撮影情報

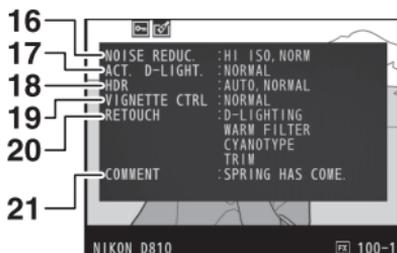
撮影時の設定の詳細を表示します。



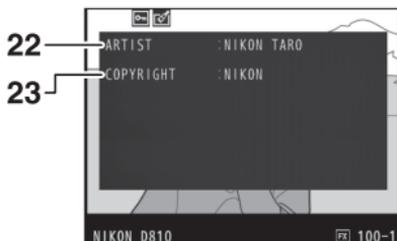
1	測光モード	112	6	フォーカスモード	86
	電子先幕シャッター	312		レンズのVR (手ブレ補正) 機能 のON/OFF※3	
	シャッタースピード	117、119	7	フラッシュの種類	185、425
	絞り値	117、119		コマンダーモードの有無	324
2	露出モード	115	8	フラッシュモード	187
	ISO感度※1	107	9	フラッシュ発光方式	322
3	露出補正值	128		フラッシュ調光補正值	192
	基準露出レベルの調節値※2	307	10	カメラ名	
4	焦点距離	222、423	11	撮像範囲	74
5	レンズ情報	222	12	フォルダー番号-コマ番号	283



13	ホワイトバランス	144	14	色空間	287
	ホワイトバランス色温度	150	15	ピクチャーコントロール※4	165
	ホワイトバランス微調整	147			
	プリセットマニュアル	153			



16	高感度ノイズ低減291	20	画像編集メニュー (□380) で行われた画像編集の内容が一覧表示されます。複数の画像編集が行われた場合は、順番に表示されます。
17	長秒時ノイズ低減290	21	画像コメント371
18	アクティブD-ライティング ... 178		
19	HDRの露出差182		
	HDRのスムージング182		
	ヴィネットコントロール288		



22	撮影者名※5372	23	著作権者名※5372
----	-----------------	----	------------------

- ※1 感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。
- ※2 カスタムメニューb7 [基準露出レベルの調節] (□307) を0以外に設定している場合のみ表示します。
- ※3 VRレンズ装着時のみ表示します。
- ※4 表示される項目は、撮影時に設定したピクチャーコントロールによって異なります。
- ※5 セットアップメニューの [著作権情報] (□372) を設定して撮影した画像の場合のみ表示します。

■■ 位置情報※1 (📖 225)



1 緯度

2 経度

3 標高

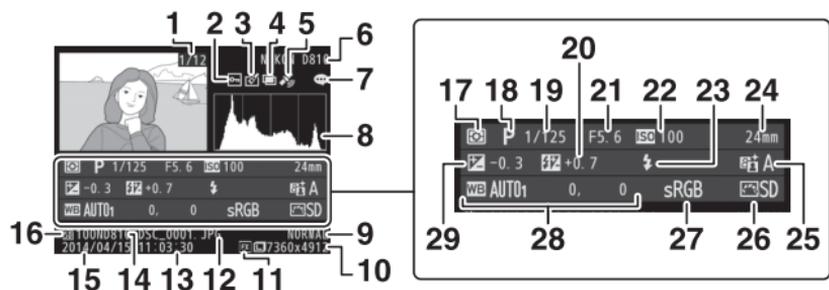
4 UTC (協定世界時)

5 撮影方位※2

※1 動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を表示します。

※2 電子コンパス内蔵のGPS機器と接続して撮影した場合のみ表示します。

■ 統合表示

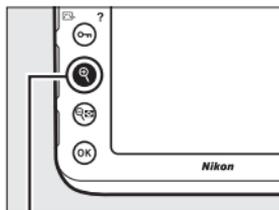


1	コマ番号/ フォルダー内全画像数		17	測光モード	112
2	プロテクト設定の有無	241	18	露出モード	115
3	画像編集の有無	380	19	シャッタースピード	117、119
4	多重露出	205	20	フラッシュ調光補正值	192
5	位置情報の有無	225		コマンダーモードの有無	324
6	カメラ名		21	絞り値	117、119
7	画像コメントの有無	371	22	ISO感度*	107
8	画像のヒストグラムを表示します (☐234)。		23	フラッシュモード	187
9	画質モード	79	24	焦点距離	222、423
10	画像サイズ	82	25	アクティブD-ライティングの強度	179
11	撮像範囲	74	26	ピクチャーコントロール	165
12	ファイル名	286	27	色空間	287
13	撮影時刻	17	28	ホワイトバランス	144
14	フォルダー名	283		ホワイトバランス色温度	150
15	撮影日付	17		ホワイトバランス微調整	147
16	スロット	85	29	プリセットマニュアル	153
				露出補正值	128

※ 感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

画像を拡大表示する

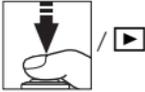
1コマ表示モードのときに \mathcal{Q} ボタンを押すと、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが**L**の場合は約46倍、**M**では約34倍、**S**では約22倍です（撮像範囲が [FX (36×24) 1.0×] の場合）。拡大表示中に人物の顔を認識した場合、最大35人までの顔を白枠で囲み、サブコマンドダイヤルを回して順次移動することができます。



\mathcal{Q} ボタン

■■ 拡大表示中の操作方法

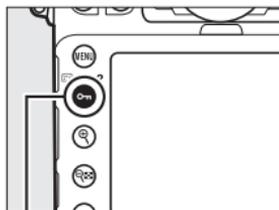
拡大率を上げる		ボタンを押すごとに拡大率が上がります。	
拡大率を下げる		ボタンを押すごとに拡大率が下がります。	拡大表示中は、画面の右下にナビゲーションウィンドウが表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。ナビゲーションウィンドウの下には拡大率を示すバーが表示され、拡大率が100%の場合、バーの色が緑で表示されます。ナビゲーションウィンドウは数秒すると消えます。
画面をスクロール（移動）させる		画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	

<p>人物の顔へ移動させる</p>		<p>拡大表示中に人物の顔を認識すると、画面右下のナビゲーションウィンドウに白枠が表示されます。サブコマンドダイヤルを回すと、認識した顔に順次移動します。</p>	
<p>前後の画像を見る</p>		<p>メインコマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の静止画を表示します（動画を選ぶと、拡大表示を終了します）。</p>	
<p>撮影に戻る</p>		<p>液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。</p>	

プロテクトで画像を削除できないように保護をする

大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、メモリーカードを初期化（フォーマット：□360）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

- マルチセクターで画像を選んで  ( / ?) ボタンを押すと、画像にプロテクトを設定します。
- プロテクトを設定した画像には  アイコンが表示されます。
- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（選択）して、  ( / ?) ボタンを押します。



 ( / ?) ボタン



プロテクトの一括解除について

画像の再生中に、  ( / ?) ボタンと  () ボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの [再生フォルダー設定] で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

画像を削除する

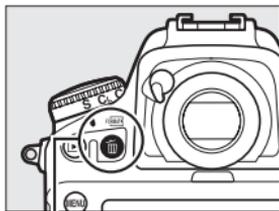
メモリーカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのをご注意ください。ただし、プロテクトおよび非表示設定されている画像は削除できません。

ボタン操作で画像を削除する

🗑️ (FORMAT) ボタンを押すと、表示中の画像を1コマ削除できます。

1 マルチセレクターで削除する画像を選んで🗑️ (FORMAT) ボタンを押す

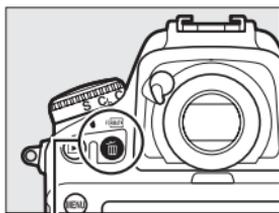
- 削除確認の画面が表示されます。
- ▶ ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。



🗑️ (FORMAT) ボタン

2 もう一度🗑️ (FORMAT) ボタンを押す

- 表示中の画像が削除されます。



🗑️ (FORMAT) ボタン

📄 関連ページ

画像の削除後に表示される画像を変更する → ▶ [削除後の次再生画像] (□□277)

複数の画像をまとめて削除する

再生メニューの「削除」では、複数の画像を一括して削除できます。たくさん画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

 選択画像削除	選択した画像を削除します。
ALL 全画像削除	[再生フォルダー設定] (□271) で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。 <ul style="list-style-type: none">メモリーカードを2枚使用している場合は、画像を削除するスロットを選択できます。

■【選択画像削除】を選んだ場合

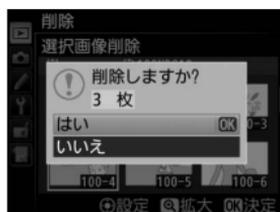
1 削除する画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選び、中央ボタンを押すと、が表示されて削除設定されます。もう一度中央ボタンを押すと解除されます。
- 削除する画像全てに設定してください。



2 画像を削除する

- OKボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で「はい」を選んでOKボタンを押すと、選択した画像が全て削除されます。



パソコン、プリンター、 テレビとの接続

ViewNX 2をインストールする

付属のソフトウェアをインストールして、画像をパソコンに取り込めば、静止画や動画の表示、編集ができます。インストールを始める前に、お使いのパソコンの環境□246の動作環境に合っているか確認してください

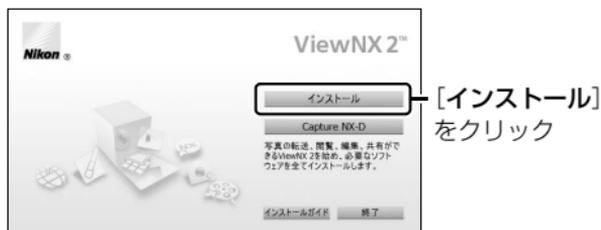
1 パソコンを起動し、ViewNX 2 CD-ROMをCD-ROMドライブに入れ、インストーラーを起動する

- 次の画面で言語を選びます。



2 インストールを開始する

- 画面の指示に従ってインストールしてください。



3 インストールを終了する

Windows



[はい] をクリック

Mac



[OK] をクリック

4 CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す

✓ 必ず最新バージョンのソフトウェアをお使いください

- お使いのカメラに対応していないバージョンのソフトウェアを使用すると、RAW画像をカメラからパソコンへ正常に転送できないことがあります。必ず最新バージョンのViewNX 2をお使いください。
- 最新版のViewNX 2は、当社ホームページ (□xx) からダウンロードしてインストールすることもできます。

📄 ニコンホームページへのアクセスについて (Windowsのみ)

ViewNX 2をインストールした後、Windowsの [スタート] メニューから [すべてのプログラム] → [Link to Nikon] の順にクリックすると、当社のホームページにアクセスできます (インターネットに接続できる環境が必要です)。

ViewNX 2の動作環境について (Windows)

プロセッサ (CPU)	<ul style="list-style-type: none">• 静止画：Intel Celeron/Pentium4/Coreシリーズ1.6GHz以上• 動画：<ul style="list-style-type: none">- 再生時：Pentium D 3.0GHz以上- 編集時：Intel Core i5以上• 1280×720ピクセル以上でフレームレート30fps以上、または1920×1080ピクセル以上で動画再生をする場合：Intel Core i5以上を推奨
OS※	Windows 8.1、Windows 7、Windows Vista <ul style="list-style-type: none">• 全てプリインストールされているモデルに対応
実装メモリー (RAM)	<ul style="list-style-type: none">• 32ビット版 Windows 8.1、Windows 7、Windows Vista：1 GB 以上 (2 GB以上推奨)• 64ビット版 Windows 8.1、Windows 7、Windows Vista：2 GB 以上 (4 GB以上推奨)
ハードディスク	OS起動ディスクの空き容量が1 GB以上 (3 GB以上推奨)
モニター	<ul style="list-style-type: none">• 解像度：1024×768ピクセル (XGA) 以上 (1280×1024ピクセル以上推奨)• 表示色数：24ビットカラー以上
インターフェース (USB)	標準装備された USB ポートが必要です。ハブを介してカメラとパソコンを接続すると、正しく動作しないことがあります。

※ 対応OSに関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報 (□xx) でご確認ください。

ViewNX 2の動作環境について (Mac)

プロセッサ (CPU)	<ul style="list-style-type: none">• 静止画：Intel Coreシリーズ/Xeonシリーズ• 動画：<ul style="list-style-type: none">- 再生時：Core Duo 2GHz以上- 編集時：Intel Core i5以上• 1280×720ピクセル以上でフレームレート30fps以上、 または1920×1080ピクセル以上で動画再生をする場合： Intel Core i5以上を推奨
OS*	OS X 10.9、10.8、10.7
実装メモリー (RAM)	2 GB以上 (4 GB以上推奨)
ハードディスク	OS起動ディスクの空き容量が1 GB以上 (3 GB以上推奨)
モニター	<ul style="list-style-type: none">• 解像度：1024×768ピクセル (XGA) 以上 (1280×1024ピクセル以上推奨)• 表示色数：1670万色以上
インターフェース (USB)	標準装備された USB ポートが必要です。ハブを介してカメラとパソコンを接続すると、正しく動作しないことがあります。

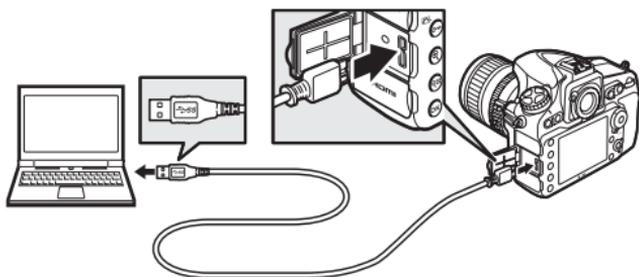
※ 対応OSに関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報 (□xx) でご確認ください。

ViewNX 2を使う

パソコンに画像を取り込む

1 パソコンに接続する

- メモリーカードを入れたカメラの電源をOFFにしてから、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続し、カメラの電源をONにします。



2 ViewNX 2のNikon Transfer 2が起動する

- 起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2を選びます。

3 画像をパソコンに取り込む

- [転送開始] をクリックすると、記録されている画像がパソコンに取り込まれます（ViewNX 2の初期設定）。



[転送開始]

4 接続を解除する

- カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜きます。

Windows 7をお使いの場合

図のような画面が表示されたときは、次の手順でNikon Transfer 2を選びます。

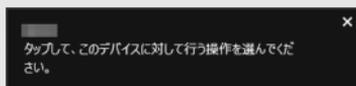
- 1 [画像とビデオのインポート] で使用するプログラムにNikon Transfer 2を選ぶ
 - [画像とビデオのインポート] の [プログラムの変更] をクリックすると表示される画面で、[画像ファイルを取り込む -Nikon Transfer 2使用] を選んで、[OK] をクリックします。
- 2 [画像ファイルを取り込む] をダブルクリックする



Windows 8.1をお使いの場合

Windows 8.1の設定によっては、図のようなダイアログが表示されます。この場合は次の手順でNikon Transfer 2を選びます。

- 1 ダイアログをクリックする
- 2 [画像ファイルを取り込む -Nikon Transfer 2] をクリックする



ViewNX 2を手動で起動するには

- Windows : デスクトップの [ViewNX 2] のショートカットアイコンをダブルクリックする
- Mac : Dockの [ViewNX 2] アイコンをクリックする

ViewNX 2の詳しい使い方は

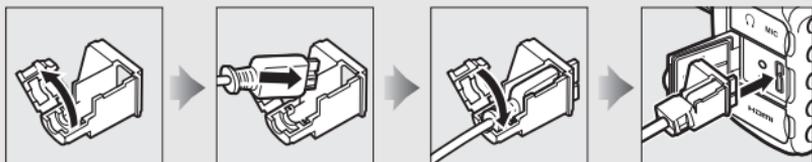
ViewNX 2のヘルプを参照してください。

✔ パソコンとの接続時のご注意

- カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源を OFF にしたり、USB ケーブルを抜いたりしないでください。
- ケーブルを接続するときは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。
- カメラとパソコンを接続するときは、十分に充電されたバッテリーをお使いになることをおすすめします。

✍ USBケーブルクリップについて

付属のUSBケーブルクリップを取り付けると、カメラからUSBケーブルが不用意に外れることを防ぐことができます。



✔ USBハブについて

USBハブを使ってカメラをパソコンやプリンターに接続すると、正しく動作しないことがあります。

✍ 画像を編集するには

Capture NX-Dを使用すると、パソコンに取り込んだ画像を編集したり、RAW現像したりできます。また、イメージダストオフ機能を使用してRAW画像からゴミの写り込みを取り除くこともできます。

- Capture NX-Dは、ViewNX 2インストーラー（□244）に表示されているリンクからダウンロードしてインストールできます。

有線LAN/無線LANを使ってパソコンに画像を転送する

このカメラは、別売の通信ユニットUT-1 (□435) をカメラに付属のUSBケーブルで接続することにより、有線LANでパソコンやFTPサーバーと通信できます。さらに、UT-1にワイヤレストランスミッターWT-5 (□435) を取り付けると、無線LANで通信を行えます。

■ 有線LAN/無線LAN接続時に使える機能

FTP画像送信モード	メモリーカードに記録した静止画および動画や、撮影直後の静止画をパソコンやFTPサーバーに保存できます。
PC画像送信モード	
カメラコントロールモード	別売のCamera Control Pro 2で、カメラをコントロールしたり、撮影した静止画および動画をパソコンに保存できます。
HTTPサーバーモード	パソコンやiPhoneのWebブラウザからメモリーカードに記録した画像などの閲覧やリモート撮影ができます。

- UT-1 およびWT-5の使用方法については、各製品の使用説明書をよくお読みください。
- UT-1 およびWT-5のファームウェアや関連するソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。

✔ 画像転送状態でのご注意

画像転送状態のときは、動画の記録および再生はできません。(画像転送状態とは、UT-1が接続されており、画像を転送中、または、転送予定の画像が残っている状態のことです)。

✔ HTTPサーバーモードについて

HTTPサーバーモードでは、カメラ本体での動画の記録および再生はできません。

✍ 動画の転送について

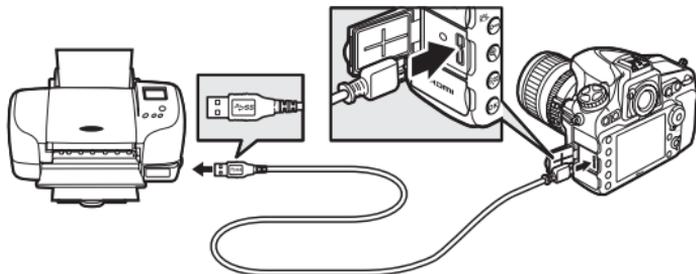
動画は画像送信モードでパソコンに転送できます。ただし、[オプション]の[撮影後自動送信] および [フォルダー送信] で動画を転送することはできません。

画像をプリンターで印刷する

PictBridge（ピクトブリッジ：□481）対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを付属のUSBケーブルで直接接続してメモリーカード内の画像をプリントできます（ダイレクトプリント）。

カメラとプリンターを接続する

USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐ差し込んでください。



- カメラとプリンターの電源をONにすると、液晶モニターにPictBridgeのロゴが表示された後、撮影された画像が表示されます。

☑️ ダイレクトプリントの前に

- ダイレクトプリント時は、残量が充分にあるバッテリーをお使いください。別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いになることをおすすめします。
- 直接プリントする画像は、撮影メニューの【色空間】を【sRGB】に設定して撮影してください（□287）。

☑️ USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証していません。

☑️ ダイレクトプリントについてのご注意

- RAW画像およびTIFF画像（□79）はダイレクトプリントできません。RAW画像の場合は画像編集メニューの【RAW現像】（□394）で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- 【フチ設定】と【範囲指定】は、それぞれの機能に対応していないプリンターでは選べません。なお、【範囲指定】で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

1コマだけプリントする

1 プリントしたい画像を選んで \odot ボタンを押す

- マルチセクターの \odot または \odot を押してプリントしたい画像を選びます。
- 1コマ表示中に \odot ボタンを押すと、表示中の画像を拡大表示します (□239)。マルチセクターの**中央**ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- マルチセクターの**中央**ボタンを押してサムネイル表示に切り換えて、画像を選ぶことができます。もう一度**中央**ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- 6コマ表示中に \odot ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定メニュー] 画面が表示されます (□228)。

2 プリント設定の項目を設定する

- [プリント設定] 画面で設定したい項目を選んで \odot を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。設定方法については、「プリント設定項目について」(□254)をご覧ください。

3 プリントを開始する

- [プリント実行] を選んで、 \odot ボタンを押すとプリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度 \odot ボタンを押してください。

■ ■ プリント設定項目について

用紙設定※	プリントする用紙のサイズを選んで OK ボタンを押します。プリンターが対応する用紙サイズのみが表示されます。
枚数指定	プリントする枚数（1～99枚）を設定して OK ボタンを押します。
フチ設定※	[あり]を選んで OK ボタンを押すと、画像にフチを付けてプリントします。
日付プリント※	[あり]を選んで OK ボタンを押すと、画像に日付をプリントします。
範囲指定	[する]を選んで、マルチセレクターの OK を押すと、[範囲指定]画面が表示されます。プリント範囲（黄色の枠）は OK ボタンを押すと狭くなり、 OK ボタンを押すと広がります。マルチセレクターを操作するとプリント範囲が移動します。プリント範囲を決定するには OK ボタンを押します。

※ プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に[プリンターの設定]を選んでください。

複数の画像をプリントする

1 カメラとプリンターを接続し (□252)、撮影した画像が表示されたらMENUボタンを押す

2 プリント方法を選んで、プリントする画像や枚数を設定する

- プリント方法を選んでマルチセクターの▶を押します。

プリント 画像選択	<p>プリントする画像と枚数を選んでプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">• マルチセクターを操作してプリントする画像を選び、OK (□/?) ボタンを押しながら▶または◀を押して枚数 (1 ~ 99 枚) を設定して、OK ボタンを押します。• ESC ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定メニュー] 画面が表示されます (□228)。• Q ボタンを押している間は、選択中の画像を拡大表示します。• プリントしない画像は枚数を0にします。
DPOF プリント	<p>再生メニューの [プリント指定 (DPOF)] (□257) で設定した画像をプリントします。プリント指定した画像と枚数を確認してからOK ボタンを押します。</p>
INDEX プリント	<p>メモリーカードの中のJPEG画像 (□79) を一覧できる「インデックス」をプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">• [INDEXプリント]画面が表示されたら、OK ボタンを押します。• インデックスプリントできるのは256コマまでです。メモリーカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります (確認画面が表示されます)。• 用紙サイズによってはプリントできない場合があります (警告メッセージが表示されます)。

3 プリント設定の項目を設定する

- [プリント設定] 画面で設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。[用紙設定]、[フチ設定]、[日付プリント] を設定できます。設定方法については、「プリント設定項目について」(□254) をご覧ください。

4 プリントを開始する

- [プリント実行] を選んでOKボタンを押すと、プリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度OKボタンを押してください。

関連ページ

プリント時のエラーについては、「警告メッセージ」(□470) をご覧ください。

プリントしたい画像を指定する（プリント指定）

メモリーカードをプリンターのカードスロットに挿入して印刷するときや、プリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼するとき、またはカメラとプリンターを直接接続してダイレクトプリントするとき（□252）に、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定できます（プリンターやプリントサービス店がDPOF規格に対応している必要があります）。プリント指定の方法は次の通りです。

- 1 再生メニューの【プリント指定（DPOF）】で【設定】を選んでマルチセクターの▶を押す



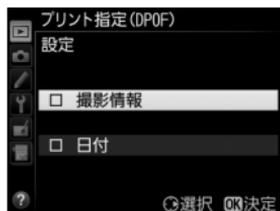
2 プリントする画像と枚数を設定する

- マルチセクターを操作してプリントする画像を選び、（/?）ボタンを押しながらまたはを押して枚数（1～99枚）を設定して、ボタンを押します。
- ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定メニュー] 画面が表示されます（□228）。
- ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- プリントしない画像は枚数を0にします。



3 プリント指定の項目を設定する

- 指定した画像全てに撮影情報や日付をプリントしたい場合は、【撮影情報】または【日付】を選び、▶を押してチェックボックスをオンにします。



4 ボタンを押して、プリント指定を終了する

▼ プリント指定についてのご注意

- ダイレクトプリント時には、[プリント指定 (DPOF)] の [撮影情報] と [日付] の設定は無効になります。ダイレクトプリントで日付をプリントしたい場合は、ダイレクトプリントの [日付プリント] を [あり] にしてください。
- メモリーカードの残量が充分にないときは、プリント指定ができない場合があります。
- RAW画像 (□79) は、プリント指定ができません。画像編集メニューの [RAW現像] (□394) で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- プリント指定を行ったメモリーカード内のデータを、このカメラ以外で削除しないでください。正しくプリントできなくなる場合があります。

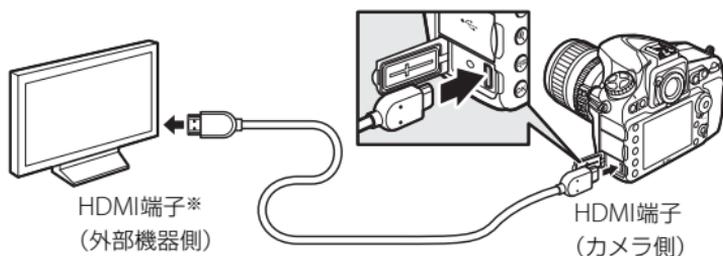
✎ 設定したプリント指定を一括で解除したいときは

前ページの手順1の画面で [一括解除] を選ぶと、[プリント指定 (DPOF)] で設定した内容を全て解除します。

画像をテレビで見る

HDMIケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する

カメラをHDMI端子のあるハイビジョンテレビなどと接続することができます。接続には、別売のHDMI端子用ケーブル（□435）または市販のHDMI端子用ケーブル（Type C）が必要です。別途お買い求めください。HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

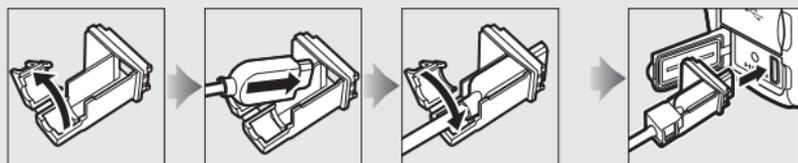


※ 使用する外部機器の端子に合ったケーブルをお使いください。

- テレビの入力をHDMI入力に切り換え、カメラの電源をONにして▶ボタンを押すと、撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- テレビで動画を再生するときは、音量をテレビ側で調節してください。カメラ側では音量調節できません。

🔪 HDMIケーブルクリップについて

付属のHDMIケーブルクリップを取り付けると、カメラから別売のHDMIケーブルが不用意に外れることを防ぐことができます（HDMIケーブルクリップは、市販のHDMI端子用ケーブルには取り付けられません）。



HDMI対応機器との接続時の設定を変更する

セットアップメニューの [HDMI] (□359) で、HDMI対応機器との接続時の設定を変更できます。

■ 出力解像度

HDMI対応機器への出力解像度を設定できます。

- [出力解像度] が [オート] の場合、出力先の映像信号形式を自動的に検出します。



■ 詳細設定

出力レンジ	<p>ビデオ信号の色階調の入力範囲 (RGBレンジ) は、HDMI対応機器によって異なります。通常は、HDMI対応機器に合わせて自動で出力レンジを切り換える [オート] をお使いください。HDMI対応機器のRGBレンジを識別できない場合は、次のいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• リミテッドレンジ : RGBレンジが16~235の機器に適しています。画面で黒色がつぶれて表示される場合に選びます。• フルレンジ : RGBレンジが0~255の機器に適しています。黒色が明るく表示されたり、薄く表示されたりする場合に選びます。
出力画面サイズ	<p>HDMI対応機器の画面に出力する範囲を、95%と100%から選びます (いずれも上下左右とも)。</p>
ライブビュー時の情報表示	<p>HDMI接続してライブビュー撮影をするときに、HDMI対応機器に撮影情報を表示するかどうかを設定します。[しない] の場合は、撮影情報が表示されません。</p>
モニターの同時表示	<p>HDMI対応機器との接続時に、カメラの液晶モニターを点灯するかどうかを設定します。[しない] を選ぶと、液晶モニターが消灯するため、カメラのバッテリーの消費を少なくすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none">• [ライブビュー時の情報表示] が [しない] の場合、[モニターの同時表示] は [する] に固定されます。

HDMIとは

High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。このカメラでは別売のHDMI端子ケーブル（Type C）を使ってHDMI対応機器と接続できます（□435）。

テレビでの画像の再生について

- 画像の再生方法は、液晶モニターで再生するときと同じです。
- テレビ画面では、画像の周辺部が一部ケラレて表示される場合があります。その場合は、セットアップメニュー [HDMI] → [詳細設定] → [出力画面サイズ]（□260）を [95%] に設定してください。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いになることをおすすめします。

HDMIケーブル接続時のライブビュー撮影と動画撮影について

- HDMIケーブルでカメラとテレビをつなぐと、テレビ画面を見ながらライブビュー撮影や動画撮影を行えます（□36、59）。
- [画像サイズ/フレームレート]（□61）を [1920×1080 60p] に設定して動画を記録しながらHDMI出力するには、次の条件を全て満たす必要があります。
 - [HDMI] > [出力解像度] : [オート] または [1080p (プログレッシブ)]
 - [HDMI] > [詳細設定] > [出力画面サイズ] : [100%]
 - [HDMI] > [詳細設定] > [ライブビュー時の情報表示] : [しない]
- その他の設定にした場合、動画記録中に [HDMI]（□260）の [出力解像度] や [出力画面サイズ] の設定、フレームレートが変更されてHDMI出力されることがあります。

メニューガイド

初期設定一覧

再生、撮影、カスタム、セットアップの各メニューの初期設定は次の通りです。ツールボタンリセット (□202)、撮影メニューのリセット (□282)、またはカスタムメニューのリセット (□296) を行うと、それぞれの項目の設定をリセットできます。ツールボタンリセットで初期設定に戻る項目については、「ツールボタンリセットで基本的な機能を初期設定に戻す」(□202) をご覧ください。

■ 再生メニューの初期設定

再生メニュー項目	初期設定
[再生フォルダー設定] (□271)	ND810
[撮影直後の画像確認] (□277)	しない
[削除後の次再生画像] (□277)	後ろのコマ
[縦位置自動回転] (□278)	する
[スライドショー] (□278)	
[再生画像の種類] (□278)	静止画と動画
[インターバル設定] (□278)	2秒

■ 撮影メニューの初期設定

ご購入時の設定に戻すには、撮影メニューの「**撮影メニューの管理**」で撮影メニューのリセットを行います (☐281)。

撮影メニュー項目	初期設定
[撮影メニューの拡張] (☐282)	しない
[ファイル名設定] (☐286)	DSC
[主スロットの選択] (☐85)	SDスロット
[副スロットの機能] (☐85)	順次記録
[画質モード] (☐79)	NORMAL
[JPEG/TIFF記録] (☐286)	
[画像サイズ] (☐82)	サイズL
[JPEG圧縮] (☐81)	サイズ優先
[RAW記録] (☐286)	
[画像サイズ] (☐82)	サイズL
[RAW圧縮] (☐81)	ロスレス圧縮RAW
[記録ビットモード] (☐81)	14ビット記録
[撮像範囲] (☐74)	
[撮像範囲設定] (☐74)	FX (36×24) 1.0×
[DX自動切り換え] (☐75)	する
[ホワイトバランス] (☐144)	オート：標準
微調整値 (☐147)	A-B: 0、G-M: 0
色温度設定 (☐150)	5000K
プリセットマニュアル (☐153)	d-1
[ピクチャーコントロール] (☐165)	スタンダード
[色空間] (☐287)	sRGB
[アクティブD-ライティング] (☐178)	しない
[HDR (ハイダイナミックレンジ)] (☐180)	
[HDRモード] (☐181)	しない
[露出差] (☐182)	オート
[スムージング] (☐182)	標準
[ヴェネットコントロール] (☐288)	標準
[自動ゆがみ補正] (☐289)	しない
[長秒時ノイズ低減] (☐290)	しない
[高感度ノイズ低減] (☐291)	標準

撮影メニュー項目	初期設定
[ISO感度設定] (□107)	
[ISO感度] (□107)	100
[感度自動制御] (□109)	しない
[多重露出] (□205)*	
[多重露出モード] (□206)	しない
[コマ数] (□207)	2
[自動ゲイン補正] (□207)	する
[インターバルタイマー撮影] (□211)	設定解除
開始方法の設定 (□211)	即時スタート
撮影間隔 (□212)	1分
撮影回数×1回のコマ数 (□212)	0001×1
露出平滑化 (□212)	しない
[微速度撮影] (□217)	設定解除
撮影間隔 (□217)	5秒
撮影時間 (□218)	25分
露出平滑化 (□218)	する
[動画の設定] (□61)	
[画像サイズ/フレームレート] (□61)	1920×1080 60p
[動画の画質] (□61)	標準
[マイク感度] (□62)	マイク感度 オート
[録音帯域] (□63)	広帯域
[風切り音低減] (□63)	しない
[動画記録先] (□63)	SDスロット
[動画ISO感度設定] (□64)	Mモード時のISO感度 設定：100、 Mモード時の感度自動 制御：しない、 制御上限感度：12800

※ 多重露出撮影中は、1コマ目を撮影してから解除されるまで撮影メニューはリセットできません。

■ カスタムメニューの初期設定

ご購入時の設定に戻すには、カスタムメニューの「**カスタムメニューの管理**」でカスタムメニューのリセットを行います (□295)。*

カスタムメニュー項目		初期設定
a1	[AF-Cモード時の優先] (□297)	リリース
a2	[AF-Sモード時の優先] (□297)	フォーカス
a3	[AFロックオン] (□298)	3 (標準)
a4	[半押しAFレンズ駆動] (□298)	する
a5	[フォーカスポイント表示] (□299)	
	[マニュアルフォーカス時の表示]	する
	[ダイナミックAFモード時の表示]	しない
	[グループエリアAFモード時の表示]	⊕
a6	[フォーカスポイント照明] (□300)	オート
a7	[フォーカスポイント循環選択] (□300)	しない
a8	[AF点数切り換え] (□301)	51点
a9	[縦/横位置フォーカス切換] (□302)	しない
a10	[内蔵AF補助光の照射設定] (□303)	する
a12	[AFモードの制限] (□304)	制限しない
b1	[ISO感度設定ステップ幅] (□305)	1/3 段
b2	[露出設定ステップ幅] (□305)	1/3 段
b3	[露出・調光補正ステップ幅] (□305)	1/3 段
b4	[露出補正簡易設定] (□306)	しない
b5	[マルチパターン測光] (□307)	顔認識する
b6	[中央部重点測光範囲] (□307)	φ 12 mm
b7	[基準露出レベルの調節] (□307)	
	[マルチパターン測光]	0
	[中央部重点測光]	0
	[スポット測光]	0
	[ハイライト重点測光]	0

カスタムメニュー項目		初期設定
c1	[半押しAEロック] (□308)	しない
c2	[半押しタイマー] (□308)	6秒
c3	[セルフタイマー] (□308)	
	[時間]	10秒
	[撮影コマ数]	1コマ
	[連続撮影間隔]	0.5秒
c4	[モニターのパワーオフ時間] (□309)	
	[画像の再生]	10秒
	[メニュー表示]	1分
	[インフォ画面表示]	10秒
	[撮影直後の画像確認]	4秒
	[ライブビュー表示]	10分
d1	[電子音設定] (□310)	
	[音量]	電子音なし
	[音の高さ]	低音
d2	[低速連続撮影速度] (□311)	3コマ/秒
d3	[連続撮影コマ数] (□311)	100
d4	[露出ディレーモード] (□311)	しない
d5	[電子先幕シャッター] (□312)	無効
d6	[連番モード] (□313)	する
d7	[ファインダー内格子線表示] (□314)	しない
d8	[ISO感度表示と簡易設定] (□314)	しない
d9	[インフォ画面のガイド表示] (□314)	ガイド表示する
d10	[インフォ画面の表示設定] (□315)	自動
d11	[イルミネーター点灯] (□316)	しない
d12	[MB-D12電池設定] (□316)	アルカリ単3形電池
d13	[電池の使用順序] (□318)	MB-D12から

カスタムメニュー項目		初期設定
e1	[フラッシュ撮影同調速度] (□319)	1/250 秒
e2	[フラッシュ時シャッタースピード制限] (□321)	1/60 秒
e3	[内蔵フラッシュ発光] / [外付けフラッシュ発光] (□322)	TTLモード
e4	[フラッシュ使用時の露出補正] (□329)	全体を補正
e5	[モデリング発光] (□330)	する
e6	[オートブラケットングのセット] (□330)	AE・フラッシュ ブラケットング
e7	[BKT変化要素 (Mモード)] (□331)	フラッシュ・ シャッタースピード
e8	[BKTの順序] (□332)	[0] → [-] → [+]
f1	[※スイッチの機能] (□333)	※の点灯/消灯
f2	[中央ボタンの機能] (□333)	
	[撮影モード]	フォーカスポイント 中央リセット
	[再生モード]	1コマとサムネイルの 切り換え
	[ライブビュー]	フォーカスポイント 中央リセット
f3	[マルチセレクターの半押し起動] (□335)	しない
f4	[Fnボタンの機能] (□336)	
	[押し時の動作] (□336)	ファインダー内水準器
	[コマンドダイヤル併用時の動作] (□340)	設定しない
f5	[プレビューボタンの機能] (□341)	
	[押し時の動作]	プレビュー
	[コマンドダイヤル併用時の動作]	設定しない
f6	[AE/AFロックボタンの機能] (□342)	
	[押し時の動作]	AE-L/AF-L
	[コマンドダイヤル併用時の動作]	設定しない
f7	[シャッタースピードと絞り値のロック] (□342)	
	[シャッタースピードのロック]	しない
	[絞り値のロック]	しない
f8	[BKTボタンの機能] (□343)	オートブラケットング

カスタムメニュー項目		初期設定
f9	[コマンドダイヤルの設定] (□344)	
	[回転方向の変更] (□344)	露出補正の設定時： <input type="checkbox"/> シャッタースピード/ 絞り値の設定時： <input type="checkbox"/>
	[メインとサブの入れ換え] (□345)	露出設定：しない、 AF設定：しない
	[絞り値の設定方法] (□345)	サブコマンドダイヤル
	[再生/メニュー画面で使用] (□346)	しない
	[サブコマンドダイヤルで画像送り] (□346)	10 コマ
f10	[ボタンのホールド設定] (□347)	しない
f11	[カードなし時リリース] (□348)	リリース許可
f12	[インジケータの+/-方向] (□348)	
f13	[動画撮影ボタンの機能] (□349)	
	[コマンドダイヤル併用時の動作]	設定しない
f14	[ライブビューボタンの設定] (□350)	有効
f15	[MB-D12のAF-ONボタン機能] (□351)	AF-ON
f16	[リモコン (WR) のFnボタンの機能] (□352)	設定しない
f17	[レンズのフォーカス作動ボタン機能] (□353)	AF-L
g1	[Fnボタンの機能] (□355)	
	[押し時の動作]	設定しない
g2	[プレビューボタンの機能] (□356)	
	[押し時の動作]	インデックスマーキング
g3	[AE/AFロックボタンの機能] (□357)	
	[押し時の動作]	AE-L/AF-L
g4	[シャッターボタンの機能] (□358)	静止画撮影

※ 初期設定に戻るのは、カスタムメニューの [カスタムメニューの管理] (□295) で選択されているカスタムメニュー (「A」～「D」のいずれか) の内容だけです。

■ セットアップメニューの初期設定

セットアップメニュー項目	初期設定
[モニターの明るさ] (□362)	0
[モニターのカラークスタマイズ] (□363)	A-B: 0、G-M: 0
[イメージセンサークリーニング] (□443)	
[電源スイッチに連動] (□444)	電源ONとOFFで実行
[フリッカー低減] (□366)	オート
[地域と日時] (□367)	
[夏時間の設定]	しない
[縦横位置情報の記録] (□368)	する
[HDMI] (□260)	
[出力解像度]	オート
[詳細設定]	
[出力レンジ]	オート
[出力画面サイズ]	100%
[ライブビュー時の情報表示]	しない
[モニターの同時表示]	する
[位置情報] (□226)	
[半押しタイマー]	有効
[衛星による日時合わせ]	する
[Eye-Fi送信機能] (□378)	有効

▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能

MENU ボタンを押して、タブの▶アイコンを選ぶと、再生メニューが表示されます。



再生メニュー項目一覧

再生メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目		メニュー項目	
削除	243	撮影直後の画像確認	277
再生フォルダー設定	271	削除後の次再生画像	277
非表示設定	271	縦位置自動回転	278
再生画面設定	272	スライドショー	278
画像コピー	273	プリント指定 (DPOF)	257

📄 関連ページ

「再生メニューの初期設定」(□262)

再生フォルダー設定

MENUボタン → 再生メニュー

画像はメモリーカード内のフォルダーに保存されます。
画像の再生 (□227) 時に表示するフォルダーを設定します。

ND810	D810で作成された全てのフォルダー内の画像を再生します。
全てのフォルダー	メモリーカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。
記録中のフォルダー	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。

非表示設定

MENUボタン → 再生メニュー

非表示設定した画像は、非表示設定画面以外では表示されません。

1 [設定] を選ぶ

- [設定] を選んでマルチセクターの
▶を押すと、画像の選択画面が表示されます。



2 非表示する画像を選ぶ

- マルチセクターを操作して画像を選び、**中央ボタン**を押して設定します。設定するとが表示されます。もう一度**中央ボタン**を押すと、が消えます。
- 非表示にする画像全てに設定してください。
- ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。ボタンを放すと元に戻ります。
- ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定メニュー] 画面が表示されます (□228)。



3 設定を完了する

-  ボタンを押して、設定を終了します。

非表示設定についてのご注意

- メモリーカードを初期化すると、非表示設定した画像も削除されますのでご注意ください。
- プロテクトと非表示の両方を設定した画像の非表示設定を解除すると、プロテクト設定も解除されます。

設定した非表示設定を一括で解除したいときは

[非表示設定] 画面で [一括解除] を選ぶと、[非表示設定] で設定した内容を全て解除します。

再生画面設定

MENUボタン →  再生メニュー

標準表示画面 (□231) で、選んだフォーカスポイントまたはピント合わせに使用したフォーカスポイントを表示するかどうかを設定できます。また、1コマ表示時の画像情報表示に、画像のみ表示、ハイライト表示、RGBヒストグラム表示、撮影情報表示、統合表示を追加します。

- 追加したい項目を選び、マルチセレクターの  を押してチェックボックスをオン にします。もう一度  を押すと、チェックボックスがオフ になります。
-  ボタンを押すと、設定を完了します。

画像コピー

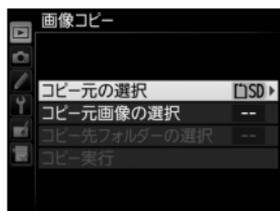
MENUボタン → 再生メニュー

メモリーカードを2枚使用しているときに、メモリーカード内の画像をもう一方のメモリーカードにコピーできます。

コピー元の選択	コピーしたい画像があるスロットを選びます。
コピー元画像の選択	コピーしたい画像を選びます。
コピー先フォルダーの選択	〔コピー元の選択〕で選ばなかったスロットにあるフォルダーを画像のコピー先として選びます。
コピー実行	コピーを実行します。

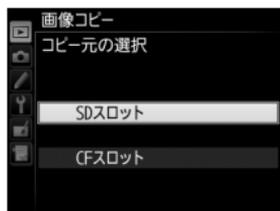
■ 画像のコピー方法

1 〔コピー元の選択〕を選んでマルチセクターの を押す



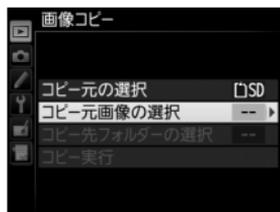
2 コピーしたい画像があるスロットを選ぶ

- コピーしたい画像が入っているカードのスロットを選んで  ボタンを押すと、〔画像コピー〕画面に戻ります。



3 〔コピー元画像の選択〕を選ぶ

- 〔コピー元画像の選択〕を選んで  を押すと、〔コピー元画像の選択〕画面が表示されます。



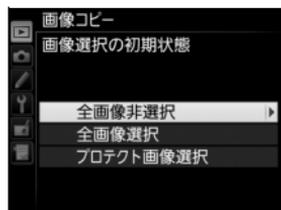
4 コピー元画像があるフォルダーを選ぶ

- コピー元画像のあるフォルダーを選んで
Ⓛを押すと、[画像選択の初期状態] 画面が表示されます。



5 画像の選択方式を選ぶ

- コピー画像の選び方は、次の3通りがあります。



全画像非選択	フォルダー内の全ての画像が選ばれていない状態で表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• コピーする画像を1枚ずつ自分で選びたい場合に適しています。
全画像選択	フォルダー内の全ての画像が選ばれた状態で表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• フォルダー内の全画像をコピーしたい場合に適しています。
プロテクト画像選択	フォルダー内のプロテクトされている画像だけが選ばれた状態で表示されます。

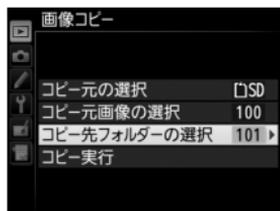
6 コピーする画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選んで中央ボタンを押すと、✓が表示されます。もう一度中央ボタンを押すと、✓が消えます。
- Ⓜボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- コピーしたい全ての画像に✓を入れてからⓂボタンを押すと、[画像コピー] 画面に戻ります。



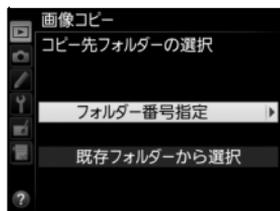
7 [コピー先フォルダーの選択] を選ぶ

- [コピー先フォルダーの選択] を選んで  を押すと、[コピー先フォルダーの選択] 画面が表示されます。



8 コピー先フォルダーの選択方法を選ぶ

- コピー先フォルダーの選択方法を選んで  を押します。



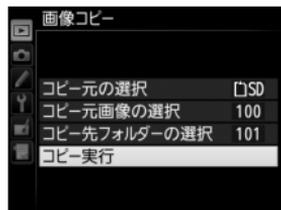
フォルダー番号指定	コピー先のフォルダー番号を入力して指定します (□□283)。指定したフォルダー番号のフォルダーがない場合は、フォルダーを新規作成します。	 <p>The screenshot shows the 'Folder number designation' screen with a numeric keypad. The number '101' is entered. At the bottom, there are buttons for 'Move', 'Settings', and 'Decision', and a range indicator '100~999'.</p>
既存フォルダーから選択	既存フォルダーの一覧表示から、コピー先フォルダーを選びます。	 <p>The screenshot shows the 'Select from existing folders' screen with a list of folders: '100ND810', '101ND810', '102ND810', and '103ND810'. The '101ND810' folder is highlighted.</p>

9 コピー先フォルダーを選ぶ

- それぞれの画面で、フォルダー番号を指定または選んで  ボタンを押すと、コピー先フォルダーを設定して [画像コピー] 画面に戻ります。

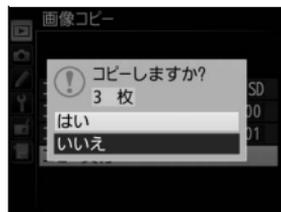
10 [コピー実行] を選ぶ

- [コピー実行] を選んで **OK** ボタンを押すと、コピーの確認画面が表示されます。



11 [はい] を選ぶ

- [コピーしますか?] というメッセージと、コピーする枚数が表示されます。
- [はい] を選んで **OK** ボタンを押すと、コピーを実行します。
- コピーが終了したら、もう一度 **OK** ボタンを押してコピーを完了します。



▼ 画像コピーについてのご注意

- コピー先メモリーカードの残量がない場合、コピーできません。
- コピー先フォルダーに同じファイル番号が存在する場合、右のような画面が表示されます。このとき、[上書き] または [全て上書き] を選ぶと、コピー元の画像に上書きされますのでご注意ください。ただし、コピー先の画像にプロテクトまたは非表示が設定されている場合は、上書きできません。[スキップ] を選ぶと、上書きせずに残りの画像のコピーを続けます。[キャンセル] を選ぶと、コピーを中止します。
- プロテクト設定はコピー先の画像に引き継がれます。
- [プリント指定 (DPOF)] (□257) で設定した情報は、コピー先の画像には引き継がれません。
- 非表示設定した画像はコピーできません。
- 動画をコピーするときは、バッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリーをお使いください。



撮影直後の画像確認

MENUボタン → 再生メニュー

撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。[しない]を選んだ場合に撮影画像を表示確認するには、ボタンを押してください。

削除後の次再生画像

MENUボタン → 再生メニュー

画像を削除した後に表示する画像を設定できます。

 後ろのコマ	削除した画像の次に撮影した画像を表示します。 最後の画像を削除した場合は、1つ前の画像を表示します。
 前のコマ	削除した画像の前に撮影した画像を表示します。 最初の画像を削除した場合は、次に撮影した画像を表示します。
 直前コマ送り 方向に従う	<ul style="list-style-type: none">直前のコマ送りが前の画像から後の画像の順番のときは、[後ろのコマ]と同じ動作になります。直前のコマ送りが後の画像から前の画像の順番のときは、[前のコマ]と同じ動作になります。

縦位置自動回転

MENUボタン → 再生メニュー

縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示します。

☑ 縦位置自動回転についてのご注意

- [縦位置自動回転] を [する] に設定しても、セットアップメニューの [縦横位置情報の記録] (□368) を [しない] にして撮影した画像は、全て横位置で表示されます。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、[縦位置自動回転] を [する] に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

スライドショー

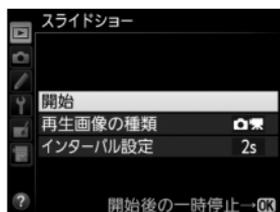
MENUボタン → 再生メニュー

撮影した画像を記録された順番に1コマずつ連続再生します。[再生フォルダー設定] (□271) で設定されたフォルダー内の画像が記録された順番で再生されます。ただし、[非表示設定] (□271) されている画像は再生されません。

開始	スライドショーを開始します。
再生画像の種類	スライドショーで再生する画像の種類を [静止画と動画]、[静止画のみ]、[動画のみ] から選べます。
インターバル設定	1コマの静止画を表示する時間を設定します。

■ スライドショーを再生する

[開始] を選んで **OK** ボタンを押すと、スライドショーが始まります。スライドショーの再生中は、次の操作が可能です。



1コマ進む/戻る		マルチセレクターの ← を押すと前の画像が、 → を押すと次の画像が表示されます。
画像情報を切り換える		↑ または ↓ を押すと、静止画再生時に画像情報の切り換えができます (□230)。画像情報を「画像のみ」に切り換えると、画像だけをスライドショーで再生できます。
一時停止する	OK	スライドショーが一時停止します。 [再開] を選んで OK ボタンを押すと、スライドショーが再開します。
再生メニューに戻る	MENU	スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る		スライドショーを中止して、1コマ表示モード (□227) またはサムネイル表示モード (□227) に戻ります。
撮影に戻る		液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

再生が終わると、右のような画面が表示されます。**[再開]** を選んで **OK** ボタンを押すと、スライドショーが再開します。**[終了]** を選んで **OK** ボタンを押すと、スライドショーが終了します。



📷 撮影メニュー：撮影で使える便利な機能

MENU ボタンを押して、タブの📷アイコンを選ぶと、撮影メニューが表示されます。



撮影メニュー項目一覧

撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	📖	メニュー項目	📖
撮影メニューの管理	281	カスタムピクチャーコントロール	171
撮影メニューの拡張	282	色空間	287
記録フォルダー設定	283	アクティブD-ライティング	178
ファイル名設定	286	HDR (ハイダイナミックレンジ)	180
主スロットの選択	85	ヴィネットコントロール	288
副スロットの機能	85	自動ゆがみ補正	289
画質モード	79	長秒時ノイズ低減	290
JPEG/TIFF記録	81、 82	高感度ノイズ低減	291
RAW記録	81	ISO感度設定	107
撮像範囲	74	多重露出	205
ホワイトバランス	144	インターバルタイマー撮影	211
ピクチャーコントロール	165	微速度撮影	217
		動画の設定	61

📄 関連ページ

「撮影メニューの初期設定」(📖263)

撮影メニューの管理

MENUボタン →  撮影メニュー

カメラは、撮影メニューの設定内容を、「A」、「B」、「C」、「D」の4通り記憶できます。それぞれの撮影メニューで設定した内容は、他の撮影メニューには反映されません。ただし、ピクチャーコントロールの調整値（クイック調整および手動調整）、[撮影メニューの拡張]、[多重露出]、[インターバルタイマー撮影]、[微速度撮影]での設定は、全ての撮影メニューで共通になります。

[撮影メニューの管理]で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでから撮影メニューの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容はカメラの電源をOFFにしても保持され、設定時の撮影メニューを選び直すことで呼び出せます。

■ 名前編集

撮影メニュー「A」～「D」の名前を編集するには、名前を変更したい撮影メニューを選んでマルチセレクターの  を押します。名前は20文字まで入力できます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください（□173）。

撮影メニュー設定表示について

インフォ画面には、 と撮影メニュー名（「A」～「D」）が表示されます。

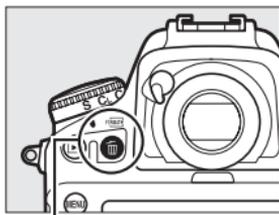


関連ページ

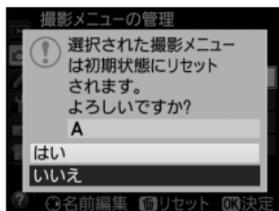
露出モード、シャッタースピード、絞り値、フラッシュモードも撮影メニューに記憶する →  [撮影メニューの拡張]（□282）

■ 撮影メニューのリセット

撮影メニュー「A」～「D」を個別にリセットできます。リセットしたい撮影メニューを選んで  (FORMAT) ボタンを押すと、確認画面が表示されます。[はい] を選んで  ボタンを押すと、選んだ撮影メニューの設定をリセットして初期設定に戻します ( 263)。



 (FORMAT) ボタン



撮影メニューの拡張

MENUボタン →  撮影メニュー

[する] を選ぶと、撮影メニュー (「A」～「D」) ごとに露出モード、シャッタースピード (露出モード **S**、**M** のみ)、絞り値 (露出モード **A**、**M** のみ)、フラッシュモードを記憶できます。

- **【撮影メニューの管理】** で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでから露出モード、シャッタースピード、絞り値、フラッシュモードの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時の撮影メニューを選び直すことで呼び出せます。
- **【しない】** を選ぶと、**【する】** を選ぶ前に設定した露出モード、シャッタースピード、絞り値、フラッシュモードに戻ります。

記録フォルダー設定

MENUボタン → 撮影メニュー

記録フォルダーの新規作成や既存フォルダーからの選択を行います。
[フォルダー番号指定] では、フォルダーを新規作成できます。[既存フォルダーから選択] では、既存フォルダーの一覧から選べます。

■ フォルダー番号指定

記録するフォルダー番号を指定します。フォルダーが存在しない場合は新しく作成します。

1 [フォルダー番号指定] を選ぶ

- [フォルダー番号指定] を選んでマルチセクターの  を押すと、[フォルダー番号指定] 画面が表示されます。
- [フォルダー番号指定] 画面の右上には、主スロット (□85) が下線で強調されて表示されます (新規作成する場合、フォルダーは主スロットに作成されます)。



2 フォルダー番号の桁を選ぶ

-  または  を押して、フォルダー番号の変更したい桁を選びます。

3 フォルダー番号を変更する

-  または  を押して、フォルダー番号の数値を変更します。

4 フォルダー番号を設定する

- **OK** ボタンを押すと、新規フォルダーを作成して撮影メニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、作成した新規フォルダーに保存されます。
- 作成済みのフォルダー番号を指定すると、フォルダー番号の左にフォルダーマーク（, , ) が表示されます。
□またはが表示されたフォルダーを選んで**OK** ボタンを押すと、指定したフォルダーを記録フォルダーに設定して撮影メニューに戻ります。
- キャンセルしたい場合は、**MENU** ボタンを押すと撮影メニューに戻ります。

フォルダーマークについて

[フォルダー番号指定] 画面では、フォルダー番号の左に、画像の入っていないフォルダーのときは□、フォルダー内のファイル数が999個またはファイル番号が9999に達しているフォルダーのときは、その他のフォルダーのときはのフォルダーマークが表示されます。が表示されているフォルダーには、画像は記録できません。

■■ 既存フォルダーから選択

既存のフォルダーの一覧から選びます。

1 [既存フォルダーから選択] を選ぶ

- [既存フォルダーから選択] を選んでマルチセレクターの**▶**を押すと、[既存フォルダーから選択] 画面が表示されます。



2 フォルダーを選ぶ

-  または  を押して、画像を記録するフォルダーを選びます。

3 画像を記録するフォルダーを設定する

-  ボタンを押すと、設定が有効になり撮影メニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、選んだフォルダーに保存します。

フォルダー番号およびファイル番号についてのご注意

フォルダー番号が999に達しているときに、ファイル番号が9999に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達した場合は、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。ただし、次の場合、メモリーカードにまだ空き容量があれば、さらに撮影を続けられます。

- フォルダー番号が999以下で、そのうちのファイル数が999に達していないフォルダーを記録フォルダーとして選んだ場合
- フォルダー番号が999以下のフォルダーを新規に作成し、それを記録フォルダーとして選んだ場合

大容量のメモリーカードを使用する場合

すでにたくさんのフォルダーや画像が記録されているメモリーカードを使用する場合、メモリーカードを挿入したときや、カメラの電源をONにしたときなどに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生ができるまでに時間がかかることがあります。

ファイル名設定

MENUボタン →  撮影メニュー

このカメラで撮影した画像には、自動的にDSC_nnnn.xxxというファイル名が付きます。[ファイル名設定]では、「DSC」の3文字を任意に変更できます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください (□173)。

ファイル名について

- このカメラで撮影された画像にはDSC_nnnn.xxxという名称が付きます。nnnnには0001～9999までの数字が入ります。xxxには選んだ画質モードによって、次の拡張子が入ります。
 - NEF：RAWの場合
 - TIF：TIFF (RGB)の場合
 - JPG：FINE/NORMAL/BASICの場合
 - MOV：動画の場合
 - NDF：イメージダストオフデータの場合
- 撮影メニューの[色空間]で[Adobe RGB] (□287)を選んだ場合は_DSCnnnn.xxxという名称が付きます。
- 同時記録されたRAW画像とJPEG画像のファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF、JPGになります。

JPEG/TIFF記録

MENUボタン →  撮影メニュー

JPEG画像、TIFF画像を記録するときの画像サイズ (□82) と、JPEG画像の圧縮方法 (□81) を設定できます。

RAW記録

MENUボタン →  撮影メニュー

RAW画像を記録するときの画像サイズ (□84) と圧縮方法 (□81)、記録ビットモード (□81) を設定できます。

記録する画像の色空間を指定します（色空間とは、モニターやプリンターで表現できる色の範囲のことです）。[sRGB] 色空間は、再生やプリントなど、一般的な用途で画像を楽しむのに適しています。[Adobe RGB] 色空間は [sRGB] 色空間に比べて色域が広いいため、商業印刷などの業務用途に適しています。

色空間についてのご注意

- 動画を撮影するときは、色空間を [sRGB] に設定することをおすすめします。
- Capture NX-Dまたは付属のViewNX 2をお使いになると、正しい色空間での処理が自動的に行われます。他社製の画像閲覧用または画像編集用ソフトウェアを使うと、正しく色が表示されないことがあります。

Adobe RGB色空間について

適切な色再現には、カラーマネジメント機能に対応したアプリケーション、モニター、プリンターなどの環境が必要です。

ヴィネットコントロール

MENUボタン →  撮影メニュー

ヴィネットコントロールは、レンズの特性による周辺光量の低下をレンズに応じて軽減します。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的です。Gタイプ、Eタイプ、またはDタイプレンズを装着しているときのみ機能します（PCレンズを除く）。

<input type="checkbox"/> H 強め	
<input type="checkbox"/> N 標準	効果が強い順に、 [強め] 、 [標準] 、 [弱め] になります。
<input type="checkbox"/> L 弱め	
<input type="checkbox"/> しない	周辺光量の低下を補正しません。

ヴィネットコントロールについてのご注意

- 次の場合、ヴィネットコントロールの効果は適用されません。
 - 撮影メニューの **[多重露出]** (□□205) を設定しているとき
 - 動画撮影時
 - DXレンズを装着して撮影メニュー **[撮像範囲]** の **[DX自動切り換え]** (□□75) を **[しない]** に、**[撮像範囲設定]** (□□74) を **[DX (24 × 16) 1.5×]** 以外に設定しているとき
 - FXレンズを装着して撮影メニュー **[撮像範囲]** の **[撮像範囲設定]** を **[DX (24 × 16) 1.5×]** に設定しているとき
- TIFFおよびJPEG画像の場合、使用するレンズ、撮影条件や撮影シーンの組み合わせによっては、周辺光量が過剰に補正されて画像周辺部が明るくなることや補正が不足して暗くなること、画像にノイズ（むら）が発生することがあります。また、調整したピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールを設定している場合も、適切な補正ができない場合があります。試し撮りをして、撮影状況に適した設定を選ぶことをおすすめします。

自動ゆがみ補正

MENUボタン →  撮影メニュー

[する] にすると、広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影します。

- [自動ゆがみ補正] は、Gタイプ、Eタイプ、またはDタイプレンズを装着した場合のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズを装着した場合は機能しません。また、対応レンズ以外を装着した場合については、動作を保証しません。

自動ゆがみ補正についてのご注意

- [する] の場合、シャッターをきってから、記録が始まるまで時間がかかる場合があります。
- ゆがみを大きく補正するほど、画像周辺部は切り取られます。
- DXレンズを装着している場合は、自動ゆがみ補正を行う前に、[DX自動切り換え] を [する] に設定するか、[撮像範囲設定] を [DX (24×16) 1.5×] に設定してください (□74)。その他の撮像範囲で撮影すると、画像周辺部が大きく切り取られたり、DXフォーマットの外側の部分が特に強く補正されることがあります。
- 動画撮影時は、自動ゆがみ補正の効果は適用されません。

関連ページ

撮影した画像のゆがみを補正する →  [ゆがみ補正] (□400)

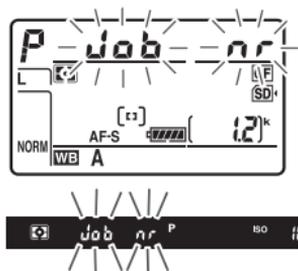
長秒時ノイズ低減

MENUボタン → 撮影メニュー

低速シャッタースピードになったときに発生するノイズ（ざらつき、むら、輝点）を低減します。

する	シャッタースピードが1秒より低速になった場合に、長秒時ノイズの低減処理を行います。
しない	長秒時ノイズの低減処理を行いません。

長秒時ノイズ低減処理は、撮影後に行われます。処理中は、表示パネルとファインダー内表示に **Job nr** が点滅します。この表示が消えるまで、撮影はできません。長秒時ノイズの低減処理を行う場合、画像を記録するまでの時間は、長秒時ノイズ低減を行わない場合の約2倍になります。



☑ 長秒時ノイズ低減についてのご注意

- 連続撮影速度は遅くなり、連続撮影可能コマ数も少なくなります。
- 処理中に電源をOFFにすると、処理は行われず、長秒時ノイズの低減処理を行う前の画像が保存されます。
- 動画撮影時は、長秒時ノイズ低減の効果は適用されません。

高感度ノイズ低減

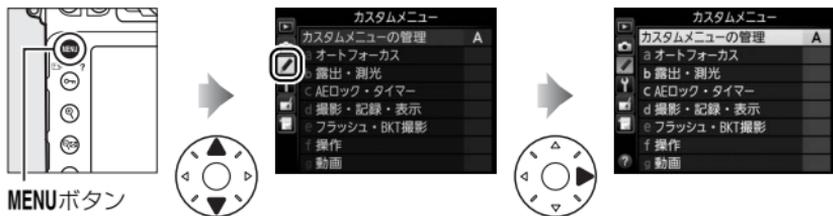
MENUボタン →  撮影メニュー

静止画撮影時に、感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します。

強め	全てのISO感度で高感度ノイズの低減処理を行います。ISO感度が高くなるほど効果的です。 ノイズ低減の効果は、強い順に [強め]、[標準]、[弱め] になります。
標準	
弱め	
しない	ノイズが発生しやすい条件で撮影する場合のみ、ノイズ低減処理を行います。ノイズ低減の効果は [弱め] よりもさらに弱くなります。

カスタムメニュー： 撮影に関するさらに詳細な設定

MENU ボタンを押して、タブの  アイコンを選ぶと、カスタムメニューが表示されます。

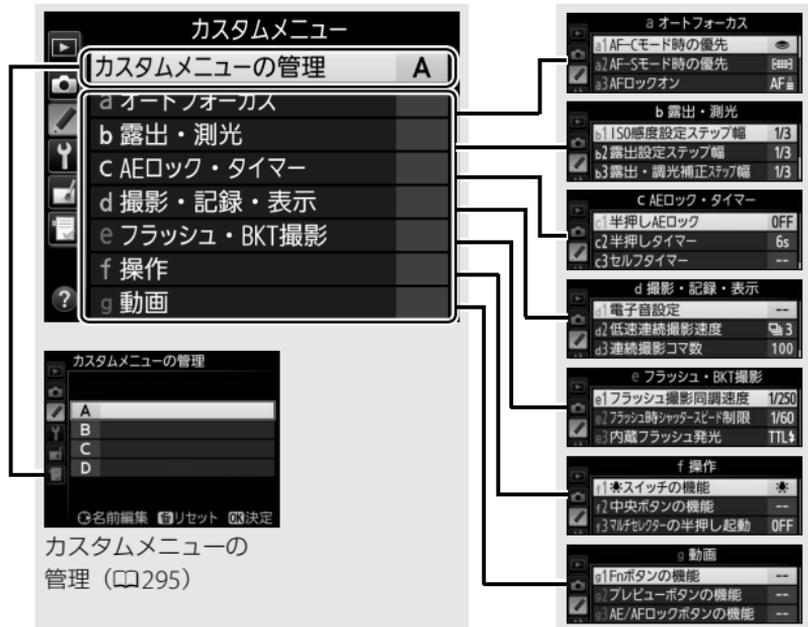


MENU ボタン

カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更できます。カスタムメニュー画面は、2つの階層で構成されています。

<第1階層>

<第2階層>



カスタムメニュー項目一覧

カスタムメニューの項目は次の通りです。*

メニュー項目	📖
カスタムメニューの管理	295
a オートフォーカス	
a1 AF-Cモード時の優先	297
a2 AF-Sモード時の優先	297
a3 AFロックオン	298
a4 半押しAFレンズ駆動	298
a5 フォーカスポイント表示	299
a6 フォーカスポイント照明	300
a7 フォーカスポイント 循環選択	300
a8 AF点数切り換え	301
a9 縦/横位置フォーカス切換	302
a10 内蔵AF補助光の照射設定	303
a11 AFエリアモードの限定	304
a12 AFモードの制限	304
b 露出・測光	
b1 ISO感度設定ステップ幅	305
b2 露出設定ステップ幅	305
b3 露出・調光補正ステップ幅	305
b4 露出補正簡易設定	306
b5 マルチパターン測光	307
b6 中央部重点測光範囲	307
b7 基準露出レベルの調節	307
c AEロック・タイマー	
c1 半押しAEロック	308
c2 半押しタイマー	308
c3 セルフタイマー	308
c4 モニターのパワーオフ時間	309

メニュー項目	📖
d 撮影・記録・表示	
d1 電子音設定	310
d2 低速連続撮影速度	311
d3 連続撮影コマ数	311
d4 露出ディレーモード	311
d5 電子先幕シャッター	312
d6 連番モード	313
d7 ファインダー内格子線表示	314
d8 ISO感度表示と簡易設定	314
d9 インフォ画面のガイド表示	314
d10 インフォ画面の表示設定	315
d11 イルミネーター点灯	316
d12 MB-D12電池設定	316
d13 電池の使用順序	318
e フラッシュ・BKT撮影	
e1 フラッシュ撮影同調速度	319
e2 フラッシュ時シャッター スピード制限	321
e3 内蔵フラッシュ発光	322
e4 フラッシュ使用時の 露出補正	329
e5 モデリング発光	330
e6 オートブラケティングの セット	330
e7 BKT変化要素 (Mモード)	331
e8 BKTの順序	332

メニュー項目		☐
f 操作		
f1	☼スイッチの機能	333
f2	中央ボタンの機能	333
f3	マルチセクターの半押し起動	335
f4	Fnボタンの機能	336
f5	プレビューボタンの機能	341
f6	AE/AFロックボタンの機能	342
f7	シャッタースピードと絞り値のロック	342
f8	BKTボタンの機能	343
f9	コマンドダイヤルの設定	344
f10	ボタンのホールド設定	347
f11	カードなし時リリース	348
f12	インジケーターの+/-方向	348
f13	動画撮影ボタンの機能	349
f14	ライブビューボタンの設定	350
f15	MB-D12のAF-ONボタン機能	351
f16	リモコン (WR) のFnボタンの機能	352
f17	レンズのフォーカス作動ボタン機能	353

メニュー項目		☐
g 動画		
g1	Fnボタンの機能	355
g2	プレビューボタンの機能	356
g3	AE/AFロックボタンの機能	357
g4	シャッターボタンの機能	358

※ 設定内容が初期設定と異なる場合、変更されたメニュー項目の左上にアスタリスク（*）を表示します。

関連ページ

「カスタムメニューの初期設定」(☐265)

カスタムメニューの管理

MENU ボタン →  カスタムメニュー

カメラは、カスタムメニューの設定内容を、「A」、「B」、「C」、「D」の4通り記憶できます。それぞれのカスタムメニューで設定した内容は、他のカスタムメニューには反映されません。

[**カスタムメニューの管理**] で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでからカスタムメニューの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容はカメラの電源をOFFにしても保持され、設定時のカスタムメニューを選び直すことで呼び出せます。

■ 名前編集

カスタムメニュー「A」～「D」の名前を編集するには、名前を変更したいカスタムメニューを選んでマルチセレクターの  を押します。名前は20文字まで入力できます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください (□173)。

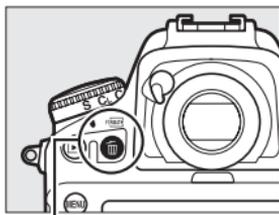
カスタムメニュー設定表示について

インフォ画面には、**CUSTOM** とカスタムメニュー名（「A」～「D」）が表示されます。

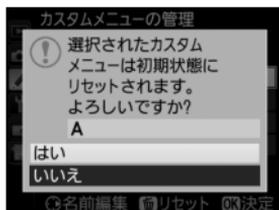


■ カスタムメニューのリセット

カスタムメニュー「A」～「D」を個別にリセットできます。リセットしたいカスタムメニューを選んで  (FORMAT) ボタンを押すと、確認画面が表示されます。[はい] を選んで  ボタンを押すと、選んだカスタムメニューの設定をリセットして初期設定に戻します (□265)。



 (FORMAT) ボタン



a : オートフォーカス

a1 : AF-Cモード時の優先

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のとき (□86) にシャッターボタンを押したときの動作を設定できます。

 リリース	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
 リリース/ フォーカス	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができますが、低コントラスト・低輝度の被写体を連続撮影するときは、連続撮影速度を落としてピント合わせを行います。連続撮影時に撮影速度よりもピント合わせを優先したいときにお使いください。
 フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきるできません。

- AFモードが**AF-C**のときは、[**AF-Cモード時の優先**] の設定にかかわらず、ピント表示 (●) が点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。

a2 : AF-Sモード時の優先

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-S**のとき (□86) にシャッターボタンを押したときの動作を設定できます。

 リリース	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
 フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきるできません。

- AFモードが**AF-S**のときは、[**AF-Sモード時の優先**] の設定にかかわらず、ピント表示 (●) が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、シャッターをきるまでフォーカスロックが行われます。

a3 : AFロックオン

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のとき（□86）に、被写体との距離が瞬時に大きく変わった場合のピント合わせの動作について設定できます。

AF  5（強め）	被写体との距離が瞬時に大きく変わったとき、一定時間経過してから被写体を追従するピント合わせを行います。被写体とカメラの間を障害物が横切るとな撮影など、意図に反して障害物にピント合わせを行うことを防止します。 <ul style="list-style-type: none">被写体との距離が瞬時に大きく変わってから、追従するピント合わせを開始するまでの時間が長い順に、[5（強め）]、[4]、[3（標準）]、[2]、[1（弱め）]になります。
AF  4	
AF  3（標準）	
AF  2	
AF  1（弱め）	
しない	被写体との距離が瞬時に大きく変わったときは、すぐに追従するようにピント合わせを行います。距離の異なる複数の被写体を次々と撮影するようなときに便利です。

- AFエリアモードが3D-トラッキングまたはオートエリアAFの場合は、**[2]**、**[1（弱め）]**、**[しない]** に設定していても、**[3（標準）]** を選んだときと同じ動作になります。

a4 : 半押しAFレンズ駆動

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししたときの、ピント合わせの動作を設定できます。**[しない]** を選んだ場合は、**AF-ON** ボタンを押したときにピント合わせを行い、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。

a5：フォーカスポイント表示

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー内のフォーカスポイントの表示に関する設定ができます。

■ マニュアルフォーカス時の表示

[する] に設定すると、マニュアルフォーカスでの撮影時にフォーカスポイントが常に点灯します。[しない] に設定すると、フォーカスポイントを移動したときのみ一瞬点灯します。

■ ダイナミックAFモード時の表示

[する] に設定すると、ダイナミックAFモード (□89) 時に自分で選んだフォーカスポイントと周辺のフォーカスポイントを同時に表示します。[しない] に設定すると、自分で選んだフォーカスポイントのみを表示します。

■ グループエリアAFモード時の表示

グループエリアAFモード (□90) 時の、ファインダー内のフォーカスポイントの見え方を選べます。

	フォーカスポイントを四角で表示します。	
	フォーカスポイントを点で表示します。	

[ダイナミックAFモード時の表示] を [する] に設定した場合の 3D-トラッキングについて

[ダイナミックAFモード時の表示] を [する] に設定してAFエリアモードを3D-トラッキングにすると、フォーカスポイントの中央に点が表示されます (□)。

a6：フォーカスポイント照明

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー内のフォーカスポイントの照明方法を設定できます。

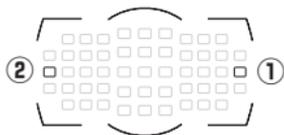
オート	被写体または背景が暗いときは、自動的にフォーカスポイントを赤色に照明します。
する	被写体または背景の明るさにかかわらず常にフォーカスポイントが赤色に照明します。背景が明るいときは、照明が見えづらい場合があります。
しない	フォーカスポイントを照明しません。また、撮像範囲外の記録されない部分をうす暗く表示します (□75)。

a7：フォーカスポイント循環選択

MENUボタン →  カスタムメニュー

フォーカスポイントをマルチセレクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。

[する] を選んだ場合、一番端のフォーカスポイント (①) を選んでいるときに、さらにマルチセレクターを同方向 (右図の場合は ) に押すと、反対側の端のフォーカスポイント (②) に移動します。



a8 : AF点数切り換え

MENUボタン →  カスタムメニュー

手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。

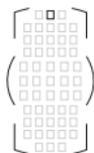
AF51 51点	51点全てのフォーカスポイントを選べます。	
AF11 11点	11点のフォーカスポイントから選べます。フォーカスポイントの位置を素早く動かしたいときに便利です。	

a9：縦/横位置フォーカス切換

MENUボタン →  カスタムメニュー

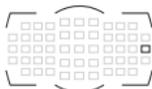
カメラを正位置（横位置）にしたときと、時計回りの縦位置と反時計回りの縦位置にしたときで個別にフォーカスポイントとAFエリアモードを設定できます。

- [しない] に設定した場合、横位置と縦位置で同じフォーカスポイントを使います。

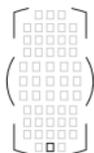


縦位置

反時計回りに90° 回転



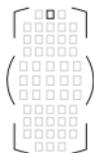
横位置



縦位置

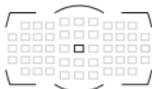
時計回りに90° 回転

- [フォーカスポイント] に設定すると、横位置と縦位置で個別にフォーカスポイントを設定できます。[フォーカスポイントとAFエリアモード] に設定した場合、フォーカスポイントに加えてAFエリアモードも個別に設定できます。



縦位置

反時計回りに90° 回転



横位置



縦位置

時計回りに90° 回転

a10 : 内蔵AF補助光の照射設定

MENU ボタン →  カスタムメニュー

被写体が暗いときなど、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのためにAF補助光を自動的に照射します。

暗い場所でもAF補助光を自動的に照射させないように設定できます。



する	<p>ファインダー撮影時に、オートフォーカスでのピント合わせの際に、次の条件が全て満たされた場合に、自動的にAF補助光を照射します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 被写体が暗い場合• AFモードがAF-Sの場合 (□86)• オートエリア AF 以外の AF エリアモード (□89) で、中央のフォーカスポイントを選択したとき、またはオートエリアAFのとき
しない	<p>AF補助光を照射しません。被写体が暗いときなどは、オートフォーカスでのピント合わせはできなくなる場合があります。</p>

AF補助光について

- AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5m ~ 3mです。
- AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。

関連ページ

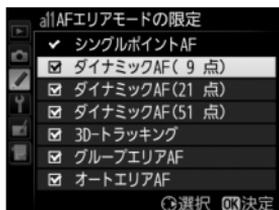
「AF補助光撮影に制限のあるレンズについてのご注意」 (□422)

a11 : AFエリアモードの限定

MENUボタン → カスタムメニュー

AFモードボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回した場合に選べるAFエリアモード (□89) を設定できます。

- 項目を選んでマルチセクターの  を押すと、項目の左側のチェックボックスがオフ になります。もう一度  を押すと、チェックボックスがオン になります。チェックボックスをオン にした項目のみ、サブコマンドダイヤルで選べるようになります。
-  ボタンを押すと、設定を完了します。
- [AFエリアモードの限定] ではファインダー撮影時のAFエリアモードを限定できます。ライブビュー撮影時のAFエリアモード (□38) は限定しません。



a12 : AFモードの制限

MENUボタン → カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモード (□86) を固定できます。[AF-S] または [AF-C] を選ぶと、AFモードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してもAFモードは変わりません。



b : 露出・測光

b1 : ISO感度設定ステップ幅

MENUボタン →  カスタムメニュー

ISO感度のステップ幅を設定できます (□107)。ISO感度のステップ幅を変更したとき、設定されているISO感度が変更後のステップ幅に存在しない場合は、最も近い値に変更されます。

b2 : 露出設定ステップ幅

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッタースピード、絞り値、およびオートブラケティング補正量のステップ幅を設定できます。

b3 : 露出・調光補正ステップ幅

MENUボタン →  カスタムメニュー

露出補正時と調光補正時の補正量のステップ幅を設定できます。

b4：露出補正簡易設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

ボタンを使用せずに、コマンドダイヤルだけで露出補正できるように設定を変更できます。

露出補正簡易設定を「**する（自動リセット）**」または「**する**」に設定すると、露出インジケータの「0」が点滅します。

する (自動リセット)	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 <ul style="list-style-type: none">コマンドダイヤルだけを使って設定した露出補正値は、電源をOFFにするか、半押しタイマーがオフになると、リセットされません。
する	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 <ul style="list-style-type: none">電源をOFFにしても、半押しタイマーがオフになっても、設定した露出補正値はリセットされません。
しない	<input checked="" type="checkbox"/> ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して露出補正を設定します。

b4 [露出補正簡易設定] と f9 [メインとサブの入れ換え] の併用について

[露出補正簡易設定] とカスタムメニュー f9 [コマンドダイヤルの設定] (□344) の [メインとサブの入れ換え] との併用により、次の表で記載しているコマンドダイヤルで露出補正ができるようになります。

		カスタムメニュー f9→メインとサブの入れ換え	
		しない	する
露出 モード	P	サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	S	サブコマンドダイヤル	メインコマンドダイヤル
	A	メインコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	M	機能しません	

b4 [露出補正簡易設定] と d8 [ISO感度表示と簡易設定] の [感度表示と簡易設定をする] について

カスタムメニュー b4 [露出補正簡易設定] の [する (自動リセット)] と [する] は、d8 [ISO感度表示と簡易設定] の [感度表示と簡易設定をする] (□314) とは併用できません。メッセージが表示され、先に設定していた内容が [しない] にリセットされます。

b5：マルチパターン測光

MENUボタン →  カスタムメニュー

測光モード（□112）がマルチパターン測光の場合、カメラが人物の顔を認識したときに顔の明るさに合わせて露出を決定するかどうかを選べます。この設定は、ファインダー撮影時のみ有効です。

 ON 顔認識する	カメラが認識した顔を優先して測光を行います。
 OFF 顔認識しない	顔を優先した測光は行いません。

b6：中央部重点測光範囲

MENUボタン →  カスタムメニュー

中央部重点測光は、ファインダー中央部を重点的に測光して、露出値を決定します。中央部重点測光の範囲を変更できます。

- 非CPUレンズを装着しているときの測光範囲は、 ϕ 12mm相当になります。

b7：基準露出レベルの調節

MENUボタン →  カスタムメニュー

適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、測光モードごとに明るめ（＋側）または暗め（－側）に調節できます。1/6段ステップ幅で±1段の範囲で設定できます。初期設定は0です。

基準露出レベルの調節について

- カスタムメニュー b7 [基準露出レベルの調節] は、カスタムメニュー「A」～「D」ごとに設定します。カスタムメニューを切り換えるときは、カスタムメニュー b7 の設定の違いにご注意ください。
- カスタムメニュー b7 [基準露出レベルの調節] を 0 以外に設定しても、 マークは表示されませんのでご注意ください。設定した基準露出レベルは、カスタムメニュー b7 の画面でのみ確認できます。
- 基準露出レベルの調節の設定は、ツーボタンリセットでは解除できません。

c : AEロック・タイマー

c1 : 半押しAEロック

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行うかどうかを設定できます。

c2 : 半押しタイマー

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししてから何も操作しないで一定時間が過ぎると、待機状態に入ります。この待機状態になるまでの時間を変更できます。

- 待機状態になると、表示パネルのシャッタースピードと絞り値の表示とファインダー内の表示が消灯します。
- 半押しタイマーを延長すると、バッテリーの消費が早くなります。

c3 : セルフタイマー

MENUボタン →  カスタムメニュー

セルフタイマー撮影時 (□104) にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数、連続撮影するときの撮影間隔を設定できます。

時間	シャッターがきれるまでの時間を選べます。
撮影コマ数	マルチセレクターの  または  を押して、1コマ~9コマの間で設定できます。
連続撮影間隔	[撮影コマ数] を2コマ以上に設定した場合に連続撮影するときの撮影間隔を選べます。

c4：モニターのパワーオフ時間

MENUボタン →  カスタムメニュー

液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。

- [画像の再生]、[メニュー表示]、[インフォ画面表示]、[撮影直後の画像確認]、[ライブビュー表示] で液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を個別に設定できます。
- 初期設定は、[画像の再生] と [インフォ画面表示] は10秒、[メニュー表示] は1分、[撮影直後の画像確認] は4秒、[ライブビュー表示] は10分です。
- 液晶モニターの表示時間を延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。



d : 撮影・記録・表示

d1 : 電子音設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

電子音の音の高さや音量を設定できます。

■ 音量

電子音の音量を設定できます。

- [電子音なし] を選ぶと、電子音は鳴りません。
- [音量] を [電子音なし] 以外に設定すると、次の場合に電子音が鳴ります。
 - セルフタイマー作動中 (□□104)
 - 微速度撮影終了時 (□□217)
 - オートフォーカスのピントが合ったとき (ただし、AFモード (□□86) がAF-Cのとき、電子音は鳴りません)
 - 「LOCK」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとしたとき (□□21)
 - ミラーアップ撮影で2回目にシャッターボタンを全押ししたとき

■ 音の高さ

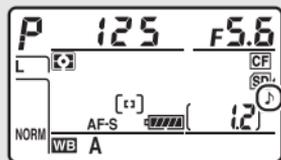
電子音の音の高さを [高音] と [低音] から選べます。

✓ 動画ライブビュー時および静音撮影時の電子音について

動画ライブビュー時 (□□48) およびリリースモードが **Q** または **Qc** の場合 (□□100) は、[電子音設定] の設定にかかわらず、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

🔍 電子音設定時の表示について

[音量] が [電子音なし] 以外の場合は表示パネルとインフォ画面に  (電子音あり) マークが表示されます。



d2：低速連続撮影速度

MENUボタン →  カスタムメニュー

レリーズモードが**CL**のときの連続撮影速度を [6コマ/秒] ~ [1コマ/秒] の間で設定できます (□102)。

d3：連続撮影コマ数

MENUボタン →  カスタムメニュー

連続撮影を最大何コマまで継続できるかを設定できます。マルチセクターの  または  を押して、1コマ~100コマの間で設定します。

- シャッタースピードが4秒以上の場合は、連続撮影のコマ数は制限されません。

連続撮影コマ数について

カスタムメニュー d3 [連続撮影コマ数] で設定するコマ数は、連続撮影を継続できる最大のコマ数です。ただし、連続撮影速度を維持したまま連続撮影できるコマ数には、画質モードなどによって上限があります (□485)。このコマ数を超えると「」と表示され、連続撮影速度は低下します。

d4：露出ディレイモード

MENUボタン →  カスタムメニュー

顕微鏡撮影時などのカメラブレを最小限に抑えるため、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約1~3秒後にシャッターがきれるように変更できます。

d5：電子先幕シャッター

MENUボタン →  カスタムメニュー

電子先幕シャッターを有効にするかどうかを設定できます。電子先幕シャッターで撮影することにより、カメラブレを低減できます。電子先幕シャッターで撮影するには、リリースモードダイヤルを**Mup**（ミラーアップ）に合わせてください（□106）。

有効	電子先幕シャッターで撮影します。
無効	メカニカルシャッターで撮影します。

電子先幕シャッターについて

- Gタイプ、Eタイプ、Dタイプ以外のレンズを装着していると、むら、すじなどが発生する場合があります。その場合は、**[無効]** に設定して撮影してください。
- **Mup**以外のリリースモードの場合は、常にメカニカルシャッターで撮影します。
- 電子先幕シャッター使用時は、シャッタースピードの上限が1/2000秒に制限されます。

d6 : 連番モード

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

する	メモリーカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、連番でファイル番号を付けます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
しない	メモリーカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。 <ul style="list-style-type: none">• 連番モードを [する] から [しない] に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に [する] に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付きます。
リセット	[する] に設定したときのファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダーに画像ファイルがない場合は0001から連番で画像が記録されます。すでにファイルがある場合には、そのファイル番号の次の番号からファイル番号が付きます。

ファイル番号について

- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が999に達しているときにファイル番号が9999に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達すると、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。この場合は、カスタムメニューd6 [連番モード] を [リセット] した後、メモリーカードを初期化するか、交換してください。

フォルダーの自動作成について

- 撮影中に記録フォルダー内に999個のファイルが記録された場合、メモリーカード内に存在する最大フォルダー番号+1という番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。
- 撮影中にファイル番号が9999となった場合、メモリーカード内に存在する最大フォルダー番号+1の番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。

d7：ファインダー内格子線表示

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー内に構図用格子線（□7）を表示するかしないかを設定できます。

d8：ISO感度表示と簡易設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

表示パネルの記録可能コマ数表示部に、ISO感度を表示できます。[感度表示と簡易設定をする] を選ぶと、コマンドダイヤルの操作だけでISO感度を変更できます。

ISO 感度を表示する	記録可能コマ数表示部にISO感度を表示します。
ISO  感度表示と簡易設定をする	記録可能コマ数表示部にISO感度を表示します。また、露出モードがP、S、AのときにコマンドダイヤルでISO感度を変更できます。 <ul style="list-style-type: none">• 露出モードP、S：サブコマンドダイヤルでISO感度を変更します。• 露出モードA：メインコマンドダイヤルでISO感度を変更します。
しない	記録可能コマ数表示部にISO感度を表示しません。

d9：インフォ画面のガイド表示

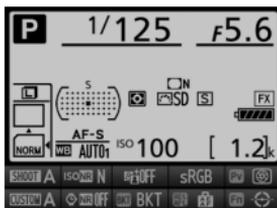
MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時に  ボタンを押すと表示される画面で、選んだ項目の文字表示ガイドを表示するかどうかを設定します（□201）。

d10：インフォ画面の表示設定

MENU ボタン →  カスタムメニュー

明るい場所や暗い場所で液晶モニターが見つづらいときにインフォ画面 (□8、197) の見え方を設定できます。



黒文字表示



白文字表示

AUTO 自動	インフォ画面の表示を見やすくするように、カメラが自動的に白黒反転します。明るい場所では黒文字表示に、暗い場所では明るさを抑えた白文字表示に切り替わります。	
手動	B 黒文字	明るい場所で撮影するときインフォ画面が見やすいように、液晶モニターが点灯し、文字を黒く表示します。
	W 白文字	暗い場所で撮影するときインフォ画面が見やすいように、液晶モニターの明るさを抑え、文字を白く表示します。

d11：イルミネーター点灯

MENUボタン →  カスタムメニュー

[しない] に設定すると、電源スイッチをに合わせたときだけ表示パネルのイルミネーター（照明）が点灯します（□1）。[する] に設定すると、電源スイッチをに合わせなくても、半押しタイマー（□32）の作動中には表示パネルのイルミネーター（照明）を常に点灯します。ただし、バッテリーの消耗は早くなります。

d12：MB-D12電池設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12に単3形電池を入れて使用するとき、カメラが電池残量をより正確に表示できるように、電池の種類を指定してください。ただし、Li-ion リチャージャブルバッテリーEN-EL15または別売のEN-EL18a/EN-EL18を使用する場合は、設定する必要がありません。

MB-D12で使える市販の単3形電池は、アルカリ電池、ニッケル水素充電電池、リチウム電池です。次の表に合わせて正しく設定してください。

- 電池設定を正しく設定していない場合、カメラが正常に作動しないおそれがあります。

	対応する電池
 LR6 アルカリ単3形電池	アルカリ単3形電池
 Ni-MH Ni-MH単3形充電電池	ニッケル水素単3形充電電池
 FR6 リチウム単3形電池	リチウム単3形電池

❏ 単3形電池の使用について

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12に単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電電池、リチウム電池）を電源として使用するときは、次のことにご注意ください。

- アルカリ電池を電源として使用した場合、他の電源を使用した場合と比較して撮影できるコマ数が極端に減少します。通常の撮影では他の電源を使用し、アルカリ電池は緊急用として使用してください。また、低温時は使用しないでください。
- 電池のメーカーや銘柄によっては、撮影できるコマ数が少なかったり、使用できない場合があります。
- 周囲の温度が20℃よりも低い環境では、撮影できるコマ数が極端に減少する場合があります。
- 電池の使用推奨期間内であっても、保管状態によっては撮影できるコマ数が減少したり、使用できない場合があります。
- 単3形電池を使っているときは、表示パネルとファインダー内の電池残量表示は次のようになります。

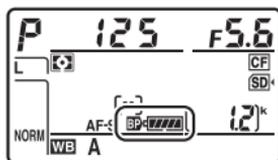
表示パネル	ファインダー	意味
	表示なし	バッテリーは充分に残っています。
		バッテリーが残り少なくなりました。バッテリー交換の準備をしてください。
 (点滅)	 (点滅)	撮影できません。バッテリーを交換してください。

d13 : 電池の使用順序

MENUボタン →  カスタムメニュー

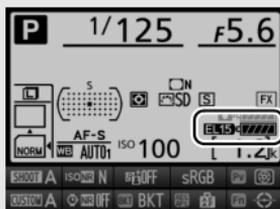
別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12装着時に、MB-D12に入っている電池から使用するか、カメラに入っているバッテリーから使用するかを設定します。

- MB-D12側のバッテリーを使用しているときのみ、表示パネルにBPアイコンが表示されます。



マルチパワーバッテリーパックMB-D12について

- 別売のマルチパワーバッテリーパック MB-D12 をカメラに装着すると、インフォ画面のMB-D12のバッテリー種別表示は、使用しているバッテリーにより、次のように変わります。



MB-D12の バッテリー種別表示	MB-D12で使用しているバッテリー
	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15
	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL18a/EN-EL18
	単3形電池

- 別売のパワーコネクターとACアダプターをMB-D12に接続している場合は、カスタムメニューd13 [電池の使用順序] の設定にかかわらず、常にACアダプターを使用します。

e : フラッシュ・BKT撮影

e1 : フラッシュ撮影同調速度

MENUボタン →  カスタムメニュー

フラッシュ撮影時の同調速度を設定できます。

1/320秒 (オートFP)	フラッシュ撮影時の同調速度を1/320秒または1/250秒に設定します。別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライト(□427) 使用時は1/320秒または1/250秒より速いシャッタースピードでは自動的にFP発光に切り替わります。*
1/250秒 (オートFP)	
1/250秒	フラッシュ撮影時の同調速度を、1/250～1/60秒の範囲で設定できます。
1/200秒	
1/160秒	
1/125秒	
1/100秒	
1/80秒	
1/60秒	

※ 露出モードが**P**または**A**で、表示パネルまたはファインダー内表示のシャッタースピードがカスタムメニューe1 [フラッシュ撮影同調速度] で設定した同調速度を示す場合、実際に制御されるシャッタースピードが同調速度よりわずかでも高速側であれば、FP発光に切り替わります。

シャッタースピードの同調速度を固定するには

露出モードが**S**または**M**のときに、シャッタースピードの同調速度をカスタムメニューe1 [フラッシュ撮影同調速度] で設定した値に固定するには、最も低速側(30秒または-)の次の位置を選んでください。表示パネルとファインダー内表示に**X**(フラッシュシンクロマーク)と設定した同調速度が表示されます。

■ オートFPハイスピードシンクロについて

カスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] (□319) を [1/320秒 (オートFP)] または [1/250秒 (オートFP)] に設定すると、内蔵フラッシュや別売のスピードライト (□427) を使って1/320秒または1/250秒までフラッシュ同調ができます。また、別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライト使用時にシャッタースピードが1/320秒または1/250秒より速くなると、自動的にFP発光に切り替わります。

シャッター スピード	1/320秒 (オートFP)		1/250秒 (オートFP)		1/250秒	
	内蔵 フラッシュ	スピード ライト (別売)	内蔵 フラッシュ	スピード ライト (別売)	内蔵 フラッシュ	スピード ライト (別売)
1/8000～ 1/320秒 より高速側	—	FP発光	—	FP発光	—	—
1/320～ 1/250秒 より高速側	フラッシュ 同調 *	フラッシュ 同調 *	—	FP発光	—	—
1/250～ 30秒	フラッシュ 同調	フラッシュ 同調	フラッシュ 同調	フラッシュ 同調	フラッシュ 同調	フラッシュ 同調

※ ガイドナンバーは、シャッタースピードが速くなるほど小さくなりますが、FP発光時よりは大きくなります。

☑ 露出不足のときの警告表示について

[1/320秒 (オートFP)] 時は、スピードライトがフル発光して露出不足のおそれがある場合でも、スピードライト側のレディーライトは点滅警告しません。ファインダー内表示のレディーライトで確認してください。

FP発光について

フラッシュ撮影時のシャッタースピードをカメラの最高速度まで設定できません (□189)。**[1/320秒 (オートFP)]** や **[1/250秒 (オートFP)]** に設定すると、シャッタースピードがフラッシュ撮影同調速度よりも高速側になった場合、自動的にFP発光に切り替わります。日中でも、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影ができます。

- FP発光に切り替わると、インフォ画面のフラッシュモードに「FP」が表示されます (□190、432)。

e2 : フラッシュ時シャッタースピード制限

MENUボタン →  カスタムメニュー

露出モードが**P**または**A**の場合のフラッシュ撮影時のシャッタースピードの低速側の制限を設定できます。

- スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時や露出モードが**S**または**M**の場合には、カスタムメニュー e2 [フラッシュ時シャッタースピード制限] の設定にかかわらず、シャッタースピードの低速側の制限は30秒になります。

e3：内蔵フラッシュ発光

MENUボタン →  カスタムメニュー

内蔵フラッシュの発光方式を設定できます。

TTL  TTLモード	内蔵フラッシュの光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。
M  マニュアル発光モード	指定した発光量で内蔵フラッシュが発光します (□323)。モニター発光は行いません。
RPT  リピーティング発光モード	1回の露光中に、内蔵フラッシュを繰り返し連続発光させて、被写体の連続的な動きを分解写真のように写し込みます (□323)。
CMD  コマンダーモード	内蔵フラッシュを、カメラから離れた別売のスピードライトで構成される補助灯 (リモート) グループをワイヤレス制御するためのコマンダーとして利用します (□324)。

内蔵フラッシュの発光方式について

内蔵フラッシュの発光方式は、インフォ画面のフラッシュモードで確認できます (□190、198)。



調光補正マークの表示について

[マニュアル発光モード] または [リピーティング発光モード] に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に  マークが点滅します。

別売スピードライトSB-400またはSB-300を装着している場合について

別売スピードライトSB-400またはSB-300を装着してスピードライトの電源をONにすると、カスタムメニューe3 [内蔵フラッシュ発光] がe3 [外付けフラッシュ発光] に変わり、スピードライトの発光方式を [TTLモード] または [マニュアル発光モード] に設定できます。[リピーティング発光モード] と [コマンダーモード] は選択できません。

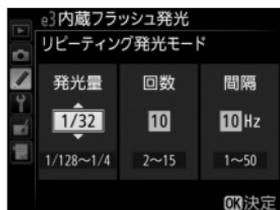
■ マニュアル発光モード

発光量を選べます。

- 「Full」（フル発光）に設定した場合、内蔵フラッシュのガイドナンバーは約12（ISO 100・m、20℃）となります。

■ リピーティング発光モード

「リピーティング発光モード」を選ぶと、右のような画面が表示されます。



マルチセレクターの \odot または \odot で「発光量」、 \odot で「回数」、 \odot の各設定項目を切り換え、 \odot または \odot で数値を設定してください。

発光量	1回あたりの発光量を設定します。発光量は、1/4～1/128で設定できます。
回数	1回の露光中に発光する回数を設定します。設定できる発光回数は、発光量によって変わります。
間隔	発光間隔を、Hz（ヘルツ；1秒あたりの発光回数）単位で設定します。

リピーティング発光モードの発光回数について

- [回数] で設定する数値は、最大の発光回数です。シャッタースピードを高速にしたり、発光間隔を長くすると、実際の発光回数は設定よりも少なくなることがあります。
- 設定できる発光回数は、[発光量] によって次のように変わります。

発光量	回数													
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20	25	30	35
1/4	○													
1/8	○	○	○	○										
1/16	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
1/32	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
1/64	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
1/128	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

コマンダーモード

内蔵フラッシュを主灯（マスターフラッシュ）として、カメラから離れた別売のスピードライトで構成される補助灯（リモート）グループをワイヤレス（アドバンストワイヤレスライティング、□427）で制御するためのモードです。

内蔵フラッシュや2つの補助灯グループのスピードライトに、それぞれ発光モードと調光補正量（または発光量）を設定できます。

[コマンダーモード] を選ぶと、右のような画面が表示されます。



マルチセクターの④または⑤で項目を切り換え、⑥または⑦で発光モードや補正量（または発光量）を設定してください。

	発光モード	内容
内蔵フラッシュ	TTL	内蔵フラッシュは、i-TTL調光を行います。右側の〔補正量〕欄で、内蔵フラッシュの調光補正量を設定（1/3段ステップで±3段）します。
	M	内蔵フラッシュはマニュアル調光を行います。右側の〔補正量〕欄で、内蔵フラッシュの発光量を選びます。
	--	内蔵フラッシュは発光せず、補助灯だけが発光します。ただし、撮影時にモニター発光を行えるよう、フラッシュロック解除ボタンを押して内蔵フラッシュを上げておいてください。
Aグループ	TTL	Aグループの全ての補助灯が、i-TTL調光を行います。右側の〔補正量〕欄で、Aグループの補助灯の調光補正量を設定（1/3段ステップで±3段）します。
	AA*	Aグループの全ての補助灯が、絞り連動外部自動調光を行います。右側の〔補正量〕欄で、Aグループの補助灯の調光補正量を設定（1/3段ステップで±3段）します。
	M	Aグループの全ての補助灯が、マニュアル調光を行います。右側の〔補正量〕欄で、Aグループの補助灯の発光量を選びます。
	--	Aグループの補助灯は発光しません。
Bグループ	Bグループの補助灯について、Aグループと同様の設定を行います。	
チャンネル	補助灯と通信を行うためのチャンネルを、1～4のいずれかに設定します。全ての補助灯のチャンネルを、ここで設定したチャンネルに合わせる必要があります。	

※ 絞り連動外部自動調光対応スピードライトの場合のみ発光します（□427）。

コマンドモードでの撮影手順は、次の通りです。

1 右の画面で、[内蔵フラッシュ] の [発光モード] と [補正量] を設定する

- 発光モードを [-]（非発光）にした場合は、[補正量] が設定できません。



2 同様に [A グループ] の [発光モード] と [補正量] を設定する



3 Bグループの補助灯を使用する場合は、同様に [Bグループ] の [発光モード] と [補正量] を設定する



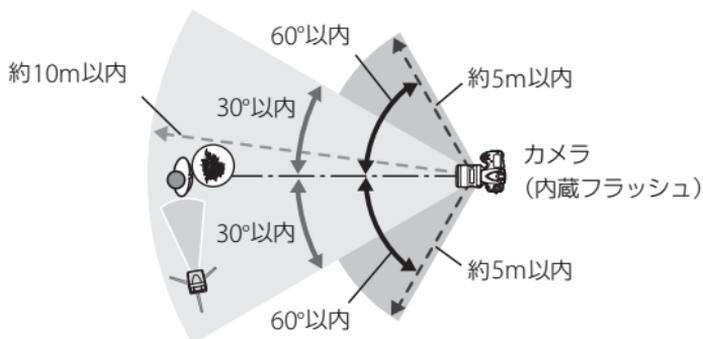
4 [チャンネル] を設定する



5 OK ボタンを押して設定を有効にする

6 構図を決め、カメラと補助灯（別売のスピードライト）を配置する

- 補助灯は下図の範囲内に配置してください。



補助灯のワイヤレスリモートセンサー窓をカメラ側に向けて設定してください。

- 周辺環境により、上図内の距離は多少変化します。

7 使用する全ての補助灯の電源をONにし、グループとチャンネルを設定する

- 補助灯の設定方法については、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- 補助灯のチャンネルは、必ずカメラで設定したものと同一チャンネル（1～4）に設定してください。

8 フラッシュロック解除ボタンを押して、内蔵フラッシュを上げる

- 内蔵フラッシュの[発光モード]を[--]に設定した場合も、撮影時にモニター発光を行えるよう、内蔵フラッシュを上げておいてください。

9 カメラのファインダー内表示と全ての補助灯でレディーライトが点灯していることを確認し、ピントを合わせて撮影する

- コマンダーモードはFVロック (□194) と組み合わせて撮影することもできます。

🔍 内蔵フラッシュを発光させない場合の表示について

手順1で [内蔵フラッシュ] の [発光モード] を [-] にして内蔵フラッシュを上げると、表示パネルのフラッシュモード表示から  が消灯します。

🔍 コマンダーモード時の調光補正と表示について

- コマンダーモード時に、 () ボタンとサブコマンドダイヤルで調光補正を行うと、[内蔵フラッシュ]、[Aグループ]、[Bグループ]のそれぞれの [補正量] に加算されます。
- [内蔵フラッシュ]、[Aグループ]、[Bグループ]のいずれかを [TTL] または [AA] にして補正量を0以外に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に  が点灯します。
- [内蔵フラッシュ] を [M] に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に  が点滅します。

▼ コマンダーモードについてのご注意

- 補助灯は、内蔵フラッシュの光がセンサー窓に入る位置（通常はカメラより被写体に近い位置）に置きます。特に、手持ちで撮影するときは、内蔵フラッシュの光が確実にセンサー窓に入るように、補助灯はカメラより前に構えてください。
- 補助灯の直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ（[TTL] 設定時）や他の補助灯の外部自動調光用受光窓（[AA] 設定時）に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- 同時に使用できる補助灯の台数に制限はありません。しかし、センサーに他の補助灯の強い光が入ると、正常動作できない場合があるため、実用上は3台程度が限度です。
- [内蔵フラッシュ] の [発光モード] を [-] にした場合でも、補助灯の発光タイミングを合わせるため、モニター発光とは別に、撮影中に内蔵フラッシュが少量発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低いISO感度、または小さい絞り（大きい絞り値）で撮影するか、別売の内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRをお使いください。少量発光の光量が大きくなる後幕シンクロ撮影では、内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRをお使いください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

e4：フラッシュ使用時の露出補正

MENUボタン →  カスタムメニュー

フラッシュ撮影時に露出補正を設定した場合のフラッシュの調光を設定できます。

  全体を補正	露出と調光量を同時に補正します。全体の露出が変化します。
 背景のみ補正	背景の露出だけを補正します。

e5 : モデリング発光

MENUボタン →  カスタムメニュー

内蔵フラッシュや別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト (□118、425) 使用時にカメラのPvボタンを押したときに、陰影の状況を把握するためのモデリング発光を行わないように設定できます。

e6 : オートブラケティングのセット

MENUボタン →  カスタムメニュー

オートブラケティング (□130) の種類を設定できます。

 AE・フラッシュ ブラケティング	露出値 (AE) とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。
AE AEブラケティング	露出値を変えながら撮影します。
 フラッシュ ブラケティング	フラッシュの発光量を変えながら撮影します。
WB WBブラケティング (□136)	1回の撮影でホワイトバランス (WB) を変えた画像を記録します。複数の光源が混在しているなど、ホワイトバランスを決めにくいときや、微妙な白の色みを好みで選びたいときなどに便利です。RAW画像を含む画質モードを設定したときは、WBブラケティングは使用できません。
 ADLブラケティング (□140)	アクティブD-ライティング (□178) の効果の度合いを変えながら撮影します。

e7 : BKT変化要素 (Mモード)

MENUボタン →  カスタムメニュー

露出モードMでオートブラケティングを行うときに変化する内容は、カスタムメニューe6 [オートブラケティングのセット] とe7 [BKT変化要素 (Mモード)] との組み合わせによって次のようになります。

カスタムメニュー e7 [BKT変化要素 (Mモード)]	カスタムメニュー e6 [オートブラケティングのセット]	
	AE・フラッシュ ブラケティング*	AEブラケティング*
  フラッシュ・ シャッタースピード	シャッタースピードと フラッシュの調光レベル	シャッタースピード
  フラッシュ・ シャッタースピード・ 絞り値	シャッタースピード、 絞り値、 フラッシュの調光レベル	シャッタースピードと 絞り値
  フラッシュ・絞り値	絞り値と フラッシュの調光レベル	絞り値
 フラッシュ	フラッシュの調光レベル	-

※ カスタムメニュー e7 が [フラッシュ・シャッタースピード]、[フラッシュ・シャッタースピード・絞り値]、[フラッシュ・絞り値] のいずれかのときに、[感度自動制御] (□□109) が [する] に設定され、フラッシュを使用していない場合、ブラケティング1コマ目のISO感度で固定されます。

フラッシュ調光レベルについて

フラッシュブラケティング中は、フラッシュ調光レベルは、i-TTL 調光時または絞り連動外部自動調光時のみ変化します。

e8 : BKTの順序

MENUボタン →  カスタムメニュー

オートブラケットの補正順序を変更できます。

N [0] → [-] → [+]	「補正なし」 → 「-側に補正」 → 「+側に補正」の順になります。
->+ [-] → [0] → [+]	「-側に補正」 → 「補正なし」 → 「+側に補正」の順になります。

- カスタムメニュー e6 [オートブラケットのセット] が [ADLブラケット] の場合、e8の設定を変更しても補正順序は変わりません。

f : 操作

f1 : 電源スイッチの機能

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

電源スイッチを電源マークの方向に回したときの機能を設定できます。

電源マーク	電源マークの点灯/消灯	表示パネルのイルミネーターを約6秒間点灯します。
電源マーク + info	電源マークとインフォ画面の点灯/消灯	表示パネルのイルミネーターの点灯とインフォ画面の表示を行います。

f2 : 中央ボタンの機能

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

ファインダー撮影時とライブビュー撮影時または再生時にマルチセレクターの中央ボタンを押したときの機能を設定できます（1コマ表示中の画像が動画の場合、[再生モード] の設定にかかわらず、中央ボタンを押すと動画を再生します）。

■ 撮影モード

RESET	フォーカスポイント 中央リセット	中央ボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
PRE ^回	プリセット フォーカスポイント	中央ボタンを押すと、あらかじめ設定した位置のフォーカスポイント（プリセットフォーカスポイント）が選ばれます。 <ul style="list-style-type: none">プリセットフォーカスポイントを設定するには、設定したい位置にフォーカスポイントを移動して、フォーカスポイントが点滅するまでAFモードボタンを押しながら中央ボタンを長押しします。a9 [縦/横位置フォーカス切換] を [しない] 以外に設定した場合、カメラの横位置と時計回りの方向の縦位置、反時計回りの方向の縦位置で個別にプリセットフォーカスポイントを設定できます。
[Fn]	選択フォーカスポイント表示	中央ボタンを押すと、選択中のフォーカスポイントが点灯します。
	設定しない	中央ボタンは機能しません。

■ 再生モード

	1コマとサムネイルの切り換え	中央ボタンを押すごとに、1コマ表示とサムネイル表示（4コマ、9コマ、72コマ）を切り換えます。
	ヒストグラム表示	中央ボタンを押している間、ヒストグラム（234）を表示します。サムネイル表示時もヒストグラム表示できます。
	拡大画面との切り換え	中央ボタンを押すと、撮影時のフォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度中央ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 <ul style="list-style-type: none">[拡大画面との切り換え] を選んで を押すと、拡大率を [低倍率 (50%)]、[等倍 (100%)]、[高倍率 (200%)] から選べます。サムネイル表示時も拡大表示できます。
	スロット/ フォルダー指定	中央ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定メニュー] 画面（228）が表示され、画像を再生するスロットとフォルダーを指定できます。

■ ライブビュー

RESET	フォーカスポイント 中央リセット	ライブビュー表示中に 中央ボタン を押すと、フォーカスポイントが画面中央に移動します。
🔍	拡大画面との 切り換え	ライブビュー表示中に 中央ボタン を押すと、フォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度 中央ボタン を押すと、元の表示に戻ります。 • [拡大画面との切り換え] を選んで  を押すと、拡大率を [低倍率 (50%)]、[等倍 (100%)]、[高倍率 (200%)] から選べます。
	設定しない	中央ボタンは機能しません。

f3 : マルチセレクターの半押し起動

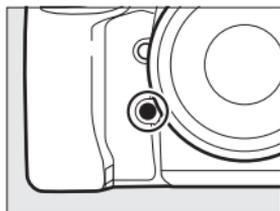
MENUボタン →  カスタムメニュー

半押しタイマー (□32) がきれたときにマルチセレクターを操作すると、半押しタイマーが起動するように設定できます。

f4 : Fnボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

Fnボタンを単独で押したときの機能と、Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。



■■ 押し時の動作

Fnボタンを単独で押したときの機能を設定できます。

 プレビュー	ファインダー撮影時にFnボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれ、Fnボタンを押している間、被写界深度が確認できます (□118)。静止画ライブビュー時にFnボタンを1回押すと開放絞りになり、ピントを確認しやすくなります。もう一度Fnボタンを押すと、設定した絞り値に絞り込まれます (□36)。
 FV-L	内蔵フラッシュまたは別売のスピードライト (□427) 使用時は、Fnボタンを1回押すとFVロック (□194) を行い、もう一度Fnボタンを押すと解除します。
 AE-L/AF-L	Fnボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	Fnボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L (リリースで リセット)	Fnボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。もう一度Fnボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AE-L (ホールド)	Fnボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、もう一度Fnボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AF-L	Fnボタンを押している間、フォーカスロックを行います。

AF-ON AF-ON	Fn ボタンを押している間、 AF-ON ボタンを押し続けたときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。
 発光禁止/許可切換	フラッシュモードが発光禁止以外の場合、 Fn ボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。フラッシュモードが発光禁止の場合は、 Fn ボタンを押している間、先幕シンクロモードで撮影できます。
BKT  BKT自動連写	カスタムメニューのe6 [オートブラケットングのセット] が [WB ブラケットング] 以外の場合でリリースモードが Ch 、 CL 、または Qc のときは、 Fn ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間、1回分のブラケットング設定コマ数を撮影し終えた後も、引き続きオートブラケットング撮影をします。また、リリースモードが S または Q のときは、 Fn ボタンを押しながらシャッターボタンを全押しし続けると、1回分のブラケットング設定コマ数を連続撮影します。 [オートブラケットングのセット] が [WB ブラケットング] の場合は、 Fn ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間連続撮影して、各コマに対してWBブラケットングを行います。
+RAW プラスRAW記録	画質モードがJPEG (FINE)、JPEG (NORMAL)、JPEG (BASIC) の場合、 Fn ボタンを押すと表示パネルの画質モードに「RAW」が表示され、押してから1回の撮影のみRAW画像がJPEG画像と同時に記録されます。撮影後シャッターボタンから指を放すか、もう一度 Fn ボタンを押すと [プラスRAW記録] を解除します。 • RAW 画像は撮影メニュー [RAW 記録] (□286) の設定で記録されます。
 マルチパターン測光簡易設定	Fn ボタンを押している間、測光モードがマルチパターン測光になります。
 中央部重点測光簡易設定	Fn ボタンを押している間、測光モードが中央部重点測光になります。
 スポット測光簡易設定	Fn ボタンを押している間、測光モードがスポット測光になります。
 ハイライト重点測光簡易設定	Fn ボタンを押している間、測光モードがハイライト重点測光になります。

 ファインダー内 格子線表示	Fn ボタンを1回押すと、ファインダーに構図用格子線を表示します (□7)。もう一度 Fn ボタンを押すと、格子線表示を終了します。
 ファインダー内 水準器	Fn ボタンを1回押すと、ファインダーに水準器インジケータを表示します (□7)。もう一度 Fn ボタンを押すと、水準器表示を終了します。
 連動リリース 禁止	ワイヤレスリモートコントローラーを接続して連動リリースモードで撮影する場合、 Fn ボタンを押している間、マスターカメラのみ撮影を行い、リモートカメラでは撮影を行いません。
 リモートカメラ のみリリース	ワイヤレスリモートコントローラーを接続して連動リリースモードで撮影する場合、 Fn ボタンを押している間、リモートカメラでのみ撮影を行います。
 マイメニュー	Fn ボタンを押すと、マイメニュー (□410) を表示します。
 マイメニューの トップ項目先へ ジャンプ	Fn ボタンを1回押すと、マイメニューの最上位に登録してある項目へジャンプします。よく使うメニュー項目をマイメニューの最上位に登録して、この機能を使うと便利です。
 再生	Fn ボタンに▶ボタンと同じ機能を割り当てます。望遠レンズなどを使用していて、▶ボタンを左手で操作できないときに便利です。
設定しない	Fn ボタンは機能しません。

【押し時の動作】と【コマンドダイヤル併用時の動作】が併用できない場合について

【押し時の動作】と【コマンドダイヤル併用時の動作】の機能が同時に設定できない場合は、メッセージが表示され、先に設定していた内容が【設定しない】に変更されます。

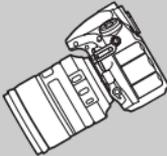
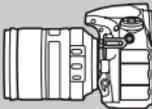
水準器インジケータについて

[押し時の動作] を [ファインダー内水準器] に設定してFnボタンを押すと、カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、ファインダーに水準器インジケータを表示します。この「水準器インジケータ」の見方は次の通りです。

ローリング方向

カメラが時計回りに傾いている場合	カメラが正位置の場合 (傾いていない場合)	カメラが反時計回りに傾いている場合
		
◀■■■■■■■		■■■■■■■▶

ピッチング方向

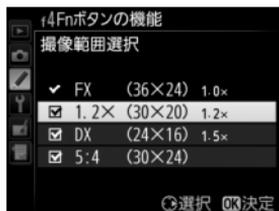
カメラが前に傾いている場合	カメラが正位置の場合 (傾いていない場合)	カメラが後ろに傾いている場合
		
■■■■■■■▲	◀	■■■■■■■▼

- カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。

■ コマンドダイヤル併用時の動作

Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

 撮像範囲選択	<p>Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、[撮像範囲] (□74) の設定を切り換えられます。</p> <ul style="list-style-type: none">項目を選んで、マルチセレクターの  を押し、項目の左側のチェックボックスがオン <input checked="" type="checkbox"/> になります。チェックボックスをオン <input checked="" type="checkbox"/> にした項目のみ、Fn ボタンとコマンドダイヤルで選べるようになります。 ボタンを押すと、設定が完了します。
 シャッター速度と絞り値のロック	<p>露出モードが S または M のとき、Fn ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを固定します。露出モードが A または M のとき、Fn ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を固定します。シャッタースピードと絞り値のロックについては、□124をご覧ください。</p>
 シャッター・絞り値1段選択	<p>カスタムメニュー b2 [露出設定ステップ幅] (□305) の設定にかかわらず、シャッタースピードまたは絞り値を1段ステップで設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none">露出モードが S または M のとき、Fn ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを1段ステップで設定します。露出モードが A または M のとき、Fn ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を1段ステップで設定します。
Non-CPU 手動設定済みレンズの選択	<p>Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在使用中のレンズの情報を、セットアップメニューの [レンズ情報手動設定] (□222) で設定したレンズNo.のものに切り換えます。</p>



 アクティブ D-ライティング 設定	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、アクティブD-ライティング (□178) の効果の度合いが切り替わります。
 露出ディレー モード	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、[露出ディレーモード] (□311) の設定を切り換えられます。
設定しない	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても機能しません。

f5：プレビューボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

Pvボタンを単独で押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。



■■ 押し時の動作

Pvボタンを単独で押したときの機能は、カスタムメニュー f4 [Fnボタンの機能] → [押し時の動作] (□336) と同じです。初期設定は [プレビュー] です。

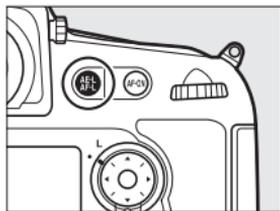
■■ コマンドダイヤル併用時の動作

Pvボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能は、カスタムメニュー f4 [Fnボタンの機能] → [コマンドダイヤル併用時の動作] (□340) と同じです。初期設定は [設定しない] です。

f6：AE/AFロックボタンの機能

MENUボタン → カスタムメニュー

AE/AFロックボタンを単独で押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。



■ 押し時の動作

AE/AFロックボタンを単独で押したときの機能は、カスタムメニュー f4 [Fnボタンの機能] → [押し時の動作] (□336) と同じです。初期設定は [AE-L/AF-L] です。

■ コマンドダイヤル併用時の動作

AE/AFロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能は、カスタムメニュー f4 [Fnボタンの機能] → [コマンドダイヤル併用時の動作] (□340) とほぼ同じですが、[シャッター・絞り値1段選択] と [アクティブD-ライティング設定] は選べません。初期設定は [設定しない] です。

f7：シャッタースピードと絞り値のロック

MENUボタン → カスタムメニュー

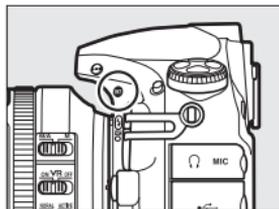
[シャッタースピードのロック] を [する] にすると、露出モード **S** または **M** ではシャッタースピードを現在の設定でロックします。[絞り値のロック] を [する] にすると、露出モード **A** または **M** では絞り値を現在の設定でロックします。

- 露出モードが **P** の場合はシャッタースピードと絞り値のロックは使えません。

f8 : BKTボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

BKT ボタンを押したときの機能を設定できます。



BKT オート ブラケティング	BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回すと、オートブラケティング撮影時の撮影コマ数、補正ステップ、アクティブD-ライティングの度合いを設定できます (□130)。
 多重露出	BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、多重露出モードを設定できます。 BKT ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、多重露出のコマ数を設定できます (□208)。
HDR HDR (ハイ ダイナミックレンジ)	BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、HDRモードを設定できます。 BKT ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、HDRの露出差を設定できます (□183)。

- HDR (ハイダイナミックレンジ) または多重露出の設定が有効なときに、カスタムメニュー f8 [**BKTボタンの機能**] に他の機能を割り当てた場合、**BKT** ボタンは使えません。**BKT** ボタンが使えないときは、HDR (ハイダイナミックレンジ) または多重露出を解除してください。

f9：コマンドダイヤルの設定

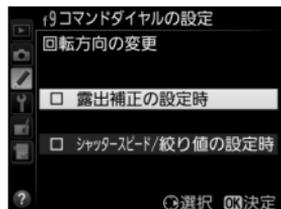
MENUボタン →  カスタムメニュー

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルに関する設定ができます。

■■ 回転方向の変更

露出補正の設定時またはシャッタースピード/絞り値の設定時に、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルを操作するときの回転方向を逆方向に変更できます。

- [露出補正の設定時] または [シャッタースピード/絞り値の設定時] を選んでマルチセクターの  を押し、項目の左側のチェックボックスがオン になります。もう一度  を押し、チェックボックスがオフ になります。
-  ボタンを押すと、設定が完了します。
- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12のコマンドダイヤルの回転方向も変更されます。



■■ メインとサブの入れ換え

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの機能を入れ換えられます。

露出設定	[する] を選ぶと、メインコマンドダイヤルで絞り値を、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。[する (Aモード)] を選ぶと、露出モードAのときのみ、メインコマンドダイヤルで絞り値を設定します。
AF設定	[する] を選ぶと、AFモードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してAFエリアモードを、サブコマンドダイヤルを回してAFモードを設定します。

- 別売のマルチパワーバッテリーパック MB-D12 のコマンドダイヤルの機能も入れ替わります。

■■ 絞り値の設定方法

CPUレンズの装着時に露出モードがAまたはMの場合、レンズの絞りリングで絞り値を設定できるように変更できます。

サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤルで絞り値をセットします ([メインとサブの入れ換え] の [露出設定] を [する] に設定した場合は、メインコマンドダイヤルで絞り値をセットします)。
絞りリング	レンズの絞りリングで絞り値をセットします。絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、絞り値の表示は1段ステップになります。

- 絞りリングのないレンズ (Gタイプ、Eタイプレンズ) 装着時は、[絞り値の設定方法] での設定にかかわらず、絞り値はサブコマンドダイヤルで設定します。
- 非CPUレンズ装着時は、[絞り値の設定方法] での設定にかかわらず、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。

再生/メニュー画面で使用

画像のコマ送りやメニュー操作を、マルチセクターでの操作から、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの操作でも行えるように変更できます。

する	<p>再生時：</p> <ul style="list-style-type: none">1コマ表示時には、メインコマンドダイヤルで撮影画像をコマ送りします。サブコマンドダイヤルを回すと、[サブコマンドダイヤルで画像送り] で設定した方法でコマ送りします。サムネイル表示時には、メインコマンドダイヤルを回すと、黄色の枠（カーソル）が左右に移動し、サブコマンドダイヤルを回すと、ページを切り換えます。 <p>メニュー画面表示時*：</p> <p>メインコマンドダイヤルで選択項目を切り換えます。サブコマンドダイヤルを時計方向に回すと、サブメニューに移動します。反時計回りに回すと、前の画面に戻ります。</p>
ON [Ⓞ] する (撮影後確認時を除く)	[する] と同じ内容ですが、撮影直後の画像確認時は操作できません。
しない	再生時の表示画像の切り換え、画像の選択、およびメニュー画面での項目の選択は、マルチセクターを操作して行います。

* サブコマンドダイヤルでは項目を決定することはできません。項目を決定するには、[Ⓞ]ボタンか、マルチセクターの[Ⓛ]または中央ボタンを押してください。

サブコマンドダイヤルで画像送り

[再生/メニュー画面で使用] で [する] または [する (撮影後確認時を除く)] に設定した場合、1コマ表示時にサブコマンドダイヤルを回したときのコマ送りの方法を設定できます

10コマ	10コマずつコマ送りします。
50コマ	50コマずつコマ送りします。
<input type="checkbox"/> フォルダー	再生フォルダーを切り換えます。

f10：ボタンのホールド設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

[する] に設定して対象のボタンを1回押すと、ボタンを放しても設定できる状態が維持され、コマンドダイヤル単独で設定できます。もう一度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しするか、半押しタイマーがオフになると、解除されます。対象のボタンは次の通りです。

対象のボタン		対象のボタン	
MODE (PROMIX) ボタン	115	 ボタン	113
 ボタン	128	AFモードボタン	37、39、 87、91
 (Fn) ボタン	186	Fn ボタン※1	336
BKT ボタン	131、136、 140	Pv ボタン※2	341
ISO ボタン	107	 AE/AFロックボタン※3	342
QUAL ボタン	80、83	動画撮影ボタン※4	349
WB ボタン	145、 149、152、 154、158		

- ※1 カスタムメニュー f4 [Fnボタンの機能] の [コマンドダイヤル併用時の動作] で [アクティブD-ライティング設定] または [露出ディレーモード] がFnボタンに割り当てられている場合
- ※2 カスタムメニュー f5 [プレビューボタンの機能] の [コマンドダイヤル併用時の動作] で [アクティブD-ライティング設定] または [露出ディレーモード] がPvボタンに割り当てられている場合
- ※3 カスタムメニュー f6 [AE/AFロックボタンの機能] の [コマンドダイヤル併用時の動作] で [露出ディレーモード] が AE/AFロックボタンに割り当てられている場合
- ※4 カスタムメニュー f13 [動画撮影ボタンの機能] で [ホワイトバランス] または [ISO感度] が動画撮影ボタンに割り当てられている場合

f11：カードなし時リリース

MENUボタン →  カスタムメニュー

カメラにメモリーカードを入れていないときのリリース操作を設定できます。

LOCK リリース禁止	メモリーカードを入れていないときは、シャッターはきけません。
OK リリース許可	メモリーカードを入れていないときでも、シャッターがきれれます。再生時には [デモモード] と表示され、画像は記録できません。

f12：インジケーターの+/-方向

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー内表示、表示パネルおよびインフォ画面 (info) での露出、露出補正、オートブラケティングのインジケーターの+と-方向を入れ換えることができます。

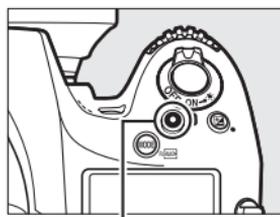
+0- 	インジケーターの+側を左に、-側を右に表示します。
-0+ 	インジケーターの-側を左に、+側を右に表示します。

f13 : 動画撮影ボタンの機能

MENUボタン → カスタムメニュー

■ コマンドダイヤル併用時の動作

ファインダー撮影時または静止画ライブビュー時に、動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。



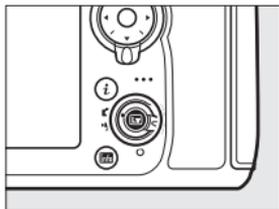
動画撮影ボタン

WB	ホワイトバランス	動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランスを変更できます (□144)。
ISO	ISO感度	動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ISO感度を変更できます (□107)。
	撮像範囲選択	動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、撮像範囲を変更できます (□74)。 • 項目を選んで、マルチセレクターの  を押し、項目の左側のチェックボックスがオン <input checked="" type="checkbox"/> になります。もう一度  を押し、チェックボックスがオフ <input type="checkbox"/> になります。チェックボックスをオン <input checked="" type="checkbox"/> にした項目のみ、動画撮影ボタンとコマンドダイヤルで選べるようになります。Ⓜ ボタンを押すと、設定が完了します。
	シャッター速度と絞り値のロック	露出モードが S または M のとき、動画撮影ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッター速度を固定します。露出モードが A または M のとき、動画撮影ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を固定します。シャッター速度と絞り値のロックについては、□124をご覧ください。
	設定しない	動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても機能しません。

f14：ライブビューボタンの設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

意図せずに  ボタンを押したときにライブビューが始まらないように、 ボタンを無効に設定できます。

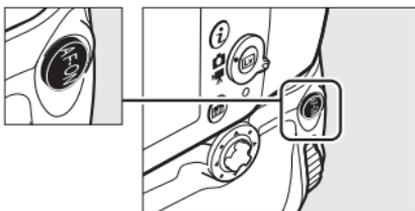


有効	 ボタンを押すとライブビューが開始されます。
無効	 ボタンを押してもライブビューは開始しません。

f15 : MB-D12のAF-ONボタン機能

MENU ボタン → カスタムメニュー

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12のAF-ONボタンの機能を設定します。



 AF-ON	AF-ONボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。この場合、シャッターボタンの半押しではオートフォーカスは作動しません。
 AF-L	AF-ONボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AE-L/AF-L	AF-ONボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	AF-ONボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L (リリースで リセット)	AF-ONボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。もう一度AF-ONボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AE-L (ホールド)	AF-ONボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックを解除しません。ただし、もう一度AF-ONボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 FV-L	内蔵フラッシュまたは別売のスピードライト (□425) 使用時は、AF-ONボタンを1回押すとFVロック (□194) を行い、もう一度AF-ONボタンを押すと解除します。
 Fnボタンと 同じ	Fnボタンと同じ機能になります (□336)。

f16 : リモコン (WR) のFnボタンの機能

MENUボタン → カスタムメニュー

ワイヤレスリモートコントローラーのFnボタンを押したときの機能を設定できます。



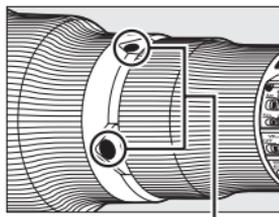
 プレビュー	ファインダー撮影時にFnボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれ、Fnボタンを押している間、被写界深度が確認できます (□118)。静止画ライブビュー時にFnボタンを1回押すと開放絞りになり、ピントを確認しやすくなります。もう一度Fnボタンを押すと、設定した絞り値に絞り込まれます (□36)。
 FV-L	内蔵フラッシュまたは別売のスピードライト (□425) 使用時は、FVロック (□194) を行い、もう一度Fnボタンを押すと解除します。
 AE-L/AF-L	Fnボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	Fnボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L (リリースで リセット)	Fnボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。もう一度Fnボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AF-L	Fnボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AF-ON	Fnボタンを押している間、AF-ONボタンを押し続けたときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。
 発光禁止/ 許可切換	フラッシュモードが発光禁止以外の場合、Fnボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。フラッシュモードが発光禁止の場合は、Fnボタンを押している間、先幕シンクロモードで撮影できます。

+RAW プラスRAW 記録	画質モードがJPEG (FINE)、JPEG (NORMAL)、JPEG (BASIC) の場合、 Fn ボタンを押すと表示パネルの画質モードに「RAW」が表示され、押してから1回の撮影のみRAW画像がJPEG画像と同時に記録されます。撮影後シャッターボタンから指を放すか、もう一度 Fn ボタンを押すと【 プラスRAW記録 】を解除します。 • RAW画像は撮影メニュー【 RAW記録 】(□286)の設定で記録されます。
Lv ライブビュー	Fn ボタンを押すと、ライブビューを開始します。もう一度 Fn ボタンを押すと、ライブビューを終了します。
設定しない	Fn ボタンは機能しません。

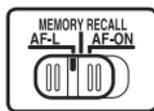
f17：レンズのフォーカス作動ボタン機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

フォーカス作動設定スイッチがあるレンズを装着し、スイッチが**AF-L**に設定されている場合に、レンズのフォーカス作動ボタンを押したときの機能を設定できます。



フォーカス作動ボタン



フォーカス作動設定
スイッチ

 AF-L	フォーカス作動ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AE-L/AF-L	フォーカス作動ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	フォーカス作動ボタンを押している間、AEロックを行います。

PRE プリセット フォーカス ポイント	フォーカス作動ボタンを押している間、あらかじめ設定した位置のフォーカスポイント（プリセットフォーカスポイント）が選ばれます（□334）。フォーカス作動ボタンを放すと、元のフォーカスポイント位置に戻ります。
[] AFエリア モード	フォーカス作動ボタンを押している間、設定したAFエリアモードに変更します。フォーカス作動ボタンを放すと、元のAFエリアモードに戻ります。 <ul style="list-style-type: none"> • カメラのAFエリアモード（□89）が3D-トラッキングの場合、オートフォーカスでピント合わせをしている間は、フォーカス作動ボタンを押しても設定したAFエリアモードに変更されません。 • [AFエリアモード] を選んでマルチセクターの  を押すと、AFエリアモードを選べます。ただし、[3D-トラッキング] は選べません。
  発光禁止/ 許可切換	フラッシュモードが発光禁止以外の場合、フォーカス作動ボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。フラッシュモードが発光禁止の場合は、フォーカス作動ボタンを押している間、先幕シンクロモードで撮影できます。
 連動リリース 禁止	ワイヤレスリモートコントローラーを接続して連動リリースモードで撮影する場合、フォーカス作動ボタンを押している間、マスターカメラのみ撮影を行い、リモートカメラでは撮影を行いません。
 リモートカメラ のみリリース	ワイヤレスリモートコントローラーを接続して連動リリースモードで撮影する場合、フォーカス作動ボタンを押している間、リモートカメラでのみ撮影を行います。

g : 動画

g1 : Fnボタンの機能

MENU ボタン →  カスタムメニュー

■■ 押し時の動作

動画ライブビューでFnボタンを押したときの機能を設定できます。

 パワー絞り (開放絞り側)	Fn ボタンを押している間、開放絞り側に絞りが動きません。カスタムメニュー g2 [プレビューボタンの機能] が [パワー絞り (最小絞り側)] のときは、自動的にこの項目が選ばれます (□356)。
 インデックス マーキング	動画撮影中にFnボタンを押すと、撮影中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます (□51)。
 静止画撮影情報の 表示	Fn ボタンを押すと、動画ライブビューで静止画を撮影するときの撮影情報が表示されます。もう一度Fnボタンを押すと元の画面に戻ります。
設定しない	Fn ボタンは機能しません。

パワー絞りについて

- 露出モードAまたはMのときのみ動作します。
- 静止画撮影情報の表示中は、パワー絞りは動作しません。
-  マークが液晶モニターに表示されているときは、パワー絞りは動作しません。
- 使用するレンズによっては、パワー絞りが動作しない場合があります。

g2：プレビューボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

■■ 押し時の動作

動画ライブビューでPvボタンを押したときの機能を設定できます。

 パワー絞り (最小絞り側)	Pvボタンを押している間、最小絞り側に絞りが動きません。カスタムメニュー g1 [Fnボタンの機能] が [パワー絞り (開放絞り側)] のときは、自動的にこの項目が選ばれます (□□355)。
 インデックス マーキング	動画撮影中にPvボタンを押すと、撮影中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます (□□51)。
 静止画撮影情報の 表示	Pvボタンを押すと、動画ライブビューで静止画を撮影するときの撮影情報が表示されます。もう一度Pvボタンを押すと元の画面に戻ります。
設定しない	Pvボタンは機能しません。

g3 : AE/AFロックボタンの機能

MENU ボタン →  カスタムメニュー

■■ 押し時の動作

動画ライブビュー時でAE/AFロックボタンを押したときの機能を設定できます。

 インデックス マーキング	動画撮影中にAE/AFロックボタンを押すと、撮影中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます (□51)。
 静止画撮影情報の表示	AE/AFロックボタンを押すと、動画ライブビューで静止画を撮影するときの撮影情報が表示されます。もう一度AE/AFロックボタンを押すと元の画面に戻ります。
 AE-L/AF-L	AE/AFロックボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	AE/AFロックボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L (ホールド)	AE/AFロックボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきいてもAEロックは解除されません。ただし、もう一度AE/AFロックボタンを押すと、解除されます。
 AF-L	AE/AFロックボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
設定しない	AE/AFロックボタンは機能しません。

g4：シャッターボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

ライブビューセクターが**●**の場合に、シャッターボタンを押したときの機能を設定できます。

 静止画撮影	<p>シャッターボタンを全押しすると、アスペクト比（縦横比）16：9の静止画を撮影します（撮影中の動画は終了します）。静止画の画像サイズ（ピクセル）については、「動画ライブビュー時に撮影できる静止画の画像サイズ」（□□57）をご覧ください。</p>
 動画撮影	<p>シャッターボタンを半押しすると、動画ライブビューを開始します。動画ライブビュー中にシャッターボタンを半押しすると、フォーカスモードセクターがAFの場合はピント合わせを行います。また、全押しすると、動画撮影を開始します。もう一度シャッターボタンを押すと、動画撮影を終了します。</p> <ul style="list-style-type: none">• [動画撮影] に設定すると、動画撮影以外のシャッターボタンを使う操作は行えません。• 動画ライブビューを終了するには、 ボタンを押してください。• 別売のワイヤレスリモートコントローラー（□□439）またはリモートコード（□□438）使用時には、ワイヤレスリモートコントローラーやリモートコードのシャッターボタンを半押しして動画ライブビューを開始したり、全押しして動画撮影の開始と終了を行えます。

Y セットアップメニュー： カメラを使いやすくする基本設定

MENU ボタンを押して、タブの Y アイコンを選ぶと、セットアップメニューが表示されます。



セットアップメニュー項目一覧

セットアップメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	□	メニュー項目	□
カードの初期化 (フォーマット)	360	画像コメント	371
モニターの明るさ	362	著作権情報	372
モニターのカラーカスタマイズ	363	カメラ設定の保存と読み込み	373
イメージセンサークリーニング	443	水準器表示	375
クリーニングミラーアップ※1	445	レンズ情報手動設定	222
イメージダストオフデータ取得	364	AF微調節	376
フリッカー低減	366	HDMI	260
地域と日時	367	位置情報	226
言語 (Language)	368	ネットワーク	251
縦横位置情報の記録	368	Eye-Fi送信機能※2	378
電池チェック	369	ファームウェアバージョン	379

※1 バッテリー残量表示が 以下のときは選べません。

※2 この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ表示されます (□378)。

関連ページ

「セットアップメニューの初期設定」 (□269)

カードの初期化（フォーマット）

MENUボタン → Y セットアップメニュー

メモリーカードを初期化（フォーマット）します。初期化したいスロットを選んで【はい】を選ぶと、選んだスロットのメモリーカードを初期化します。初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください（□244）。

☑ カードの初期化についてのご注意

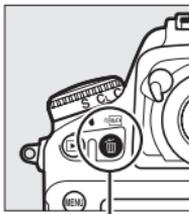
【カードの初期化（フォーマット）中です。】のメッセージが液晶モニターに表示されている間は、電源をOFFにしたり、メモリーカードを取り出さないでください。

■ ボタン操作でメモリーカードを初期化（フォーマット）する

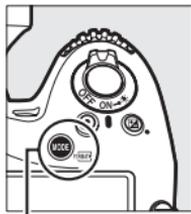
🗑️ (FORMAT) ボタンとMODE (FORMAT) ボタンで初期化することもできます。

1 🗑️ (FORMAT) ボタンとMODE (FORMAT) ボタンを同時に押す

- 赤色のFORMATマークがついた🗑️ボタンとMODEボタンを同時に2秒以上押します。
- 表示パネルとファインダー内表示に**F o r**（フォーマット）が点滅します。

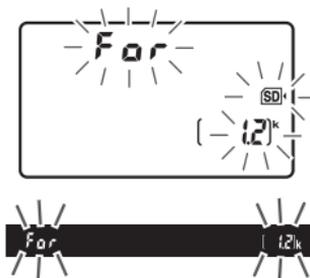


🗑️ (FORMAT) ボタン



MODE (FORMAT) ボタン

- メモリーカードが2枚入っている場合は、表示パネルのメモリーカードマークが点滅している側のスロットに入っているメモリーカードを初期化します。**For**が点滅しているときにメインコマンドダイヤルを回すと、初期化するスロットを切り換えられます。



- For**が点滅状態のまま約6秒経過すると、初期化はキャンセルされます。**Fn** (**FORMAT**) ボタンと**MODE** (**FORMAT**) ボタン以外のボタンを押したときも、初期化をキャンセルします。

2 **For**が点滅している間に、もう一度**Fn** (**FORMAT**) ボタンと**MODE** (**FORMAT**) ボタンを同時に押す

- 初期化が始まります。初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリーやメモリーカードを取り出ししたりしないでください。
- 初期化が完了すると、表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部にこれから撮影できるコマ数が表示されます。

カメラにメモリーカードが2枚入っている場合

カメラにメモリーカードが2枚入っている場合、**Fn** (**FORMAT**) ボタンと**MODE** (**FORMAT**) ボタンを押すと、主スロット(□85)のメモリーカードマークが先に点滅します。

モニターの明るさ

MENUボタン →  セットアップメニュー

画像の再生時、メニュー表示時、インフォ画面表示時の液晶モニターの明るさをマルチセレクターの  または  を押して調整できます。+にすると明るく、-にすると暗くなります。

静止画ライブビューまたは動画ライブビュー中の液晶モニターの明るさについて

- [モニターの明るさ]で設定した液晶モニターの明るさは、静止画ライブビューまたは動画ライブビュー中の明るさには反映されません。ライブビュー表示中の液晶モニターの明るさを設定するには、「 ボタンを使う」(□41)をご覧ください。
- 非常に明るい場所で液晶モニターが見えにくいときは、液晶モニターの明るさを [+4] 以上に設定すると、液晶モニターが見やすくなりますが、黄色が黄緑に見えることがあります。色の確認を行うときは [+3] 以下に設定することをおすすめします。

モニターのカラーカスタマイズ

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラの液晶モニターの色調を好みに合わせて変更できます。

- 右のような画面が表示され、マルチセクターで液晶モニターの色みを調整できます。 ボタンを押すと決定します。

グリーンが強くなる



マゼンタが強くなる



- 液晶モニターの色みを調整すると、メニュー表示や画像再生時、静止画ライブビューまたは動画ライブビュー中の表示全てに反映されませんが、撮影した画像には反映されません。
- 最後に撮影した画像または最後に再生した画像がサンプルとして表示されます。撮影した画像がメモリーカード内がない場合、グレーで表示されます。
-  ボタンを押すと、画像の選択画面が表示されます。画像を選んで  ボタンを押すと、選んだ画像がサンプルとして表示されます。
- 画像の選択画面で  ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。 ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定メニュー] 画面が表示されます (□228)。



イメージダストオフデータ取得

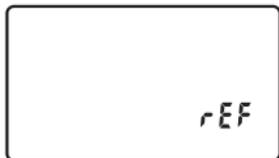
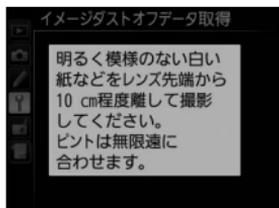
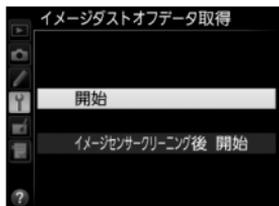
MENUボタン → Y セットアップメニュー

Capture NX-Dの「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子の前面に付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です（撮影メニュー [RAW記録] の [画像サイズ] で [サイズS] (□84) に設定して撮影したRAW画像を除く)。イメージダストオフ機能については、Capture NX-Dのヘルプをご覧ください。

■ イメージダストオフデータ取得の手順

1 イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

- [開始] を選んで **OK** ボタンを押すと、
[イメージダストオフデータ取得] 画面が表示されます。
- [イメージセンサークリーニング後 開始] を選んで **OK** ボタンを押すと、すぐにイメージセンサークリーニングを実行します。イメージセンサークリーニングの実行後に、[イメージダストオフデータ取得] 画面が表示されます。
- 表示パネルとファインダー内表示に右のように表示されます。
- データ取得を取り消したいときは、**MENU** ボタンを押してください。

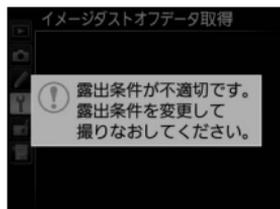


2 レンズ先端から10cm 程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- シャッターボタンを押すと、液晶モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。



✔ イメージセンサークリーニングについてのご注意

イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致しなくなるため、Capture NX-Dのイメージダストオフ機能を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、**【イメージセンサークリーニング後 開始】**を選択後に撮影することをおすすめします。

❑ イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- 非CPUレンズをお使いの場合は、[イメージダストオフデータ取得]を選べません。
- お使いになるCPUレンズは、焦点距離が50mm以上のレンズ（DXレンズを除く）をおすすめします（□416）。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、右の画面が表示されます。



フリッカー低減

MENUボタン → Y セットアップメニュー

蛍光灯や水銀灯などの光源下で、ライブビュー表示中（□33）や動画撮影時（□48）に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」を低減できます。通常はカメラが自動的に電源周波数を選ぶ[オート]をお使いください。[オート]にしている場合でも、フリッカー低減効果が得られない場合は、お使いの地域の電源周波数に応じて、[50 Hz]と[60 Hz]から選びます。東日本など電源周波数が50 Hzの地域では[50 Hz]を選び、西日本など電源周波数が60 Hzの地域では[60 Hz]を選んでください。

✔ フリッカー低減についてのご注意

- [オート] に設定してもフリッカー低減効果が得られない場合や電源周波数がわからない場合は、設定を切り換えて試し撮りをするをおすすめします。
- 被写体が非常に明るい場合、フリッカー低減効果が得られない場合があります。絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。
- 露出モードがM以外の場合、設定したシャッタースピードが必ずしも反映されないため、フリッカー低減できるシャッタースピードに設定しても、フリッカー低減効果が得られないことがあります。そのような場合は、露出モードをMに設定し、シャッタースピードを次の値にすることで、フリッカー現象を低減できます。
 - 電源周波数が50Hzの場合：1/100秒、1/50秒、1/25秒
 - 電源周波数が60Hzの場合：1/125秒、1/60秒、1/30秒

地域と日時

MENUボタン → Y セットアップメニュー

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。日時設定の手順については、「日付と時刻を設定する」をご覧ください（□17）。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、[日時の設定] で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。
日時の設定	[現在地の設定] で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。
日付の表示順	液晶モニターに表示される、日付の年、月、日の表示順を、[年/月/日]、[月/日/年]、[日/月/年] から選びます。
夏時間の設定	現在地で夏時間（サマータイム制）が実施されている場合は [する] に、そうでない場合は [しない] に設定します。[する] にすると、時刻が1時間進みます。初期設定は [しない] です。

- カメラの内蔵時計の設定が初期化されている場合、表示パネルとインフォ画面に **CLOCK** マーク、⊕マークがそれぞれ点滅して警告します。

言語 (Language)

MENUボタン →  セットアップメニュー

メニュー画面やメッセージの表示言語を選びます。

縦横位置情報の記録

MENUボタン →  セットアップメニュー

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。

液晶モニターやCapture NX-Dまたは付属のViewNX 2で画像を再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して、自動的に回転表示されます。

記録されるカメラの縦横位置情報は、次の3種類です。

する



横位置



縦位置
時計回りに
90°回転



縦位置
反時計回りに
90°回転

しない

縦横位置情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示します。

縦横位置情報記録についてのご注意

カメラを上向きまたは下向きにして撮影したり流し撮りすると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

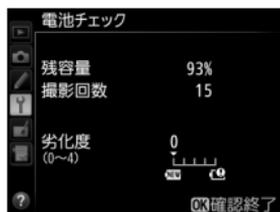
再生メニュー [縦位置自動回転]

再生メニューの [縦位置自動回転] (□278) では、[縦横位置情報の記録] を [する] に設定して縦位置で撮影された画像を、液晶モニターに縦位置で表示するように変更できます。

電池チェック

MENUボタン → Y セットアップメニュー

カメラに装着中のバッテリーの情報を表示します。



残容量	バッテリーの残量を1%単位で表示します。
撮影回数	充電後にシャッターをきった回数を表示します。
キャリブレーション	<p>別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12装着時に、Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL18a/EN-EL18が入っている場合に、キャリブレーションの必要性の有無を表示します。キャリブレーションはバッテリー容量をより正確に測定するための機能で、充放電をある程度繰り返すと【●CAL】が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">●【●CAL】が表示されているときは、キャリブレーションすることをおすすめします。[-] が表示されているときは、キャリブレーションの必要はありません。
劣化度	<p>バッテリーの劣化度合いが5段階のバーグラフで表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">バーグラフが「0」(NEW)のときは、バッテリーは劣化していません。バーグラフが「4」(🔋)のときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

✎ 撮影回数について

[撮影回数] に表示される回数は、シャッターをきった回数です。ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータ取得など、実際に画像がメモリーカードに記録されない場合でも、シャッターをきるごとに1ずつ加算されます。

✔ 低温で充電した場合の劣化度表示について

一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、[電池チェック] で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。

✎ マルチパワーバッテリーパックMB-D12装着時の表示について

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12を装着している場合、MB-D12に入れたバッテリーがLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15のときは、カメラに装着したバッテリーと同様に表示されます。バッテリーがEN-EL18a/EN-EL18の場合、キャリブレーション情報が追加され、キャリブレーションの必要性の有無を表示します。

単3形電池を使用している場合は、残容量にバッテリー残量表示のアイコンが表示され、その他の項目は表示されません。



画像コメント

MENUボタン → Y セットアップメニュー

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、Capture NX-Dまたは付属のViewNX 2のメタデータで確認できます。

■ コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。[コメント入力] を選んでマルチセクターの **▶** を押し、画像コメントの入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください (□173)。

■ コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、[コメント添付] を選んで **▶** を押し、チェックボックスをオン にします。OK ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。



✎ 画像情報に表示される画像コメントについて

入力・添付された画像コメントは、「撮影情報」の「画像コメント」に表示されます (□236)。

撮影した画像に著作権情報を添付することができます。添付された著作権情報は、Capture NX-Dまたは付属のViewNX 2のメタデータで確認できます。

■ 撮影者名入力、著作権者名入力

36文字までの撮影者名と、54文字までの著作権者名を登録できます。[撮影者名入力] または [著作権者名入力] を選んでマルチセクターの  を押すと名前を入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください (□173)。

■ 著作権情報添付

登録した著作権情報を画像に添付したいときは、[著作権情報添付] を選んで  を押し、チェックボックスをオン にします。OK ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全て著作権情報が添付されます。



著作権情報に関するご注意

- カメラを貸したり譲渡したりする場合は、撮影者名や著作権者名の違法な使用を防ぐため、[著作権情報添付] の設定を必ず解除してください。また、撮影者名と著作権者名は空欄にしてください。
- [著作権情報] の使用によって生じたトラブルや損害など、当社は一切責任を負いません。

画像情報に表示される著作権情報について

入力・添付された著作権情報は、「撮影情報」に表示されます (□236)。

カメラ設定の保存と読み込み

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラの各機能の設定データをメモリーカードに保存できます。また、メモリーカードに保存されている設定データをカメラで読み込むこともできるので、複数のD810を同じ設定で使う場合などに便利です。

- メモリーカードを2枚使用している場合、撮影メニューの[主スロットの選択] (□85) で選んだ主スロットのカードが対象になります。

設定を保存、読み込みできる機能は次の通りです。

再生メニュー	再生画面設定
	撮影直後の画像確認
	削除後の次再生画像
	縦位置自動回転
撮影メニュー (A~D全メニュー)	撮影メニューの管理
	撮影メニューの拡張
	ファイル名設定
	主スロットの選択
	副スロットの機能
	画質モード
	JPEG/TIFF記録
	RAW記録
	撮像範囲
	ホワイトバランス (微調整値、プリセットマニュアルデータ)
	ピクチャーコントロール (登録されたカスタムピクチャーコントロールは「スタンダード」で保存します)
	色空間
	アクティブD-ライティング
	ヴェネットコントロール
	自動ゆがみ補正
	長秒時ノイズ低減
	高感度ノイズ低減
ISO感度設定	
動画の設定	

カスタムメニュー (A~D全メニュー)	全メニュー
セットアップ メニュー	イメージセンサークリーニング
	フリッカー低減
	地域と日時 (日時の設定を除く)
	言語 (Language)
	縦横位置情報の記録
	画像コメント
	著作権情報
	レンズ情報手動設定
	HDMI
	位置情報
Eye-Fi送信機能	
マイメニュー / 最近設定した項目	マイメニューに登録したメニュー項目
	最近設定したメニュー項目
	このタブの機能変更

■■ 保存

カメラの設定データをメモリーカードに保存します。メモリーカードに空き容量がない場合は、エラーメッセージが表示され、設定データは保存されません。保存された設定データは他機種のカメラとの互換性はありません。

■■ 読み込み

メモリーカードからカメラの設定データを読み込みます。メモリーカードが装着されていないときや、メモリーカードに設定データが記録されていないときは、**[読み込み]** は選べません。

▼ 設定データについてのご注意

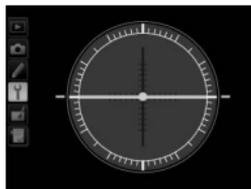
メモリーカードに保存したカメラの設定データのファイル名は「NCSETUPF」です。ファイル名を変更すると、設定データを読み込めなくなるためご注意ください。

水準器表示

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、液晶モニターにローリング方向とピッチング方向の水準器を表示します。

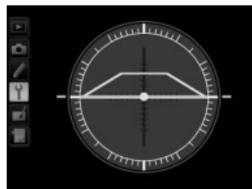
- カメラを正位置（傾きのない状態）にすると、ローリング方向の場合は水準器表示の基準線が緑色に変わります。ピッチング方向の場合は中央の●が緑色に変わります。
- 水準器の1目盛は、約5°を表します。



カメラがローリング方向、ピッチング方向とも正位置の場合



カメラがローリング方向に傾いている場合



カメラがピッチング方向に傾いている場合

水準器の精度について

カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。測定できない状態までカメラを傾けると、水準器の目盛が消灯します。

関連ページ

- ファインダーに水準器インジケーターを表示する →  f4 [Fnボタンの機能] (□336、339)
- 静止画ライブビュー、動画ライブビュー時に水準器を表示する → 「静止画ライブビュー時の表示を切り換える」(□45)、「動画ライブビュー時の表示を切り換える」(□55)

AF微調節

MENUボタン → Y セットアップメニュー

装着したレンズごとに最適なピント合わせを行いたいときに、自分でピント位置を調節できます。通常はAF微調節を行う必要はありません。必要な場合のみ調節を行ってください。正常なレンズを調整すると、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。

AF微調節 (する/しない)	する	AF微調節の設定が有効になります。
	しない	AF微調節を行いません。
個別レンズ の登録	装着しているCPUレンズの微調節値を登録できます。マルチセクターの  または  を押して、+20~-20の範囲で調節できます。最大20種類のレンズを登録できます。 <ul style="list-style-type: none">非CPUレンズや、すでに登録してあるレンズと同じ種類のレンズは登録できません。	
その他レンズ の登録	【個別レンズの登録】で登録していないCPUレンズを装着したときに、一律で微調節する値を設定します。  または  を押して、+20~-20の範囲で調節できます。	

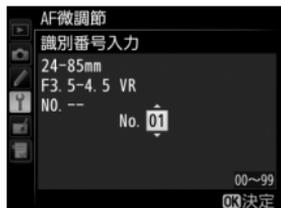


個別レンズ登録リスト

[個別レンズの登録] で登録したレンズを一覧表示します。登録リストからレンズを選んで \odot を押すと、右の画面が表示されます。

- [識別番号入力] 画面では、レンズの識別番号を変更できます。 \odot または \odot を押して識別番号を選んで、 OK ボタンを押します。

[個別レンズの登録] は同じ種類のレンズを複数登録できないため、たとえば、同じレンズを数本所有しているときに登録したレンズのシリアル番号の末尾2桁などを設定しておくこと、どのレンズで登録したかを識別できるので便利です。



✓ AF微調節設定時のご注意

AF微調節を行うと、レンズの無限遠側または至近側で、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。

✓ ライブビュー撮影時のAF微調節について

ライブビュー撮影時にオートフォーカスでピント合わせを行うときは、[AF微調節] で設定した微調節値は適用されません。

✍ 個別レンズの登録について

同じ種類のレンズは複数登録できませんが、テレコンバーターを装着した場合は違うレンズとして個別登録できます。

✍ 登録したレンズを削除するには

[個別レンズの登録] で登録したレンズを削除するには、[個別レンズ登録リスト] 画面の一覧表示から削除したいレンズを選んで、 DEL ボタンを押します。

Eye-Fi送信機能

MENUボタン →  セットアップメニュー

このメニューは、市販のEye-Fiカードをカメラに挿入したときのみ、表示されます。

有効	カメラで作成した画像を、あらかじめ設定した保存先へ送信します。
無効	Eye-Fi送信機能を使用しません。

- 電波の状態が悪い場合、**[有効]** に設定していても送信できないことがあります。
- 電波の出力が禁止されている場所では、設定を **[無効]** にしてください。

Eye-Fiカードを使用するときの注意

- Eye-Fiカードの使用方法はEye-Fiカードの使用説明書をご覧ください。Eye-Fiカードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。
- このカメラには Eye-Fi カードの通信機能を ON/OFF する機能がありますが、Eye-Fiカードの全ての機能を保障するものではありません。
- Eye-Fiカードは、ご購入された国でのみ使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。
- Eye-Fiカードを使う場合は、カスタムメニューc2 **[半押しタイマー]** を30秒以上に設定してください。
- Eye-Fiカードの販売の有無は地域によって異なりますので、カードメーカーにお問い合わせください。
- Eye-Fiカードのファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。

🔪 Eye-Fiカード使用時の表示について

カメラ内のEye-Fiカードの通信状態は、インフォ画面のEye-Fi通信マークで確認できます。

- 📶：[Eye-Fi 送信機能] が [無効] に設定されています。
- 📶 (点灯)：画像の送信を待っています。
- 📶 (点滅)：画像の送信中です。
- 📶 (点滅なし)：未送信の画像がありません。
- 📶 (点滅なし)：エラーが発生しました。Eye-Fiカードをコントロールできません。
 - 表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部で **[Red]** が点滅している場合は、📶469をご覧ください。
 - **[Red]** が点滅していない場合は、続けて撮影できます。ただし、Eye-Fi 送信機能の設定を変更できないことがあります。



🔪 Eye-Fi送信機能が無効のときの警告表示について

[無効] に設定しているときでも、電波が出力される場合があります。液晶モニターに警告メッセージ (📶469) が表示された場合は、カメラの電源をOFFにしてEye-Fiカードを取り出してください。

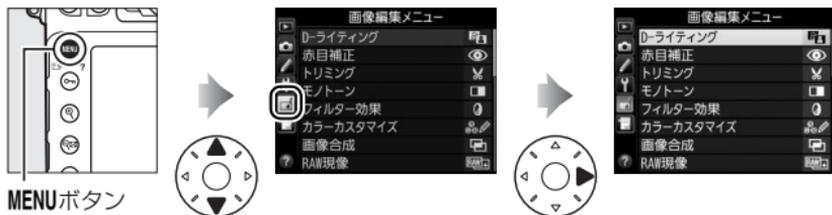
ファームウェアバージョン

MENUボタン → 📶 セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

📷 画像編集メニュー： 撮影した画像に行う編集機能

MENU ボタンを押して、タブの📷アイコンを選ぶと、画像編集メニューが表示されます。



画像編集メニュー項目一覧

画像編集メニューでは、メモリーカード内の撮影済み画像を編集することができます（撮影メニュー [RAW記録] の [画像サイズ] で [サイズS] (□□84) に設定して撮影したRAW画像を除く）。編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像としてメモリーカードに記録されます。画像編集メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目		メニュー項目	
D-ライティング	384	傾き補正	399
赤目補正	385	ゆがみ補正	400
トリミング	386	魚眼効果	401
モノトーン	387	塗り絵	401
フィルター効果	388	カラースケッチ	402
カラーカスタマイズ	390	アオリ効果	403
画像合成※1	391	ミニチュア効果	404
RAW現像	394	セレクトカラー	405
リサイズ	396	動画編集	68
簡単レタッチ	399	編集前後の画像表示※2	408

※1 MENU ボタンを押して、タブの📷アイコンを選んだときのみ表示されます。

※2 編集前または編集後の画像を1コマ表示してiボタンを押したときのみ表示されます。

画像編集の操作方法

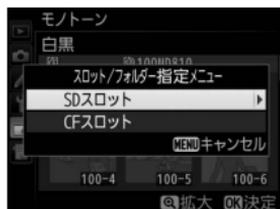
1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ

- マルチセクターの \blacktriangle または \blacktriangledown でメニュー項目を選び、 \blacktriangleright を押します。



2 画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選びます。
- \times ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。
- \times ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定メニュー] 画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます (□228)。
- 画像を選んで \times ボタンを押すと、編集画面が表示されます。



3 画像を編集する

- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、MENUボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。

4 編集した画像を記録する

- **OK** ボタンを押すと、編集した画像を記録します。
- 画像編集した画像には **✓** が付きます。



✓ 同時記録した画像について

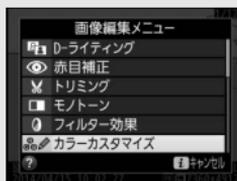
撮影メニュー [RAW記録] の [画像サイズ] で [サイズS] に設定し、RAW画像とJPEG画像を1枚のメモリーカードに同時記録した場合 (□80) のJPEG画像も画像編集は行えません。

✎ i ボタンを押して画像編集メニューを表示する

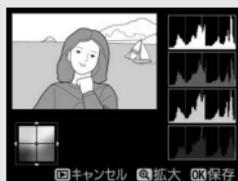
1コマ表示モード (□227) で静止画を選んでから **i** ボタンを押すと、画像編集メニューが表示され、選んだ画像を編集できます。



静止画を選んで
i ボタンを押す



メニュー項目を選び、
OK ボタンを押す



選んだ画像を
編集する

✔ 画像編集についてのご注意

- カメラにメモリーカードが入っていない場合やメモリーカードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューは選択できません。
- RAW画像とJPEG画像を1枚のメモリーカードに同時記録した場合（□80）、RAW画像が画像編集の対象になります。
- このカメラ以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、このカメラでは再生または編集できないことがあります。
- 画像編集中に何も操作しないまましばらくすると、液晶モニターが消灯し、編集中の画像は保存されません。カスタムメニュー c4 [モニターのパワーオフ時間] (□309) の [メニュー表示] の時間を長く設定することをおすすめします。

✔ 繰り返し画像編集する場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、退色したりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません（[画像合成]、[動画編集]の[始点/終点の設定]を除く）。
- 画像編集の組み合わせによっては繰り返し編集できないものもあります。
- 選択中の画像に使用できない画像編集項目は、画像編集メニューでグレーで表示されて選べません。

✍ 画質モードと画像サイズについて

[D-ライティング]、[赤目補正]、[モノトーン]、[フィルター効果]、[カラーカスタマイズ]、[簡単レタッチ]、[傾き補正]、[ゆがみ補正]、[魚眼効果]、[塗り絵]、[カラースケッチ]、[アオリ効果]、[ミニチュア効果]、[セレクトカラー]で作成した画像は、元画像と同じ画質モードと画像サイズで記録します。ただし、元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、画質モードが[FINE]、画像サイズが[サイズL]のJPEG画像を作成します。TIFF (RGB)で撮影された画像の場合、画質モードは[FINE]になりますが、元画像と同じ画像サイズで記録します。また、どの画質モードで撮影した画像も、JPEG圧縮は[サイズ優先]になります。

D-ライティング

MENUボタン →  画像編集メニュー

D-ライティングでは、画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。



D-ライティング前



D-ライティング後

編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。

- マルチセレクターの  または  を押すと、効果の度合いを選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



赤目補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を、補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。

編集画面では、プレビュー画像が表示され、次の操作ができます。

拡大率を上げる		 ボタンを押すごとにプレビュー画像の拡大率が上がります。	
拡大率を下げる		プレビュー画像の拡大再生中は、  ボタンを押すごとに、プレビュー画像の拡大率が下がります。	拡大表示中にこれらの操作を行うと、画面の右下に画像全体が表示され、拡大部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えますが、もう一度操作すると表示されます。
画面をスクロール(移動)する		プレビュー画像の拡大再生中は、画面をスクロールして、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	
拡大表示を終了する		拡大表示中に  ボタンを押すと、拡大表示を終了します。	
画像を保存する		補正した画像が記録されます。	

✎ 赤目補正についてのご注意

赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。

- 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。

赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

トリミング

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。



切り抜く範囲を狭くする		 ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が狭くなります。
切り抜く範囲を広くする		 ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が広がります。
画像のアスペクト比（縦横比）を変更する		メインコマンドダイヤルを回すと、アスペクト比を変更できます。
切り抜く範囲を移動する		トリミングで切り抜く範囲を移動します。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。
画像のプレビューを見る		トリミングした画像のイメージを見ることができます。
トリミングを実行して画像を保存する		トリミングした画像が記録されます。

▼ トリミング画像についてのご注意

- トリミング画像は、拡大表示できないことがあります。
- トリミング画像の画質モード (□79) は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードや [TIFF (RGB)] のときは [FINE] になり、 [FINE]、[NORMAL]、[BASIC] のときは元画像と同じ画質モードになります。
- トリミング画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます。画像サイズは、トリミング時の拡大率とアスペクト比 (横:縦) により変わります。



モノトーン

MENUボタン → 画像編集メニュー

モノトーンの画像 (1種類の色のみで構成される画像) を作成します。

[モノトーン] を選ぶと、右のメニューが表示され、色調を選ぶことができます。



白黒	モノクロになります。
セピア	セピア色 (褐色) のモノトーンになります。
クール	ブルー系のモノトーンになります。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- [セピア] または [クール] を選んだ場合は、マルチセレクターで色の濃さを調整できます。☀️を押すと色が濃くなり、🌑を押すと色が薄くなります。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。
- Ⓞ ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

濃くする



薄くする



フィルター効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像全体の色調を演出できます。

スカイ ライト	スカイライトフィルターのように、画像の青みを抑える効果があります。	 <p>編集画面では、プレビュー画像を表示します。</p>
ウォーム トーン	画像を暖色にする効果があります。	
赤強調	赤色が強調されます。	 <p>マルチセレクターで強調の度合い（色の濃さ）を調整できます。を押すと色が濃くなり、を押すと色が薄くなります。</p>
緑強調	緑色が強調されます。	
青強調	青色が強調されます。	

<p>クロス スクリーン</p>	<p>クロスフィルターのように、太陽の反射や街灯などの光源から、放射状に光のすじが伸びる効果があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [光線の本数]：光線の本数を、3種類から選べます。 • [クロスの量]：クロスフィルターがかかると光源の量を3段階から選べます。 • [光線の傾き]：光線の傾きを3段階から選べます。 • [光線の長さ]：放射状に伸びる光の長さを3段階から選べます。 	 <p>[確認] を選んで OK ボタンを押すと、現在設定している内容を画像に反映します。Q ボタンを押している間、1コマ表示モードと同じ大きさで画像を確認できます。保存する場合は [保存] を選んで OK ボタンを押してください。</p>
<p>ソフト</p>	<p>ソフトフィルターのように、画像をソフトな雰囲気仕上げます。</p>	 <p>◀ または ▶ を押すと、効果の度合いを選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画面で確認できます。</p>

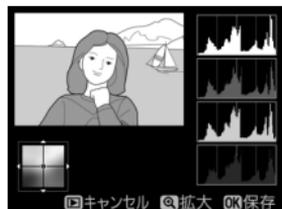
- **OK** ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

カラーカスタマイズ

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像全体の色調を調整できます。

右のような画面が表示され、マルチセクターで画像全体の色調を調整できます。
    を押すたびに、画面全体の色調が次のように変わります。



色調を操作すると、プレビュー画像と画面右側のRGBヒストグラム(色の分布図: □234)に反映されます。

-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

プレビュー画像の拡大表示について

調整画面で  ボタンを押すと、プレビュー画像を拡大表示し、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。拡大表示中に  ( / ) ボタンを押すと、色調の調整と拡大表示の操作を切り換えられます。拡大表示中にマルチセクターを操作して画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。 ボタンを押すと画像を縮小表示します。



画像合成

MENUボタン →  画像編集メニュー

メモリーカードに記録されているRAW 画像2 コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。



1 画像編集メニュー画面で

「画像合成」を選ぶ

- 「画像合成」を選んでマルチセクターの  を押すと、右のような画面が表示され、「画像1」欄がハイライト表示されます。



2 合成する画像の1コマ目を選ぶ

-  ボタンを押すと表示されるRAW画像のサムネイル一覧から、1コマ目の画像を選びます。
-  ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
-  ボタンを押すと、「スロット/フォルダー指定メニュー」画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます (□228)。



3 1コマ目の画像を決定する

- **OK** ボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、[画像1] 欄にプレビューが表示されます。



4 2コマ目の画像を選ぶ

- **右矢印** を押して [画像2] を選び、手順2～3と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。



5 ゲインを調節する

- プレビュー欄に [画像1] と [画像2] を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成画像の明るさが適正になるように、[画像1] または [画像2] を選んでから **上矢印** または **下矢印** を押してゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1～2.0の範囲で、0.1ステップで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。



6 プレビュー欄に移動する

- **左矢印** または **右矢印** を押して、プレビュー欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、[保存] を選んで **OK** ボタンを押してください。



7 合成画像を確認する

- [合成] を選び、**OK** ボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、**戻る** ボタンを押してください。手順6の画面に戻ります。



8 合成画像を保存する

- もう一度**OK** ボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。



✓ 画像合成についてのご注意

- 合成できる画像は、このカメラで撮影した [RAW記録] の [画像サイズ] が [サイズL] のRAW 画像だけです。機種異なるカメラやRAW 以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成画像の画質モード (□79) と画像サイズ (□82) は、合成時のカメラの設定と同じになります (ただし [RAW記録] の [画像サイズ] が [サイズS] の場合は、[サイズL] として合成されます)。画像合成をする前に、これらの設定を確認してください。合成した画像をさらに別のRAW 画像と合成したいときは、画質モードをRAW、画像サイズを [サイズL] に設定してください。
- [撮像範囲] と [記録ビットモード] が同じRAW画像のみ合成できます。
- 合成時にRAW を含む画質モードが選ばれている場合、元画像と同じ記録ビットモードになります。また、RAW 圧縮は合成時のカメラの設定になります。
- 合成時の画質モードがJPEGの場合、JPEG 圧縮は [サイズ優先] になります。
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ (撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など) は、[画像1] で選んだ画像の内容を引き継ぎます。ただし、著作権情報は引き継ぎません。また、合成された画像には、画像合成時にカメラに設定されている画像コメントが添付されます。

RAW現像

(パソコンを使わずにRAW画像をJPEG画像に変換する)

MENUボタン →  画像編集メニュー

RAWを含む画質モード (□79) で記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成できます。

1 画像編集メニュー画面で [RAW現像] を選ぶ

- [RAW現像] を選んでマルチセクターの  を押すと、RAW画像がサムネイル表示されます。

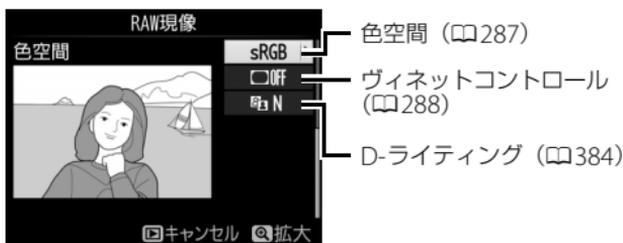
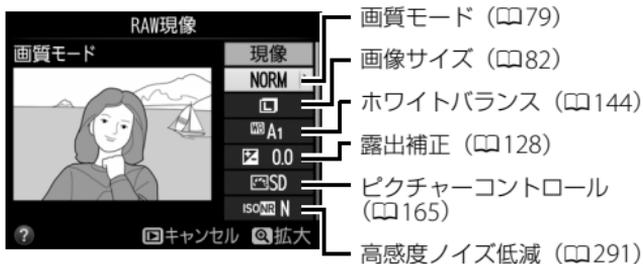


2 RAW現像する画像を選ぶ

- マルチセクターでRAW現像する画像を選び、 ボタンを押します。
-  ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
-  ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定メニュー] 画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます (□228)。



3 表示されている項目をそれぞれ設定する



4 RAW現像する

- [現像] を選んで **OK** ボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- RAW現像後のJPEG画像が保存されます。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、**MENU**ボタンを押してください。



✓ RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影した [RAW記録] の [画像サイズ] が [サイズL] のRAW画像だけです。機種異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。付属のソフトウェアViewNX 2 (□244) やCapture NX-DでRAW現像を行ってください。
- 多重露出撮影した画像や [画像合成] で編集した画像の場合、[ホワイトバランス] と [ヴィネットコントロール] は選べません。
- [露出補正] で設定できる明るさ (-2~+2) は、通常の露出補正の段数とは異なります。

リサイズ

MENUボタン →  画像編集メニュー

サイズの小さい画像を作成します。メモリーカードを2枚使用している場合は、記録先のスロットも指定できます。

■ 複数の画像を選んでリサイズ画像を作成する

MENUボタンを押して画像編集メニューを選んだ場合、複数の画像のリサイズ画像を一度に作成できます。

1 画像編集メニュー画面で

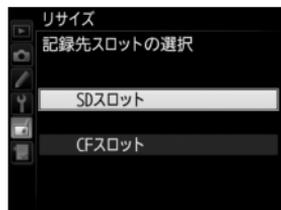
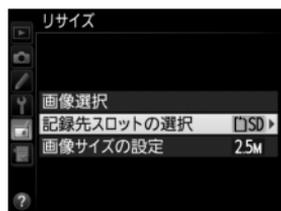
[リサイズ] を選ぶ

- [リサイズ] を選んでマルチセクターの  を押します。



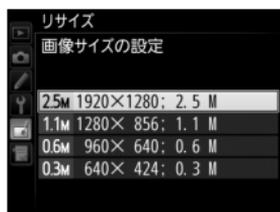
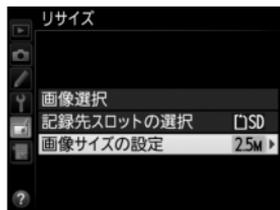
2 記録先のスロットを選ぶ

- メモリーカードを2枚使用している場合は、[記録先スロットの選択] を選んで  を押します。
- メモリーカードが1枚しか入っていない場合は、[記録先スロットの選択] を選べません。手順3に進んでください。
-  または  でスロットを選び、 ボタンを押します。



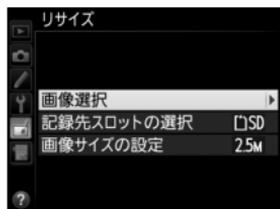
3 画像サイズを設定する

- [画像サイズの設定] を選んで **[▶]** を押します。
- **[▶]** または **[◀]** で画像サイズを選び、**[OK]** ボタンを押します。



4 [画像選択] を選ぶ

- [画像選択] を選んで **[▶]** を押すと、画像の選択画面が表示されます。



5 リサイズしたい画像を選ぶ

- マルチセクターを操作して、リサイズしたい画像を選びます。
- **[Q]** ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。
- **[Q]** ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定メニュー] 画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます (□228)。



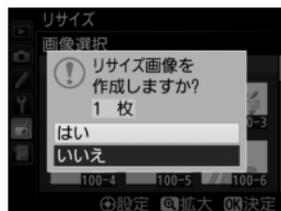
6 設定する

- マルチセクターの**中央**ボタンを押すと、が表示されます。もう一度**中央**ボタンを押すと、が消えます。
- リサイズする画像全てに設定したら、ボタンを押します。



7 リサイズ画像を作成する

- 確認画面で **[はい]** を選んで、 ボタンを押すと、リサイズ画像が保存されます。



リサイズ画像についてのご注意

- リサイズ画像は、拡大表示できないことがあります。
- リサイズ画像の画質モード (□79) は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードや **[TIFF (RGB)]** のときは **[FINE]** になり、**[FINE]**、**[NORMAL]**、**[BASIC]** のときは元画像と同じ画質モードになります。
- 撮影メニュー **[撮像範囲]** の **[撮像範囲設定]** (□74) を **[5:4 (30 × 24)]** にして撮影した画像は、リサイズできません。

簡単レタッチ

MENUボタン →  画像編集メニュー

コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成できます。

カメラがD-ライティングの機能を使って、画像の暗い部分を明るく補正したり、コントラストと彩度（色の鮮やかさ）を高めたりします。

- マルチセクターの  または  を押すと、効果の度合いを選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画面で確認できます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



傾き補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像の傾きを±5°の範囲（約0.25°ステップ）で補正できます。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- 補正する傾きが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



傾きを補正する		マルチセクターの  を押すと時計回りに傾き、  を押すと反時計回りに傾きます。
傾き補正を 実行して 画像を保存する		傾き補正した画像が記録されます。

ゆがみ補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。[オート] を選ぶと、画像のゆがみを自動的に判別して補正しますが、好みに応じて微調整することもできます。[マニュアル] を選ぶと自分でゆがみを補正できます。



- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- [オート] は、Gタイプ、Eタイプ、またはDタイプレンズで撮影した画像のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズで撮影した画像には機能しません。また、対応レンズ以外で撮影した画像については、動作を保証しません。
- [自動ゆがみ補正] (□289) を行った画像の場合、[マニュアル] のみ選べます。

ゆがみを補正する		<ul style="list-style-type: none">• たる型のゆがみを補正するには、マルチセレクターの  を押します。• 糸巻き型のゆがみを補正するには、 を押します。
ゆがみ補正を実行して画像を保存する		ゆがみ補正した画像が記録されます。

☑ ゆがみ補正についてのご注意

- 補正するゆがみが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- DXレンズを装着し、撮像範囲を [DX (24×16) 1.5×] 以外に設定して撮影した画像の場合、画像周辺部が大きく切り取られたり、DXフォーマットの外側の部分が特に強く補正されることがあります。

魚眼効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

フィッシュアイ（魚眼）レンズで撮影したような画像になります。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- 魚眼効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



魚眼効果を調節する		マルチセレクターの  を押すほど、魚眼効果は大きくなり、  を押すほど小さくなります。
魚眼効果を実行して画像を保存する		魚眼効果の画像が記録されます。

塗り絵

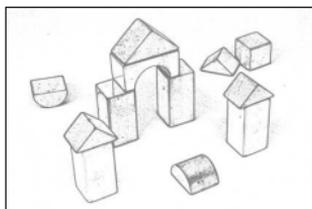
MENUボタン →  画像編集メニュー

輪郭を抽出して塗り絵の原画風の画像を作成できます。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



塗り絵処理前



塗り絵処理後

カラスケッチ

MENUボタン →  画像編集メニュー

輪郭を抽出して色をつけることで、スケッチ風の画像を作成できます。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。



色の濃さを変える		マルチセレクターの▲または▼で「色の濃さ」を選んでから、▶を押すと色が濃くなり、◀を押すと薄くなります。
線の濃さを変える		▲または▼で「線の濃さ」を選んでから、▶を押すと線が濃くなり、◀を押すと薄くなります。「線の濃さ」を濃くすると、画像全体の色も濃くなります。
カラスケッチ画像を保存する		カラスケッチ画像が記録されます。

アオリ効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

高層ビルを見上げて撮影したときなどに生じる、遠近感による被写体のゆがみを補正します。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- アオリ効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



アオリ効果を調節する		マルチセクターの     でアオリの効果を変更できます。
アオリ効果を実行して画像を保存する		アオリ効果の画像が記録されます。



アオリ効果処理前



アオリ効果処理後

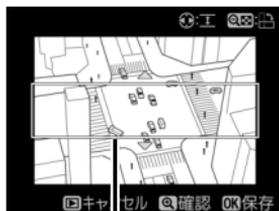
ミニチュア効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

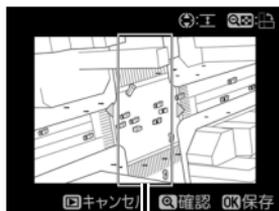
ミニチュア（模型）を接写したように加工します。ミニチュア効果には、高いところから見下ろして撮影した画像が適しています。

- [ミニチュア効果] を選ぶと、黄色い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。

効果をかける方向を変える		 ボタンを押すと、効果をかける方向を縦と横から選べます。
ぼかさない範囲を決める		横方向に効果をかける場合、マルチセレクターの  または  を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。
		縦方向に効果をかける場合、  または  を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。
効果をかける幅を変える		横方向に効果をかける場合、  または  で効果をかける幅の広さを選びます。
		縦方向に効果をかける場合、  または  で効果をかける幅の広さを選びます。
プレビューを表示する		プレビューが表示され、効果を確認できます。
ミニチュア効果を実行して画像を保存する		ミニチュア効果の画像が記録されます。



ぼかさない範囲



ぼかさない範囲

セレクトカラー

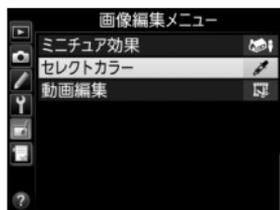
MENUボタン →  画像編集メニュー

選択した色のみを残し、それ以外の色をモノトーン（白黒）に加工します。

1 画像編集メニュー画面で

「セレクトカラー」を選ぶ

- 「セレクトカラー」を選んでマルチセクターの  を押し、画像の選択画面が表示されます。



2 加工する画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選び、 ボタンを押します。
-  ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
-  ボタンを押すと、「スロット/フォルダー指定メニュー」画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます（□228）。



3 残したい色を抽出する

- マルチセクターを操作して、色取得の枠を画像上の残したい色に重ねます。
-  ボタンを押すと拡大表示され、残したい色を細部まで確認できます。 ボタンを押すと縮小表示します。
- 残したい色の彩度によっては、抽出しにくい場合があります。彩度の高い色の抽出をおすすめします。
- マルチセクターの中央ボタンを押すと、色の枠に抽出した色が表示されます。



4 色の感度の枠を選ぶ

- メインコマンドダイヤルを回して、色の感度の枠を選びます。
- 抽出した色以外の色は、モノトーンで表示されます。



色の感度



5 抽出する色の感度を設定する

- または を押して、抽出する色の感度を [1] ~ [7] から設定します。数値が大きいほど抽出する色の色相が広くなり、小さいほど狭くなります。
- 色の感度を高く設定しすぎると、選択した色に近い色相の色も抽出されます。



6 抽出する色を追加する

- メインコマンドダイヤルを回して、別の色の枠と感度の枠を選び、手順3~5と同じ手順で色を抽出し、色の感度を設定します。
- 最大3色まで設定できます。
- 抽出した色の枠を選んで (FORMAT) ボタンを押すと、抽出した色をリセットします。
- 抽出した全ての色を削除したい場合は、 (FORMAT) ボタンを押し続けます。確認画面で [はい] を選んで ボタンを押すと、全ての色をリセットします。



7 決定する

- **OK** ボタンを押すと、セレクトカラー画像が保存され、1コマ表示になります。



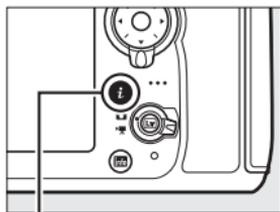
編集前後の画像表示

画像編集を行った画像を、編集元の画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集元または編集後の画像を1コマ表示して*i*ボタンを押したときのみ表示されます。

■ 編集前後の画像表示方法

1 1コマ表示モードで画像を選ぶ

- 画像編集で作成した画像（が表示されている画像）または画像編集の元画像を選びます。
- 画像を選んで*i*ボタンを押すと、画像編集メニュー項目を表示します。



*i*ボタン

2 [編集前後の画像表示] を選ぶ

- [編集前後の画像表示] を選んで \odot ボタンを押すと、[編集前後の画像表示] 画面を表示します。



3 編集前と編集後の画像を比較する

- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- マルチセレクターの \odot または \odot で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、 \odot または \odot で2枚の元画像を切り換えられます。
- 1枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、 \odot または \odot で編集後の画像を切り換えられます。
- \otimes ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- \odot ボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を1コマ表示モードで再生します。
- \square ボタンを押すと、再生画面に戻ります。

画像編集の内容



✓ 編集前後の画像表示についてのご注意

- プロテクト (□241) が設定されている画像を編集した場合、編集前の画像は表示されません。
- 編集元の画像を削除した場合や非表示設定 (□271) にした場合も、編集前の画像は表示されません。

マイメニュー / **最近設定した項目**

MENU ボタンを押して、タブの  アイコンを選ぶと、[マイメニュー] 画面が表示されます。



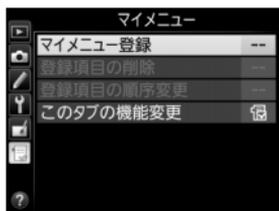
マイメニュー：よく使うメニューを登録する

再生、撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。登録した項目は、削除したり、表示順序を変えたりできます。

■ **マイメニューを登録する**

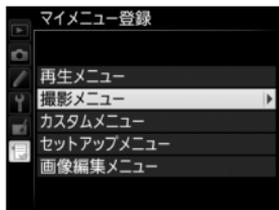
1 **マイメニュー画面で [マイメニュー登録] を選ぶ**

- [マイメニュー登録] を選んで、マルチセクターの  を押します。



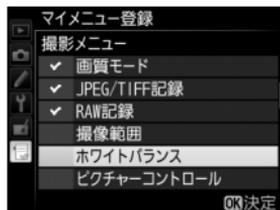
2 **登録したいメニューを選ぶ**

- 登録したいメニューを選んで  を押すと、選んだメニューが一覧表示されます。



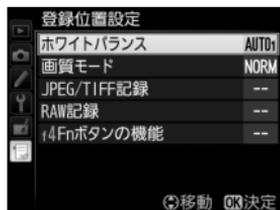
3 マイメニューに登録する項目を選ぶ

- マイメニューに登録する項目を選んで
OKボタンを押します。



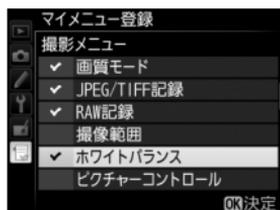
4 登録する項目の表示位置を選ぶ

-  または  で登録する項目の表示位置を選んで、OKボタンを押します。



5 マイメニューに表示したい全ての項目を登録する

- ✓が表示されている項目は、すでにマイメニューに登録済みです。
- 左横に□が表示されている項目は、マイメニューに登録できません。
- 手順1~4を繰り返して、マイメニューに表示したい項目を登録します。



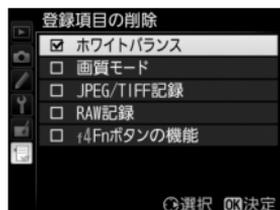
■ 登録した項目を削除する

1 マイメニュー画面で【登録項目の削除】を選ぶ

- 【登録項目の削除】を選び、マルチセクターの \odot を押します。

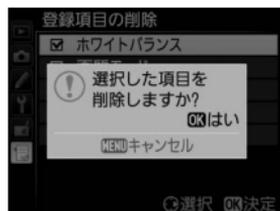
2 削除したいメニュー項目を選ぶ

- \odot を押すと、項目の左側のチェックボックスが \square になります。
- 削除したい全ての項目に \checkmark を入れます。



3 選んだ項目を削除する

- \odot ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度 \odot ボタンを押すと、選んだ項目が削除されます。



ボタン操作で登録した項目を削除するには

マイメニュー画面で削除したい項目を選んで \odot (決定) ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度 \odot (決定) ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

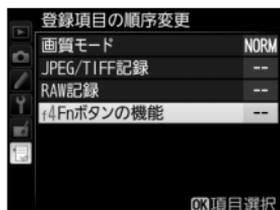
■ 登録した項目の表示順序を変える

1 マイメニュー画面で [登録項目の順序変更] を選ぶ

- [登録項目の順序変更] を選び、マルチセレクターの  を押します。

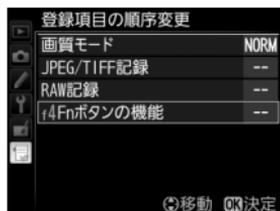
2 順番を変えたい項目を選ぶ

- 順番を変えたい項目を選んで、 ボタンを押します。



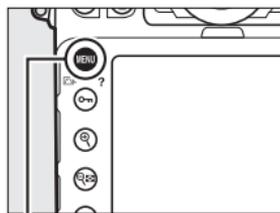
3 選んだ項目を移動したい位置を選ぶ

-  または  で移動したい位置を選んで、 ボタンを押すと、マイメニューの中で位置が変わります。
- 必要に応じて手順2~3を繰り返します。



4 マイメニュー画面に戻る

MENU ボタンを押すと、マイメニュー画面に戻ります。



MENU ボタン



■「マイメニュー」を「最近設定した項目」に変更する

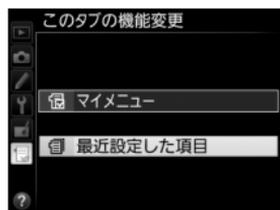
1 マイメニュー画面で「このタブの機能変更」を選ぶ

- 「このタブの機能変更」を選び、マルチセクターの  を押します。



2 「最近設定した項目」を選ぶ

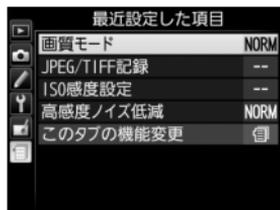
- 「このタブの機能変更」画面で「最近設定した項目」を選んで、 ボタンを押します。
- 「マイメニュー」が「最近設定した項目」に切り替わります。



📄 最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる

■「最近設定した項目」の設定方法

メニューを設定するたびに「最近設定した項目」に追加されます。最大20項目まで登録されます。



✏️ 最近設定した項目を削除するには

「最近設定した項目」画面で削除したい項目を選んで🗑️ (削除) ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度🗑️ (削除) ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

✏️ 「最近設定した項目」からマイメニューに戻すには

「最近設定した項目」の「このタブの機能変更」を選ぶと、□414の手順2と同じ画面が表示されます。「マイメニュー」を選んで👌 ボタンを押すと、マイメニューに切り替わります。

資料

このカメラで使えるアクセサリやカメラの主な仕様など、カメラを使うときに役立つ情報を記載しています。また、カメラの動作がおかしいときや警告メッセージが表示されたときの対処方法についても説明しています。

使用できるレンズ

CPUレンズ（IXニッコールを除く）をおすすめします。特にGタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズは、カメラの機能を最大限に引き出すことができます。

レンズ	モード	フォーカスモード		露出モード		測光モード			
		AF (オート フォーカス)	M (フォーカス エイド) ※1	P S	A M	☑		☐/☐	☐*
						3D-RGB	RGB		
CPUレンズ※2	Gタイプレンズ※3、 Eタイプレンズ※3、 Dタイプレンズ※3、 AF-Iレンズ、 AF-Sレンズ	○	○	○	○	○	×	○※4	○
	PC-E NIKKOR シリーズ※5	×	○※6	○※6	○※6	○※6	×	○※4、6	○
	PCマイクロ 85mm F2.8D※7	×	○※6	×	○※8	○	×	○※4、6	○
	AF-S/AF-Iテレコンバー ター※9	○	○	○	○	○	×	○※4	○
	Gタイプ、Eタイプ、 Dタイプ以外のAFレン ズ (F3AF用を除く)	○※10	○※10	○	○	×	○	○※4	×
	AI-Pニッコール	×	○※11	○	○	×	○	○※4	×

☑=マルチパターン測光、☑=中央部重点測光、☐=スポット測光、☐*=ハイライト重点測光

レンズ	モード	フォーカスモード		露出モード		測光モード			
		AF (オート フォーカス)	M (フォーカス エイド) ※1	P S	A M	☑		☑/□	□*
						3D-RGB	RGB		
非CPUレンズなど※12	AI-S、AI、AI改造レンズ、 シリーズEレンズ※13	×	○※11	×	○※14	×	○※15	○※16	×
	メディカル120mm f/4	×	○	×	○※17	×	×	×	×
	レフレックスレンズ	×	×	×	○※14	×	×	○※16	×
	PCニッコール	×	○※6	×	○※18	×	×	○	×
	AI-S、AIテレコンバー ター※19	×	○※20	×	○※14	×	○※15	○※16	×
	ベローズアタッチ メントPB-6 ※21	×	○※20	×	○※22	×	×	○	×
	オート接写リング (PK-11A、12、13、 PN-11)	×	○※20	×	○※14	×	×	○	×

- ※1 M (マニュアルフォーカス) は全てのレンズで使用可能です。
- ※2 IXレンズは装着できません。
- ※3 このカメラはVRレンズのVR (手ブレ補正) 機能に対応しています。
- ※4 フォーカスポイントの選択によりスポット測光エリアの移動が可能 (□112)。
- ※5 PC-E NIKKOR 24mm f/3.5D EDを装着してレボルビング操作をすると、レンズのシフトノブがカメラボディに接触する場合があります。この場合、シフトノブを小型に交換することで接触を回避できます。詳しくはニコンサービス機関にお問い合わせください。
- ※6 アオリ操作をしていない場合のみ可能。
- ※7 カメラの測光モード、および調光制御機能は、アオリ操作 (シフトまたはティルト) をしているとき、または開放絞り以外に絞り値が設定されているときには、正しく機能しません。
- ※8 露出モードはMで使用可能。
- ※9 AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用です。オートフォーカスとフォーカスエイド可能なフォーカスポイントについては、□420をご覧ください。
- ※10 AF80-200mm f/2.8S、AF35-70mm f/2.8S、AF28-85mm f/3.5-4.5S (New)、AF28-85mm f/3.5-4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。

- ※11 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。
 - ※12 一部装着不可能なレンズ（□421）があります。
 - ※13 AI ED80–200mm f/2.8Sの三脚座を回転するとカメラと干渉するため、回転方向に制限があります。AI ED200–400mm f/4Sをカメラに装着したままでのフィルター交換はできません。
 - ※14 レンズ情報手動設定（□222）でレンズの開放絞り値を設定することにより表示パネル、ファインダー内表示に絞り値が表示されます。
 - ※15 レンズ情報手動設定（□222）でレンズの焦点距離、開放絞り値を設定することにより可能です。一部のレンズでは焦点距離と開放絞り値を設定しても十分な精度が得られない場合があります。この場合は中央部重点測光またはスポット測光を選んで撮影してください。
 - ※16 レンズ情報手動設定（□222）で焦点距離、開放絞り値を設定することにより、測光の精度が向上します。
 - ※17 露出モードがMでフラッシュ同調シャッタースピードより1段以上低速のシャッタースピードのときに使えます。
 - ※18 絞り込み測光で使用します。露出モードがAの場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、AEロック後にアオリ操作を行ってください。露出モードがMの場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、あおる前に測光して露出を決定してください。
 - ※19 AI 28–85mm f/3.5–4.5S、AI 35–105mm f/3.5–4.5S、AI 35–135mm f/3.5–4.5S、AF-S 80–200mm f/2.8Dレンズの組み合わせによっては、露出補正を行う必要があります。
 - ※20 合成絞り値がF5.6以上明るい場合に使用可能。
 - ※21 オート接写リングPK-12またはPK-13を併用すると装着できます。カメラの姿勢、位置によりPB-6Dが必要です。
 - ※22 絞り込み測光で使用可能、露出モードがAの場合はペローズアタッチメント側で絞り込みを行い、測光後撮影してください。
- 複写装置PF-4へはカメラアダプター PA-4を併用すると装備できます。
 - 高感度撮影時には、オートフォーカス作動中にノイズ（すじ）が発生することがあります。この場合は、マニュアルフォーカスまたはフォーカスロックを利用して撮影してください。また、動画撮影時やライブビュー表示中にISO感度が高い場合は、絞り作動中にノイズ（すじ）が発生することがあります。

🔪 レンズの開放F値とは

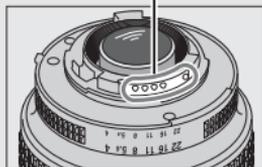
レンズの明るさを示す数値で、そのレンズで最も絞りを開いたときの絞り値を意味します。レンズ名称の最後のほうに「f/2.8」「f/3.5-5.6」などと記されています。

🔪 CPUレンズ、Gタイプレンズ、Eタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方

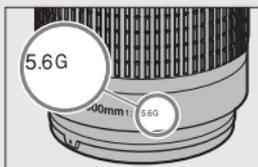
CPUレンズにはCPU信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Eタイプレンズには「E」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。GタイプレンズとEタイプレンズには、絞りリングがありません。

CPU信号接点

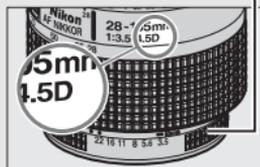
絞りリング



CPUレンズ



G/Eタイプレンズ



Dタイプレンズ

AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のフォーカスポイントについて

- AF-S/AF-Iテレコンバーターを装着して撮影を行う場合、オートフォーカスとフォーカスイドが可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです（合成絞り値がF5.6より暗い場合は、コントラストの低い被写体や輝度の低い被写体の撮影時にピントが合わないことがあります）。

テレコンバーター	装着レンズの開放F値	フォーカスポイント
TC-14E/TC-14E II/ TC-14E III	F4まで	
	F5.6	
TC-17E II	F2.8まで	
	F4	
	F5.6	— ※2
TC-20E/TC-20E II/ TC-20E III	F2.8まで	
	F4	
	F5.6	— ※2
TC-800-1.25EED	F5.6	

※1 AFエリアモード (□89) が3D-トラッキングまたはオートエリアAFの場合、シングルポイントAFに変更されます。

※2 この組み合わせの場合、オートフォーカス撮影はできません。

※3 中央のフォーカスポイント以外はラインセンサーによってピント情報を取得します

- AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDをお使いの場合、オートフォーカス撮影はできません。

非CPUレンズを使用する場合は

非CPUレンズを使用する場合は、セットアップメニューの[レンズ情報手動設定] (□222) でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定することによって、絞り値表示、RGBマルチパターン測光などの機能が使用できるようになります。レンズの焦点距離と開放絞り値を設定しない場合、測光モードをマルチパターン測光に設定しても、自動的に中央部重点測光になります。

また、絞り値はレンズの絞りリングでのみ設定できます。[レンズ情報手動設定] でレンズの開放絞り値を設定しない場合、表示パネルとファインダー内表示の絞り値表示が開放からの絞り込み段数表示となりますので、絞り値は、レンズの絞りリングで確認してください。

使用できないレンズ

次の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

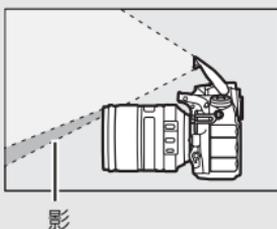
- AFテレコンバーター TC-16AS
- AI改造をしていないレンズ (AI方式以前の連動爪を使用するタイプ)
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ (400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11)
- フィッシュアイ (6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6)
- 2.1cm f/4
- K2リング
- ED180-600mm f/8 (製品No.174041~174180)
- ED360-1200mm f/11 (製品 No.174031~174127)
- 200-600mm f/9.5 (製品 No.280001~300490)
- F3AF用 (AF80mm f/2.8、AF ED200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S)
- PC28mm f/4 (製品 No.180900以前の製品)
- PC35mm f/2.8 (製品 No.851001~906200)
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11 (製品 No.142361~143000)
- レフレックス2000mm f/11 (製品 No.200111~200310)

☑ AF 補助光撮影に制限のあるレンズについてのご注意

- 使用するレンズや撮影距離によっては、AF 補助光がレンズでさえぎられることがあります。
- AF 補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。
- AF 補助光撮影に制限のあるレンズについては、「AF 補助光撮影、内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについて」(□490)をご覧ください。

☑ 内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについてのご注意

- 内蔵フラッシュには、24mm (DXフォーマット時16mm) から300mmまでのCPUレンズが使用できます。
 - 使用するレンズや撮影距離によっては、フラッシュのケラレが発生することがあります。
 - ケラレを防止するため、レンズフードは取り外して使用してください。
 - 撮影距離0.6m以上で使用してください。
 - マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
- ケラレとは、内蔵フラッシュの光がレンズの先端でさえぎられて影になり、写真に写り込む現象です。



- 内蔵フラッシュ撮影時にケラレが発生するレンズについては、「AF補助光撮影、内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについて」(□490)をご覧ください。

☑ 赤目軽減モードについてのご注意

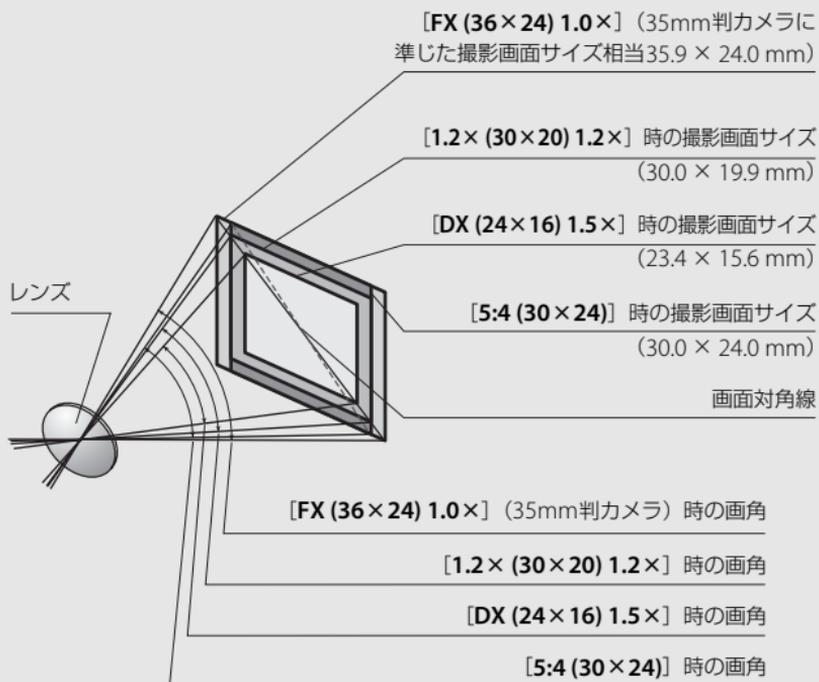
レンズの種類によっては、赤目軽減ランプの光がさえぎられ、フラッシュ撮影時に十分な赤目軽減効果が得られない場合があります。

🔪 レンズの画角と焦点距離について

D810では、さまざまな当社製35mm判カメラ用レンズが使用できます。[DX自動切り換え] (□75) を [する] に設定している場合、35mm判カメラのレンズを装着すると、35mm判カメラと同じ画角（フィルム面に写し込む範囲）の [FX (36×24) 1.0×] で撮影できます。DXレンズを装着すると、カメラが判別して自動的に [DX (24×16) 1.5×] に切り換えます。

[DX自動切り換え] の設定を変えて、使用しているレンズと異なる画角で撮影することもできます。たとえば、35mm判カメラのレンズの使用時に、[DX (24×16) 1.5×] や [1.2× (30×20) 1.2×] に設定して画角を狭くしたり、[5:4 (30×24)] に設定してアスペクト比（縦横比）の異なる画像を撮影することもできます。

このため、[撮像範囲] の設定によっては、同じレンズで撮影しても、画角と画面サイズが異なることにご注意ください。



35mm判カメラの撮影画面サイズは、対角線の長さで **[DX (24×16) 1.5×]** のときの約1.5倍、**[1.2× (30×20) 1.2×]** のときの約1.2倍、**[5:4 (30×24)]** のときの約1.1倍です。したがって、D810に35mm判カメラのレンズを装着したときのレンズに表記されている焦点距離は、**[DX (24×16) 1.5×]** のときが約1.5倍、**[1.2× (30×20) 1.2×]** のときが約1.2倍、**[5:4 (30×24)]** のときが約1.1倍に相当します。たとえば、焦点距離50 mmのレンズを装着したときは、**[DX (24×16) 1.5×]** では約75 mm、**[1.2× (30×20) 1.2×]** では約60 mm、**[5:4 (30×24)]** では約55 mmの焦点距離に相当する画角になります。

使用できるスピードライト

このカメラは、ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで、さまざまな機能が利用できます。

なお、別売スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光しません。

ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) について

ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) は、ニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、スピードライト撮影に新たな可能性を開く、さまざまな機能を提供します。

■ ニコンクリエイティブライティングシステム対応 スピードライトの主な仕様

	ガイドナンバー (ISO 100・m/ISO 200・m、20℃)
SB-910/SB-900※1	34/48 (照射角35mm、スタンダード配光時)
SB-800	38/53 (照射角35mm時)
SB-700※1	28/39 (照射角35mm、スタンダード配光時)
SB-600	30/42 (照射角35mm時)
SB-400※2	21/30
SB-300※2	18/25
SB-R200※3	10/14

※1 カメラのホワイトバランスを **AUTO** (オート) または  (フラッシュ) に設定し、SB-910、SB-900、またはSB-700用カラーフィルターを装着して撮影すると、カメラが自動的にフィルターを識別し、最適なホワイトバランスを設定します。

※2 ワイヤレス機能はありません。

※3 リモート発光用スピードライト SB-R200 を使用するには、内蔵フラッシュをコマンドモードに設定するか、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、またはワイヤレススピードライトコマンド SU-800が必要です。

■ SU-800について

ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800は、ワイヤレスでSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて制御できます。SU-800には発光機能はありません。

ガイドナンバーとは

フラッシュの光量を示す値で、大きいほど光が遠くまで届きます。「ガイドナンバー＝絞り値×撮影距離 (m)」(ISO感度が100の場合) という関係があります。ガイドナンバーが34 (ISO感度100、20℃) のスピードライトの場合、ISO感度が100で絞り値がF5.6なら、 $34 \div 5.6 = \text{約}6.1\text{m}$ までフラッシュの光が届くこととなります。また、実効ガイドナンバーはISO感度が2倍になると約1.4倍 ($\sqrt{2}$ 倍) になります。ISO感度が200の場合、絞り値がF5.6なら $34 \div 5.6 \times 1.4 = \text{約}8.6\text{m}$ まで光が届きます。

ニコンクリエイティブライティングシステム対応 スピードライトとの組み合わせで使用できる機能

			SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
1灯	i-TTL	i-TTL-BL 調光*1	○	○	○	—	—	—	○	○	
		スタンダード i-TTL 調光	○*2	○	○*2	—	—	—	○	○	
	AA	絞り連動外部 自動調光	○*3	—	—	—	—	—	—	—	
	A	外部自動調光	○*3	—	—	—	—	—	—	—	
	GN	距離優先 マニュアル発光	○	○	—	—	—	—	—	—	
	M	マニュアル発光	○	○	○	—	—	○*4	○*4		
	RPT	リピーティング フラッシュ	○	—	—	—	—	—	—		
アドバンスドワイヤレスライティング 主灯	リモートフラッシュへの 発光指示		○	○	—	○	—	—	—	—	
	i-TTL	i-TTL 調光	○	○	—	—	—	—	—		
	[A:B]	クイックワイヤレス コントロール	—	○	—	○*5	—	—	—		
	AA	絞り連動外部 自動調光	○*6	—	—	—	—	—	—		
	A	外部自動調光	○	—	—	—	—	—	—		
	M	マニュアル発光	○	○	—	—	—	—	—		
	RPT	リピーティングフ ラッシュ	○	—	—	—	—	—	—		

		SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
アドバンスドワイヤレスライティング	補助灯	i-TTL	i-TTL 調光	○	○	○	—	○	—	—
		[A:B]	クイックワイヤレス コントロール	○	○	○	—	○	—	—
		AA	絞り連動外部 自動調光	○※6	—	—	—	—	—	—
		A	外部自動調光	○	—	—	—	—	—	—
		M	マニュアル発光	○	○	○	—	○	—	—
		RPT	リピーティング フラッシュ	○	○	○	—	—	—	—
発光色温度情報伝達		○	○	○	—	—	—	○	○	
オートFPハイスピードシンクロ※7		○	○	○	○	○	○	○	—	—
FVロック※8		○	○	○	○	○	○	○	○	○
マルチポイントAF補助光		○	○	○	○	○	○※9	—	—	—
赤目軽減発光		○	○	○	○	○	—	—	○	—
カメラ起動モデリング発光		○	○	○	○	○	○	○	—	—
カメラからの発光モード設定		—	—	—	—	—	—	—	○	○
カメラからのスピードライト ファームアップ		○※10	○	—	—	—	—	—	—	○

※1 スポット測光時は設定できません。

※2 スピードライト側でも設定できます。

※3 AAモードとAモードの選択は、スピードライトのカスタム設定で行います。また、セットアップメニューの [レンズ情報手動設定] でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。

※4 カメラ側でのみ設定できます。

※5 クローズアップ撮影時のみ設定できます。

※6 スピードライトのカスタム設定にかかわらず、セットアップメニューの [レンズ情報手動設定] でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。

※7 発光モードがi-TTL、AA、A、GN、Mの場合のみ動作します。

※8 発光モードがi-TTL、AA、Aの場合のみ動作します。

※9 コマンド撮影時のみ設定できます。

※10 SB-910とSB-900のみカメラからのスピードライトファームアップが可能です。

その他のスピードライトとの組み合わせで利用できる機能

次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光（**A**）あるいはマニュアル発光撮影となります。装着レンズによって機能が変化することはありません。

スピードライト		SB-80DX SB-28DX	SB-50DX	SB-28 SB-26 SB-25 SB-24	SB-30 SB-27 ^{※1} SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	SB-23 SB-29 ^{※2} SB-21B ^{※2} SB-29S ^{※2}	
区分	A	外部自動調光	○	—	○	○	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
		マルチフラッシュ	○	—	○	—	—
	REAR ^{※3}	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 このカメラとSB-27を組み合わせると自動的に**TTL**モードになりますが、**TTL**モードでは使えません。SB-27を**A**モードに設定し直してください。

※2 SB-29・21B・29Sでオートフォーカスができるレンズは、AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDとAF-S Micro NIKKOR 60mm F2.8G EDのみです。

※3 カメラ側のフラッシュモードで設定してください。

▼ スピードライト使用時のご注意

- 詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、このカメラはSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時には、i-TTLや外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出不足になる可能性のある場合に、発光直後にレディライトが約3秒間点滅して露出アンダー警告を行います。その他のスピードライトの場合、充電完了表示と露出アンダー警告は、スピードライト側で確認してください。詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲はISO 64～12800相当です。
- 高感度撮影時に一部のスピードライトを使用するとノイズ（すじ）が発生することがあります。この場合、ISO感度を下げて撮影してください。
- ISO感度を64よりも低感度に設定したり、12800よりも高感度に設定した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならないことがあります。
- 露出モードがPの場合、下表の絞り値よりも絞りを開くことはできません。

ISO感度と開放側の限界絞り (F)

64	100	200	400	800	1600	3200	6400	12800
3.3	4	4.8	5.6	6.7	8	9.5	11	13

※ 制御される絞り値よりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- スピードライトSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-400の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。

- スピードライトSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800の使用時に、AF補助光の照射条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光を自動的に照射します。
- スピードライトSB-910、SB-900のAF補助光は、17～135mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント



- スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800のAF補助光は、24～105mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント

焦点距離が24mmから
34mmの場合



焦点距離が35mmから
49mmの場合



焦点距離が50mmから
105mmの場合



- スピードライトSB-700のAF補助光は、24～135mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント



- 使用するレンズや撮影シーンによっては、オートフォーカスによるピント合わせができずにシャッターがきれなかったり、ピントが合わなくてもピント表示(●)が点灯してシャッターがきれることがあります。

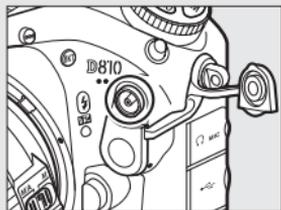
🔪 インフォ画面のフラッシュモード表示について

インフォ画面のフラッシュモードでは、別売のスピードライト使用時の発光方式が、次のように表示されます。

	通常発光	FP発光 (□321)
i-TTL-BL調光 スタンダードi-TTL調光		
絞り連動外部自動調光 (AA)		
外部自動調光 (A)		
距離優先マニュアル発光 (GN)		
マニュアル発光		
リピーティング発光		—
アドバンストワイヤレス ライティング		

🔪 シンクローターミナル

シンクロコードを必要とするスピードライト撮影時に、シンクロコードをシンクローターミナル (JIS-B型外れ防止ネジ付き) に接続してください。ただし、後幕シンクロ撮影ができるスピードライトをアクセサリシューに装着して後幕シンクロを行う場合には、シンクローターミナルに他のスピードライトを接続して増灯撮影などを行わないでください。



✔ 他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリシュー部の接点をショートしてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

使用できるアクセサリ

このカメラには撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリが用意されています。詳しくは最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

電源

- **Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15** (□12、14)
ニコンデジタルカメラD810用のバッテリーです。
- **バッテリーチャージャー MH-25a** (□12)
Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15 用のチャージャーです。
- MH-25aの代わりにバッテリーチャージャー MH-25 も使えます。
- **マルチパワーバッテリーパックMB-D12**
MB-D12には縦位置シャッターボタンとメインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤル、マルチセレクター、AF作動ボタン (**AF-ON**ボタン) が装備されているので、縦位置での撮影に便利です。カメラ本体のMB-D12用接点カバーを取り外して装着します。
※ MB-D12でEN-EL18aまたはEN-EL18を使用する場合は、別売のバッテリーチャージャー MH-26aまたはMH-26と、バッテリー室カバー BL-5が必要です。
- **パワーコネクター EP-5B、ACアダプター EH-5b**※
ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。
- このカメラは、カメラ本体とACアダプターを接続するためにパワーコネクターEP-5Bが必要です。カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する方法については、「カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法」(□440)をご覧ください。
- EH-5bの代わりにACアダプター EH-5/EH-5aも使えます。
- マルチパワーバッテリーパック MB-D12 をカメラに装着してACアダプターを使用する場合、EP-5B は、カメラではなくMB-D12に入れてください。なお、カメラとMB-D12の両方にEP-5Bを入れて使用しないでください。
※ 日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。

無線/有線LAN
アダプター
(☎251)

- **通信ユニットUT-1**

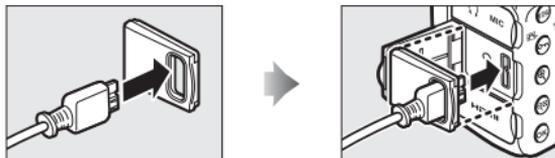
USBケーブルでUT-1をカメラに接続してから、LANケーブルをUT-1に接続することにより、カメラで撮影した画像を有線でパソコンやFTPサーバーに転送したり、別売のCamera Control Pro 2を使ってパソコンからカメラを遠隔操作できます。さらに、パソコンやiPhoneのWebブラウザーから画像を閲覧したり、リモート撮影することもできます。

- **USBケーブル用端子カバー UF-4/**

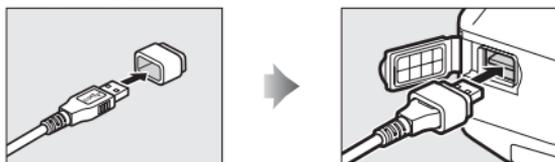
- **USBケーブルゴム UF3-RU14**

カメラとUT-1の接続時に、USBケーブル用端子カバーUF-4とUSBケーブルゴムUF3-RU14をUSBケーブルの端子にそれぞれ取り付けることにより、カメラやUT-1からUSBケーブルが不用意に外れることを防げます。取り付けは、図の手順で行ってください。

- **UF-4 (カメラ側)**



- **UF3-RU14 (通信ユニット側)**



- **ワイヤレストランスミッター WT-5**

カメラに接続したUT-1に取り付けることにより、UT-1の機能を無線LANで使えます。

通信ユニットおよびワイヤレストランスミッターをお使いいただく場合は、有線LAN、無線LANの知識および環境が必要です。通信ユニットおよびワイヤレストランスミッターに関連するソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。

HDMIケーブル
(☎259)

- **HDMIケーブルHC-E1**

カメラ側がType C、HDMI機器側がType AのHDMIケーブルです。

<p>ニコンデジタル カメラ専用 ソフトウェア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● Camera Control Pro 2 パソコンからカメラを操作して静止画や動画を撮影したり、撮影した画像を直接パソコンへ保存したりできる、カメラコントロール用ソフトウェアです。Camera Control Pro 2で画像の記録先の設定が [PC] になっている場合、カメラとパソコンを接続してCamera Control Pro 2を起動すると、表示パネルにPC接続中マーク PC が表示されます。 ● ソフトウェアは必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。ご使用のパソコンがインターネットに接続されている場合、OSログオン後に所定時間を経過すると、ニコンメッセージセンター 2はソフトウェアの更新情報などを確認します（初期設定）。更新情報がある場合は、「通知の画面」が自動的に表示されます。 ● 対応OSについては、当社ホームページのサポート情報（□xx）でご確認ください。
<p>フィルター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、NCフィルターをお使いください。 ● カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL、C-PL II）をお使いください。 ● 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生するおそれがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 ● 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND2S、ND4S、ND4、ND8S、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、RGBマルチパターン測光、または3D-RGBマルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。詳しくは、各フィルターの使用説明書をご覧ください。 ● 特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。
<p>ボディー キャップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ボディーキャップBF-1B、BF-1A レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ゴミやほこりの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。

<p>ファインダー用 アクセサリ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 接眼目当てDK-19 接眼部に取り付けて使用する、ゴム製の接眼目当てです。ファインダー視野がよりはっきり確認でき、目の疲れを軽減します。 ● 接眼補助レンズDK-17C 遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。-3、-2、0、+1、+2m⁻¹の5種類が用意されています。視度補正は個人差が大きいため店頭で実際に取り付けてお選びください。このカメラには視度調節機能が付いています（-3～+1m⁻¹）ので、この範囲外の視度補正が必要なときにお使いください。 ● マグニファイイングアイピースDK-17M 接眼部に取り付けることにより、ファインダー倍率を約1.2倍に拡大します。 ● マグニファイヤー DG-2 ファインダー中央部の像を拡大します。より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。 ● アイピースアダプター DK-18 このカメラにマグニファイヤー DG-2 やアングルファインダー DR-3 を取り付けるためのアダプターです。 ● アンティフォグ ファインダーアイピースDK-14、DK-17A 寒いときや湿度が高い場合など、ファインダーのくもりの発生を防止し、クリアなファインダー像を提供します。 ● 変倍アングルファインダー DR-5 変倍アングルファインダー DR-5 をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。全視野が見える1倍と、より精密なピント確認作業が可能な2倍*の2種類の倍率を選択できます。また、視度調節も可能です。 ※ 2倍では周辺部にケラレが生じます。 ● アングルファインダー DR-4 アングルファインダー DR-4 をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。
<p>アクセサリ シューカバー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アクセサリシューカバー BS-1 スピードライトを取り付けるアクセサリシューを保護するためのカバーです。

<p>外部マイク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ステレオマイクロホンME-1 (□62) ステレオマイクロホンME-1を外部マイク入力端子に接続すると、ステレオ録音ができます。また、動画撮影中 (□48) にオートフォーカスでピント合わせをしたときに生じるレンズの動作音などが録音されるのを軽減できます。
<p>10ピンターミナルに接続するアクセサリ</p>	<p>10ピンターミナル (□3) に次のアクセサリを接続することにより、遠隔撮影や無人撮影などができます。使用しない場合は、必ず10ピンターミナルにキャップをしてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リモートコードMC-22、MC-22A (長さ：約1 m) コード先端にある端子 (青、黄、黒) に特殊装置を接続すると、音や信号による遠隔操作が可能です。 ● リモートコードMC-30、MC-30A (長さ：約80 cm) カメラブレを避けたいときや、カメラから離れてリリース操作をしたいときに便利です。 ● リモートコードMC-36、MC-36A (長さ：約85 cm) 一定間隔で撮影するインターバルタイマー機能を備えたリモート撮影用コードです。 ● 延長コードMC-21、MC-21A (長さ：約3 m) MC-20、MC-22、MC-22A、MC-23、MC-23A、MC-25、MC-25A、MC-30、MC-30A、MC-36、MC-36A、ML-3に併用できる延長コードです (MC-21またはMC-21Aを2本以上接続して使用することはできません)。 ● 接続コードMC-23、MC-23A (長さ：約40 cm) 10ピンターミナルを装備するカメラを2台同時に作動させるための接続コードです。 ● 変換コードMC-25、MC-25A (長さ：約20 cm) 2ピンターミナル用のラジオコントロールセットMW-2や、インターパロメーターMT-2、ルミコントロールセットML-2などを、10ピンターミナルに接続するための変換コードです。 ● WR用変換アダプター WR-A10 ワイヤレスリモートコントローラーWR-R10 (□439) を10ピンターミナル装備のカメラに装着するためのアダプターです。 ● GPSユニットGP-1/GP-1A (□225) 10ピンターミナルでカメラとGP-1/GP-1Aを接続することにより、撮影時の緯度、経度、標高、協定世界時 (UTC：□226) を画像データに記録することができます。

<p>10ピン ターミナルに 接続する アクセサリ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● GPS変換コードMC-35 (長さ：約35 cm) カメラとGPS機器で通信を行うための接続コードです (□225)。 <ul style="list-style-type: none"> - データ形式がNMEA (National Marine Electronics Association) 0183 ver.2.01およびver.3.01を満たすGPS機器 (お持ちのGARMIN社製: 「eTrex」シリーズ、 「geko」シリーズ) と接続できます。PC-Interface Cableが接続可能な機種のみ対応しています。USBインターフェース対応機種には接続できません。 - MC-35 と GPS 機器との接続には、GPS メーカーのPC 接続ケーブル (D-sub9ピンタイプ) が必要です。詳しくはMC-35の使用説明書をご覧ください。 - GPS 機器の通信形式は、NMEAに設定してください (Baud rateは4800です)。 - GPS機器の使用方法については、GPS機器の使用説明書をご覧ください。 ● ルミコントロールセットML-3 最大で約8m離れたところから、信号 (赤外パルス光) による遠隔操作ができます。
<p>ワイヤレス リモート コントローラー (□352)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/WR-T10 ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10を、10ピンターミナルに接続したWR用変換アダプター WR-A10に取り付けると、ワイヤレスリモートコントローラー WR-T10からの操作で無線での遠隔撮影を行えます。 ● ワイヤレスリモートコントローラー WR-1 WR-1は、他のWR-1やWR-R10またはWR-T10と組み合わせ、送信機または受信機として使います。たとえば、受信機に設定したWR-1をカメラの10ピンターミナルに取り付けると、送信機に設定したWR-1からの操作で、遠隔撮影したりカメラの設定を変更したりすることができます。

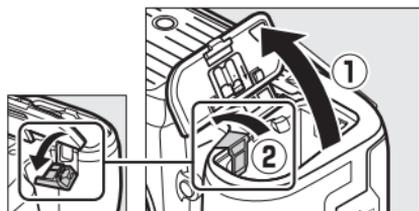
使用できるアクセサリについて

- 国または地域によって、販売していない場合があります。
- アクセサリの最新情報は、当社ホームページやカタログなどでご確認ください。

カメラとパワーコネクター、ACアダプターの 接続方法

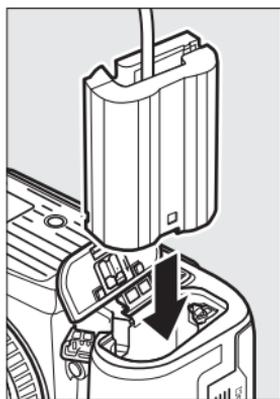
カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する前に、カメラ本体の電源がOFFになっていることを確認してください。

1 カメラのバッテリー室カバー (①) とパワーコネクターカバー (②) を開ける



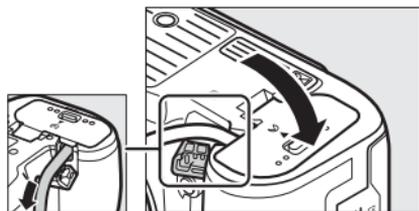
2 パワーコネクター EP-5Bを入れる

- パワーコネクターは、接点の向きに注意しながら入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをパワーコネクター側面で押しながら、パワーコネクターを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがパワーコネクターに掛かり、パワーコネクターがロックされます。



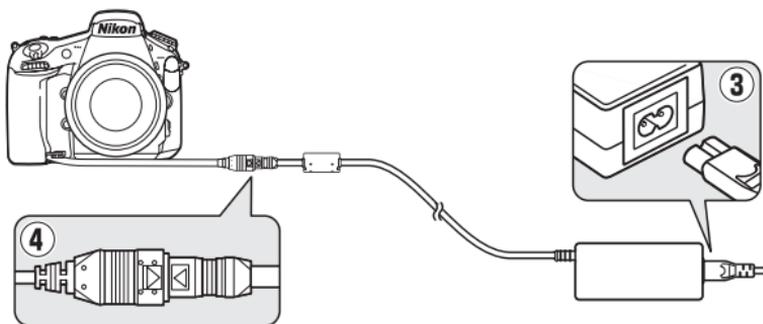
3 カメラのバッテリー室カバーを閉じる

- パワーコネクターのコードがパワーコネクターカバーを開けた部分から出るように注意して、バッテリー室カバーを閉じます。



4 パワーコネクターとACアダプター EH-5bを接続する

- 電源コードのACプラグを、ACアダプターのACプラグ差し込み口に差し込みます (③)。
- パワーコネクターのDCプラグコネクターにACアダプターのDCプラグを差し込みます (④)。
- パワーコネクターとACアダプターの使用時には、液晶モニター上のバッテリー残量表示がに変わります



カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または-10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブローアード払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入り込むと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブローアード払いします。スプレー缶タイプのブローアードは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
液晶モニター	ほこりや糸くずをブローアード払いします。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

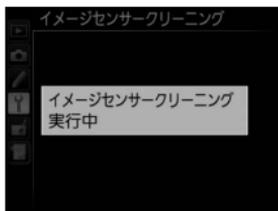
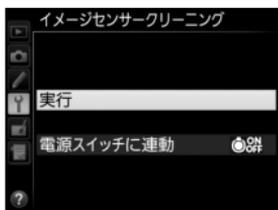
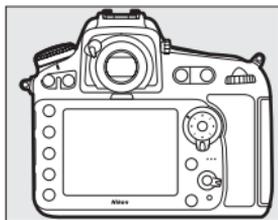
撮像素子のお手入れについて

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子前面にゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、撮像素子前面のゴミをふるい落とすことができます。

イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的に行う方法があります。

■ セットアップメニューの【イメージセンサークリーニング】から操作する

- 効果的にゴミをふるい落とせるように、正位置（カメラを横位置で構えるときの向き）にしてください。
- セットアップメニューの【イメージセンサークリーニング】を選び、【実行】を選んで **OK** ボタンを押すと、イメージセンサークリーニングが開始されます。実行中は、表示パネルに **busy** が点滅し、撮像素子のチェックも行われます。
- イメージセンサークリーニング実行中は、カメラの操作はできません。バッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- クリーニングが完了すると、セットアップメニュー画面に戻ります。

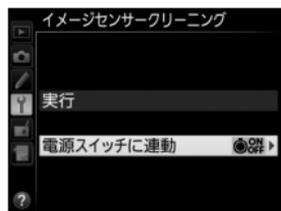


■ 電源のON/OFF時にイメージセンサークリーニング する

 ON 電源ONで実行	電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
 OFF 電源OFFで実行	電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
 ON/OFF 電源ONとOFFで実行	電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
実行しない	電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

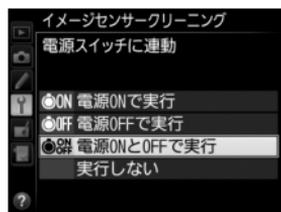
1 [イメージセンサークリーニング] 画面で[電源スイッチに連動]を 選ぶ

- [電源スイッチに連動] を選んでマルチセレクトターの  を押しと、[電源スイッチに連動] 画面が表示されます。



2 イメージセンサークリーニングの方 法を選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



▼ イメージセンサークリーニングについてのご注意

- 電源スイッチに連動してイメージセンサークリーニングが作動しているときにカメラを操作すると、イメージセンサークリーニングは中断します。
- カメラの電源ON時に内蔵フラッシュの充電が行われるときは、カメラの電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動する設定になっていても、イメージセンサークリーニングを行わないことがあります。
- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、撮像素子前面を市販のブローアード掃除するか、ニコンサービス機関にご相談ください。
- イメージセンサークリーニングを連続して行くと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

■ 撮像素子前面をブローアード掃除する

イメージセンサークリーニング (□443) でゴミやほこりを取りきれないときは、撮像素子前面を次の手順でクリーニングできます。ただし、カメラ内部の撮像素子は非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

- 作業中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターを組み合わせでお使いください。
- セットアップメニューの [クリーニングミラーアップ] を使用します。バッテリー残量表示が  以下の場合、このメニュー項目は操作できません。

1 カメラの電源をOFFにしてからレンズを取り外す

- レンズを取り外したら、カメラの電源をONにしてください。

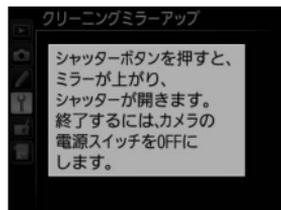
2 セットアップメニューで [クリーニングミラーアップ] を選んでマルチセレクターの を押す



3 OK ボタンを押す

- クリーニングミラーアップの待機状態になります。

- 液晶モニター、表示パネル、ファインダー内表示に右のように表示されます。
- 撮像素子のお手入れを止めるには、カメラの電源をOFFにしてください。



4 シャッターボタンを全押しする

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。
- このとき、表示パネルは右のような点滅表示になります。ファインダー内の表示は消灯します。



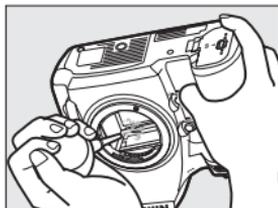
5 カメラの内部に光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7にお進みください。



6 撮像素子前面に付いたゴミやほこりをブローアード払う

- ブラシの付いていないブローアードをお使いください。ブラシで撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブローアードで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。



7 カメラの電源をOFFにし、付属のボディキャップを付ける

- ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

✓ 作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、直ちに作業を終了してください。

▼ 撮像素子に付着するゴミなどについて

撮像素子には、カメラからレンズまたはボディキャップを取り外した際に外部からカメラ内に入ったゴミや、まれにカメラ内部の潤滑剤や細粉などが付着することがあり、撮影条件によっては撮像素子に付着したゴミや潤滑剤、細粉などが撮影画像に写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換やボディキャップの着脱は避け、カメラ本体のマウント部およびレンズのマウント部、ボディキャップのゴミを除去してからカメラに取り付けてください。レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディキャップを装着してください。撮像素子に付着したゴミなどをイメージセンサークリーニング（□443）で取り除ききれないときは、445ページの手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、画像加工アプリケーションなどで修正できます。

▼ 定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

カメラとバッテリーの取り扱い上 のご注意

カメラの使用上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色、焼き付き、破損を起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、プロアーでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

● ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、ブローアで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのプロアーの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● 撮像素子の手入れ方法について

撮像素子のクリーニングの方法については □443、445をご覧ください。

● レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

● シャッター幕に触れない

- シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブローアなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。
- シャッター幕に色むらが見える場合がありますが、異常ではありません。また、撮影した画像には影響ありません。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。防虫剤があるところ、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストープの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくことより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておく、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする

カメラの電源がONの状態、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて

- モニター画面は、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくい場合があります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押ししたりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。もしゴミやほこり等が付着した場合は、ブローで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。
- カメラをお使いにならない場合や持ち運ぶ場合は、汚れ、傷を防ぐため液晶モニターに付属のモニターカバーを取り付けてください。

バッテリーの使用上のご注意

お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」(□xiii～xix)をお読みになり、記載事項をお守りください。

- バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。
 - バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れる。
 - バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
 - バッテリーの端子は、汚さないように注意する。
 - 必ず指定のバッテリーを使う。
 - バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
 - カメラやチャージャーから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、または不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因になります。
- しばらく使わない場合は、カメラでバッテリーを使い切った状態でカメラから取り外し、涼しいところで保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。

- 使用後のバッテリーは半年以内に充電するようおすすめします。長期間保管する場合は、半年に一回程度充電した後、カメラでバッテリーを使い切ってから涼しいところで保管してください。
- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラやチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れていますので、過放電になり使えなくなるおそれがあります。
- バッテリーは0℃～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能が劣化したり、故障の原因となります。周囲の温度が5℃～35℃の室内で充電してください。バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
- バッテリーの温度が0℃～15℃、45℃～60℃のときは、充電できる容量が少なくなる、または充電時間が長くなることがあります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、セットアップメニューの【電池チェック】(□369)で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、使用できるバッテリー容量は少なくなります。このカメラでは、温度変化に対して使用できる容量も的確にバッテリー残量として表示します。そのため、十分に充電したバッテリーでも、充電したときよりも温度が低くなると、充電直後から残量が減り始めた表示になることがあります。
- カメラの使用後は、バッテリーが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● バッテリーの残量について

- 電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響を及ぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。
- 十分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリーをお求めください。

● 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しない

バッテリー性能が劣化します。

● 小型充電式電池のリサイクル

不要になった充電式電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。



Li-ion00

数字の有無と数値は、
電池によって異なります。

チャージャーの使用上のご注意

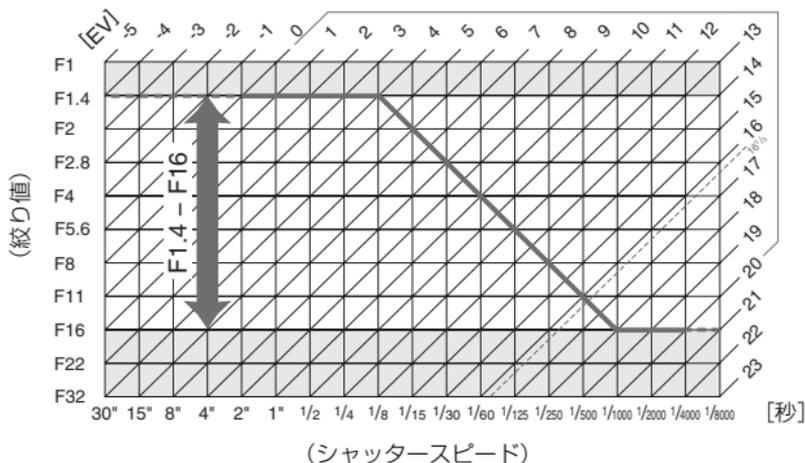
- 充電中にチャージャーをゆすったり、充電中のバッテリーに触れたりすると、振動や静電気の影響により、きわめてまれではありますが、未充電にもかかわらず充電完了表示になる場合があります。このような場合にはバッテリーを取り外し、再度セットして充電を再開してください。
- チャージャーの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- バッテリーをカメラやチャージャーから取り外しておくときは、ショートを防止するため、付属の端子カバーを取り付けてください。
- チャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- バッテリーチャージャー MH-25a対応のバッテリー以外は充電しないでください。

露出モードP（プログラムオート）のプログラム線図

次のグラフは、露出モードがPのとき（□116）の露出制御プログラム（ISO 100の場合）を表しています。

— ISO 100、開放絞りF1.4・最小絞りF16のレンズ
（例：AF 50mm f/1.4D）の場合

測光範囲：EV 0～20



- 測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO 100の場合16 1/3を超えるEV値では、全て16 1/3として制御されます。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前に、次の項目をご確認ください。

電源・表示関連

● 電源ONの状態、カメラの操作ができない

- 画像の記録などの処理が終わるまでお待ちください。
- 操作できない状態が続くときは、電源をOFFにする操作をしてください。
- 電源がOFFにならない場合は、バッテリーを入れ直してください。
- ACアダプター使用時は付け直してください。
 - 記録中であったデータは保存されません。
 - 保存済みのデータはバッテリーやAC アダプターの取り外しでは失われません。

● ファインダー内がはっきり見えない

- ファインダー内の見え方は、視度調節ノブを回して調節できます (□16)。
- 視度調節しても被写体がはっきり見えない場合は、AFモード (□86) を**AF-S**、AFエリアモード (□89) をシングルポイントAFに設定します。次に、中央のフォーカスポイントを選んで、コントラストの高い被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。その状態で被写体が最もはっきり見えるように調節してください。
- 視度調節の範囲を超える補正が必要な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします (□437)。

● ファインダー内が暗い

バッテリー残量は充分ですか？バッテリーが入っていない場合や、入っていても残量がない場合は、ファインダー内が暗く表示される場合があります (□12、18)。

● ファインダー内や表示パネル、液晶モニターの表示が、すぐに消えてしまう

カスタムメニューc2 [半押しタイマー] やc4 [モニターのパワーオフ時間] で、表示が消えるまでの時間を設定できます (□308、309)。

● 表示パネルやファインダー内の表示が薄い、表示が遅い

低温や高温のときは液晶表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなることがあります。

撮影関連

- **電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる**
メモリーカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。
 - **シャッターがきれない**
 - 残量のあるメモリーカードが入っていますか？ (□14、19)
 - SDカードがロックされていませんか？ (□21)
 - Gタイプ、Eタイプレンズ以外のCPUレンズを装着している場合は、レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい数値）に設定しないとシャッターがきれません。表示パネルに**fE E**と表示されている場合、カスタムメニューf9 [コマンドダイヤルの設定] の [絞り値の設定方法] を [絞りリング] に設定すると、レンズの絞りリングで絞り値を設定できます (□345)。
 - 露出モードMでシャッタースピードを**b u l b**（バルブ）または**- -**（タイム）に設定し、そのまま露出モードを**S**に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください (□464)。
 - カスタムメニューf11 [カードなし時レリーズ] が [レリーズ禁止] になっていませんか？ (□348)
 - **シャッターがきれるのが遅い**
カスタムメニューd4 [露出ディレーモード] を [しない] にしてください (□311)。
 - **連続撮影できない**
 - 内蔵フラッシュが上がっているときは、連続撮影できません (□185、186)。
 - HDR撮影時は、連続撮影できません (□180)。
 - **ピントが合わない**
 - マニュアルフォーカスになっていませんか？オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードセレクターを**AF**に合わせてください (□86)。
 - 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください (□95、98)。
明暗差がはっきりしない/遠くのものと同近のものが混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい
-

● **設定できるシャッタースピードの範囲が狭い**

フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは、カスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] で、1/320～1/60秒の範囲で設定できます。[1/320秒 (オートFP)] または [1/250秒 (オートFP)] に設定して、別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを使用すると、全シャッタースピードに同調可能なオートFPハイスピードシンクロが可能です (□319)。

● **シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない**

AFモードが**AF-C**に設定されている場合、 AE/AFロックボタンを押してフォーカスをロックしてください (□95)。

● **フォーカスポイントを選べない**

- フォーカスポイントロックレバー (マルチセレクター) が **L** (ロック) の位置になっていませんか? (□93)
- AFエリアモードがオートエリアAFのときは、選べません (□89)。
- AF エリアモードを顔認識 AF にしてライブビュー撮影を行っている場合は、選べません (□38)。
- 画像の再生時またはメニューの操作時には、フォーカスポイントを選択できません (□23、227)。
- 半押しタイマーがオフになっていませんか? フォーカスポイントを選択するには、シャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてください (□32)。

● **AFモードを変更できない**

- フォーカスモードセレクターが **M** (マニュアルフォーカス) になっていませんか? (□98)
- カスタムメニュー a12 [AF モードの制限] を [制限しない] に設定してください (□304)。

● **AFエリアモードを変更できない**

フォーカスモードセレクターが **M** (マニュアルフォーカス) になっていませんか? (□98)

● AF補助光ランプが光らない

- 次の場合、AF補助光を照射しません。
 - ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のとき (□86)
 - ライブビュー / 動画撮影時
 - オートエリアAF以外のAFエリアモードで中央以外のフォーカスポイントが選択された場合 (□93)
- カスタムメニュー a10 [内蔵 AF 補助光の照射設定] が [しない] になっていませんか? (□303)
- AF 補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと再び照射するようになります。また、短時間に何回も使うと、AF補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。

● 画像サイズを変更できない

[画質モード] が [RAW] のときは、撮影メニュー [RAW記録] の [画像サイズ] でサイズを変更してください (□84)。

● 画像の記録に時間がかかる

撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] が [する] になっていませんか? (□290)

● ライブビューが開始されなかったり、自動的に終了する

- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、ライブビューの開始を制限したり自動的に終了したりすることがあります。
 - 撮影時の気温が高い場合
 - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
 - 連続撮影を行った直後など
- カメラが熱くなってライブビューを開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューを一時休止してください。このとき、カメラボディ表面が熱くなることがありますが故障ではありません。

● ライブビュー表示中にノイズが発生する

長時間ライブビューで撮影すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ノイズ (ざらつき、むら、輝点) が発生する場合があります。撮影時以外には、ライブビューを終了してください。

● ライブビュー表示中や動画撮影時に画面にちらつきや横縞が生じる

セットアップメニュー [フリッカー低減] の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください (□366)。

● ライブビュー表示中や動画撮影時に横帯状の明るい部分が生じる

撮影している周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合には、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生することがあります。

● 画像がざらつく

- ISO感度が高くなっていませんか？撮影メニュー [高感度ノイズ低減] を [強め]、[標準]、[弱め] のいずれかに設定すると、ざらつきを低減できます (□291)。
- シャッタースピードが1秒より低速な場合は、ざらつきが発生しやすくなります。撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] を [する] にして撮影すると、ざらつきを低減できます (□290)。
- アクティブD-ライティングを設定していませんか？撮影シーンによっては、ざらつきが強調される場合があります (□178)。

● 画像にゴミが写り込む

- レンズの前面または背面 (マウント側) が汚れていませんか？
- 撮像素子の前面にゴミが付着していませんか？イメージセンサークリーニングを行ってください (□443)。

● 画像の色合いがおかしい

- ホワイトバランスは正しく設定されていますか？ (□144)
- ピクチャーコントロールは正しく設定されていますか？ (□165)

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない

被写体が明るすぎるか、暗すぎます (□156)。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません (□162)。

● ホワイトバランス (WB) ブラケティング撮影ができない

- RAWまたはRAWを含む画質モードの場合、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません (□79、136)。
- ホワイトバランスブラケティングと多重露出による撮影を同時に行うことはできません (□205)。

● [ピクチャーコントロール] の効果が安定しない

[ピクチャーコントロール]、[カスタムピクチャーコントロール] の調整画面で、[輪郭強調]、[明瞭度]、[コントラスト]、[色の濃さ (彩度)] のいずれかが [A] (オート) に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を [A] (オート) 以外に設定してください (□169)。

● 測光モードが変更できない

AEロック中は、測光モードを変更できません (□126)。

● **露出補正ができない**

露出モードがMの場合、露出補正を行っても、露出インジケータの表示が変わるだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません (□129)。

● **画像の一部が赤っぽくなる**

シャッタースピードを**bulb** (バルブ) または**-** (タイム) にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなることがあります。この現象は、撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] を [する] に設定することで低減できます (□290)。

● **画像にむらが出る**

シャッタースピードを**bulb** (バルブ) または**-** (タイム) にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部にむらが出る場合があります。この現象は、撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] を [する] に設定することで低減できます (□290)。

● **動画に音声は録音されない**

撮影メニュー [動画の設定] の [マイク感度] が [録音しない] になっていませんか? (□62)

再生関連

● RAW画像が表示されない

[画質モード] を [RAW+FINE]、[RAW+NORMAL]、[RAW+BASIC] にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません (□80)。

● 他のカメラで撮影した画像が表示されない

この機種以外のカメラで撮影した画像は、正常に表示されないことがあります。

● 全ての画像が表示されない

再生メニュー [再生フォルダー設定] を [全てのフォルダー] にしてください (□271)。

● 画像の縦位置・横位置が正しく表示されない

- 再生メニュー [縦位置自動回転] が [しない] になっていませんか? (□278)
- セットアップメニュー [縦横位置情報の記録] が [しない] になっていませんか? (□368)
- 撮影直後の画像確認では自動回転はしません (□277)。
- カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります (□368)。

● 画像が削除できない

- SDカードがロックされていませんか? (□21)
- 画像にプロテクトが設定されていませんか? (□241)

● 画像が編集できない

このカメラでは編集できない画像です (□383)。

● [撮影画像がありません] と表示される

メモリーカードの交換直後に画像を再生するときは、再生メニュー [再生フォルダー設定] を [全てのフォルダー] にしてください (□271)。

● プリント指定ができない

- SDカードがロックされていませんか? (□21)
- メモリーカードの空き容量が不足していませんか? (□19、466)

● ダイレクトプリントができない

RAW画像やTIFF画像はダイレクトプリントできません (□252)。

● RAW画像をプリントできない

- 画像編集メニューの [RAW現像] などでRAW画像からJPEG画像を作成してからプリントしてください (□394)。
- RAW 画像はパソコンに転送してから、Capture NX-Dまたは付属の ViewNX 2などのソフトウェアを使ってプリントしてください。

● 画像がHDMI対応機器で再生できない

HDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください (□259)。

● Capture NX-Dでイメージダストオフ機能が動作しない

次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、撮像素子前面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません。

- イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
- イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき (□364)

● [ピクチャーコントロール]、[アクティブD-ライティング]、[ヴィネットコントロール] の効果がパソコンで確認できない

RAW画像で記録した場合、当社製ソフトウェア以外では機能しません。RAW画像の現像はCapture NX-Dまたは付属のViewNX 2をお使いください。

● 画像をパソコンに転送できない

お使いのパソコンのOSによっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります (□246)。カードリーダーなどの機器を使って、メモリーカードの画像をパソコンに保存してください。

その他

● 撮影日時が正しく表示されない

カメラの内蔵時計は合っていますか？ カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないため、定期的に日時設定を行うことをおすすめします (□17、367)。

● 表示されているメニュー項目が選べない

- 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選択できない場合があります。
- セットアップメニュー [電池チェック] は電源に別売のパワーコネクタとACアダプターを使用している場合は選べません (□369)。

警告メッセージ

表示パネル、ファインダー、液晶モニターに表示される警告メッセージの意味は次の通りです。

こんなとき		原因	対処方法	□□
表示パネル	ファインダー内表示			
 (点減)	 (点減)	レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。	22
		バッテリー残量は残りわずかです。	バッテリー交換の準備をしてください。	18
 (点減)	 (点減)	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリーが消耗しています。 	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリーを交換してください。 	14
		<ul style="list-style-type: none"> • バッテリーとの情報通信ができません。 	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリーを充電してください。 • このバッテリーは使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。 • 極端に消耗したバッテリーを使用している場合は、充電してください。 	12 434、502 12
		<ul style="list-style-type: none"> • 別売のマルチパワーバッテリーパック MB-D12 装着時に、極端に消耗している Li-ion リチャージャブルバッテリー、またはカメラと通信できないバッテリーをカメラか MB-D12 のいずれかで使用しています。 	<ul style="list-style-type: none"> • カメラと通信できないバッテリーを使用している場合は、ニコン純正品のバッテリーと交換してください。 	xx、14、434

こんなとき		原因	対処方法	□
表示 パネル	ファインダー 内表示			
 (点滅)	—	内蔵時計の日時が設定されていません。	日時を設定してください。	5、 17
ΔF	ΔF	開放絞りからの絞り段数が表示されています。非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態で、レンズの開放絞り値が設定されていません。	レンズの開放絞り値を設定すると、レンズの絞り値が表示されます。	222
—	 (点滅)	オートフォーカスでピント合わせができません。	構図を変えるか、マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。	27、 98
 (点滅)	 (点滅)	露出モードがSのときにシャッタースピードが  にセットされています。	<ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードを変えてください。 露出モード M で撮影してください。 	117、 119
-- (点滅)	-- (点滅)	露出モードがSのときにシャッタースピードが-- (タイム) にセットされています。	<ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードを変えてください。 露出モード M で撮影してください。 	117、 119
 (点滅)	 (点滅)	カメラが処理を行っています。	カメラが処理を終えるまでお待ちください。	—
—	 (点滅)	フラッシュがフル発光しました。	撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO感度などをご確認ください。	191

こんなとき		原因	対処方法	□□
表示 パネル	ファインダー 内表示			
(シャッタースピード 表示、絞り値表示の いずれかまたは露出イ ンジケーターが点滅)		被写体が明るすぎてカ メラの制御範囲を超え ています。	<ul style="list-style-type: none"> ISO感度を低くしてく ださい。 	107
			<ul style="list-style-type: none"> 露出モードが P のと きは市販のNDフィル ター（光量調節用）を 使用してください (S、A のときに下記 の操作を行っても警 告表示が消えない場 合も同様に対応して ください)。 	436
			<ul style="list-style-type: none"> 露出モードが S のとき はシャッタースピー ドをより高速側に セットしてください。 	117
			<ul style="list-style-type: none"> 露出モードが A のと きは絞りを絞り込ん でください(より大き い数値)。 	117

こんなとき		原因	対処方法	□
表示 パネル	ファインダー 内表示			
(シャッタースピード表示、絞り値表示のいずれかまたは露出インジケーターが点滅)		被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	<ul style="list-style-type: none"> ISO感度を高くしてください。 露出モードが P のときはフラッシュを使用してください (S、A のときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください)。 	107 185
			<ul style="list-style-type: none"> 露出モードが S のときはシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 	117
			<ul style="list-style-type: none"> 露出モードが A のときは絞りを開いてください(より小さい数値)。 	117
FULL 、 CF/SD (点滅)	FULL (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> 画像を記録する空き容量がありません。 カメラが扱えるファイル数をオーバーしています。 	<ul style="list-style-type: none"> メモリーカードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 新しいメモリーカードに交換してください。 	242、 244 14

こんなとき		原因	対処方法	📖
表示 パネル	ファインダー 内表示			
Err (点滅)	Err (点滅)	撮影中に何らかの異常を検出しました。	もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。	502

 **CF/SDアイコンについて**

点滅しているメモリーカードでエラーが発生しています。

こんなとき		原因	対処方法	□
液晶モニター	表示パネル			
メモリーカードが入っていません。	[-E-]	メモリーカードが入っていないか、正しくセットされていません。	メモリーカードを正しくセットしてください。	14
このメモリーカードは壊れている可能性があります。カードを交換してください。	[Err]、 [CF]/[SD] (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> メモリーカードへのアクセス異常です。 新規フォルダーが作成できません。 	<ul style="list-style-type: none"> このカメラ用のメモリーカードであるかどうかを確認してください。 メモリーカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関までご連絡願います。 メモリーカードに記録されている画像を削除して、メモリーカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 新しいメモリーカードに交換してください。 	483 502 242、244 14

こんなとき		原因	対処方法	□
液晶モニター	表示パネル			
	[Err] (点滅)	Eye-Fiカードをコントロールできません。	<ul style="list-style-type: none"> Eye-Fiカードのファームウェアが最新版になっているか確認してください。 新しいSDカードに交換するか、必要な画像をパソコンなどに転送してバックアップした後、カメラでEye-Fiカードをフォーマットしてからご使用ください。 	378 14、360
メモリーカードが書き込み禁止になっています。	[Err] SD (点滅)	SDカードの書き込み禁止スイッチがロックされています。	SDカードのロックを解除してください。	21
Eye-Fiカードは書き込み禁止の状態では使用できません。	[Err] SD (点滅)	Eye-Fiカードの書き込み禁止スイッチがロックされています。	Eye-Fiカードのロックを解除してください。	21
このメモリーカードは初期化(フォーマット)されていません。フォーマットしてください。	[For] (点滅)	メモリーカードが正しく初期化されていません。	<ul style="list-style-type: none"> メモリーカードを初期化してください。 正しく初期化されたメモリーカードに交換してください。 	360 14
ライブビューを開始できません。しばらくお待ちください。	—	カメラ内部の温度が高くなっています。	カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影または動画撮影を一時休止してください。	458

こんなとき		原因	対処方法	□
液晶モニター	表示パネル			
撮影画像がありません。	—	<ul style="list-style-type: none"> • 撮影画像がありません。 • 再生するフォルダーの指定に問題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> • 画像が記録されているメモリーカードを入れてください。 • 再生メニューの [再生フォルダー設定] で、表示可能な画像があるフォルダーを選んでください。 	14 271
全ての画像が非表示に設定されています。	—	記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。	再生メニューの [非表示設定] で、画像の非表示設定を解除してください。	271
このファイルは表示できません。	—	<ul style="list-style-type: none"> • パソコンで編集した画像など、DCF規格外の画像ファイルのため再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。 	パソコンで編集された画像を上書き保存しないでください。	—
このファイルは選択できません。	—	編集できない画像です。	このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません。	383
プリンターの状態を確認してください。*	—	プリンターに異常があります。	用紙切れなどエラーの原因を取り除いた後、 [継続] を選んで ⓧ ボタンを押すと、プリンターが再開されます（エラー内容によっては、 [継続] を選べない場合があります）。	252

こんなとき		原因	対処方法	□□
液晶モニター	表示パネル			
用紙を確認してください。*	—	指定したサイズ of 用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、 [継続] を選んで ⓧ ボタンを押して、プリントを再開してください。	252
紙詰まりです。*	—	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、 [継続] を選んで ⓧ ボタンを押して、プリントを再開してください。	252
用紙がありません。*	—	用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、 [継続] を選んで ⓧ ボタンを押して、プリントを再開してください。	252
インクを確認してください。*	—	インクに異常があります。	インクを確認した後、 [継続] を選んで ⓧ ボタンを押して、プリントを再開してください。	252
インクがありません。*	—	インクがなくなりました。	インクを交換した後、 [継続] を選んで ⓧ ボタンを押して、プリントを再開してください。	252

* プリンターの使用説明書も併せてご覧ください。

主な仕様

ニコンデジタルカメラ D810

型式

型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）
実撮影画角	ニコンFXフォーマット

有効画素数

有効画素数	3635万画素
-------	---------

撮像素子

方式	35.9 × 24.0 mmサイズCMOSセンサー
総画素数	3709万画素
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、イメージダストオフデータ取得（Capture NX-Dが必要）

記録形式

記録画素数	<ul style="list-style-type: none">• 撮像範囲 [FX (36×24) 1.0×] の場合： 7360×4912ピクセル（サイズL） 5520×3680ピクセル（サイズM） 3680×2456ピクセル（サイズS）• 撮像範囲 [1.2× (30×20) 1.2×] の場合： 6144×4080ピクセル（サイズL） 4608×3056ピクセル（サイズM） 3072×2040ピクセル（サイズS）• 撮像範囲 [DX (24×16) 1.5×] の場合： 4800×3200ピクセル（サイズL） 3600×2400ピクセル（サイズM） 2400×1600ピクセル（サイズS）• 撮像範囲 [5:4 (30×24)] の場合： 6144×4912ピクセル（サイズL） 4608×3680ピクセル（サイズM） 3072×2456ピクセル（サイズS）
-------	---

記録形式

記録画素数	<ul style="list-style-type: none"> • FXベースの（動画）フォーマット（撮像範囲 [FX (36 × 24) 1.0×] で動画ライブビュー中に静止画撮影する場合）※： 6720 × 3776ピクセル（サイズL） 5040 × 2832ピクセル（サイズM） 3360 × 1888ピクセル（サイズS） • DXベースの（動画）フォーマット（撮像範囲 [DX (24 × 16) 1.5×] で動画ライブビュー中に静止画撮影する場合）： 4800 × 2704ピクセル（サイズL） 3600 × 2024ピクセル（サイズM） 2400 × 1352ピクセル（サイズS） <p>※ 撮像範囲 [1.2 × (30 × 20) 1.2×] または [5:4 (30 × 24)] で、動画ライブビュー中に静止画撮影する場合、「FXベースの（動画）フォーマット」のときの画像サイズになります。</p>
画質モード	<ul style="list-style-type: none"> • RAW 12ビット/14ビット（ロスレス圧縮、圧縮、非圧縮）、サイズL/S選択可能（サイズSは12ビット、非圧縮に固定） • TIFF (RGB) • JPEG-Baseline準拠、圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16）サイズ優先時、画質優先選択可能 • RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	<p>スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景、フラット、いずれも調整可能、カスタムピクチャーコントロール登録可能</p>
記録媒体	<ul style="list-style-type: none"> • SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード（SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードはUHS-I規格に対応） • コンパクトフラッシュカード（Type I、UDMA対応）
ダブルスロット	<p>メモリーカードの順次記録、同時記録、RAW + JPEG分割記録ならびにカード間コピー可能</p>
対応規格	<p>DCF 2.0、DPOF、Exif 2.3、PictBridge</p>

ファインダー

ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	<ul style="list-style-type: none"> • FX：上下左右とも約100%（対実画面） • 1.2×：上下左右とも約97%（対実画面） • DX：上下左右とも約97%（対実画面） • 5：4：上下約100%、左右約97%（対実画面）
倍率	約0.7倍（50mm f/1.4レンズ使用、 ∞ 、 -1.0 m^{-1} のとき）
アイポイント	接眼レンズ面中央から17 mm（ -1.0 m^{-1} のとき）
視度調節範囲	$-3\sim+1\text{ m}^{-1}$
ファインダー スクリーン	B型クリアマットスクリーンⅧ （AFエリアフレーム付、構図用格子線表示可能）
ミラー	クイックリターン式
プレビュー	Pv ボタンによる絞り込み可能、露出モード R 、 M では設定絞り値まで絞り込み可能、 P 、 S では制御絞り値まで絞り込み可能
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式

レンズ

交換レンズ	<ul style="list-style-type: none"> • G、EまたはDタイプレンズ（PCレンズ一部制限あり） • G、EまたはDタイプ以外のAFレンズ（IX用レンズ、F3AF用レンズ使用不可） • Pタイプレンズ • DXレンズ（撮像範囲は [DX (24×16) 1.5×]） • 非CPUレンズ（ただし、非AIレンズは使用不可）：露出モードR、Mで使用可能 • 開放F値がF5.6以上明るいレンズで、フォーカスイド可能。ただしフォーカスポイント11点は、F8以上明るいレンズで、フォーカスイド可能。
-------	--

シャッター

型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター、電子先幕シャッター（ミラーアップ撮影時）
シャッタースピード	1/8000～30秒（1/3ステップ、1/2ステップ、1ステップに変更可能）、Bulb、Time、X250
フラッシュ同調 シャッタースピード	X=1/250秒、1/320秒以下の低速シャッタースピードで同調（1/250より1/320秒まではガイドナンバーが減少）

レリーズ機能

レリーズモード	S （1コマ撮影）、 CL （低速連続撮影）、 CH （高速連続撮影）、 Q （静音撮影）、 Qc （静音連続撮影）、 ☺ （セルフタイマー撮影）、 Mup （ミラーアップ撮影）
連続撮影速度	<ul style="list-style-type: none"> • EN-EL15使用時 <ul style="list-style-type: none"> - 撮像範囲：FX、5：4 - 撮像範囲：DX、1.2X CL：約1～5コマ/秒 CL：約1～6コマ/秒 CH：約5コマ/秒 CH：約6コマ/秒 Qc：約3コマ/秒 Qc：約3コマ/秒 • マルチパワーバッテリーパック MB-D12（EN-EL15以外の電池使用時）、またはパワーコネクターとACアダプター使用時 <ul style="list-style-type: none"> - 撮像範囲：FX、5：4 - 撮像範囲：DX CL：約1～5コマ/秒 CL：約1～6コマ/秒 CH：約5コマ/秒 CH：約7コマ/秒 Qc：約3コマ/秒 Qc：約3コマ/秒 - 撮像範囲：1.2× CL：約1～6コマ/秒 CH：約6コマ/秒 Qc：約3コマ/秒
セルフタイマー	作動時間：2、5、10、20秒、撮影コマ数：1～9コマ、連続撮影間隔：0.5、1、2、3秒

露出制御	
測光方式	91Kピクセル (約91,000ピクセル) RGBセンサーによるTTL 開放測光方式
測光モード	<ul style="list-style-type: none"> ● マルチパターン測光：3D-RGBマルチパターン測光Ⅲ (G、EまたはDタイプレンズ使用時)、RGBマルチパターン測光Ⅲ (その他のCPUレンズ使用時)、RGBマルチパターン測光 (非CPUレンズのレンズ情報手動設定時) ● 中央部重点測光：φ12 mm相当を測光 (中央部重点度約75%)、φ8 mm、φ15 mm、φ20 mm、画面全体の平均のいずれかに変更可能 (非CPUレンズ使用時はφ12 mm) ● スポット測光：約φ4mm相当 (全画面の約1.5%) を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動 (非CPUレンズ使用時は中央に固定) ● ハイライト重点測光：G、EまたはDタイプレンズ使用時のみ、その他のCPUレンズまたは非CPUレンズ使用時は中央に固定
測光範囲	<ul style="list-style-type: none"> ● マルチパターン測光、中央部重点測光、ハイライト重点測光：0～20 EV ● スポット測光：2～20 EV (ISO 100、f /1.4レンズ使用時、常温20℃)
露出計連動	CPU連動方式、AI方式併用
露出モード	P ：プログラムオート (プログラムシフト可能)、 S ：シャッター優先オート、 A ：絞り優先オート、 M ：マニュアル
露出補正	範囲：±5段、補正ステップ：1/3、1/2、1ステップに変更可能
AEブラケットイング	撮影コマ数：2～9コマ、補正ステップ：1/3、1/2、2/3、1、2、3ステップ (2、3ステップに設定時は、撮影コマ数は2～5コマまで設定可能)
フラッシュ ブラケットイング	撮影コマ数：2～9コマ、補正ステップ：1/3、1/2、2/3、1、2、3ステップ (2、3ステップに設定時は、撮影コマ数は2～5コマまで設定可能)
ホワイトバランス ブラケットイング	撮影コマ数：2～9コマ、補正ステップ：1～3ステップ

露出制御

アクティブ D-ライティング ブラケティング	撮影コマ数：2～5コマ、撮影コマ数が2コマの場合のみ アクティブD-ライティングの効果の度合いを選択可能
AEロック	AE/AFロックボタンによる輝度値ロック方式
ISO感度 (推奨露光指数)	ISO 64～12800 (1/3、1/2、1ステップ)、ISO 64に対し約0.3、0.5、0.7、1段 (ISO 32相当) の減感、 ISO 12800に対し約0.3、0.5、0.7、1、2段 (ISO 51200相当) の増感、感度自動制御が可能
アクティブ D-ライティング	オート、より強め、強め、標準、弱め、しない

オートフォーカス

方式	TTL 位相差検出方式：フォーカスポイント51点 (うち、15点はクロスタイプセンサー、11点はF8対応)、アドバンストマルチCAM 3500FXオートフォーカスセンサーモジュールで検出、AF微調節可能、AF補助光 (約0.5～3 m)付
検出範囲	-2～+19 EV (ISO 100、常温 (20℃))
レンズサーボ	<ul style="list-style-type: none"> ● オートフォーカス：シングルAFサーボ (AF-S) またはコンティニユアスAFサーボ (AF-C)、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 ● マニュアルフォーカス (M)：フォーカスイド可能
フォーカスポイント	<ul style="list-style-type: none"> ● AF51点設定時：51点のフォーカスポイントから選択可能 ● AF11点設定時：11点のフォーカスポイントから選択可能
AFエリアモード	シングルポイントAFモード、ダイナミックAFモード (9点、21点、51点)、3D-トラッキング、グループエリアAFモード、オートエリアAFモード
フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはシングルAFサーボ (AF-S) 時にシャッターボタン半押し

フラッシュ

内蔵フラッシュ	押しボタン操作による手動ポップアップ方式 ガイドナンバー： • 約12（マニュアルフル発光時約12）（ISO 100・m、20℃）
調光方式	91Kピクセル（約91,000ピクセル）RGBセンサーによるTTL調光制御 ：i-TTL-BL調光（マルチパターン測光、中央部重点測光またはハイライト重点測光）、スタンダードi-TTL調光（スポット測光）可能
フラッシュモード	先幕シンクロ、スローシンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ、後幕スローシンクロ、発光禁止 • オートFPハイスピードシンクロ可能
調光補正	範囲：-3～+1段、補正ステップ：1/3、1/2、1ステップに変更可能
レディーライト	内蔵フラッシュ、別売スピードライト使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
アクセサリシュー	ホットシュー（ISO 518）装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構（ロック穴）付
ニコンクリエイティブライティングシステム	対応（コマンダー機能あり）
シンクロターミナル	シンクロターミナル（ISO 519）装備（外れ防止ネジ付）

ホワイトバランス

ホワイトバランス	オート（2種）、電球、蛍光灯（7種）、晴天、フラッシュ、曇天、晴天日陰、プリセットマニュアル（6件登録可、ライブビュー時にスポットホワイトバランス取得可能）、色温度設定（2500K～10000K）、いずれも微調整可能
----------	--

ライブビュー機能

撮影モード	静止画ライブビューモード、動画ライブビューモード
レンズサーボ	• オートフォーカス（AF） ：シングルAFサーボ（AF-S）、常時AFサーボ（AF-F） • マニュアルフォーカス（M）
AFエリアモード	顔認識AF、ワイドエリアAF、ノーマルエリアAF、ターゲット追尾AF
フォーカス	コントラストAF方式、全画面の任意の位置でAF可能（顔認識AFまたはターゲット追尾AFのときは、カメラが決めた位置でAF可能）

動画機能	
測光方式	撮像素子によるTTL測光方式
測光モード	マルチパターン測光、中央部重点測光、ハイライト重点測光
記録画素数/ フレームレート	<ul style="list-style-type: none"> • 1920×1080：60p/50p/30p/25p/24p • 1280×720：60p/50p ※ 60p：59.94fps、50p：50fps、30p：29.97fps、25p：25fps、24p：23.976fps ※ 標準/★高画質選択可能
ファイル形式	MOV
映像圧縮方式	H.264/MPEG-4 AVC
音声記録方式	リニアPCM
録音装置	内蔵ステレオマイク、外部マイク使用可能（ステレオ録音）、マイク感度設定可能
感度	<ul style="list-style-type: none"> • 露出モードM：ISO 64～12800（1/3、1/2、1ステップ）、ISO 12800に対し約0.3、0.5、0.7、1段、2段（ISO 51200相当）の増感、感度自動制御（ISO 64～Hi 2）が可能、制御上限感度が設定可能 • 露出モードP、S、A：感度自動制御（ISO 64～Hi 2）、制御上限感度が設定可能
その他の機能	インデックスマーク、微速度撮影
液晶モニター	
液晶モニター	3.2型TFT液晶モニター、約122.9万ドット（640×RGBW×480）（VGA）、視野角約170°、視野率約100%、明るさ調整可能
再生機能	
再生機能	1コマ再生、サムネイル（4、9、72分割）、拡大再生、動画再生、スライドショー（静止画/動画選択再生可能）、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影情報表示、位置情報表示、撮影画像の縦位置自動回転
インターフェース	
USB	SuperSpeed USB（USB 3.0 Micro-B端子）（標準装備されたUSBポートへの接続を推奨）
HDMI出力	HDMI端子（Type C）装備
外部マイク入力	ステレオミニジャック（φ3.5 mm）、プラグインパワーマイク対応
ヘッドホン出力	ステレオミニジャック（φ3.5 mm）

インターフェース

10ピンターミナル

- **リモートコントロール**：10ピンターミナルに接続
- **GPS**：GPSユニットGP-1/GP-1A(別売)を10ピンターミナルに接続。または、10ピンターミナルに接続したGPS変換コードMC-35(別売)を介して、NMEA0183 Ver. 2.01 およびVer. 3.01に準拠したGPS機器(D-sub 9ピンケーブル併用)に接続
- **ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10 (WR用変換アダプター WR-A10が必要) /WR-1**

表示言語

表示言語	日本語、英語
------	--------

電源

使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15 1個使用
マルチパワー バッテリーパック	MB-D12(別売)：Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18a/EN-EL18(別売) ※ またはEN-EL15 1個使用。 単3形電池(アルカリ電池、ニッケル水素充電電池、リチウム電池) 8本使用 ※ 別売のバッテリー室カバー BL-5が必要です。
ACアダプター	ACアダプター EH-5b(パワーコネクター EP-5Bと組み合わせ使用)(別売)

三脚ネジ穴

三脚ネジ穴	1/4 (ISO 1222)
-------	----------------

寸法・質量

寸法 (W×H×D)	約146×123×81.5 mm
質量	約980 g (バッテリーおよびSDカードを含む、ボディキャップを除く) 約880 g (本体のみ)

動作環境

温度	0℃～40℃
湿度	85%以下 (結露しないこと)

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、CIPA(カメラ映像機器工業会)規格またはガイドラインに準拠しています。
- 仕様中のデータは、フル充電バッテリー使用時のものです。
- 製品の外观・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

バッテリーチャージャー MH-25a

電源	AC 100–240 V、50/60 Hz、0.23–0.12 A
定格入力容量	21–28 VA
充電出力	DC 8.4 V、1.2 A
適用充電電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15
充電時間	約2時間35分 ※残量のない状態からの充電時間（周囲温度25℃）
使用温度	0℃～40℃
寸法（W×H×D）	約95 × 33.5 × 71 mm（突起部除く）
質量	約115 g（電源プラグ（直付け型）を除く）

製品に表示されている記号の意味は下記の通りです。

～ AC（交流）、— DC（直流）、 クラスⅡ機器（二重絶縁構造）

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15

形式	リチウムイオン充電電池
定格容量	7.0 V、1900 mAh
使用温度	0℃～40℃
寸法（W×H×D）	約40 × 56 × 20.5 mm
質量	約88 g（端子カバーを除く）

- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

このカメラの準拠規格

- **Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0**：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **DPOF (Digital Print Order Format)**：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- **Exif Version 2.3**（Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras）：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **PictBridge**：デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。
- **HDMI (High-Definition Multimedia Interface)**：家庭用電化製品およびAV機器用のマルチメディアインターフェース規格です。1本のケーブルをつなぐだけで、画像、音声、制御信号をHDMI対応機器に送信できます。

商標説明

- SDロゴ、SDHCロゴ、およびSDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は米国SanDisk社の商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- MacおよびOS Xは米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- PictBridge ロゴは商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing, LLC.の商標または登録商標です。

HDMI

- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

FreeType License (FreeType2)

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2012 The FreeType Project (<http://www.freetype.org>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

MIT License (HarfBuzz)

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2014 The HarfBuzz Project (<http://www.freedesktop.org/wiki/Software/HarfBuzz>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

使用できるSDカードとCFカード

次のSDカードとCFカード（Type I）が使用できます。

■ SDカード

次のSDカードの動作を確認しています。

	SD メモリーカード	SDHC メモリーカード※2	SDXC メモリーカード※3
SanDisk製	2 GB※1	4 GB、8 GB、 16 GB、32 GB	64 GB、128 GB
東芝製	—	4 GB、8 GB、 16 GB、32 GB	64 GB
Panasonic製	2 GB※1	4 GB、6 GB、8 GB、 12 GB、16 GB、 24 GB、32 GB	48 GB、64 GB
LEXAR MEDIA社製	2 GB※1	4 GB、8 GB、 16 GB、32 GB	—
プラチナII シリーズ	—	8 GB、16 GB、 32 GB	64 GB
プロフェッショナル シリーズ		8 GB、16 GB、 32 GB	64 GB、128 GB、 256 GB
フルHDビデオ カードシリーズ		4GB、8GB、16GB	—

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。このカメラは、UHS-I規格に対応しています。

※3 SDXC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDXC規格に対応している必要があります。このカメラは、UHS-I規格に対応しています。



- 動画の撮影には、SDスピードクラスがClass 6以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。

■ CFカード

次のCFカードの動作を確認しています（Type Iのみ。Type IIのCFカードやマイクロドライブは使用できません）。

SanDisk製	Extreme Pro	SDCFXPS	16 GB、32 GB、64 GB、128 GB、256 GB
		SDCFXP	16 GB、32 GB、64 GB、128 GB
	Extreme	SDCFXS	8 GB、16 GB、32 GB、64 GB、128 GB
		SDCFX	8 GB、16 GB、32 GB、64 GB
	Extreme IV	SDCFX4	2 GB、4 GB、8 GB、16 GB
	Extreme III	SDCFX3	2 GB、4 GB、8 GB、16 GB
	Ultra II	SDCFH	2 GB、4 GB、8 GB
	Ultra	SDCFHS	4 GB、8 GB、16 GB
SDCFHG		4 GB、8 GB、16 GB	
LEXAR MEDIA社製	Professional UDMA	1066×	16 GB、32 GB、64 GB、128 GB、256 GB
		1000×	16 GB、32 GB、128 GB、256 GB
		800×	8 GB、16 GB、32 GB、64 GB、128 GB
		600×	8 GB、16 GB、32 GB
		400×	8 GB、16 GB、32 GB、64 GB、128 GB
		300×	2 GB、4 GB、8 GB、16 GB
	Professional	233×	2 GB、4 GB、8 GB
		133×	2 GB、4 GB、8 GB
		80×	2 GB、4 GB
	Platinum II	200×	4 GB、8 GB、16 GB
		80×	2 GB、4 GB、8 GB、16 GB
		60×	4 GB

- 動画撮影には、最大 30MB/s（200 倍速）以上の転送速度を持つメモリーカードをおすすめします。転送速度が遅いメモリーカードでは、動画の撮影が途中で終了したり、カメラでの動画再生がスムーズに行われないことがあります。
- メモリーカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、メモリーカードメーカーにご相談ください。その他のメーカー製のメモリーカードにつきましては、動作の保証はいたしかねます。

記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

撮像範囲 (□74)、画質モード (□79)、画像サイズ (□82) の組み合わせによって、16 GBのCFカードに記録できるコマ数、および連続撮影できるコマ数は、次のようになります*1。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

■■【撮像範囲】が【FX(36×24)1.0×】の場合*2

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数*3	連続撮影可能コマ数*4
RAW (ロスレス圧縮RAW/12ビット記録)	L	約31.9 MB	257コマ	47コマ
RAW (ロスレス圧縮RAW/14ビット記録)	L	約40.7 MB	199コマ	28コマ
RAW (圧縮RAW/12ビット記録)	L	約29.2 MB	348コマ	58コマ
RAW (圧縮RAW/14ビット記録)	L	約36.3 MB	291コマ	35コマ
RAW (非圧縮RAW/12ビット記録)	L	約55.9 MB	257コマ	34コマ
	S	約27.9 MB	516コマ	18コマ
RAW (非圧縮RAW/14ビット記録)	L	約73.2 MB	199コマ	23コマ
	L	約107.2 MB	137コマ	25コマ
	M	約60.9 MB	242コマ	34コマ
TIFF (RGB)	S	約27.9 MB	526コマ	72コマ
	L	約18.1 MB	642コマ	100コマ
	M	約11.0 MB	1000コマ	100コマ
FINE*5	S	約5.6 MB	2100コマ	100コマ
	L	約9.4 MB	1200コマ	100コマ
	M	約5.5 MB	2100コマ	100コマ
NORMAL*5	S	約2.8 MB	4200コマ	100コマ
	L	約3.2 MB	2400コマ	100コマ
	M	約2.2 MB	4100コマ	100コマ
BASIC*5	S	約1.4 MB	7800コマ	100コマ

🔑 カスタムメニュー d3【連続撮影コマ数】(□311)

カスタムメニュー d3【連続撮影コマ数】では、連続撮影時の連続撮影コマ数を1～100コマの範囲で設定できます。

■■ [撮像範囲] が [DX (24×16) 1.5×] の場合※6

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※3	連続撮影可能コマ数※4
RAW (ロスレス圧縮RAW/12ビット記録)	L	約14.6 MB	580コマ	100コマ
RAW (ロスレス圧縮RAW/14ビット記録)	L	約18.3 MB	453コマ	97コマ
RAW (圧縮RAW/12ビット記録)	L	約13.3 MB	777コマ	100コマ
RAW (圧縮RAW/14ビット記録)	L	約16.4 MB	653コマ	100コマ
RAW (非圧縮RAW/12ビット記録)	L	約24.4 MB	580コマ	78コマ
	S	約16.4 MB	1100コマ	23コマ
RAW (非圧縮RAW/14ビット記録)	L	約31.8 MB	453コマ	46コマ
	L	約46.2 MB	317コマ	39コマ
	M	約26.6 MB	549コマ	75コマ
TIFF (RGB)	S	約12.4 MB	1100コマ	100コマ
	L	約8.6 MB	1400コマ	100コマ
	M	約5.3 MB	2200コマ	100コマ
FINE※5	S	約2.9 MB	4000コマ	100コマ
	L	約4.4 MB	2700コマ	100コマ
	M	約2.7 MB	4300コマ	100コマ
NORMAL※5	S	約1.5 MB	7600コマ	100コマ
	L	約1.7 MB	5200コマ	100コマ
	M	約1.3 MB	8100コマ	100コマ
BASIC※5	S	約0.9 MB	13200コマ	100コマ

※1 SanDisk社製16GBのCFカード (SDCFXPS-016G-J92) を使用した場合

※2 [撮像範囲] の [DX自動切り換え] が [する] でDXレンズ以外のレンズを装着した場合を含みます。

※3 撮影条件により、記録可能コマ数は増減することがあります。

※4 ISO感度がISO 100の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。次のような場合、連続撮影可能コマ数は減少します。

- [JPEG/TIFF記録] の [JPEG圧縮] を [画質優先] に設定してJPEG画像を撮影した場合
- [自動ゆがみ補正] (□289) を [する] に設定した場合
- ISO感度 (□107) をHi 0.3以上に設定した場合
- [長秒時ノイズ低減] (□290) を [する] に設定した場合

- ※5 1コマあたりのファイルサイズおよび記録可能コマ数は、**[JPEG/TIFF 記録]**の**[JPEG圧縮]** (□81) が**[サイズ優先]**に設定されている場合です。**[JPEG圧縮]**を**[画質優先]**に設定した場合、記録可能コマ数は減少します。
- ※6 **[撮像範囲]**の**[DX自動切り換え]**が**[する]**でDXレンズを装着した場合を含みます。

撮影可能コマ数（電池寿命）について

カメラ単体または別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12装着時の撮影可能コマ数（電池寿命）は、次の通りです。

- **撮影可能コマ数（1コマ撮影モード）：CIPA基準準拠※1**
 - 約1200コマ（カメラ本体でLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15 使用時）
 - 約1200コマ（MB-D12を装着してEN-EL15 1個使用時）
 - 約2070コマ（MB-D12を装着してEN-EL18a 1個使用時）
 - 約1460コマ（MB-D12を装着してアルカリ単3形電池使用時）
 - **撮影可能コマ数（連続撮影モード）：当社試験条件※2**
 - 約3860コマ（カメラ本体でEN-EL15 使用時）
 - 約3860コマ（MB-D12を装着してEN-EL15 1個使用時）
 - 約6980コマ（MB-D12を装着してEN-EL18a 1個使用時）
 - 約4060コマ（MB-D12を装着してアルカリ単3形電池使用時）
 - **動画撮影可能時間※3**
 - 約40分（カメラ本体でEN-EL15 使用時）
 - 約40分（MB-D12を装着してEN-EL15 使用時）
 - 約80分（MB-D12を装着してEN-EL18a 使用時）
 - 約50分（MB-D12を装着してアルカリ単3形電池使用時）
- ※1 初期設定条件で30秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に1往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。ライブビュー撮影なし。リリース2回につき1回内蔵フラッシュを発光させる。装着レンズAF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR、温度23（±2）℃。
- ※2 画質モードNORMAL、画像サイズL、シャッタースピード1/250秒、シャッターの半押しを3秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6回連続リリースした後、液晶モニターを5秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR II (VR機能OFF)、温度20℃。
- ※3 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格による実撮影電池寿命です。装着レンズAF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR、温度23（±2）℃。カメラは初期設定状態。
- 1回の動画撮影で記録可能な最長時間は20分（1080/60p）です。
 - 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。
 - カメラが熱くなった場合、連続撮影時間内でも動画撮影が終了することがあります。
- ※ バッテリーの充電状態、撮影間隔やメニュー画面からの設定条件などの使用環境によって電池寿命が異なります。また、単3形電池使用時は、銘柄や保管状態により撮影可能コマ数が減少することがあります。単3形電池は、銘柄によっては使用できないこともあります。

次の場合はバッテリーの消費が早くなります。

- ライブビュー撮影などで液晶モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAW、TIFF（RGB）に設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- 通信ユニットUT-1、ワイヤレストランスミッターWT-5を使用した場合
- GPSユニットGP-1/GP-1A、ワイヤレスリモートコントローラーWR-R10/WR-1、ルミコントロールセットML-3を使用した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合

Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL15の性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、十分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。

AF補助光撮影、内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについて

■ AF補助光撮影に制限のあるレンズについて

AF補助光撮影に制限のあるレンズは次の通りです。

AF補助光を使ってオートフォーカス撮影ができないレンズ

AF-S VR Nikkor 200mm f/2G IF-ED

AF-S NIKKOR 200mm f/2G ED VR II

AF-S VR Zoom-Nikkor 200–400mm f/4G IF-ED

AF-S NIKKOR 200–400mm f/4G ED VR II

AF-S NIKKOR 300mm f/2.8G ED VR II

撮影距離によってAF補助光を使ったオートフォーカス撮影に制限のあるレンズ

AF Micro-Nikkor 200mm f/4D IF-ED	0.7m以内では内蔵AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。
AF-S DX NIKKOR 18–300mm f/3.5–5.6G ED VR	1.1m以内では内蔵AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。
AF-S NIKKOR 28–300mm f/3.5–5.6G ED VR	
AF-S DX Zoom-Nikkor 55–200mm f/4–5.6G ED	
AF-S NIKKOR 70–200mm f/4G ED VR	
AF-S DX NIKKOR 55–300mm f/4.5–5.6G ED VR	
AF-S VR Zoom-Nikkor ED 70–200mm f/2.8G (IF)	1.5m以内では内蔵AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。
AF-S NIKKOR 70–200mm f/2.8G ED VR II	
AF Zoom-Nikkor 70–300mm f/4–5.6G	
AF Zoom-Nikkor 80–200mm f/2.8D ED	
AF-S Zoom Nikkor ED 80–200mm f/2.8D (IF)	
AF-S NIKKOR 80–400mm f/4.5–5.6G ED VR	2.3m以内では内蔵AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。
AF VR Zoom-Nikkor 80–400mm f/4.5–5.6D ED	

■ 内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについて

内蔵フラッシュ撮影時、焦点距離や撮影距離に制限のあるレンズは次の通りです。

	レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
D X	AF-S DX Zoom-Nikkor 12-24mm f/4G IF-ED	● 焦点距離 18mm 以上では制限なし
	AF-S DX Zoom-Nikkor 17-55mm f/2.8G IF-ED	● 焦点距離 20mm では撮影距離 1.5m 以上 ● 焦点距離 24mm 以上では制限なし
	AF-S DX NIKKOR 18-300mm f/3.5-5.6G ED VR	● 焦点距離 28mm 以上では制限なし
F X	AF-S NIKKOR 16-35mm f/4G ED VR	● 焦点距離 35mm では撮影距離 1.0m 以上
	AF-S Zoom-Nikkor 17-35mm f/2.8D IF-ED	● 焦点距離 28mm では撮影距離 1.0m 以上 ● 焦点距離 35mm では制限なし
	AF Zoom-Nikkor 18-35mm f/3.5-4.5D IF-ED	● 焦点距離 24mm では撮影距離 1.0m 以上 ● 焦点距離 28mm 以上では制限なし
	AF Zoom-Nikkor 20-35mm f/2.8D IF	● 焦点距離 24mm では撮影距離 1.0m 以上 ● 焦点距離 28mm 以上では制限なし
	AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED	● 焦点距離 35mm では撮影距離 1.0m 以上 ● 焦点距離 50mm 以上では制限なし
	AF-S VR Zoom-Nikkor 24-120mm f/3.5-5.6G IF-ED	● 焦点距離 24mm では撮影距離 1.0m 以上 ● 焦点距離 28mm 以上では制限なし
	AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR	● 焦点距離 28mm では撮影距離 1.0m 以上 ● 焦点距離 35mm 以上では制限なし
	AF-S Zoom-Nikkor 28-70mm f/2.8D IF-ED	● 焦点距離 35mm では撮影距離 1.0m 以上 ● 焦点距離 50mm 以上では制限なし
	AF-S NIKKOR 28-300mm f/3.5-5.6G ED VR	● 焦点距離 35mm では撮影距離 1.0m 以上 ● 焦点距離 50mm 以上では制限なし
	PC-E NIKKOR 24mm f/3.5D ED	● アオリ操作をしていない状態で撮影距離 1.5m 以上

- AF-S NIKKOR 14-24mm f/2.8G ED 使用時は、全ての撮影距離でケラレが発生します。

- 内蔵フラッシュ撮影時に使用可能な非CPUレンズは、24mmから300mmまでのニッコール（AI-S、AI、改造AI）、ニコンレンズシリーズEです。ただし、次のレンズは使用に制限があります。

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AI 50-300mm f/4.5 AI改 50-300mm f/4.5 AI-S ED 50-300mm f/4.5	●焦点距離180mm以上では制限なし
AI ED 50-300mm f/4.5	●焦点距離135mm以上では制限なし

索引

マーク・英数字

- P** (プログラムオート) 116
- P*** (プログラムシフトマーク) 116
- S** (シャッター優先オート) 117
- A** (絞り優先オート) 117
- M** (マニュアル) 119
- S** (1コマ撮影) 100
- CL** (低速連続撮影) 100
- CH** (高速連続撮影) 100
- Q** (静音撮影) 100
- Qc** (静音連続撮影) 101
- ☺** (セルフタイマー撮影) 101, 104
- MUP** (ミラーアップ撮影) 101, 106
- [.]** (シングルポイントAFモード) 89
- [+]** (ダイナミックAFモード) 89
- []** (オートエリアAFモード) 90
- []** (顔認識AF) 38
- []** (ワイドエリアAF) 38
- []** (ノーマルエリアAF) 38
- []** (ターゲット追尾AF) 38
- []** (マルチパターン測光) 112
- []** (中央部重点測光) 112, 307
- []** (スポット測光) 112
- []** (測光) ボタン 1, 113
- info** (インフォ) ボタン 8, 197
- i** ボタン 4, 9, 41, 52, 201
- [Lv]** (ライブビュー) ボタン 33, 48
- ?** (ヘルプ) 23
- f** (連続撮影可能コマ数) 103, 485
- []** (HDR (連続) マーク) 183
- []** (絞り値ロックマーク) 125
- []** (シャッタースピードロック
マーク) 124
- []** (多重露出 (連続) マーク) 208
- INTVL** (インターバルタイマー設定
マーク) 213
- INTVL** (微速度撮影設定マーク) 220
- HDR** (HDRマーク) 181
- BP** (MB-D12のバッテリー使用マーク)
..... 318
- PC** (PC接続中マーク) 436
- []** (衛星受信状態マーク) 225
- ISO-AUTO**
(感度自動制御設定マーク) 110
- CLOCK** マーク 5
- []** マーク 199
- ΔF** (絞り込み段数マーク) 118, 421
- []** (多重露出マーク) 206
- []** (調光補正マーク) 192
- []** (電子音マーク) 310
- []** (微速度撮影中マーク) 220
- BKT** (ブラケットマーク)
..... 131, 136, 140
- X** (フラッシュシンクロマーク) 319
- WB*** (ホワイトバランス微調整設定
マーク) 149
- []** (露出補正マーク) 128
- []** スイッチの機能 333
- 10ピンターミナル 3, 225, 438
- 12ビット記録 81
- 14ビット記録 81
- 1.2×(30×20)1.2× (撮像範囲)
..... 74, 77
- 1コマ撮影 100
- 1コマ表示 227
- 2点拡大 42, 43
- 3D-RGBマルチパターン測光III 113
- 3D-トラッキング 89, 90
- 5:4 (30×24) (撮像範囲) 74, 77
- ACアダプター 434, 440

ADLブラケットング (オートブラケットングのセット)	140, 330	CPUレンズ	22, 416, 419
Adobe RGB (色空間).....	287	DCF Version 2.0.....	481
AE-Lマーク.....	95, 126	DPOFプリント (PictBridge).....	255
AE/AFロックボタンの機能.....	342, 357	DPOF (Digital Print Order Format)	257, 481
AEブラケットング (オートブラケットングのセット)	130, 330	DX (24×16) 1.5× (撮像範囲)	74, 75, 77
AEロック.....	126	DX自動切り換え (撮像範囲).....	75
AE・フラッシュブラケットング (オートブラケットングのセット)	130, 330	DXフォーマット.....	74
AF-C (コンティニューアスAFサーボ)	86, 297	DXベースの(動画)フォーマット..	56
AF-F (常時AFサーボ).....	37	Dタイプレンズ.....	419
AF-ONボタン.....	87, 298	D-ライティング.....	384
AF-S (シングルAFサーボ)	37, 86, 297	Exif Version 2.3.....	481
AFエリアモード.....	38, 89	Eye-Fi送信機能.....	378
AFエリアモードの限定.....	304	FINE.....	79
AF点数切り換え.....	301	Fn (ファンクション) ボタン	77, 194, 224, 336, 355
AF微調節.....	376	FP発光.....	319, 320, 321
AF補助光.....	303, 422, 431	FVロック.....	194, 336
AFモード.....	37, 86	FX (36×24) 1.0× (撮像範囲)	74, 77
AFモードの制限.....	304	FXフォーマット.....	74
AFモードボタン.....	37, 39, 87, 91	FXベースの(動画)フォーマット	56
AFロックオン.....	298	GPS.....	225, 226, 237
BASIC.....	79	Gタイプレンズ.....	419
BKTの順序.....	332	H.264.....	479
BKT変化要素 (Mモード).....	331	HDMIケーブルクリップ.....	i, 259
BKTボタン	131, 136, 140, 183, 208, 343	HDMI (High-Definition Multimedia Interface).....	259, 481
Bulb (バルブ撮影).....	121	HDR (ハイダイナミックレンジ)	180
Camera Control Pro 2.....	436	Hi (ISO感度).....	108
Capture NX-D.....	79, 176, 364	ISO感度.....	107, 291, 305, 314
CFカード.....	14, 360, 484	i-TTL調光.....	188, 427
CFスロット.....	85	JPEG.....	79, 81, 286, 394
CPU信号接点.....	419	JPEG/TIFF記録.....	286
		Li-ionリチャージャブルバッテリー	i, 12, 481

Lo (ISO感度).....	108	赤強調 (フィルター効果).....	388
L (画像サイズ).....	82	赤目軽減.....	187
M (マニュアルフォーカス).....	40, 98	赤目補正.....	385
MB-D12.....	316, 318, 351	明るさ (ピクチャーコントロール)	
MB-D12電池設定.....	316	169
MB-D12のAF-ONボタン機能.....	351	アクセサリ	
M (画像サイズ).....	82	(使用できるアクセサリ).....	434
NEF.....	79, 286	アクティブD-ライティング.....	178
Nikon Transfer 2.....	248	アクティブD-ライティング	
NORMAL.....	79	ブラケティング.....	140
PictBridge (ピクトブリッジ)		圧縮RAW.....	81
.....	252, 481	後幕シンクロモード.....	187
Picture Control Utility 2.....	176	位置情報.....	225, 237
PRE (プリセットマニュアル)		イメージダストオフ.....	364, 462
.....	144, 153	イルミネーター.....	1, 316
Pv (プレビュー) ボタン		色合い (色相)	
.....	51, 118, 341, 356	(ピクチャーコントロール).....	169
RAW.....	79, 81, 85, 394	色温度.....	144, 146, 150
RGBヒストグラム表示.....	233, 390	色空間.....	287
RGBマルチパターン測光		色の濃さ (彩度)	
.....	113, 222, 421	(ピクチャーコントロール).....	169
SDカード.....	14, 360, 483	印刷 (プリント).....	252
SDスロット.....	85	インジケータの+/-方向.....	348
sRGB (色空間).....	287	インターバル設定 (スライドショー)	
S (画像サイズ).....	82	278
TIFF (RGB).....	79	インターバルタイマー撮影.....	211
USBケーブル.....	i, 248, 252	インデックスマーキング	
UTC.....	226, 237	51, 355, 356, 357
ViewNX 2.....	79, 244, 368, 371	インフォ画面.....	197, 315
WBブラケティング (WB-BKT)		ヴィネットコントロール.....	288
.....	136, 330	ウォームトーン (フィルター効果)	
WT-5.....	251, 435	388
		衛星による日時合わせ.....	226
		液晶モニター.....	197, 227, 309, 362
		オートFPハイスピードシンクロ....	320
		オートエリアAF.....	90, 91
		オートフォーカス	
		37, 38, 86, 89, 95

ア

アイピース.....	22, 105, 437
アイピースシャッターレバー... ..	22, 105
青強調 (フィルター効果).....	388
アオリ効果.....	403

オートブラケティング	
.....	130, 330, 331, 332
オート (ホワイトバランス)	
.....	144, 145

カ

カードなし時リリース	348
カードの初期化 (フォーマット)	
.....	360
外部マイク	2, 62, 438
開放F値	222, 419
開放絞り	222, 419
顔認識AF	38
画角	423
拡大表示	239
風切り音低減	63
画質モード	79
画質優先 (JPEG圧縮)	81
カスタムピクチャーコントロール	
.....	171
カスタムメニュー	292
カスタムメニューの管理	295
画像合成	391
画像コピー	273
画像コメント	371
画像サイズ	61, 82
画像サイズ/フレームレート	61
画像情報	230
画像ファイル	313
画像編集メニュー	380
画像をテレビで見る	259
傾き補正	399
カメラ設定の保存と読み込み	373
カラーカスタマイズ	390
カラースケッチ	402
簡単レタッチ	399
感度自動制御	109
基準露出レベルの調節	307

魚眼効果	401
距離基準マーク	99
記録可能コマ数	485
記録ビットモード (RAW記録)	81
記録フォルダー設定	283
クイック調整	169
クール (モノトーン)	387
クリーニングミラーアップ	445
クリエイティブライティングシステム	
.....	425
グループエリアAF	90, 91
クロススクリーン (フィルター効果)	
.....	389
蛍光灯 (ホワイトバランス)	144
言語 (Language)	368
現在地の設定 (地域と日時)	367
高感度ノイズ低減	291
高感度 (Hi)	108
高速連続撮影	100
コマ送り	66, 277, 346
コマンダーモード	324
コマンドダイヤルの設定	344
コマンドロック	124, 204
コンティニユアスAFサーボ (AF-C)	
.....	86, 297
コントラスト	
(ピクチャーコントロール)	169

サ

最近設定した項目	414, 415
最小絞り	22, 115
サイズ	57, 82, 387, 396
サイズ優先 (JPEG圧縮)	81
再生	29, 65, 227, 259
再生画像の種類 (スライドショー)	
.....	278
再生画面設定	272
再生フォルダー	271

再生メニュー	270	シンクローミナル	3, 432
先幕シンクロモード	187	水準器	45, 55, 339, 375
削除	31, 242	スカイライト (フィルター効果)	388
削除後の次再生画像	277	スタンダードi-TTL調光	188, 427
撮影画面サイズ	61, 423	スタンダード (ピクチャーコントロール)	165
撮影コマ数	311	スピードライト	322
撮影情報	235, 238	スポット測光	112
撮影直後の画像確認	228, 277	スポットホワイトバランス	158
撮影メニュー	280	スムージング	182
撮影メニューの拡張	282	スライドショー	278
撮影メニューの管理	281	スローシンクロモード	187
撮像範囲	41, 52, 56, 74	スロット切り換え	163, 228, 381
撮像範囲選択	74, 76, 340	制御上限感度 (感度自動制御)	110
サブコマンドダイヤルで画像送り	346	静止画Lv画面のホワイトバランス	42
サマータイム (夏時間)	367	静止画ライブビュー	33
サムネイル	227, 334	晴天日陰 (ホワイトバランス)	144
自動ゆがみ補正	289	晴天 (ホワイトバランス)	144
視度調節機能	16, 437	接眼補助レンズ	437
絞り値	117, 125, 345	設定の保存	373
絞り値のロック	125, 342	セットアップメニュー	359
絞り優先オート	117	セピア (モノトーン)	387
シャッタースピード	115, 117, 124	セルフタイマー	104, 308
シャッタースピードのロック	124, 342	セレクトカラー	405
シャッターボタン	28, 95, 126, 194, 358	全押し (シャッターボタン)	28
シャッター優先オート	117	全画像削除	243
主スロットの選択	85	選択画像削除	243
順次記録 (副スロットの機能)	85	測光モード	112
常時AFサーボ (AF-F)	37	外付けフラッシュ発光	322
使用できるメモリーカード	483	ソフト (フィルター効果)	389
焦点距離の設定	222		
初期化 (フォーマット)	360		
初期設定一覧	202, 262		
白黒 (モノトーン)	387		
シングルAFサーボ (AF-S)	37, 86, 297		
シングルポイントAF	89, 91		

タ

ターゲット追尾AF	38
ダイナミックAF	89, 91
タイマー (セルフタイマー)	104, 308
タイム撮影	121
多重露出	205

縦/横位置フォーカス切換	302	登録項目の順序変更 (マイメニュー)	413
縦位置自動回転	278	時計用電池	5, 199
縦横位置情報の記録	368	トリミング	386
地域と日時	17, 367	曇天 (ホワイトバランス)	144
チャージャー	12		
中央部重点測光	112, 307	ナ	
中央ボタンの機能	333		
調光範囲	191	内蔵AF補助光の照射設定	303
調光補正	192	内蔵フラッシュ	185
長時間露出 (タイム)	121	内蔵フラッシュ発光	322
長時間露出 (バルブ)	121	夏時間の設定 (地域と日時)	367
調色 (ピクチャーコントロール)	169, 170	ニコンクリエイティブライティングシステム	425
長秒時ノイズ低減	290	日時の設定 (地域と日時)	17, 367
著作権情報	372	ニュートラル (ピクチャーコントロール)	165
通信ユニット	435	塗り絵	401
ツーボタンリセット	202	ノーマルエリアAF	38
低感度 (Lo)	108		
低速限界設定 (感度自動制御)	110	ハ	
低速連続撮影	100, 311		
低速連続撮影速度	311	ハイダイナミックレンジ	180
デモモード	348	ハイビジョンテレビと接続する	259
テレビ	259	ハイライト重点測光	112
電球 (ホワイトバランス)	144	ハイライト表示	53
電子音設定	310	パソコン	244
電子先幕シャッター	312	パソコンに画像を取り込む	248
電池チェック	369	バックアップ記録 (副スロットの機能)	85
電池の使用順序	318	バッテリー	i, 12, 14, 18, 481
動画	48, 61, 65, 68	バッテリーチャージャー	i, 12, 481
動画ISO感度設定	64	バッテリーパック	316, 318, 351, 434
動画記録先	63	バルブ撮影 (長時間露出)	121
動画撮影ボタン	49	パワーオフ時間	309
動画の画質	61	パワーコネクター	434, 440
動画編集	68	パワー絞り	355, 356
動画ライブビュー	48, 355	範囲指定 (PictBridge)	254
統合表示	238	半押しAEロック	308
同調シャッタースピード	319, 320, 457		
登録項目の削除 (マイメニュー) ..	412		

マイメニュー	338, 410	レディーライト	185, 328, 430, 478
マニュアル発光モード	323	リリースモード	100
マニュアルフォーカス	40, 98	レンズ情報手動設定	222, 223
マニュアル (露出)	119	レンズの取り外し	22
マルチセレクター	11	レンズのフォーカス作動ボタン機能	353
マルチセレクターの半押し起動	335	レンズマウント	3, 99
マルチパターン測光	112, 307	レンズ (使用できるレンズ)	416
緑強調 (フィルター効果)	388	連続撮影	100, 102
ミニチュア効果	404	連続撮影コマ数	311
ミラーアップ撮影	101, 106	連番モード	313
ミレッド	148	ローリング	339, 375
無線LAN	251, 435	録音帯域	63
メモリーカード	14, 85, 360, 483	露出	112, 115, 126, 128, 130
モデリング発光	118, 330	露出インジケーター	120
モニターカバー	10	露出差	182
モニターの明るさ	53, 362	露出設定ステップ幅	305
モニターのカラーカスタマイズ	363	露出・調光補正ステップ幅	305
モニター発光	188, 195, 322	露出ディレーモード	311
モノクローム		露出プレビュー	34, 35
(ピクチャーコントロール)	165	露出平滑化	212, 218
モノトーン	387	露出補正	128, 306
		露出モード	115
		ロスレス圧縮RAW	81

ヤ

ゆがみ補正	400
用紙設定 (PictBridge)	254
予測駆動フォーカス	87

ラ

ライブビュー	33, 48
ライブビューセレクター	33, 48
ライブビューボタンの設定	350
リサイズ	396
リセット	202, 282, 296
リピート発光モード	322, 323
リモートコード	438
リモコン (WR) のFnボタンの機能	352
輪郭強調	169

ワ

ワイドエリアAF	38
ワイヤレストランスミッター	251, 435
ワイヤレスリモートコントローラー	58, 352, 439

ニコンプラザのご案内

ニコンプラザは、ショールーム、サービスセンター、ギャラリーを統合したニコン映像製品の総合情報拠点です。お客さまのデジタルイメージングの世界を拓き、写真文化の普及、向上に資するよう目指しています。

※ニコンプラザサービスセンターでは持ち込み修理の受け付けも行っていきます。

ニコンプラザ銀座

〒104-0061 東京都中央区銀座7-10-1 ストラータ ギンザ 1・2階

営業時間：10:30～18:30(年末年始、2月の第1土曜日とその翌日、8月の第2土曜日とその翌日を除く毎日)

ニコンプラザ新宿

〒163-1528 東京都新宿区西新宿1-6-1 新宿エルタワー 28階

営業時間：10:30～18:30(年末年始、2月11日・12日、8月の第3日曜日とその翌日を除く毎日)

ニコンプラザ名古屋

〒461-0005 名古屋市中区東桜1-13-3 NHK名古屋放送センタービル2階

営業時間：10:30～18:30(日曜日、祝日、年末年始を除く毎日)

ニコンプラザ大阪

〒530-0001 大阪市北区梅田2-2-2 ヒルトンプラザウエスト・オフィスタワー 13階

営業時間：10:30～18:30(年末年始、2月の第3土曜日とその翌日、8月の第3土曜日とその翌日を除く毎日)

 ニコンプラザショールーム(銀座・新宿・名古屋・大阪)ナビダイヤル
0570-02-8080

 ニコンプラザサービスセンター(銀座・新宿・名古屋・大阪)ナビダイヤル
0570-02-8060

音声ガイダンスにしたがって、ご利用になるニコンプラザをお選びください。

- ・ナビダイヤルは一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。
- ・ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、ニコンカスタマーサポートセンター(03)6702-0577におかけください。

補修用性能部品と修理可能期間について

補修用性能部品(機能維持に必要な部品)の保有期間内(製造打ち切り後7年を目安)を、修理可能期間とさせていただきます。なお、部品保有期間の経過後も修理できる場合がありますので、ニコンサービス機関、ご購入店または最寄りの販売店にお問い合わせください。また、水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、保有期間内であっても修理できません。この故障や破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

修理サービスのご案内

■修理のご依頼

ニコンサービス機関（修理センター、ニコンプラザサービスセンター）、ご購入店、または最寄りの販売店にご依頼ください。

- 修理センターについては以下で、ニコンプラザサービスセンターについては、前ページでご案内しています。
- 修理に出されるときは、メモリーカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください（内蔵メモリーがあるカメラでは、メモリー内のデータが消去される場合があります）。
- 補修用性能部品と修理可能期間については、前ページをご覧ください。

■修理センター

株式会社ニコンイメージングジャパン修理センター

〒230-0052 横浜市鶴見区生麦2-2-26

営業時間：9：30～18：00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）

- 修理センターでは、「ニコンピックアップサービス」などの宅配便のみをお受けします。
- ご来所の方の受付はございません。ご了承ください。



修理センター ナビダイヤル

0570-02-8200

- ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、カスタマーサポートセンター（03）6702-0577 におかけください。

■ニコンピックアップサービス

梱包資材のお届け・修理センターへのお引き取り、修理後のお届け・集金までをニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が一括して代行するサービスです。全国一律の料金にて承ります（大きさや重さには制限があり、取り扱いできない製品もあります）。

<インターネットでのお申込み>

<http://www.nikon-image.com/support/repair/>

「ニコンピックアップサービス」のお申し込み、見積もり金額やインターネットで申し込んだ修理の進捗状況や納期などの確認ができます。

<フリーダイヤルでのお申込み>



ニコンピックアップサービス専用フリーダイヤル（ヤマト運輸にて承ります）

0120-02-8155

営業時間：9：00～18：00（年末年始 12/29～1/4 を除く毎日）

製品の使い方に関するお問い合わせ

■ニコン カスタマーサポートセンター

営業時間：9：30～18：00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）



ニコン カスタマーサポートセンター ナビダイヤル

0570-02-8000

- ・ナビダイヤルは一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。
- ・ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03)6702-0577 におかけください。
- ・ファクシミリは、(03)5977-7499 にお送りください。

■お問い合わせ時のお願い

- ・おわかりになる範囲で「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、問題が発生した場合は「症状」、「表示されたメッセージ」、「症状の発生頻度」などをご確認のうえ、お問い合わせください。
- ・ソフトウェアのトラブルは、おわかりになる範囲で「ソフトウェア名およびバージョン」、「パソコンの機種名」、「OS名およびバージョン」、「CPU名およびメモリー容量」、「セキュリティーソフトウェア名」、「問題発生時の操作手順と症状」、エラーメッセージが表示されていたらメッセージ内容などをご確認のうえ、お問い合わせください。
- ・ファクシミリや郵送でのお問い合わせは、「ご住所」、「お名前（フリガナ）」、「電話番号」、「FAX番号」を（会社の場合は会社名と部署名も）明確にお書きください。

ニコンイメージング（ウェブサイト）/サポートページ

<http://www.nikon-image.com/support/>

最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデート情報をご覧いただけます。製品をより有効にご利用いただくために、定期的なアクセスをおすすめします。

※修理に関するお問い合わせは、前ページの「修理サービスのご案内」もご参照ください。

株式会社 **ニコン**

株式会社 **ニコン イメージング ジャパン**